

# HDL-GTR シリーズ

## 画面で見るマニュアル

# もくじ



安全にお使いいただくために.....4 使用上のご注意 .....7	
<b>準備編..... 9</b>	
特徴 ..... 10	
カートリッジの扱い方..... 14	
セットアップ ..... 16	
Windows環境でのネットワーク導入手順 ..... 17	
Windowsから本製品にアクセスする..... 22	
Windows Vista®から本製品にアクセスする ..... 23	
Windows XP から本製品にアクセスする ..... 24	
Windows 2000 から本製品にアクセスする ..... 25	
Windows Me から本製品にアクセスする ..... 26	
Windows 98 から本製品にアクセスする ..... 27	
Mac OS環境でのネットワーク導入手順 ..... 28	
Mac OSから本製品にアクセスする..... 31	
Mac OS X(10.3以降)から本製品にアクセスする..... 32	
Mac OS X(10.2.8以前)から本製品にアクセスする.. 33	
Mac OS 8.1~9.2.2から本製品にアクセスする ..... 34	
本製品にファイルを読み書きする際の注意 ..... 35	
本製品の設定画面 ..... 36	
設定画面の開き方 ..... 37	
Windows パソコンから設定画面を開く ..... 38	
Macintosh パソコンから設定画面を開く ..... 40	
RAID モードの変更..... 41	
本製品で設定できる RAID モード ..... 42	
RAID モードを変更する際の注意 ..... 43	
現在の RAID モードを確認する ..... 44	
RAID モードの各表示..... 45	
RAID モードを変更する..... 47	
暗号化ボリューム機能を利用する ..... 48	
暗号化ボリューム機能とは? ..... 49	
暗号化ボリューム機能を設定する ..... 50	
暗号化ボリュームにアクセスする ..... 51	
スペアキーを作成する..... 52	
暗号化ボリュームを解除する ..... 53	
キー情報を消去する ..... 54	
	<b>操作編 ..... 55</b>
	共有フォルダを使う ..... 56
	共有フォルダのアクセス権 ..... 57
	ネットワーク上で本製品の表示 ..... 58
	[ごみ箱]フォルダについて ..... 59
	共有フォルダを作成する ..... 60
	ユーザを登録する ..... 60
	グループを登録する ..... 61
	共有フォルダを作成する..... 62
	共有フォルダにアクセスする..... 64
	[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す..... 66
	共有フォルダの設定を変更する..... 67
	共有フォルダを削除する ..... 69
	管理者からの共有フォルダへのアクセス方法 ..... 70
	ハードディスクをチェックする..... 72
	ハードディスクのチェック方法..... 73
	[アクティブリペア]でチェックする ..... 74
	[チェックディスク]でチェックする ..... 75
	ハードディスクやプリンタを増設する・76
	増設できる機器（ハードディスクとプリンタ） ..... 77
	増設ハードディスクのフォーマット形式と使い方 ..... 78
	増設ハードディスクの接続と取り外しに関する注意..... 79
	プリンタ使用時の注意 ..... 80
	USB ポート 1 (前面)の設定について..... 81
	ハードディスクを増設する ..... 82
	ハードディスクを接続する..... 82
	ハードディスクの接続を確認する ..... 83
	増設ハードディスクにアクセスする ..... 84
	増設ハードディスクを取り外す..... 85
	ハードディスク取り外し後、パソコンで使用時の注意..... 86
	増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする ..... 87
	プリンタを増設する ..... 88
	プリンタを使用できるようにする ..... 88
	Windows Vista®での印刷用設定 ..... 90
	Windows XP/2000 での印刷用設定..... 92
	Windows Me/98 での印刷用設定 ..... 94

バックアップする.....	96	RAID が崩壊したときには.....	158
データのバックアップについて.....	97	RAID が崩壊したときには.....	159
クイックコピーで利用できるデジカメや EasyDisk.....	98	ランプ表示別の対応.....	164
セルフ/リモートバックアップする際の注意.....	99	ランプ表示別の対応.....	165
USB ポート 1 (前面)の設定について.....	100	Active Directry・NT ドメインログオン機能を使う.....	170
クイックコピー.....	101	NT ドメイン・Active Directory ログオン機能を使用する際の注意.....	171
デジカメや EasyDisk のデータをコピーする.....	101	Active Directory ログオン機能とは.....	172
コピーしたデータを確認する.....	102	Active Directory 機能を設定する.....	173
コピー先を変更する.....	103	NT ドメインログオン機能を使う.....	175
セルフバックアップ.....	104	Windows ファイルサービスアクセスログ機能.....	177
今すぐセルフバックアップする.....	104	アクセスログを有効にする.....	179
セルフバックアップをスケジュールする.....	106	アクセスログを確認する.....	180
セルフバックアップしたデータを確認する.....	108	アクセスログのリファレンス.....	181
リモートバックアップ.....	109	アクセスログをメール送信する.....	182
今すぐリモートバックアップする.....	109	使用量制限を設定する.....	183
リモートバックアップをスケジュールする.....	113	使用量制限について.....	184
リモートバックアップしたデータを確認する.....	117	ユーザごとに使用量制限を設定する.....	185
バックアップログを確認する.....	118	グループごとに使用量制限を設定する.....	186
スケジュールバックアップ設定を無効にする.....	118	定期警告機能を設定する.....	187
バックアップログをメール送信する.....	119	定期警告機能について.....	188
弊社製 EasySaver LE を使う.....	120	ディスク構成異常警告音を有効に設定する.....	189
ミラーリングする.....	121	仕 様.....	190
ミラーリングに使用できる増設ハードディスク.....	122	仕 様.....	191
eSATA ハードディスクでミラーリングを構築する.....	123	動作環境.....	192
ミラーリングを構築する.....	123	各部の名称・機能.....	193
ミラーディスクを保管する.....	125	増設できる USB 機器.....	195
ミラーディスクから復旧する.....	126	増設できる eSATA 機器.....	196
RAID(1+0)でミラーリングを構築する.....	129	共有フォルダ使用上の注意.....	197
ミラーリングを構築する.....	129	ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い.....	199
ディスクセットを保管する.....	130	出荷時設定一覧.....	200
ディスクセットから復旧する.....	132	文字制限一覧.....	202
UPS 装置を接続する.....	134	ログ一覧.....	203
UPS 装置の接続を確認する.....	135	設定画面のリファレンス.....	207
UPS 警告機能を有効にする.....	136	困ったときには.....	237
FTP サーバ機能を利用する.....	137	オプション品について.....	296
FTP サーバ.....	138	本製品のお問い合わせ.....	297
本製品での FTP サーバ機能.....	138	修理について.....	298
Anonymous FTP.....	139		
User FTP.....	142		
FTP クライアントから接続する.....	145		
システムを管理する.....	146		
管理者パスワードを変更する.....	147		
ファームウェアを更新する.....	148		
起動スケジュールを設定する.....	149		
システムログを確認する.....	150		
システムログをメール送信する.....	151		
省電力機能を使う.....	153		
出荷時設定に戻す.....	154		
出荷時設定への戻し方.....	155		
IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す.....	156		
本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す.....	157		

# 安全にお使いいただくために

お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

## ■警告および注意表示

 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## ■絵記号の意味



この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)



「発火注意」を表す絵表示



この記号は禁止の行為を告げるものです。記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)



「分解禁止」を表す絵表示



この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。

例)



「電源プラグを抜く」を表す絵表示



## 警告



厳守

本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守してください。



分解禁止

本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因になります。

修理は弊社修理センターにご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。



電源プラグを抜く

煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐにコンセントからプラグを抜いてください。

そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



発火注意

本製品を接続する場合は、必ず本書で接続方法をご確認になり、以下のことをご確認ください。

●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。

●接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因となることがあります。

●給電されているLANケーブルは絶対に接続しないでください。

給電されているLANケーブルを接続した場合には発煙したり、火災の原因となることがあります。

●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。故障や動作不良の原因になります。

●接続するコネクタやケーブルを間違えると、パソコン本体やケーブルから発煙したり火災の原因になります。



禁止

AC100V(50/60Hz)以外のコンセントに接続しないでください。

発熱、火災の恐れがあります。



厳守

電源プラグをコンセントに完全に差し込んでください。

ショート、発熱の原因となり、火災、感電の恐れ



厳守

本製品の接続、取り外しの際は、必ず本書で、接続・取り外し方法をご確認ください。

間違った操作を行うと火災・感電・動作不良の原因となります。



本体を濡らしたり、お風呂場では使用しないでください。

火災・感電の原因となります。お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。

水濡れ禁止



濡れた手で本製品を扱わないでください。

感電や、本製品の故障の原因となります。

禁止



電源ケーブルについては以下にご注意ください。

- 必ず添付または指定の電源ケーブルを使用してください。
- 電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。
- 電源ケーブルをACコンセントから抜く場合は、必ずプラグ部分を持って抜いてください。  
ケーブルを引っ張ると、断線または短絡して、火災および感電の原因となることがあります。
- 電源ケーブルの電源プラグは、濡れた手でACコンセントに接続したり、抜いたりしないでください。  
感電の原因となります。
- 電源ケーブルがACコンセントに接続されているときには濡れた手でパソコン本体に触らないでください。  
感電の原因となります。
- 本製品を長時間使わない場合は、電源ケーブルを電源から抜いてください。  
電源ケーブルを長時間接続していると、電力消費・発熱します。

厳守



## 注意



本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。

故障や万が一に備えて定期的にバックアップをお取りください。

注意



本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かないでください。

禁止



[STATUS]ランプが点滅・点灯中に（動作中にシャットダウンを完了せずに）、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

禁止



バスパワーで動作する USB ハードディスク（弊社製 HDMX シリーズなど）は、接続しないでください。

本製品では、使用できません。

接続すると故障の原因となります。

禁止



本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

- 振動や衝撃の加わる場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気やホコリが多い場所
- 温湿度差の激しい場所
- 熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- 強い磁力電波の発生する物の近く  
（磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- 水気の多い場所（台所、浴室など）
- 傾いた場所
- 腐食性ガス雰囲気中（ $\text{Cl}_2$ 、 $\text{H}_2\text{S}$ 、 $\text{NH}_3$ 、 $\text{SO}_2$ 、 $\text{NO}_x$ など）
- 静電気の影響の強い場所
- 保温性・保湿性の高い（じゅうたん・カーペット・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所での使用（保管は構いません）

禁止



本製品は精密機器です。以下のことにご注意ください。

- 落としたり、衝撃を加えない
- 本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- 重いものを上にのせない
- そばで飲食・喫煙などをしない
- 本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない

禁止



動作中にケーブルを抜かないでください。  
故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

禁止



本製品内部を結露させたまま使わないでください。  
時間をおいて、結露がなくなってからお使いください。  
本製品を寒い所から暖かい場所へ移動したり、部屋の温度が急に上昇すると、内部が結露する場合があります。  
そのまま使うと誤動作や故障の原因となる場合があります。

禁止



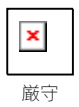
本体についた汚れなどを落とす場合、柔らかい布で乾拭きしてください。  
●洗剤で汚れを落とす場合は、必ず中性洗剤を水で薄めて使用してください。  
●ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使用しないでください。  
●市販のクリーニングキットを使用して、本製品のクリーニング作業を行わないでください。故障の原因となります。

厳守



本製品内部およびコネクタ部に液体、金属、たばこの煙などの異物が入らないようにしてください。

禁止



動作中にケーブルを激しく動かさないでください。  
接触不良およびそれによるデータ破壊などの原因となることがあります。

厳守



ハードディスク内のデータは、こまめにバックアップするようにしてください。

厳守



本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。  
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。  
修理センターでは、送付された本製品のハードディスク内のデータをすべて消去します。  
必ず、データをバックアップしてから送付してください。

厳守



本製品で使用するハードディスクを廃棄あるいは譲渡などされる際は以下にご注意ください。  
本製品で使用するハードディスクに記録されたデータは、OS上で削除したり、ハードディスクをフォーマットするなどの作業を行っただけでは、特殊なソフトウェアなどを利用することで、データを復元・再利用できてしまう場合があります。その結果として、情報が漏洩してしまう可能性があります。  
-情報漏洩などのトラブルを回避するために、データ消去のためのソフトウェアやサービスをご利用いただくことをおすすめいたします。

厳守

修理センターでは、送付された本製品のハードディスク内のデータをすべて消去します。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。

この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

# 使用上のご注意

本製品を使用する上で守っていただきたいご注意です。必ずお読みください。

## ■全般の注意

- 本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。  
(故障や万一に備えて定期的にバックアップをお取りください。)
- 動作中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- チェックディスクを実行した場合は必ず終了するまで待つてから次の操作を行ってください。また、途中で電源を切ることはできません。終了するまでお待ちください。
- DHCP サーバのある環境では、本製品は自動的に DHCP サーバより IP アドレスが割り当てられるため、IP アドレスを設定する必要はありません。  
ただし、DHCP サーバのない環境 (パソコンにそれぞれ固定の IP アドレスを設定している環境) では、ネットワークに応じた IP アドレスを設定する必要があります。
- 本製品を DHCP サーバが存在するネットワークに接続しても、正常に IP アドレスを取得できない場合があります。その場合は、本製品の IP アドレスを固定に設定してご利用ください。
- 本製品はローカルネットワーク上でご利用ください。  
本製品にグローバル IP アドレスを割り当て、直接インターネットに公開すると非常に危険です。ルーターを設置するなどして、インターネットから攻撃を受けないようにするなど、お客様にてセキュリティ確保をお願いいたします。
- 本製品を複数台ネットワークに導入する場合や、他の LANDISK と併用する場合は、本製品の IP アドレスと [LANDISK の名前] をそれぞれ別々にする必要があります。
- 暗号化ボリュームをご利用の場合、必ず USB ロックキーのスペアを作成し、安全な場所に保管してください。ロックキーを紛失、破損すると、暗号化ボリュームにアクセスできなくなります。

## ■ネットワークで共有する場合の注意

- ファイアウォールソフトをお使いの場合、本製品へアクセスできない場合があります。  
その場合、ファイアウォールソフト側で、137~139 番、445 番のポートにアクセス許可する設定を行ってください。
- 各 OS でのファイルサイズによる制限
  - ・Windows Me の場合、4GB 以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱えません。
  - ・Windows 98 (SE 含む) の場合、2GB 以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱えません。
  - ・Mac OS(Classic) の場合、2GB 以上のファイルはネットワーク経由で扱えません。
- フォルダ名、ファイル名に使用できる文字の制限  
次を参照してください。【文字制限一覧】 (202ページ)
- 接続可能端末数について  
本製品にネットワーク経由で接続可能な端末数について、Windows では制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。

Windows パソコン	推奨する同時接続台数は 16 台まで。暗号化ボリューム使用時は 8 台まで。 (ネットワークドライブの割り当ても同様です。)
Mac OS パソコン	推奨する同時接続台数は 8 台まで (最大 16 台まで)

## ■共有、ユーザ、グループの設定時の注意

本製品出荷時には、本製品に接続できるすべてのユーザが読み書きできる [disk1] という共有フォルダがあります。新規に共有フォルダを作成することもできます。

- 本製品に作成する共有には、[全てのユーザ] [指定ユーザ] [指定グループ] でアクセス制限を設定することができます。
- 本製品に登録可能なユーザ数は最大 300 個、グループ数は最大 100 個までとなります。  
1 グループに登録可能なユーザは 300 ユーザまでとなります。
- ユーザ名とグループ名には同一の名称は使用できません。  
ユーザ名と共有名、グループ名と共有名には同一の名称が使用できます。
- ユーザ名、グループ名、共有フォルダ名に使用できる文字の制限  
次を参照してください。【文字制限一覧】 (202ページ)

## ■本製品および増設ハードディスクのデータ管理について

- 本製品のデータは万が一に備えて、増設ハードディスクなどに定期的にバックアップをお取りください。  
本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。
- カートリッジや増設ハードディスクの交換を行う場合、必ず、本製品の電源がONの状態（[POWER]ランプが緑点灯状態）で取り外し、取り付けを行ってください。【カートリッジの扱い方】（14ページ）、【ハードディスクやプリンタを増設する】（76ページ）参照  
本製品はホットスワップに対応しておりますので、本製品の電源がONの状態で行うことができます。  
ただし、以下の場合のみ、本製品の電源がOFFの状態（[POWER]ランプが赤点灯、または、消灯状態）で取り外し、取り付けを行ってください。
  - ・保管したディスクセットから復旧する場合（【ディスクセットから復旧する】132ページ）
  - ・保管したミラーディスクから復旧する場合（【ミラーディスクから復旧する】126ページ）
  - ・「RAID崩壊モード」で起動する場合（【強制的にRAIDを再構成する】161ページ）
- 本製品前面のロックキーは、カートリッジを固定するためのものです。データをロックするものではありません。
- 本製品の設定画面で表示される増設ハードディスク使用領域と Windows からネットワークドライブに割り当てしてプロパティから確認した使用領域の値は大きく異なります。本製品で使用するファームウェアの表示における仕様で、ハードディスク側には問題はありません。正しい使用領域は、本製品の設定画面からご確認ください。
- 設定画面上から行うハードディスクのチェックディスクでの「エラーチェックのみを行う」に要する時間は、ハードディスクの状態や容量により大きく異なります。  
通常は、非常に短い時間で終了しますが、ハードディスクの状態により、数分から数十分程度の時間を要することがあります。
- ACCESS（アクセス）ランプ点滅中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。  
故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- 本製品の管理者は、すべての共有フォルダにアクセスする権限をもっています。（Windows パソコンからアクセスする場合のみ）セキュリティのため、共有フォルダにアクセス時のパスワードを定期的に変更することをおすすめします。
- ファイルコピー中やバックアップ中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切るとコピーの処理が正常に行われません。  
本製品や増設用ハードディスクの ACCESS（アクセス）ランプを確認の上、電源を切ってください。
- Windows 98 から本製品へのファイルコピー中に LAN ケーブルが抜けるなどして中断された場合、コピー途中のファイルが本製品上に残り消去できなくなる場合があります。  
この場合は、いったん本製品の電源を切り、再度起動してからコピー途中のファイルを削除し、コピーをやり直してください。

## ■USB 機器、eSATA 機器を接続する際の注意

- 本製品の USB ポート（1、2）や eSATA ポート（1、2）には、対応の機器以外の機器は接続しないでください。  
（USB ハブや SATA ポートマルチプライヤーも接続できません。最新の対応 USB 機器および eSATA 機器は、[弊社ホームページ](http://www.iodata.jp/)（<http://www.iodata.jp/>）をご覧ください。）  
本製品の USB ポートに増設できる USB 機器については、【増設できる USB 機器】（195ページ）もご覧ください。  
本製品の eSATA ポートに増設できる eSATA 機器については、【増設できる eSATA 機器】（196ページ）もご覧ください。
- 本製品に増設する USB ハードディスクや eSATA ハードディスクは、下記のフォーマット形式に対応しています。

	対応フォーマット形式	
	FAT※1	NTFS※2
本製品に接続した場合	○	△※3
パソコンに接続した場合	○	○

○：読み書き可    △：読み込みのみ可

- ※1 本製品に接続して設定画面の【フォーマット（FAT32）】で FAT32 形式にフォーマットすることができます。
- ※2 本製品で NTFS 形式にフォーマットすることはできません。フォーマットする場合は、ハードディスクをパソコンに接続し、パソコン上からフォーマットしてください。（方法については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。）
- ※3 Macintosh の場合、NTFS 形式でフォーマットされた増設ディスクの共有および読み取り専用設定の共有はマウントできません。
- 省電力設定の対応機器は、[弊社ホームページ](http://www.iodata.jp/)（<http://www.iodata.jp/>）をご覧ください。  
（省電力設定の動作確認機種以外には省電力設定を有効にしないでください。）
- バスパワーで動作する USB 機器（弊社製 EasyDisk など）は、前面の【USB ポート 1】にのみ接続できます。
- デジカメや USB メモリーコピー用ポート（USB ポート 1）の注意
  - ・コピー開始、終了、エラーはランプやブザー音で確認してください。
  - ・何らかの原因により、正常にデータをコピーできなかった場合の写真などのデータの補償に関して、弊社は一切責任を負いません。必ず、コピーが完了した後、コピー内容をパソコンなどによりご確認ください。
- ファイルコピー中やバックアップ中に、USB ポートに接続した機器の接続や取り外しをしたり、本製品やハードディスクの電源を切らないでください。コピーの処理が正常に行われません。
- USB 対応プリンタは、【USB ポート 2】にのみ接続できます。  
ただし、プリンタの双方向機能（インク残量の確認など）には対応しておりません。また、複合機（プリンタ機能以外にスキャナ機能やリダライタ機能等を有するもの）をお使いの場合、プリンタ機能にのみ対応します。
- 書き込み禁止スイッチ付きのハードディスクなど、物理的に書込保護できるドライブを本製品に接続する場合は、必ず書き込み可能な状態に切り替えてお使いください。
- 本製品には 2TB(2,199,023,255,552 Byte) より大きいディスク容量の増設ディスク(eSATA, USB)は接続できません。
- HDL-GTR3.0/4.0 では eSATA ミラーリング機能は利用できません。
- 本製品にはパーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT) の RHD カートリッジは接続できません。
- 本製品にはパーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT) の増設ディスク(eSATA, USB)は接続できません。



# 準備編

# 特徴

**I-O DATA**

## 目指したのは本物の RAID ドライブ

- 5年以上の実績、プロユースで鍛え抜かれた「DELTA2」のノウハウを LANDISK Tera の RAID 技術に集約。

**専用カートリッジの開発**

- ホットスワップ 対応
- 高速ドライブ対応の エアフロー設計
- 容易な研削作で交換

**異常時にも継続運用**

- 万が一構成ドライブに障害が発生しても、システムを停止せず、障害ドライブのみを交換可能。

**インジケータ兼用ロックスイッチ**

- カートリッジのロックスイッチはインジケータを兼用。ドライブの状態が一目でわかり、異常時もPCLレスで交換が可能。

**Relational HD**

- カセット感覚で利用できる、シンプル設計の カートリッジシステム。
- LANDISK Tera だけでなく、今後様々なハードディスク製品に展開していきます。



**I-O DATA**

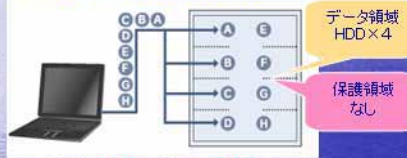
## ビジネスユースに強い GTR

- 暗号化ボリューム機能**
  - ハードウェア暗号化エンジンを利用した、AES 256bit による強固な暗号化ボリュームの構築が可能。装置自身、カートリッジが盗難に遭っても内部の情報を一切漏らしません。
- Windows ファイルシステムログ記録機能**
  - 監査に利用可能な Windows ファイルシステムを経由した共有サービスのアクセスログを記録。いつ誰がどんなファイルにアクセスしたかを細かく把握できます。
- Active Directory Native モードログオン機能**
  - これまで不可能だった Active Directory の Native モードに対応。サーバのバックアップや負荷分散など、GTR がサポートします。

# 多彩な用途に応える RAID モード

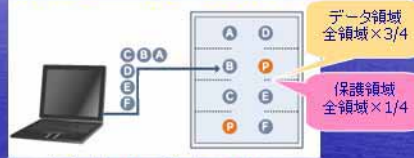
- ニーズに合わせた4つの RAID モードを提供。

## RAID0 ~ ストライピング



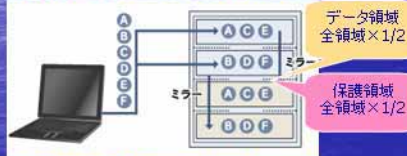
安全性:低 総容量:大

## RAID5 ~ 4基による RAID5



安全性:中 総容量:中

## RAID1+0 ~ ミラーストライピング

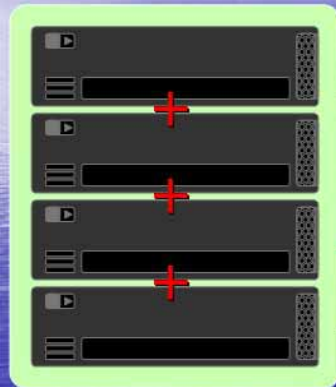


安全性:高 総容量:小

A B C D 記録するデータ  
P パリティ

# RAID0: ストライピング

- 全てのディスクをリニアに結合



ディスク4台分、フル容量を1つのボリュームに  
**データ領域**

HDL-GTR1.0: 1.0TB (250GB×4)

HDL-GTR2.0: 2.0TB (500GB×4)

**保護領域**

なし

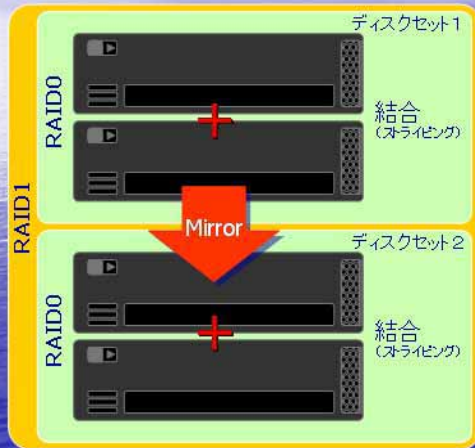
※保護領域  
データを保護するための領域。

容量すべてをデータ領域として利用可能。  
ストライピングによる  
高速アクセス!

さらに同容量以上の eSATAドライブ接続で Mirror が可能!

## RAID1+0:ミラーストライピング

- ミラーリングとストライピングの融合



高速性と冗長性を両立

データ領域

HDL-GTR1.0: 0.5TB

HDL-GTR2.0: 1.0TB

保護領域

HDL-GTR1.0: 0.5TB

HDL-GTR2.0: 1.0TB

データ領域は全容量の1/2  
最大2台のドライブが  
故障しても継続運用可能。

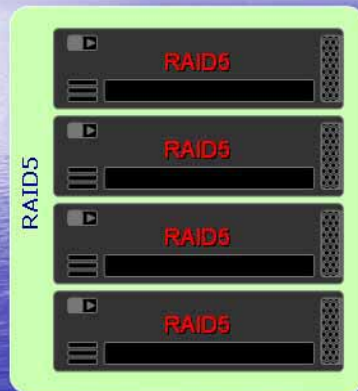
**ディスクセット単位で  
ドライブの保管が可能**

Mirror

さらに同容量以上のeSATAドライブ  
接続でMirrorが可能！

## RAID5:4基による分散パリティ

- 4台のドライブで RAID5 を構築



ディスク4台を使った RAID5 による冗長性確保

データ領域

HDL-GTR1.0: 0.75TB

HDL-GTR2.0: 1.5TB

保護領域

HDL-GTR1.0: 0.25TB

HDL-GTR2.0: 0.5TB

データ容量は全ドライブ容量  
の3/4。

1台のドライブが故障しても  
継続運用可能。

※ただし、この場合、冗長性は失われます。

さらに同容量以上の eSATAドライブ接続で Mirror が可能！

## さらに信頼性を高めるために

- 「3本の矢」ならぬ「7本の矢」。ディスク自身の信頼性を高める、エラーマネジメント機能を実装

### ① RAID 機能

→ RAID 機能の持つ冗長性

### ② アクティブリペア機能

→ 不良セクタの自動修復機能

### ③ S.M.A.R.T. チェック機能

→ 故障する可能性が高いハードディスクを RAID メンバから除外

### ④ エラーカウント機能

→ 不良ドライブを RAID メンバから除外

### ⑤ メール通知機能

→ 各種異常状態を個別にメール通知可能

### ⑥ チェックディスク機能

→ ファイルシステムの論理障害の検出、修復機能

### ⑦ ジャーナリングファイルシステム

→ 強制電源断に強い論理障害回避機能

## その他充実した機能群

- ネットワーク接続ハードディスクに求められる機能を網羅。

### ネットワーク共有サービス

- Microsoft ネットワークファイル共有サービス
- AppleShare ネットワークファイル共有サービス
- FTP ファイル転送サービス

### UPS 対応

- APC 社製 USB 接続タイプの UPS に対応。

### バックアップ

- クイックコピー機能
- セルフバックアップ機能
- リモートバックアップ機能

### スケジュール

- セルフバックアップ機能
- リモートバックアップ機能
- スケジュール起動/シャットダウン

### ミラーリング

- eSATA1 ポートへのミラーリング機能
- ミラードライブ保管機能
- RAID1+0 のディスクセット保管機能

### その他

- LED 輝度調整
- ネットワーク時刻同期機能 (NTP)
- ディスク省電力機能
- チャイム機能
- InterCOM 社 SmartHDD Server 対応

[http://www.intercom.co.jp/smarthdd\\_server/](http://www.intercom.co.jp/smarthdd_server/)

# カートリッジの扱い方

本製品では、電源投入中でもカートリッジの取り外しおよび取り付けが可能です。ただし、正しい手順を行わずに取り外しおよび取り付けを行うと、カートリッジ内のハードディスクだけでなく、他のカートリッジ、あるいは、本製品の故障その他の原因となります。

カートリッジの取り外しおよび取り付ける際は、必ず以下および次ページの手順に従って行ってください。



いかなる場合におきましても弊社ではRAID構成が崩壊した本製品のデータを復旧することはできません。

●本製品のRAID構成されているハードディスクカートリッジは、障害発生時以外には取り外さないでください。

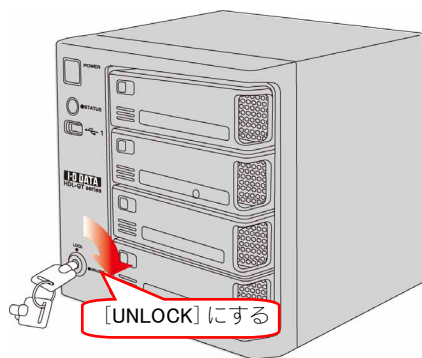
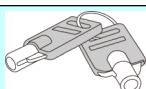
不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID構成が崩壊して全てのデータを失う危険性があります。

- 障害発生したカートリッジを取り外す場合は、本製品の電源が入っている状態で取り外すことができます。ただし、[STATUS] ランプの点灯状況、該当カートリッジの [ACCESS] ランプが消灯していることを確認した上で取り外してください。
- 誤って障害発生したディスク以外のカートリッジを取り外した場合、RAID構成が崩壊し、修復不能の状態となります。
- カートリッジの取り付け・取り外しは、必ず1台ずつ、以下の説明通りに行ってください。
- [STATUS] ランプ点滅中に [スライドスイッチ] は操作しないでください。
- 新しいカートリッジに交換される場合にも、本製品の電源が入っている状態で取り付けることができます。
- 交換時には、カートリッジ前面の [ACCESS] ランプの点灯状況および管理画面の [ボリューム情報] 表示を確認し、間違いのないよう十分ご注意ください。

## カートリッジの取り外し方

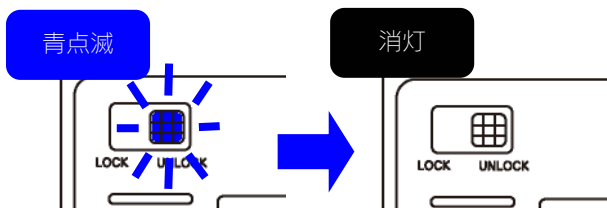
1

LOCK キーの LOCK を解除します。  
添付のロックキーで LOCK を  
時計周りにまわして、  
[UNLOCK] にします。



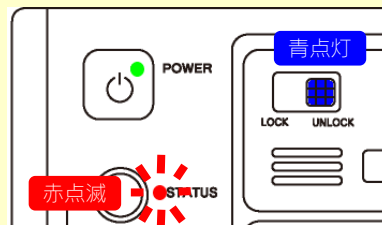
2

取り外すカートリッジの  
[スライドスイッチ] を右  
に移動します。  
→カートリッジの  
[ACCESS] ランプが青  
点滅から消灯するまで  
お待ちください。



注意

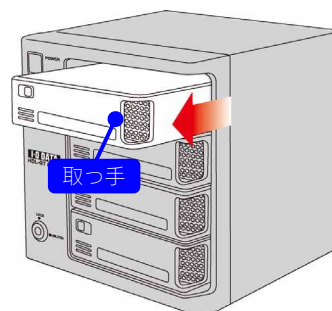
[STATUS] ランプが赤点滅、[ACCESS] ランプが青点灯した場合は、取り外せません。[スライドスイッチ] を再度 [LOCK] に戻してください。



RAID を再構築中などは取り外せません。再構築が終了するまで待つなど、取り外せる状態になってから取り外してください。ただし、RAID 0 で使用中など取り外せない場合もあります。

3

カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り出します。

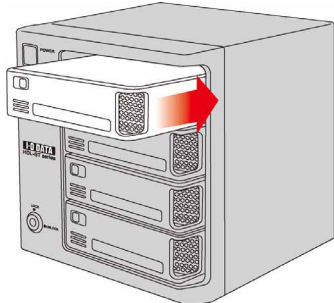


注意

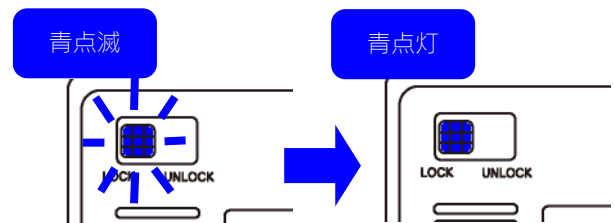
●必ず、[ACCESS] ランプが消灯していることを確認してから、取り外してください。青点滅中、青点灯中に取り外した場合、カートリッジ内のハードディスクの故障、本製品に保存されたデータの破損、あるいは、本製品の故障の原因となります。

# カートリッジの取り付け方

**1** カートリッジをスロットの奥まで挿入します。



**2** 挿入したカートリッジの [スライドスイッチ] を左側 ([LOCK]) に移動します。  
→カートリッジの [ACCESS] ランプが青点滅から青点灯するまでお待ちください。



● [STATUS] ランプが赤点滅、[ACCESS] ランプが赤点灯、または赤点滅した場合は、取り付けに失敗しています。  
この状態は、システムに取り付け処理を行いましたが生体で使用できない状態です。(状態は [ボリューム情報] 画面 (207ページ) でご確認ください。)

## [ACCESS] ランプが赤点灯している場合

原因1：RAID を構成しているスロットに、FAT/NTFS 形式でデータが入っているカートリッジを接続した。

対処：通常、FAT/NTFS 形式以外、あるいは、FAT/NTFS 形式でデータが無い場合は、そのカートリッジを RAID に組み込み、再構築を開始しますが、FAT/NTFS 形式でデータがある場合のみ、システムは自動でデータを上書きしないようになっています。このカートリッジを RAID に組み込み、再構築を開始するには、WEB 設定画面よりメンテナンスを実行してください。(メンテナンスについては、273ページをご覧ください。)

原因2：RAID に組み込むために必要なディスク容量が足りないカートリッジを接続した。

対処：この場合、システムは RAID を構成するディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つカートリッジに交換する必要があります。

## [ACCESS] ランプが赤点滅している場合 ※赤点滅しているカートリッジは使用できません。

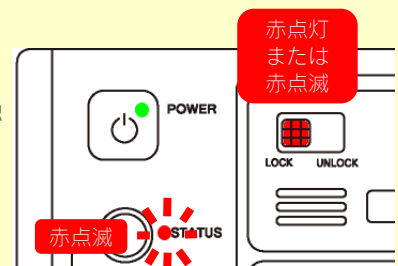
原因1：ディスクエラー発生過多

対処：本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生したディスクは RAID を構成するディスクとして使用しないようになっています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。

原因2：SMART チェックエラー発生

対処：本製品はディスクを接続されたとき、ディスク自身の故障診断機能 (SMART) を利用してディスクが壊れていないか確認します。

SMART 情報により故障と判定されるディスクは、使用しないようになっています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。



**3** すべてのカートリッジを取り付けた後、添付のロックキーで LOCK を反時計周りにまわして、[LOCK] にします。

**セットアップ**



# Windows 環境での ネットワーク導入手順

通常、ネットワーク内にブロードバンドルーターなどの「DHCP サーバー」となる機器がある場合は、ネットワークに接続すればそのまま本製品をご利用になれます。

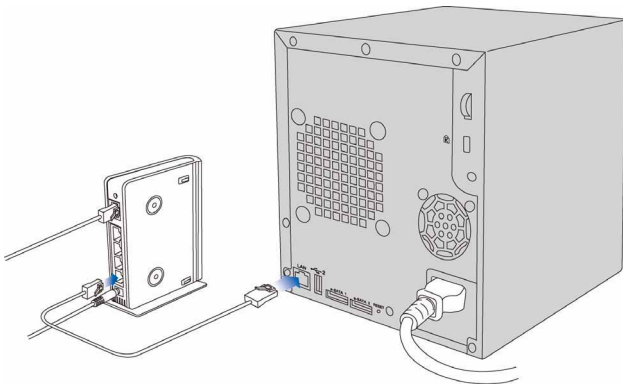
ただし、ネットワーク内に DHCP サーバーとなる機器がない場合には、Windows パソコンを使って本製品の IP アドレスなどを変更する必要があります。

## STEP1 ネットワーク機器を確認する

ネットワーク内のパソコン、ルーター、アクセスポイントなどが正常に動作していることを確認します。

## STEP2 ネットワークにつなぐ

本製品の LAN ポートに添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をルーターやハブなどのネットワーク機器に接続します。

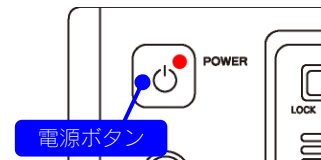


**注意**

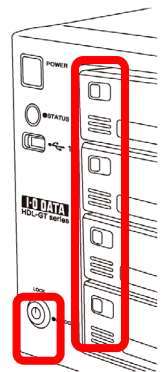
- 必ず LAN ケーブルを先に接続してください。LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

## STEP3 電源を入れる

- 1 添付の「電源ケーブル」を本製品背面の「電源コネクタ」に接続後、電源ケーブルを電源コンセントに接続します。⇒電源コンセントに接続すると、前面の [POWER] ランプが赤色で点灯します。



- 2 [カートリッジ固定ロック] が [LOCK] 状態となっていること、また、4 台の [カートリッジ] のすべてのスライドスイッチが左側の [LOCK] 状態となっていることを確認します。



- 3 本製品前面の電源ボタンを押します。「ピポツ」と音が鳴り [POWER] ランプが緑色に点灯します。

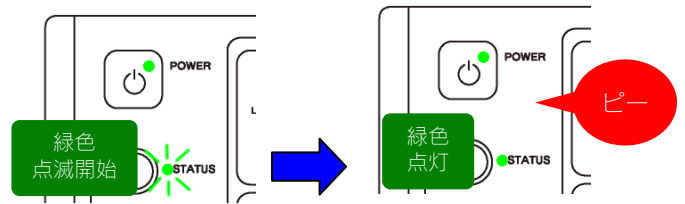
**注意**

- 動作中に本製品のシャットダウンを完了せずに、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。

## STEP4 STATUS ランプを確認する

1 しばらくすると、[STATUS] ランプが緑色で点滅し、約2分ほどで緑色に点灯します。

2 起動が完了すると、「ピー」と音が鳴ります。



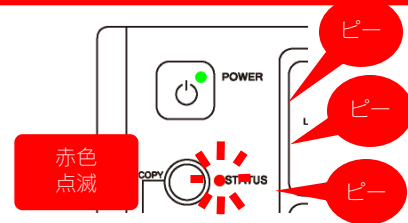
STATUS ランプが  
緑色で点灯している

以上でセットアップは完了です。これで、本製品を使用できる準備は整いました。

この後、以下の個所へお進みください。

[【Windows から本製品にアクセスする】](#) (22ページ)

STATUS ランプが  
赤く点滅している



DHCP サーバーより IP アドレスを取得できない状態です。  
以下の個所へお進みください。

[【Windowsで本製品に固定のIPアドレスを設定する場合】](#) (次ページ)

**注意**

●ネットワーク内に DHCP サーバーがない場合、  
[STATUS] ランプは赤く点滅します。

ネットワーク内に DHCP サーバーがあるのに点滅している場合は、以下の手順を行ってください。

- ①いったん、本製品の [電源] ボタンを押して本製品の電源を切ります。
- ②DHCP サーバーが正しく動作していること、本製品とネットワーク機器が LAN ケーブルで正しく接続されていることを確認します。
- ③ [電源] ボタンを押して、再度本製品の電源を入れます。  
※DHCP サーバーがあるかどうかの確認方法については、別紙【必ずお読みください】裏面の【パソコンの IP アドレス】の項をご覧ください。

上記注意を確認しても改善されない場合は、【困ったときには】の以下の個所を参照してください。

[【◆本製品起動時のトラブル】](#) (242ページ)

[【◆セットアップ時のトラブル \(ネットワークへの導入時\)】](#) (246ページ)

**注意**

●起動時の[ACCESS]-[STATUS]ランプの動作がおかしい場合、ブザーが鳴る場合については以下の個所を参照してください。

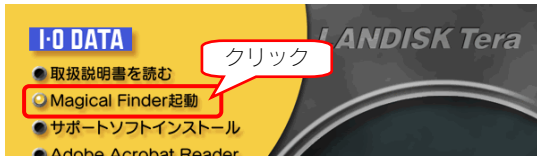
【困ったときには】の【◆ランプやブザーについて】 (272ページ)

# Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合

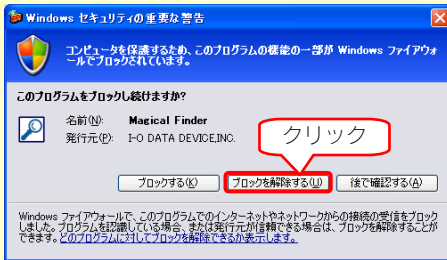
ネットワーク内に DHCP サーバーとなるネットワーク機器が無い場合、本製品をお使いのネットワークで使用している IP アドレスに合った固定の IP アドレスに設定する必要があります。

**1** パソコンを起動します。

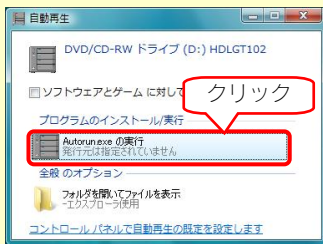
**2** 添付 CD-ROM をセットし、起動してきたサポートソフトメニューの[Magical Finder 起動]をクリックすれば、「Magical Finder」が起動します。



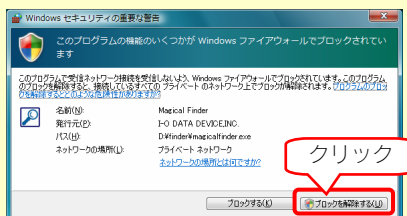
**注意** ●Windows XP SP2 をお使いで以下の画面が表示された場合は、「ブロックを解除する」をクリックしてください。



●Windows Vista®をお使いで、CD-ROM を挿入すると、以下の画面が表示された場合、「Autorun.exe の実行」をクリックしてください。



●Windows Vista®をお使いで、以下の画面が表示された場合、「ブロックを解除する」をクリックしてください。



サポートソフトメニューが表示されていない場合

① [マイコンピュータ] を開きます。

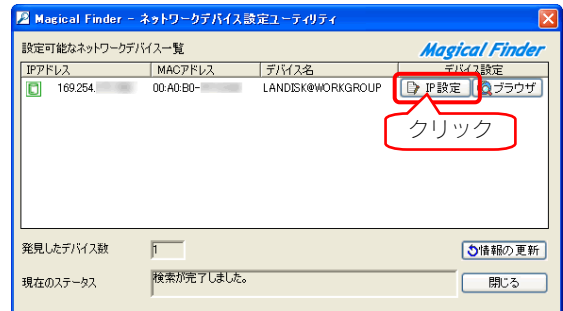
※Windows Vista®では[スタート]→[コンピュータ]をクリックします。

②HDL-GTRxxx) ※アイコンをダブルクリックします。

※xxx にはサポートソフトのバージョンが表示されます。

(サポートソフトメニューが表示されない場合は、さらに [Autorun.exe] アイコンをダブルクリックしてください。)

**3** 自動で本製品が検索されますので、[IP 設定]ボタンをクリックします。  
※本製品の電源が ON になってから、検索されるまでに約 1 ~ 2 分かかる場合があります。

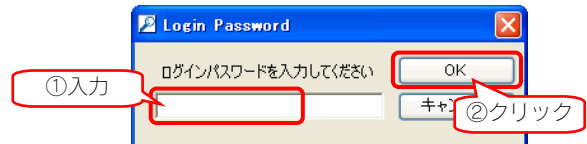


?? 本製品が検索されない!

対処 1 : 30 秒ほど待つてから[情報の更新]ボタンをクリックしてください。

対処 2 : 以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の249ページ

**4** 管理者パスワードを入力後 (出荷時はパスワードは設定されていません)、「OK」ボタンをクリックします。

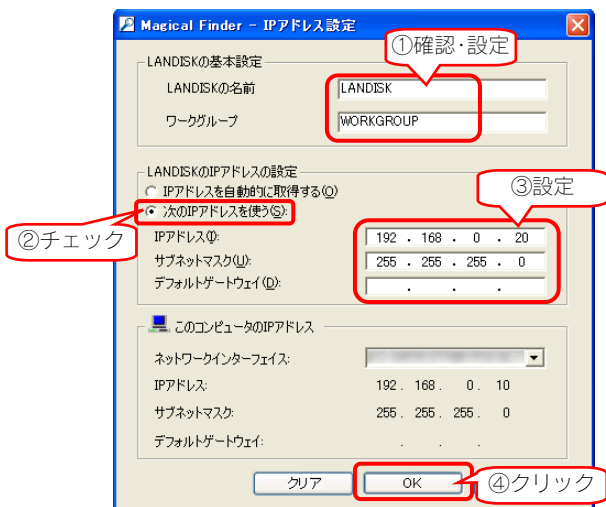


?? 「パスワードが間違っています。」と表示された!

対処 : [OK] ボタンをクリック後、以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の269ページ

- 5** [LANDISK の名前] [ワークグループ] を確認後、お使いのネットワークに合わせた IP アドレスを設定後、[OK] ボタンをクリックします。  
※画面の詳細は次ページを参照してください。



- 6** [OK] ボタンをクリックします。

- 7** 3の画面に戻りますので、[閉じる] ボタンをクリックします。

以上で IP アドレスの設定は終了です。  
この後、以下の箇所へお進みください。

[【Windows から本製品にアクセスする】 \(22ページ\)](#)

▼ [IP アドレス設定] 画面

LANDISKの基本設定	
LANDISKの名前	<p>ネットワーク上（[マイネットワーク] あるいは [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名称です。</p> <p>※使用できる文字には制限があります。【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。</p> <p>※変更する場合は、必ずメモしてください。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>注意</b></p> <p>●本製品を複数台使用する場合や、他の LANDISK<sup>※1</sup>と併用する場合</p> <p>※1 HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GXR、HDL-GT、HDL-GTR、HDL-AV のシリーズ</p> <p>必ず[LANDISKの名前]を変更し、同一のコンピュータ名がネットワーク内に複数存在しないように設定し、メモしてください。</p> <p>設定例) 1台目の LANDISK の名前 「LANDISK 1」 2台目の LANDISK の名前 「LANDISK 2」 など</p> </div>
ワークグループ	<p>"ワークグループ"はパソコンの"ワークグループ名"と一致しなければなりません。（パソコンのワークグループ名を確認してください。）</p> <p>ただし、ワークグループの名前が一致していない場合でも本製品にアクセスすることは可能です。</p> <p>※使用できる文字には制限があります。</p> <p>【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。</p>
LANDISKのIPアドレス設定	
IP アドレスを自動的に取得する	ネットワーク内に DHCP サーバーがある場合にチェックします。
次の IP アドレスを使う	<p>固定の IP アドレスを使う場合にチェックします。</p> <p>IP アドレス</p> <p>本製品に設定する IP アドレスを入力します。</p> <p>※使用しているネットワークのセグメント(IP アドレスのグループ)をご確認の上、他のネットワーク機器やパソコンの IP アドレスと重複しないように設定してください。</p>
	<p>サブネットマスク</p> <p>パソコンと同じサブネットマスクを入力します。</p> <p>画面の [このコンピュータの IP アドレス] 欄の [サブネットマスク] と同じ値を入力します。</p>
	<p>デフォルトゲートウェイ</p> <p>パソコンと同じデフォルトゲートウェイを入力します。</p> <p>画面の [このコンピュータの IP アドレス] 欄の [デフォルトゲートウェイ] と同じ値を入力します。表示されていない場合、入力する必要はありません。</p>
このコンピュータの IP アドレス	
ネットワークインターフェイス	パソコンのネットワークインターフェイス（LAN アダプター名など）を表示します。
IP アドレス	パソコンの IP アドレスを表示します。
サブネットマスク	パソコンのサブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイ	パソコンのデフォルトゲートウェイを表示します。通常、ルーターの IP アドレスが設定されています。設定されていない場合、表示されません。

# Windows から 本製品にアクセスする

ネットワークに導入した本製品にアクセスする方法を説明します。  
アクセス方法は OS により異なりますので、下記のご使用の OS を参照してください。

- ・ [Windows Vista®から本製品にアクセスする \(23ページ\)](#)
- ・ [Windows XP から本製品にアクセスする \(24ページ\)](#)
- ・ [Windows 2000 から本製品にアクセスする \(25ページ\)](#)
- ・ [Windows Me から本製品にアクセスする \(26ページ\)](#)
- ・ [Windows 98 から本製品にアクセスする \(27ページ\)](#)

# Windows Vista®から 本製品にアクセスする

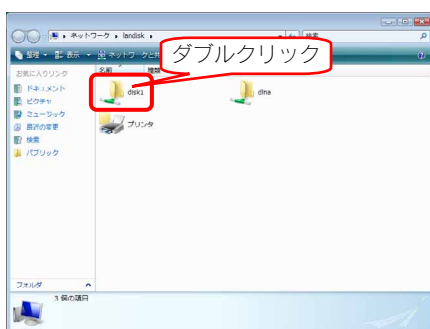
Windows Vista®から本製品にアクセスする手順です。

- 1** [スタート]をクリックし、[検索の開始]をクリック後、「¥landisk」と入力し[Enter]キーを押します。  
※本製品の「LANDISKの名前」を変更した場合は、¥の後に変更した名前を入力してください。



**??** LANDISK が検索されない！  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の261ページ

- 2** 本製品の共有フォルダの一覧が表示されます。  
[disk1]フォルダをダブルクリックします。



- 3** 表示された「disk1」フォルダ内にファイルを書き込むことができます。  
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザと共有することができます。

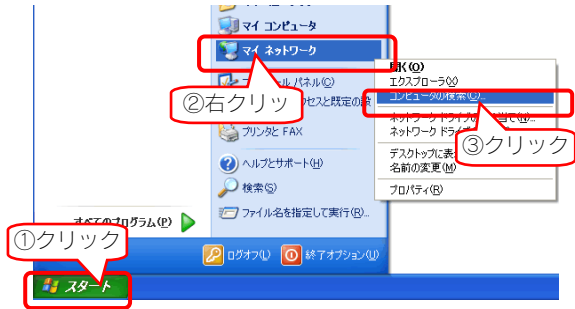


正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

# Windows XP から 本製品にアクセスする

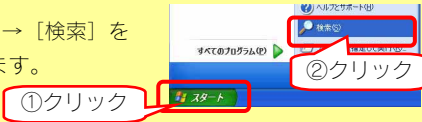
Windows XP から本製品にアクセスする手順です。

**1** [スタート] → [マイネットワーク] → [コンピュータの検索] をクリックします。

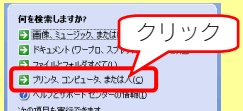


表示に[マイネットワーク]がない場合は、以下の手順を行います。

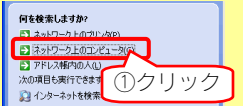
① [スタート] → [検索] をクリックします。



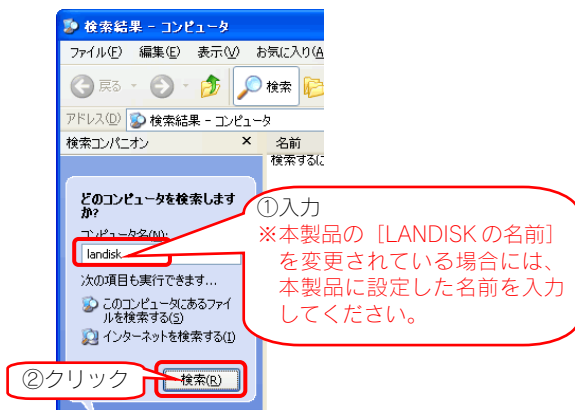
② "何を検索しますか?" で [プリンタ、コンピュータ、または人] をクリックします。



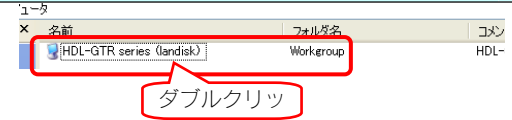
③ "何を検索しますか?" で [ネットワーク上のコンピュータ] をクリックします。



**2** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、[検索]ボタンをクリックします。



**3** 「HDL-GTR series(Landisk)」が検索されますので、ダブルクリックします。  
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。



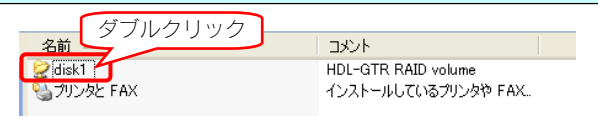
2つ表示された場合は、どちらかをダブルクリックします。  
Windows XP から、本製品のコンピュータ名で検索を行った場合、2つの LANDISK が発見されることがあります。  
2つのうちどちらかをダブルクリックしてください。

名前	フォルダ名	コメント
HDL-GTR series (landisk)	Workgroup	HDL-GTR series
HDL-GTR series (landisk)	Workgroup	HDL-GTR series

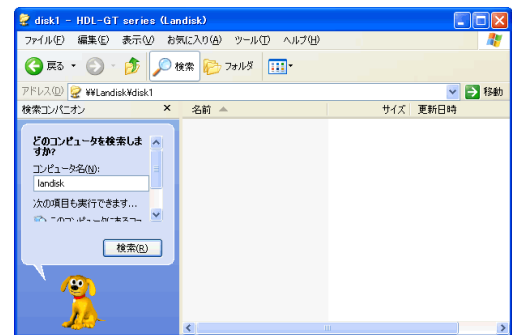
これは、本製品が使用しているファームウェアによる仕様となります。

**??** LANDISK が検索されない!  
⇒以下の箇所を参照してください。  
【困ったときには】の261ページ

**4** [disk1]フォルダをダブルクリックします。



**5** 表示された [disk1] フォルダ内にファイルを書き込むことができます。  
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザと共有することができます。



正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。



# Windows 2000 から 本製品にアクセスする

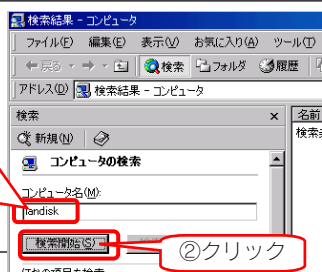
Windows 2000 から本製品にアクセスする手順です。

**1** [マイネットワーク]を右クリックして、[コンピュータの検索]をクリックします。



**2** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、[検索]ボタンをクリックします。

①入力  
※本製品の [LANDISK の名前] を変更されている場合には、本製品に設定した名前を入力してください。



**3** 「Landisk」が検索されますので、ダブルクリックします。  
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。

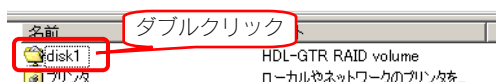


LANDISK が検索されない！

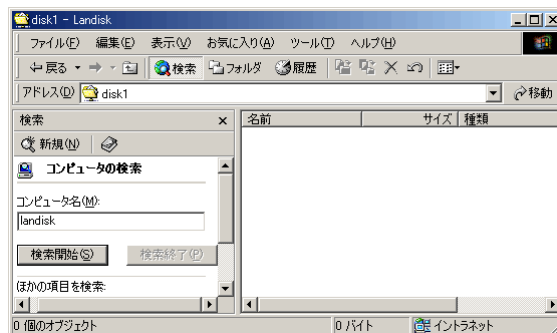
⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の261ページ

**4** [disk1]フォルダをダブルクリックします。



**5** 表示された [disk1] フォルダ内にファイルを書き込むことができます。  
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザと共有することができます。



正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

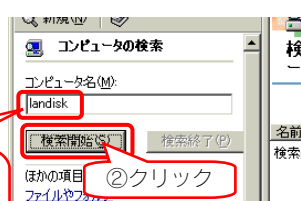
# Windows Me から 本製品にアクセスする

Windows Me から本製品にアクセスする手順です。

**1** [マイネットワーク]を右クリックして、[コンピュータの検索]をクリックします。

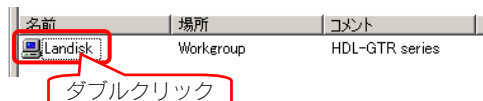


**2** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、[検索]ボタンをクリックします。



①入力  
※本製品の [LANDISK の名前] を変更されている場合には、本製品に設定した名前を入力してください。

**3** 「Landisk」が検索されますので、ダブルクリックします。  
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。

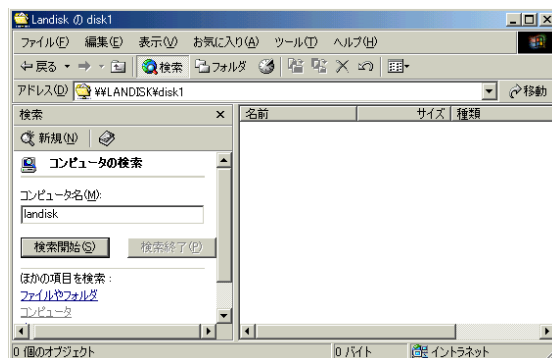


**LANDISK が検索されない!**  
⇒以下の箇所を参照してください。  
【困ったときには】の261ページ

**4** [disk1]フォルダをダブルクリックします。



**5** 表示された [disk1] フォルダ内にファイルを書き込むことができます。  
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザと共有することができます。

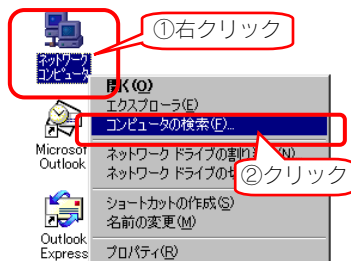


正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

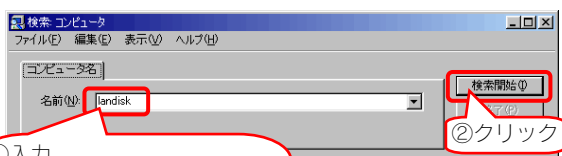
# Windows 98 から 本製品にアクセスする

Windows 98 から本製品にアクセスする手順です。

**1** [ネットワークコンピュータ]を右クリックして、[コンピュータの検索]をクリックします。

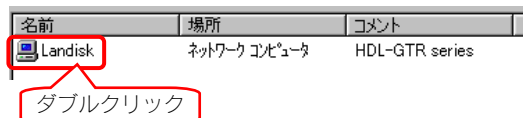


**2** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、[検索]ボタンをクリックします。



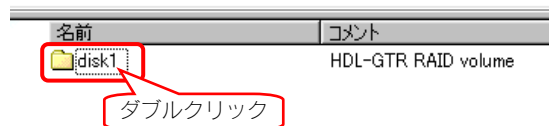
①入力  
※本製品の [LANDISK の名前] を変更されている場合には、本製品に設定した名前を入力してください。

**3** 「Landisk」が検索されますので、ダブルクリックします。  
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。

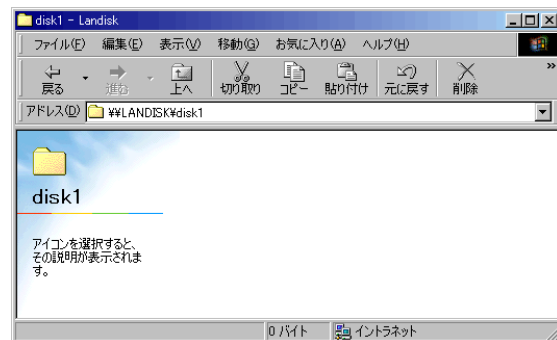


**??** LANDISK が検索されない！  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の261ページ

**4** [disk1]フォルダをダブルクリックします。



**5** 表示された [disk1] フォルダ内にファイルを書き込むことができます。  
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザと共有することができます。



正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、共有フォルダとして使用できます。

# Mac OS 環境での ネットワーク導入手順

通常、ネットワーク内にブロードバンドルーターなどの「DHCP サーバー」となる機器がある場合は、ネットワークに接続すればそのまま本製品をご利用になれます。

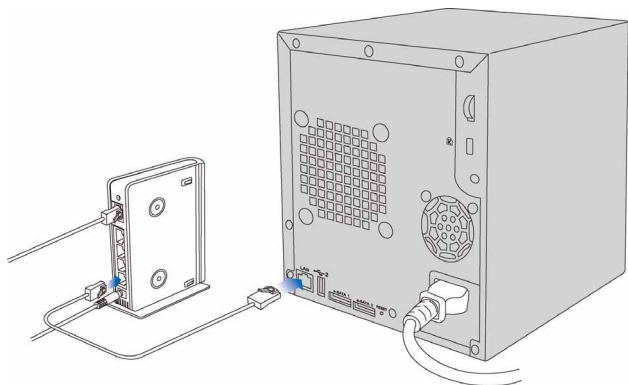
ただし、ネットワーク内に DHCP サーバーとなる機器がない場合には、Macintosh パソコンを使って本製品の IP アドレスなどを変更する必要があります。

## STEP1 ネットワーク機器を確認する

ネットワーク内のパソコン、ルーター、アクセスポイントなどが正常に動作していることを確認します。

## STEP2 ネットワークにつなぐ

本製品の LAN ポートに添付の LAN ケーブルを接続し、もう一方をルーターやハブなどのネットワーク機器に接続します。



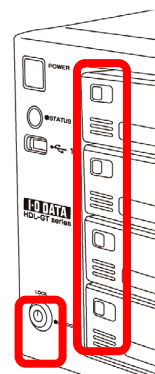
- 必ず LAN ケーブルを先に接続してください。  
LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

## STEP3 電源を入れる

- 1 添付の「電源ケーブル」を本製品背面の「電源コネクタ」に接続後、電源ケーブルを電源コンセントに接続します。  
⇒電源コンセントに接続すると、前面の [POWER] ランプが赤色で点灯します。



- 2 [カートリッジ固定ロック] が [LOCK] 状態となっていること、また、4台の [カートリッジ] のすべてのスライドスイッチが左側の [LOCK] 状態となっていることを確認します。



- 3 本製品前面の電源ボタンを押します。  
「ピポツ」と音が鳴り [POWER] ランプが緑色に点灯します。

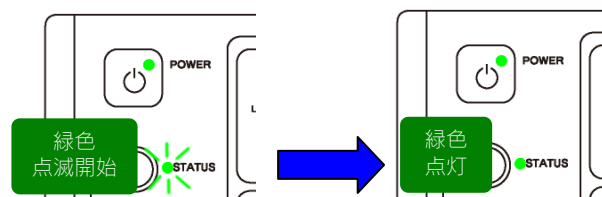


- 動作中に本製品のシャットダウンを完了せずに、電源ケーブルを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。

## STEP4 STATUS ランプを確認する

**1** しばらくすると、[STATUS] ランプが緑色で点滅し、約2分ほどで緑色に点灯します。

**2** 起動が完了すると、「ピー」と音が鳴ります。



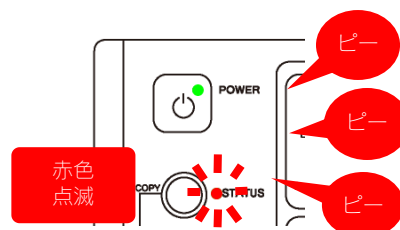
STATUS ランプが  
緑色で点灯している

以上でセットアップは完了です。これで、本製品を使用できる準備は整いました。

この後、以下の個所へお進みください。

[【Mac OS から本製品にアクセスする】](#) (31ページ)

STATUS ランプが  
赤く点滅している



DHCP サーバーより IP アドレスを取得できない状態です。  
以下の個所へお進みください。

[【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】](#) (次ページ)

**注意** ● ネットワーク内に DHCP サーバーがない場合、  
[STATUS] ランプは赤く点滅します。

ネットワーク内に DHCP サーバーがあるのに点滅している場合は、以下の手順を行ってみてください。

- ① いったん、本製品の [電源] ボタンを押して本製品の電源を切ります。
- ② DHCP サーバーが正しく動作していること、本製品とネットワーク機器が LAN ケーブルで正しく接続されていることを確認します。
- ③ [電源] ボタンを押して、再度本製品の電源を入れます。  
※ DHCP サーバーがあるかどうかの確認方法については、

上記注意を確認しても改善されない場合は、【困ったときには】の以下の個所を参照してください。

[【◆本製品起動時のトラブル】](#) (242ページ)

[【◆セットアップ時のトラブル \(ネットワークへの導入時\)】](#) (246ページ)

**注意** ● 起動時の [ACCESS] ・ [STATUS] ランプの動作がおかしい場合、ブザーが鳴る場合については以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の [【◆ランプやブザーについて】](#) (272ページ)

# Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合

ネットワークに導入後（本製品起動後）、[STATUS] ランプが赤く点滅している場合は、本製品の IP アドレスは、Auto IP（169.254.xxx.xxx）に設定されています。

※Auto IP 環境のネットワークで本製品をご利用になる場合は、そのままご利用になれますが、固定 IP 環境のネットワークで本製品をご利用になる場合は、本製品にご利用のネットワークに応じた IP アドレスを設定する必要があります。設定画面は、設定用パソコンから Web ブラウザで本製品の IP アドレスを指定して開きます。[STATUS] ランプが赤く点滅している場合、本製品の IP アドレスは Auto IP [169.254.xxx.xxx] に設定されていますが、同時に [192.168.0.200] にも設定されています。以下の手順は、[192.168.0.200] の IP アドレスを使用して、設定画面を開き、ご利用のネットワークに応じた IP アドレスに設定する手順です。

## STEP1 本製品の IP アドレスを決める

1 現在ネットワークで使用している（IP アドレスを使用している）パソコンやネットワーク機器の IP アドレスとサブネットマスク・ルータ（アドレス）を確認し、メモします。（パソコンの IP アドレスの確認方法については、別紙【必ずお読みください】裏面の【パソコンの IP アドレス】をご覧ください。）

2 本製品の IP アドレスを決定し、メモします。（サブネットマスク、ルータ（アドレス）は上記で確認した値と同じ値をメモします。）


## STEP2 設定用パソコンの IP アドレスを一時的に変更する


本製品を設定するパソコンの IP アドレスを一時的に変更します。

本製品の IP アドレスを設定するために一時的に行うものです。本製品の設定画面を開くには、パソコンの IP アドレスを本製品の IP アドレス（192.168.0.200）と同じセグメントで、かつ、別の IP アドレス（192.168.0.3 など）にする必要があるからです。

【STEP1】の手順で現在のパソコンの IP アドレスをメモしていなかった場合は、メモしておいてください。

1 パソコンの [IP アドレス] [サブネットマスク] を一時的に以下の値に変更します。  
[IP アドレス] …… 192.168.0.xxx  
(xxx には 200 を除く 1~254 のいずれかの値)  
[サブネットマスク] …… 255.255.255.0

 パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない  
⇒以下の個所を参照してください。  
【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】  
(292ページ)

 **注意**  
●後で元の設定に戻しますので、必ず現在の [IP アドレス] [サブネットマスク] [ルータ アドレス] などはメモしておいてください。

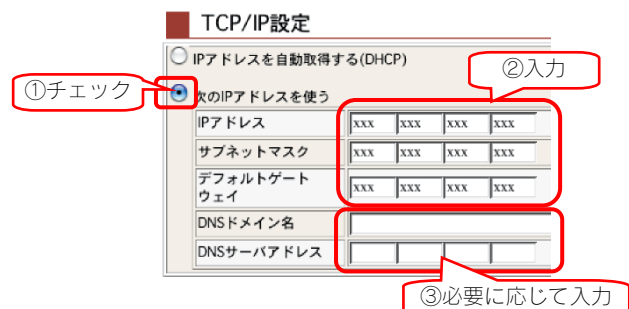
## STEP3 本製品のネットワーク設定をする

1 本製品の設定画面を開きます。  
開き方については、以下の個所を参照してください。  
【Macintosh パソコンから設定画面を開く】（40ページ）

2 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

3 [メニュー]の [ネットワーク] → [TCP/IP] を順にクリックします。

4 【STEP1】で決めた IP アドレスを設定します。  
[次の IP アドレスを使う] をチェック後、本製品の [IP アドレス] [サブネットマスク] の値を入力します。  
[デフォルトゲートウェイ]には、メモした[ルータ(アドレス)]を入力します。入力後、[OK] ボタンをクリックします。



5 [確認]画面で[OK]ボタンをクリックした後、[結果]画面が表示されたら、Web ブラウザを閉じます。

## STEP4 設定用パソコンの IP アドレスの設定を元に戻す

設定用パソコンの IP アドレスの設定を元に戻します。  
設定用パソコンをネットワークに接続する場合は、変更した IP アドレス・サブネットマスク・ルータ（アドレス）を元に戻す必要があります。【STEP2】でメモした値に戻してください。

# Mac OS から 本製品にアクセスする

ネットワークに導入した本製品にアクセスする方法を説明します。

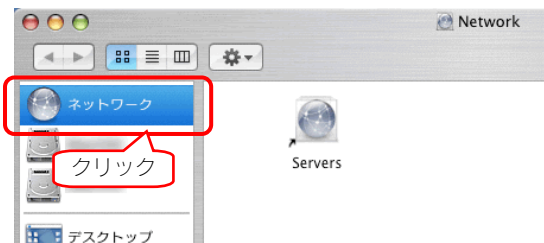
アクセス方法は OS により異なりますので、下記のご使用の OS を参照してください。

- ・ [Mac OS X\(10.3以降\)から本製品にアクセスする \(32ページ\)](#)
- ・ [Mac OS X\(10.2.8以前\)から本製品にアクセスする \(33ページ\)](#)
- ・ [Mac OS 8.1～9.2.2 から本製品にアクセスする \(34ページ\)](#)

# Mac OS X(10.3以降) から本製品にアクセスする

Mac OS X (10.3 以降) から本製品にアクセスする手順です。

**1** Finder を開き、[ネットワーク] をクリックします。



**2** しばらくすると [Local] アイコン (または [My Network] アイコン) が表示されます。  
[Local] アイコン (または [My Network] アイコン) をダブルクリックします。

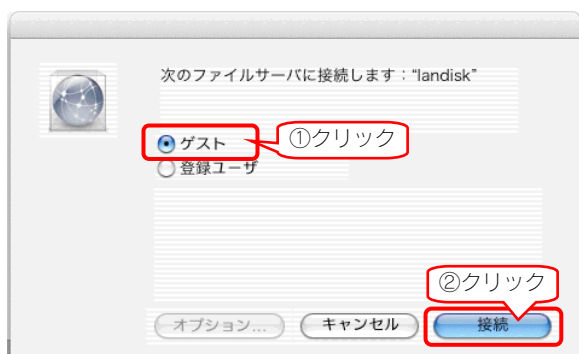


**3** 表示されている [landisk] アイコンをダブルクリックします。何も表示されない場合は、しばらく待つと表示されます。  
※本製品の [LANDISK の名前] を変更している場合は、設定した名前が表示されます。



?? LANDISK が検索されない!  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の264ページ

**4** [ゲスト] を選択し、[接続] ボタンをクリックします。



**5** [disk1] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



**6** デスクトップ上に [disk1] アイコンが表示されます。



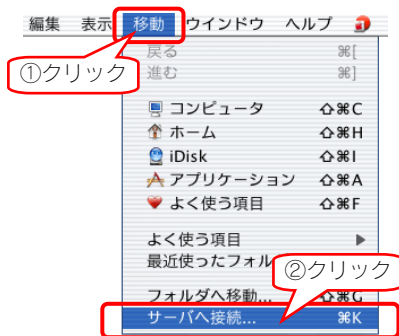
**7** [disk1] アイコンをダブルクリックすると、[disk1] フォルダのウィンドウが表示されます。このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザとファイルを共有することができます。



# Mac OS X(10.2.8以前)から本製品にアクセスする

Mac OS X (10.2.8 以前) から本製品にアクセスする手順です。

**1** [移動]メニュー→[サーバへ接続]をクリックします。



**2** 本製品に接続します。

- ①[サーバへ接続]画面で、[場所]で[ネットワーク]または[ローカルエリアネットワーク]を選択します。
- ②[Local] (または [ローカルネットワーク]) → [landisk] ※をクリック後、[接続]ボタンをクリックします。  
※本製品の [LANDISK の名前] を変更している場合は、設定した名前が表示されます。



**LANDISK が検索されない！**

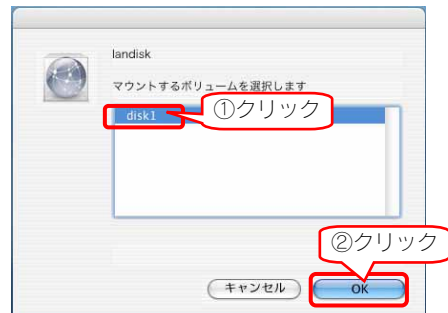
⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の264ページ

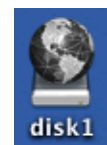
**3** [ゲスト]を選択し、[接続]をクリックします。



**4** [disk1]を選択し、[OK]をクリックします。



**5** デスクトップ上に本製品の共有フォルダ ([disk1]) がマウントされます。

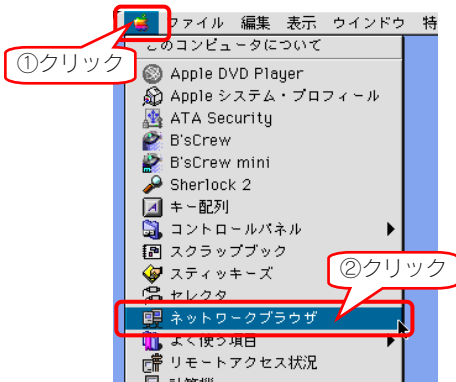


**6** [disk1] アイコンをダブルクリックすると、[disk1] フォルダのウィンドウが表示されます。このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザとファイルを共有することができます。

# Mac OS 8.1~9.2.2 から本製品にアクセスする

Mac OS 8.1~9.2.2 から本製品にアクセスする手順です。

- 1** [アップルメニュー] → [ネットワークブラウザ] をクリックします。

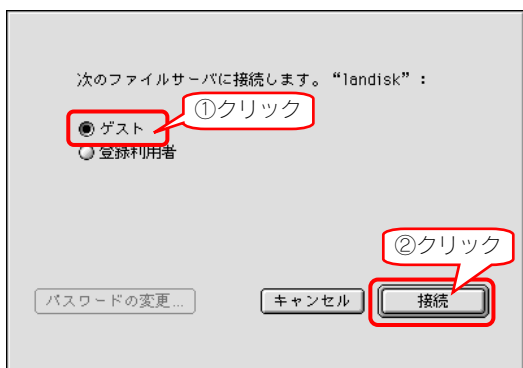


- 2** [ローカルネットワーク] 左の ▶ をクリックして、[ローカルサービス] [landisk] を順に開きます。  
※ご利用環境によっては [ローカルサービス] が表示されない場合もあります。

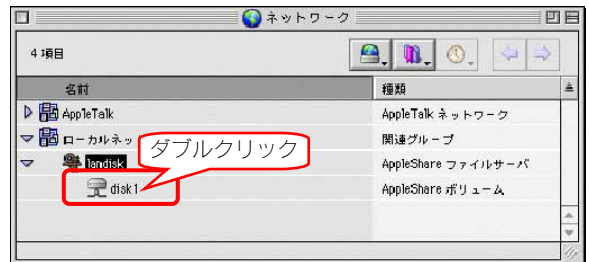


**LANDISKが検索されない!**  
⇒以下の箇所を参照してください。  
【困ったときには】の264ページ

- 3** [ゲスト] を選択し、[接続] ボタンをクリックします。



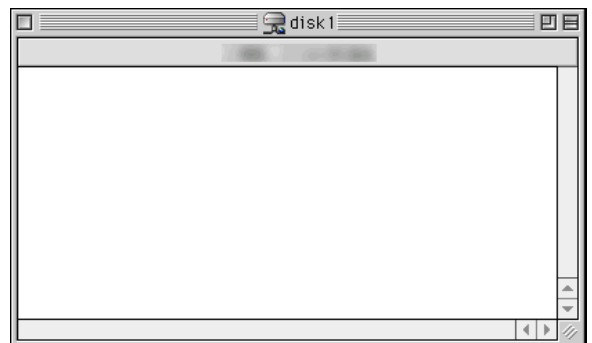
- 4** [disk1] が表示されます。  
[disk1] をダブルクリックします。



- 5** デスクトップ上に [disk1] アイコンが表示されます。



- 6** [disk1] アイコンをダブルクリックすると、[disk1] フォルダのウィンドウが表示されます。  
このフォルダ内にファイルを書き込んで、他のユーザとファイルを共有することができます。



# 本製品にファイルを読み書きする際の注意

本製品の [disk1] フォルダや新しく作成した共有フォルダ、あるいは、増設ハードディスクにファイルを読み書きする場合は、ご使用前に、以下の項目を必ずご確認ください。

- 本製品を使用中にデータが消失した場合でも、データの保証は一切いたしかねます。  
(故障や万が一に備えて定期的にバックアップをお取りください。)
- 動作中に本製品や増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- 本製品のファイルやフォルダに「読み取り専用」などの属性情報を設定することはできません。
- フォルダ名、ファイル名に使用できる文字の制限  
本製品で使用できるフォルダ名やファイル名には制限があります。  
また、増設ハードディスク内にすでに作成されているファイル名、フォルダ名によっては正しく表示されないものがあります。  
詳細については、次の個所を参照してください。【文字制限一覧】(202ページ)
- 各 OS でのファイルサイズによる制限
  - ・ Windows Me の場合、4GB 以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱えません。
  - ・ Windows 98 (SE 含む) の場合、2GB 以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱えません。
  - ・ Mac OS(Classic) の場合、2GB 以上のファイルはネットワーク経由で扱えません。
- 本製品にネットワーク経由で接続可能な Windows の端末数に制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。
  - ・ Windows の場合、推奨する同時接続台数は 16 台までとなります。
  - ・ Mac OS の場合、推奨する同時接続台数は 8 台までとなります。
- Windows 98 から本製品にファイルのコピー中に LAN ケーブルが抜けるなどして中断された場合、コピー途中のファイルが本製品上に残り消去できなくなる場合があります。この場合は、いったん本製品の電源を切り、再度起動してからコピー途中のファイルを削除し、コピーをやり直してください。
- Windows と Mac OS で共有してご利用になる場合、Windows 上から見ると、見覚えの無いファイル、フォルダが見える場合があります。これは、Mac OS で、フォルダを作成したりファイルをコピーした際は、作成したファイル (フォルダ) の他に、別のファイル (フォルダ) が作成されるためです。  
このファイル (フォルダ) には、Mac OS ユーザ用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。
- NTFS 形式のハードディスクにネットワーク上から書き込みはできません。読み込み専用となります。  
また、NTFS 形式の増設ハードディスクなど、読み込み専用設定の共有は、Mac ではアクセスすることはできません。
- 共有フォルダを新規で作成できるのは、本製品内蔵ハードディスクのみです。  
増設する FAT/NTFS 形式のハードディスクには作成できません。
- ファイルコピー中や動作中に増設用ハードディスクの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。本製品の電源を切った後、増設用ハードディスクの ACCESS ランプを確認の上、電源を切ってください。
- 増設ハードディスクに複数のパーティションがある場合、本製品で認識できるのは第 1 パーティションのみになります。
- [ごみ箱] 機能を有効にした場合、[ごみ箱] フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [ごみ箱] フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に [ごみ箱] フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。

# 本製品の設定画面



## ▼ [情報表示] メニュー

項目	表示内容	参照ページ
システム情報	本製品のシステムに関する各種情報を表示します。	208
ネットワーク情報	ネットワークに関する情報を表示します。	209
ボリューム情報	内蔵および増設ハードディスクに関する情報を表示します。	210
ログ情報	ログ情報を表示します。	213

## ▼ [メニュー] メニュー

項目	設定内容	参照ページ
<b>ネットワーク</b>	ネットワークに関する設定です。	
共有サービス設定	ファイル共有、アクセスログ、FTPサービスの設定です。	214
MS ネットワーク設定	本製品のネットワーク上での名前、ワークグループ、ドメイン、Active Directory に関する設定です。	215
TCP/IP 設定	本製品の IP アドレス、ジャンボフレームの設定です。	217
<b>共有管理</b>	共有に関する設定です。	
共有フォルダ管理	共有フォルダの作成、変更の設定です。	218
ユーザ管理	本製品に登録するユーザの設定です。	221
グループ管理	本製品に登録するグループの設定です。	222
ユーザ使用量管理	ユーザごとの使用量の制限設定です。	223
グループ使用量管理	グループごとの使用量の制限設定です。	223
<b>ディスク</b>	ディスクに関する設定です。	
ボリューム操作	各ボリュームのフォーマット、チェックディスクなどを操作する設定です。	224
ボリューム設定	内蔵ボリュームの RAID モード、暗号化 RAID モード、eSATA ディスクのミラーリングモード、USB ポート 1 のクイックコピーモードの設定です。	225
アクティブリペア	アクティブリペアによるディスクチェックの設定です。	226
ディスク省電力	ディスク省電力の設定です。	227
ロックキー管理	暗号化ボリュームを制御する USB ロックキーの作成、スペアキーの作成を行います。	227
<b>バックアップ</b>	データのバックアップに関する設定です。	
セルフバックアップ	本製品上のデータを指定先の共有フォルダにバックアップする設定です。	228
リモートバックアップ	ネットワーク上の共有フォルダのデータを本製品にバックアップする設定です。	229
<b>メール通知</b>	メール通知に関する設定です。	
メール基本設定	本製品のログ情報などをメール送信するための基本的なメール設定です。	230
メール通知設定	システムログやバックアップログなどの各メール通知の設定です。	231
使用量通知設定	空き容量警告と使用量レポート通知の設定です。	232
<b>システム</b>	各種システム関連の設定です。	
システム時刻	本製品の時刻の設定です。	233
起動スケジュール	本製品の起動スケジュールの設定です。	233
ランプの明るさ	前面ランプの明るさの設定です。	234
プリントバッファクリア	プリンタ使用時のプリントバッファクリアの設定です。	234
UPS 設定	UPS 装置使用時の設定です。	234
シャットダウン	本製品のシャットダウンの設定です。	234
システム初期化	システム初期化の設定です。	235
ファームウェア更新	ファームウェア更新の設定です。	235
定期警告	定期警告の設定です。	235
<b>メロディ</b>	ランプとブザーにより本製品の位置を知らせる設定です。	235
<b>管理者パスワード変更</b>	本製品の管理者用のパスワード設定です。	236

# 設定画面の開き方

本製品の設定画面の開き方を説明します。

方法は OS により異なりますので、下記のご使用の OS をクリックしてください。

[Windows/パソコンから設定画面を開く \(38ページ\)](#)

[Macintosh パソコンから設定画面を開く \(40ページ\)](#)

# Windows パソコンから 設定画面を開く

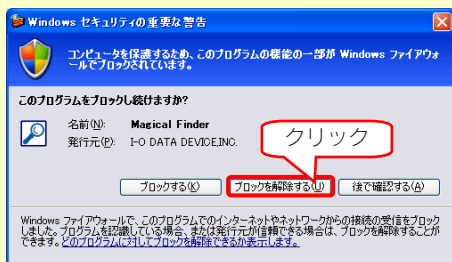
Windows パソコンからの本製品の設定画面の開き方を説明します。

- 1** 添付 CD-ROM をセットし、起動してきたサポートソフトメニューの[MagicalFinder 起動]をクリックし、[MagicalFinder]を起動します。

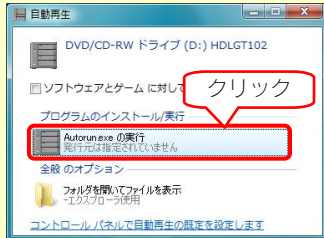


**注意**

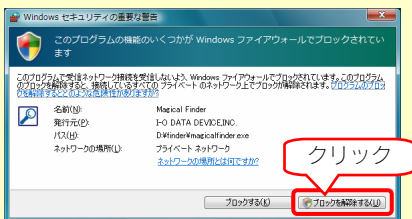
- Windows XP SP2 をお使いで以下の画面が表示された場合は、[ブロックを解除する]をクリックしてください。



- Windows Vista®をお使いで、CD-ROM を挿入すると、以下の画面が表示された場合、[Autorun.exe の実行]をクリックしてください。



- Windows Vista®をお使いで、以下の画面が表示された場合、[ブロックを解除する]をクリックしてください。



サポートソフトメニューが表示されていない場合

① [マイコンピュータ] を開きます。

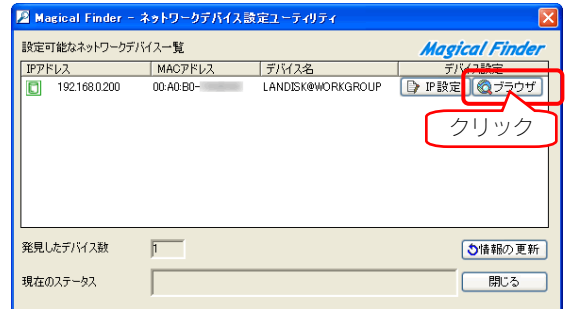
※Windows Vista®では[スタート]→[コンピュータ]をクリックします。

②HDL-GTRxxx]※アイコンをダブルクリックします。

※ xxx にはサポートソフトのバージョンが表示されます。

(サポートソフトメニューが表示されない場合は、さらに [Autorun.exe] アイコンをダブルクリックしてください。)

- 2** 自動で本製品が検索されますので、[ブラウザ]ボタンをクリックします。  
※本製品の電源が ON になってから、検索されるまでに約 1～2 分かかる場合があります。



本製品が検索されない！

対処1：30 秒ほど待ってから[情報の更新]ボタンをクリックしてください。

対処2：以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の249ページ

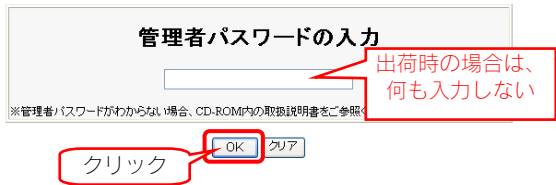
- 3** しばらくお待ちになると、以下の画面が表示されます。  
[管理者用設定ページを開く]をクリックします。



ユーザー用設定ページを開く

管理者用設定ページを開く **クリック**

**4** 「管理者パスワードの入力」画面が表示されます。  
 管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、[OK] ボタンをクリックします。



**??** 「管理者パスワードが違います」と表示された！

**管理者パスワードが違います**

対処：以下をご覧ください。  
[【困ったときには】の269ページ](#)

**5** 本製品の設定画面が表示されます。

■ システム情報

■ システムの情報	
システムバージョン	1.10
現在時刻	2007年01月05日 15時13分03秒
タイムサーバとの時刻同期	無効
有効な共有サービス	Microsoftネットワークファイル共有 AppleShareネットワークファイル共有
内蔵ボリューム1の動作モード	RAID5(分散)リティ)
クイックコピー	有効
セルフバックアップ	スケジュール無効
リモートバックアップ	スケジュール無効
ディスク省電力	なし
ランプの明るさ	明
起動スケジュール	無効
筐体内温度	35 °C
メインFAN回転数	2100 rpm
UPS接続状態	未接続
UPSバッテリー充電容量	取得できません
UPS警告機能	無効

# Macintosh パソコンから 設定画面を開く

Macintosh パソコンからの本製品の設定画面の開き方を説明します。

**1** Web ブラウザを起動して下記を入力し、[Enter]キーを押します。

http://本製品の IP アドレス/

▼本製品の IP アドレスが [192.168.0.200] の場合の例



## ●DHCP サーバーがある場合の「本製品の IP アドレス」

DHCP サーバーから本製品に割り当てられている IP アドレスをご確認ください。  
ご使用のブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーが、本製品に割り当てた IP アドレスの情報を記録している場合があります。詳しくは、DHCP サーバーとなっている機器の取扱説明書などをご覧ください。

## ●DHCP サーバーがない場合の「本製品の IP アドレス」

本製品に設定した IP アドレスを入力してください。



Mac と本製品を直接接続した後、設定画面が表示されません！

⇒以下の箇所を参照してください。

【◆セットアップ時のトラブル(ネットワークへの導入時)】(246ページ)



本製品の IP アドレスを忘れてしまった！

ネットワーク内に Windows パソコンがある場合は、Windows パソコンから確認してください。  
以下の箇所を参照してください。

【本製品に設定されている IP アドレスを調べたい】(270ページ)

Mac OS パソコンしかない場合は、確認する方法はありません。

本製品から LAN ケーブルを取り外した後、RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定 (192.168.0.200) に戻してください。

以下の箇所を参照してください。

【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】(156ページ)

出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。

**2** しばらくお待ちになると、以下の画面が表示されます。  
[管理者用設定ページを開く]をクリックします。



ユーザー用設定ページを開く

管理者用設定ページを開く **クリック**

**3** [管理者パスワードの入力] 画面が表示されます。  
管理者パスワードを入力後 (出荷時はパスワードは設定されていません)、[OK] ボタンをクリックします。



「管理者パスワードが違います」と表示された！

管理者パスワードが違います

対処：以下をご覧ください。

【困ったときには】の269ページ

**4** 本製品の設定画面が表示されます。

## ■ システム情報

### ■ システムの情報

システムバージョン	1.10
現在時刻	2007年01月05日 15時13分03秒
タイムサーバとの時刻同期	無効
有効な共有サービス	Microsoft ネットワークファイル共有 AppleShare ネットワークファイル共有
内蔵ボリューム1の動作モード	RAID5(分散/レディ)
クイックコピー	有効
セルフリックアップ	スケジュール無効
リモートバックアップ	スケジュール無効
ディスク省電力	なし
ランプの明るさ	明
起動スケジュール	無効
筐体内温度	35 °C
メインFAN回転数	2100 rpm
UPS接続状態	未接続



# RAID モードの変更


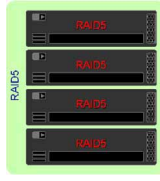
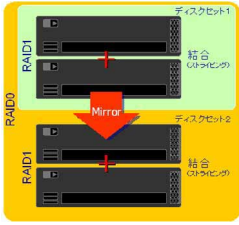
# 本製品で設定できる RAID モード

本製品内蔵ハードディスク（4つのカートリッジ）は、出荷時 RAID5（分散パリティ）で構成されています。RAID モードは、設定画面で別の RAID モードに変更することもできます。本製品では、以下の3つの RAID モードに設定することができます。

また、それぞれの RAID モードで暗号化の有無がありますので合計6つの動作モードがあります。

※4つのハードディスクを別々のハードディスクとして使用することはできません。

- 注意**
- 本製品で RAID 設定を変更すると、それまで RAID ボリュームに保存されていたデータはすべて失われます。あらかじめ、データをバックアップしてから RAID 構成を変更するか、初期状態からすぐに構成変更してください。
  - 本製品のRAID構成されているハードディスクカートリッジは、障害発生時以外には取り外さないでください。不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID構成が崩壊して全てのデータを失う危険性があります。カートリッジを取り外す際は、【カートリッジの扱い方】（14ページ）をご確認ください。

RAID0 (ストライピング)	内蔵ディスク1～4で RAID0（ストライピング）を構成し、1つのボリュームとして使用できます。 ディスクの使用効率とシステムパフォーマンスが最も高いモードですが、データの保護機能はありません。	
RAID5 (分散パリティ)	内蔵ディスク1～4で RAID5（分散パリティ）を構成し、1つのボリュームとして使用できます。 ディスクの使用効率とシステムパフォーマンス、およびデータの保護機能のバランスのよいモードです。	
RAID1+0 (ミラーストライピング)	ディスクの利用効率は低いが、データ保護機能が最も高いモードです。 内蔵ディスク1、3および内蔵ディスク2、4で2つのミラーリングペアを構成し、2つのミラーリングペアをさらにストライピングすることにより、1つのボリュームとして使用できます。 また、ディスクセットの保管機能により、内蔵ディスク1、2（上2つ）または内蔵ディスク3、4（下2つ）をディスクセットとして取り外し、内蔵ボリューム、及びシステム全体のバックアップとして保管することができます。 トラブル発生時は、保管したディスクセットを接続してシステムを起動すると、ディスクセットを保管した時点のシステムの状態（内蔵ボリュームの共有データ、登録ユーザ/グループ情報、その他各種設定）まで戻ることができます。	

## ＜各 RAID モードの比較＞

		RAID0 (ストライピング)	RAID5 (分散パリティ)	RAID1+0 (ミラーストライピング)
ディスクの使用効率		高 (すべてデータ領域として使用)	中 (3/4 がデータ領域、 1/4 は保護領域)	低 (2/4 がデータ領域、 2/4 は保護領域)
システムパフォーマンス		高 (ストライピングによる高速化)	低 (パリティ生成のオーバーヘッド)	中 (ストライピングの高速化とミラーリングのオーバーヘッド)
データの保護機能		なし (1台故障でボリューム崩壊)	中 (1台故障に対応、2台故障でボリューム崩壊)	高 (最大2台故障に対応※1、3台故障でボリューム崩壊)
利用可能なディスク容量	HDL-GTR1.0	約 1TB	約 750GB	約 500GB
	HDL-GTR2.0	約 2TB	約 1.5TB	約 1TB
	HDL-GTR3.0	約 3TB	約 2.2TB	約 1.5TB
	HDL-GTR4.0	約 4TB	約 3TB	約 2TB

※1 同じミラーリングペアが破損した場合は、ボリューム崩壊を招きます。

# RAID モードを 変更する際の注意

## ●変更する前に

- ・ RAID モードを切り替えるには、必ずカートリッジが4台とも接続されている必要があります。
- ・ 内蔵ハードディスク（4台）はすべてフォーマットされます。  
本製品内にデータが保存されている場合は、RAID モード変更前に必ず必要なデータはバックアップしてください。

## ●変更時

- ・ RAID モードを変更すると、RAID 構築に移ります。
- ・ RAID モードの切り替え処理自体は数分で終わりますが、構築完了までにかなり時間がかかる場合があります。
- ・ RAID 構築作業はバックグラウンドで実行されているため、構築中であっても本製品を通常通り使用できますが、構築中に以下の操作はできません。また、RAID 構築中は、データ保護されません。
  1. eSATA ハードディスクとのミラーリング
  2. RAID1+0 でのミラーセットの保管
  3. アクティブリペア

<RAID モード変更後の構築までの所要時間>

変更する RAID モード	RAID0 (ストライピング)	RAID5 (分散パリティ)	RAID1+0 (ミラーストライピング)
RAID 構築までの時間※1	約2分※2	約4.5時間	約1.5時間

※1 表示されている時間は、ネットワークに HDL-GTR1.0 を接続し、暗号化機能のないボリュームでファイル共有などの操作をしない状態で測定した値です。

構築中に設定変更やファイル操作を行ったり、暗号化機能のあるボリュームで行うと、上記以上の時間を要します。  
また、HDL-GTR2.0 の場合は、上記の約2倍の時間を要します。

※2 RAID0 (ストライピング) の所要時間は、他の RAID モードから切り替えるときにかかる時間の実測値です。

# 現在の RAID モードを確認する

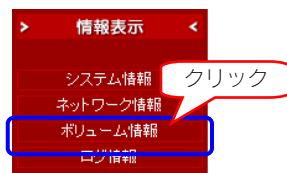
現在の RAID モードは、[システム情報] 画面、[ボリューム情報] 画面、[ボリューム設定] 画面、[ボリューム操作] 画面で確認することができます。

ここでは、[ボリューム情報] 画面での確認手順について説明します。

**1** 本製品の設定画面の情報表示メニューをクリックします。



**2** 情報表示メニューの [ボリューム情報] をクリックします。



**3** 内蔵ハードディスクをクリックします。

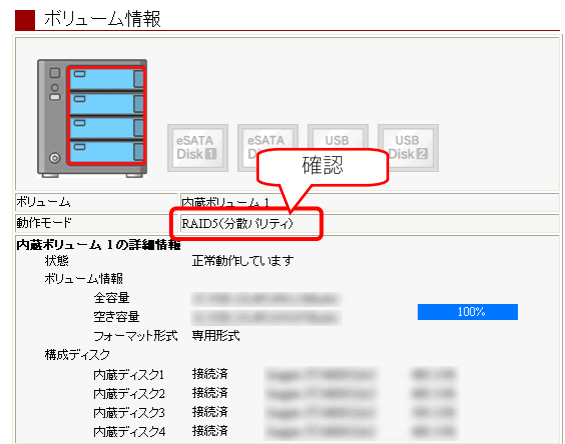


●表示色での各ディスク状態

色	状態
水色	接続済み、正常に動作中
グレー	接続済み、停止中
赤	接続済み、エラー発生
白	未接続

**4** [動作モード] 欄に現在の RAID モードが表示されます。

▼RAID5 での表示例



●各 RAID モードでの動作モードの表示

RAID モード	表示される [動作モード]
RAID5	RAID5 (分散パリティ)
RAID1+0	RAID1+0 (ミラーストライピング)
RAID0	RAID0 (ストライピング)
Encrypted RAID5	暗号化分散パリティ
Encrypted RAID1+0	暗号化ミラーストライピング
Encrypted RAID0	暗号化ストライピング

# RAID モードの各表示

RAID の動作モードによって、設定画面で表示される内容は異なります。

## ●RAID5 の場合(分散パリティ)

[ボリューム情報] の表示

**ボリューム情報**

ボリューム: 内蔵ボリューム 1  
動作モード: RAID5(分散パリティ)

**内蔵ボリューム 1 の詳細情報**

状態: 正常動作しています

ボリューム情報

全容量: [不明]  
空き容量: [不明] 100%

フォーマット形式: 専用形式

**構成ディスク**

ディスク	接続	容量	フォーマット
内蔵ディスク1	接続済	[不明]	[不明]
内蔵ディスク2	接続済	[不明]	[不明]
内蔵ディスク3	接続済	[不明]	[不明]
内蔵ディスク4	接続済	[不明]	[不明]

[共有フォルダ] の表示

**新規共有フォルダの作成**

[新規共有フォルダの追加](#) 共有フォルダを追加します

**共有フォルダ一覧**

共有フォルダ名	操作	コメント	サービス
内蔵ボリューム1の共有 disk1	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT RAID volume	Win Mac
eSATA ボリューム1の共有 esata1	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT eSATA1 disk	Win Mac
eSATA ボリューム2の共有 esata2	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT eSATA2 disk	Win Mac
USB ボリューム2の共有 usb2	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT USB2 disk	Win Mac

ネットワーク上での表示 (Windows XP での表示例)

名前	コメント
disk1	HDL-GTR RAID volume
プリンタと FAX	インストールしているプリンタや FAX.

## ●RAID1+0 の場合 (ミラーストライピング)

[ボリューム情報] の表示

**ボリューム情報**

ボリューム: 内蔵ボリューム 1  
動作モード: RAID1+0(ミラーストライピング)

**内蔵ボリューム 1 の詳細情報**

状態: ミラーペア1 正常動作しています  
ミラーペア2 正常動作しています

ボリューム情報

全容量: [不明]  
空き容量: [不明] 100%

フォーマット形式: 専用形式

ディスクセット 1: 内蔵ディスク1, 内蔵ディスク2  
ディスクセット 2: 内蔵ディスク3, 内蔵ディスク4

**構成ディスク**

ディスク	接続	容量	フォーマット
ミラーペア1 内蔵ディスク1	接続済	[不明]	[不明]
内蔵ディスク3	接続済	[不明]	[不明]
ミラーペア2 内蔵ディスク2	接続済	[不明]	[不明]
内蔵ディスク4	接続済	[不明]	[不明]

[共有フォルダ] の表示

**新規共有フォルダの作成**

[新規共有フォルダの追加](#) 共有フォルダを追加します

**共有フォルダ一覧**

共有フォルダ名	操作	コメント	サービス
内蔵ボリューム1の共有 disk1	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT RAID volume	Win Mac
eSATA ボリューム1の共有 esata1	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT eSATA1 disk	Win Mac
eSATA ボリューム2の共有 esata2	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT eSATA2 disk	Win Mac
USB ボリューム2の共有 usb2	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT USB2 disk	Win Mac


ネットワーク上での表示 (Windows XP での表示例)

名前	コメント
disk1	HDL-GTR RAID volume
プリンタと FAX	インストールしているプリンタや FAX.

●RAID0 の場合（ストライピング）

[ボリューム情報] の表示

■ ボリューム情報



ボリューム: 内蔵ボリューム 1  
 動作モード: RAID0(ストライピング)

内蔵ボリューム 1 の詳細情報

状態: 正常動作しています

ボリューム情報

全容量: [不明]  
 空き容量: [不明] 100%

フォーマット形式: 専用形式

構成ディスク

内蔵ディスク1	接続済	[不明]	[不明]
内蔵ディスク2	接続済	[不明]	[不明]
内蔵ディスク3	接続済	[不明]	[不明]
内蔵ディスク4	接続済	[不明]	[不明]

[共有フォルダ] の表示

■ 新規共有フォルダの作成

[新規共有フォルダの追加](#) 共有フォルダを追加します

■ 共有フォルダ一覧

内蔵ボリューム1の共有	操作	コメント	サービス
disk1	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT RAID volume	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a>

eSATA ボリューム1の共有	操作	コメント	サービス
esata1	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT eSATA1 disk	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a>

eSATA ボリューム2の共有	操作	コメント	サービス
esata2	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT eSATA2 disk	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a>

USB ボリューム2の共有	操作	コメント	サービス
usb2	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GT USB2 disk	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a>

ネットワーク上での表示 (Windows XP での表示例)

名前 ▲	コメント
disk1	HDL-GTR RAID volume
プリンタと FAX	インストールしているプリンタや FAX...

# RAID モードを 変更する

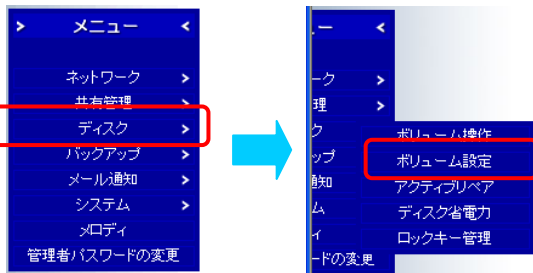
現在の RAID モードを他の RAID モードに変更することができます。

※RAID モードを切り替えると、内蔵ボリュームすべてのデータが消去されます。ご注意ください。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



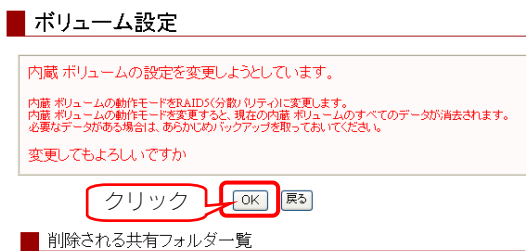
**2** [メニュー]の [ディスク] → [ボリューム設定] を順にクリックします。



**3** [内蔵ボリューム]での [動作モードの選択] で変更する RAID モードにチェック後、[変更] ボタンをクリックします。



**4** [OK] ボタンをクリックします。



**5** [OK] ボタンをクリックします。



**6** 数分後、[結果] 画面が表示されます。

## 結果

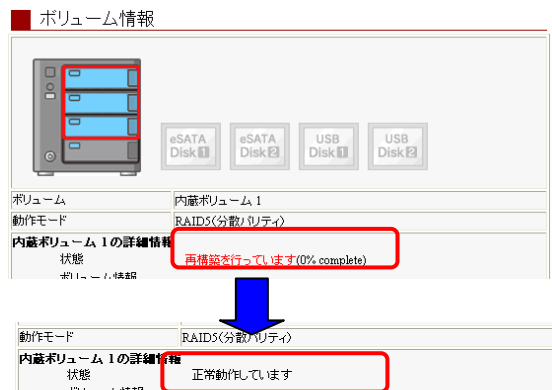
内蔵ボリュームの動作モードをRAID5(分散/リテリ)に変更しました

以上で RAID モードの変更は完了です。

変更した RAID モードに応じたディスクの構築が完了するまでに、かなり時間がかかる場合がありますが、ディスクの構築自体はバックグラウンドで実行されているため、操作上に特に問題はありません。

- 注意**
- 構築が完了しないと RAID によるデータ保護はされません。
  - RAID 0 (ストライピング) の場合、構築作業はありません。

現在の構築状態は、[ボリューム情報] 画面で確認することができます。[状態] が「正常動作しています」となれば構築完了です。



再度状態を確認するには、[情報表示] → [ボリューム情報] をクリックしてください。一度開いた [ボリューム情報] 画面の情報は、再度 [ボリューム情報] 画面を開かないと更新されません。

# 暗号化ボリューム機能 を利用する



# 暗号化ボリューム機能とは？

暗号化ボリューム機能は、HDL-GTR シリーズの RAID ボリュームを丸ごと暗号化する機能です。

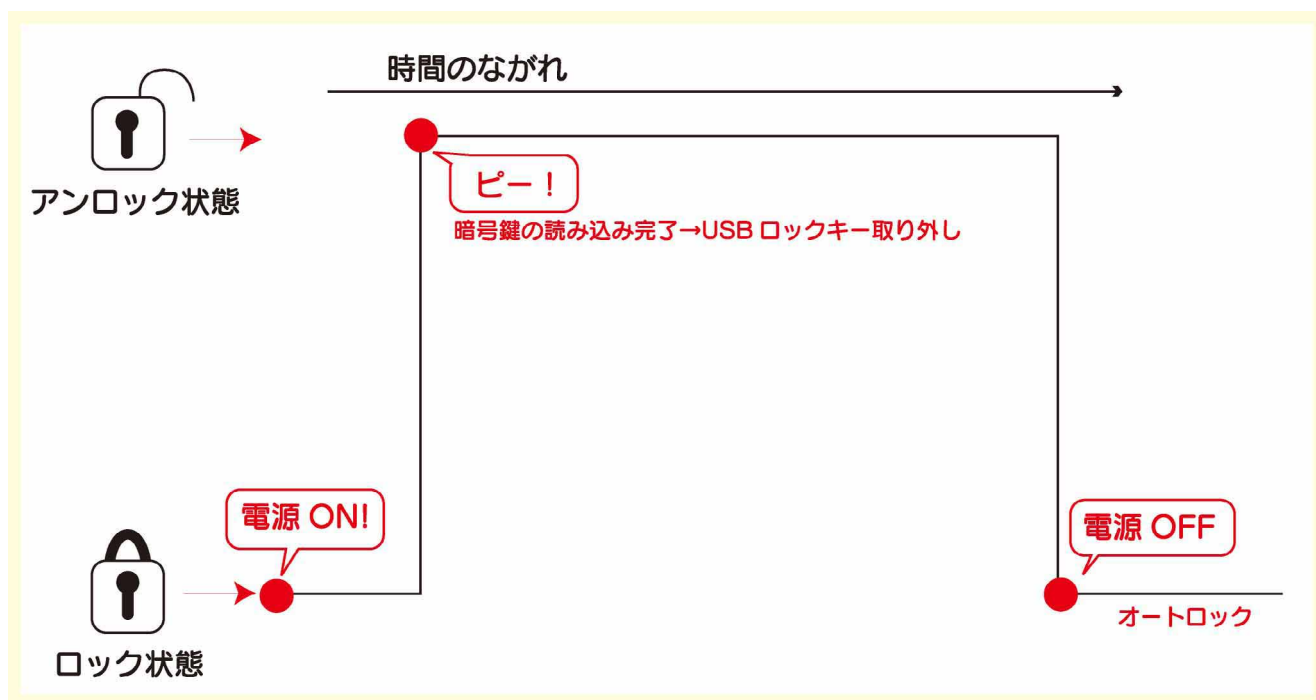
専用の鍵 (USB ロックキー) を利用して起動しない限り、暗号化されたディスク領域にアクセスすることはできませんので、万一 HDL-GTR を丸ごと、あるいはハードディスクカートリッジが盗難にあった場合でも、記録された情報の漏洩を防ぐことができます。

暗号化には AES 方式 (256bit) を使用し、ハードウェア暗号エンジンを用いるため、高速かつ安全に処理されます。

## ●設定時に必要なもの

- ・初期化済みの USB メモリー
- ・スペアキーを作成する場合はスペアキー個数分の初期化済みの USB メモリー

## ●暗号化ボリュームのイメージ



# 暗号化ボリューム機能を設定する

現在の RAID モードを暗号化 RAID モードに変更することができます。

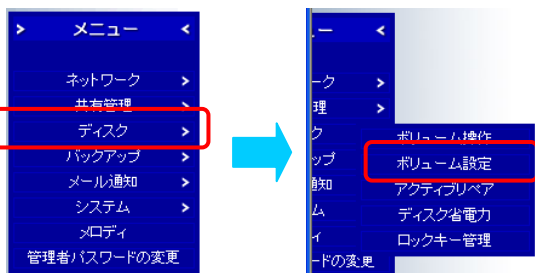
※RAID モードを切り替えると、内蔵ボリュームすべてのデータが消去されます。ご注意ください。

**1** 本製品前面の USB ポート 1 に初期化済みの USB メモリーを挿入します。

**2** 本製品の設定画面の [メニュー] をクリックします。



**3** [メニュー] の [ディスク] → [ボリューム設定] を順にクリックします。



**4** [内蔵ボリューム] での [動作モードの選択] で暗号化機能のある RAID モードにチェック後、[変更] ボタンをクリックします。

## ボリューム設定



②クリック [変更]

●選択するモード

Encrypted RAID0
Encrypted RAID1+0
Encrypted RAID5

**5** 画面のメッセージを確認の上、USB メモリーを USB ポート 1 に接続して、[OK] ボタンをクリックします。  
※USB メモリーを本製品に接続してロックキーを生成する際にフォーマットされます。必要なデータが入っている場合は退避した上で実行してください。

## ボリューム設定

内蔵ボリュームの設定を変更しようとしています。  
内蔵ボリュームの動作モードをEncrypted RAID0 (暗号化ストライピング)に変更します。内蔵ボリュームの動作モードを変更すると、現在の内蔵ボリュームのすべてのデータが消去されます。必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。  
動作モードの変更と同時に、内蔵ボリュームのアクセスに必要なロックキーを作成します。ロックキーとして初期化済みのUSBディスク(Easydiskなど)を、本製品の前面のUSBポートに接続してから[OK]ボタンをクリックしてください。

変更してもよろしいですか

クリック [OK] 戻る

**6** [OK] ボタンをクリックします。



クリック [OK]

**7** 数分後、[結果] 画面が表示されます。

## 結果

内蔵ボリュームの動作モードをEncrypted RAID0 (暗号化ストライピング)に変更しました

以上で設定は完了です。

**注意** ●暗号化に利用するキーは USB ロックキー内にのみ存在します。万一キーの保管された USB ロックキーが壊れたり、紛失した場合、暗号化されたボリュームにアクセスできなくなります。

必ず「マスターキー」と「スペアキー」の複数の USB ロックキーを用意し、万に備えて「マスターキー」を安全な場所に保管しておいてください。

スペアキーの作り方は【スペアキーを作成する】(52ページ)をご覧ください。

●暗号化ボリューム機能は内蔵ボリュームに対するものですので、増設ドライブのデータは暗号化されません。内蔵ボリュームから増設ドライブへバックアップする際はご注意ください。

●USB ロックキーが接続されていない状態ではファイル共有は行われません。起動スケジュール設定をご利用になる場合はご注意ください。

●暗号化ボリューム機能を使用する場合、USB ボリューム 1 の動作モード設定を「共有ディスク (FAT・NTFS)」に設定することはできません。

# 暗号化ボリュームにアクセスする

暗号化ボリュームにアクセスする方法を説明します。

- 1 本製品の電源が OFF になっていることを確認します。
- 2 本製品前面の USB ポート 1 に USB ロックキーを挿入します。
- 3 本製品の電源を ON にします。
- 4 しばらくすると暗号鍵を読み込んだことを示すブザー音 (ピー) がなりますので、USB ポート 1 から USB ロックキーを取り外します。
- 5 取り外した USB ロックキーは紛失しないよう、必ず安全な場所に保管しておいてください。

以上で暗号化ボリュームにアクセス可能となります。

## 注意

●USB ロックキーに保存される鍵データは暗号化ボリュームの設定を行うたびに生成されますので、本製品を複数使用する場合は、それぞれに専用の USB ロックキーを生成しなければなりません。

●USB ロックキーは Windows パソコンに接続すると「未フォーマット」と表示されますが、これは、LANDISK 専用形式でフォーマットされているためです。フォーマットするとキーデータが消去され、暗号化されたボリュームにアクセスできなくなりますので、他の USB メモリと混同しないようご注意ください。

●暗号化に利用するキーは USB ロックキー内にもみ存在します。万が一の保管された USB ロックキーが壊れたり、紛失した場合、暗号化されたボリュームにアクセスできなくなります。

必ず「マスターキー」と「スペアキー」の複数の USB ロックキーを用意し、万々に備えて「マスターキー」を安全な場所に保管しておいてください。

●暗号化設定された RAID ボリュームが存在し、起動時に USB ロックキーがセットされていない場合、HDL-GTR は「ロックモード」で起動します。「ロックモード」では、すべての共有サービスは停止し、共有フォルダ上に保存されたデータにアクセスすることはできません。

●「ロックモード」を解除するには、以下のいずれかの操作を行う必要があります。

- ①USB ロックキーを USB ポート 1 に接続  
正しい USB ロックキーを接続した場合、本製品は正常動作に戻り、共有フォルダ上に保存されたデータにアクセスできるようになります。「ロックモード」の解除後、USB ロックキーは取り外してください。  
※次回本製品の起動時、または再起動時には再び USB ロックキーが必要です。
- ②「ボリューム設定」で動作モードの再設定を行う  
正しい USB ロックキーがない場合、「ボリューム設定」より内蔵ボリュームの再設定を行うと、ロックされた暗号化ボリュームを初期化し、再び使用できるようになります。  
ただし、初期化の際、暗号化ボリューム上に作成された共有フォルダ、および共有フォルダ上に保存されたデータはすべて消去されます。

## 注意

●本製品の暗号化ボリューム機能はディスクを丸ごと暗号化する機能です。ファイル単位、フォルダ単位の暗号化については、市販のアプリケーションをご利用ください。

●LAN 上を流れる通信は暗号化されていません。

●暗号化されるのは内蔵 RAID ボリュームのみとなります。増設ハードディスクは暗号化されません。そのためセルフバックアップ機能で増設ハードディスクにバックアップ先を設定した場合、暗号化された内蔵 RAID ボリュームのデータが暗号化されていないまま増設ハードディスクに保管されることとなりますのでご注意ください。eSATA ミラーリング機能をご利用の場合は、暗号化されたまま増設 eSATA ハードディスクにミラーリングが行われます。

# スペアキーを作成する

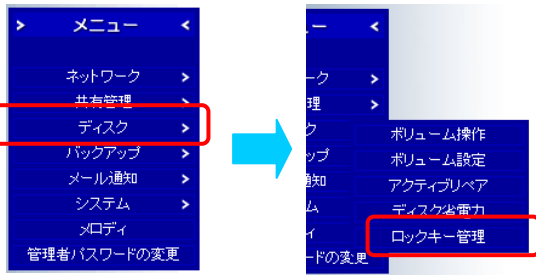
スペアキーを作成する方法を説明します。

**注意** ●弊社製 USB メモリー-ED シリーズ等、暗号化されている USB メモリーはご利用いただけません。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



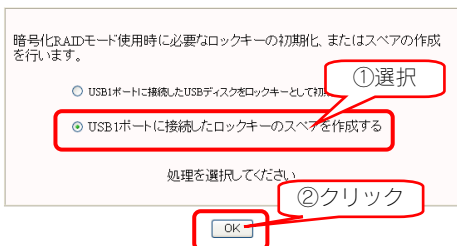
**2** [メニュー]の[ディスク] → [ロックキー管理] を順にクリックします。



**3** USB 1 ポートにロックキー（マスターキー）を接続します。  
[STATUS]ランプが緑点滅します。

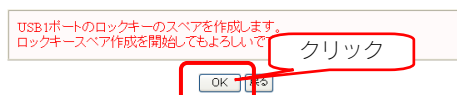
**4** [STATUS]ランプが緑点滅から緑点灯に変わったら、「USB1 ポートに接続したロックキーのスペアを作成する」を選択し、[OK]をクリックします。

## ■ ロックキー管理



**5** [OK]をクリックします。

## ■ ロックキー管理



**6** 「きらきら星」の音楽がなり始めたらロックキーを抜きます。

**7** 「きらきら星」の音楽がとまったらスペアとする初期化済み USB メモリーを USB1 ポートに接続します。

**8** ブザー音となり、STATUS ランプが緑点灯したらスペアキーの作成は完了です。

USB ポート 1 に接続した USB ディスクはスペアキーとして使用できます。

# 暗号化ボリュームを解除する

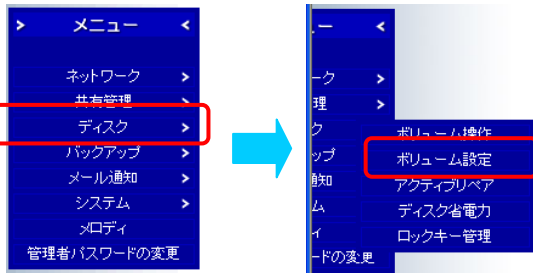
暗号化ボリュームを解除し、一般の RAID ボリュームに戻すには以下の操作を行います。

**注意** ●暗号化ボリュームを一般の RAID ボリュームに戻すと、暗号化ボリュームに保存されていた全てのデータが消失します。重要なファイルが保存されていないことを確認の上、操作してください。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の [ディスク] → [ボリューム設定] を順にクリックします。



**3** [内蔵ボリューム]での [動作モードの選択] で暗号化機能のない RAID モードにチェック後、[変更] ボタンをクリックします。

## ボリューム設定



●選択するモード

RAID0
RAID1+0
RAID5

# キー情報を消去する

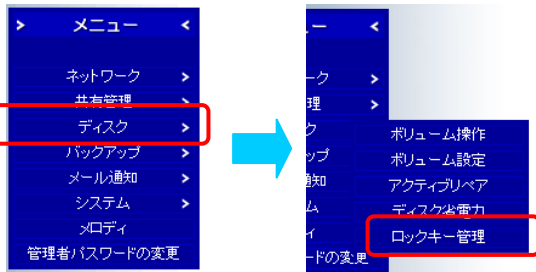
キー情報の記録された USB ロックキーからキー情報を消去し、一般の USB メモリーに戻すためには、以下の操作を行います。

**1** 本製品前面の USB ポート 1 に初期化したい USB メモリーを挿入します。

**2** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

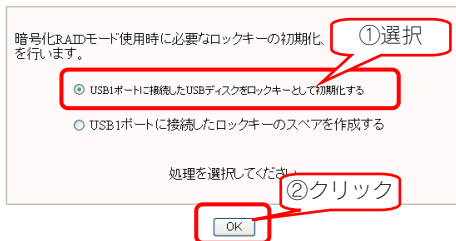


**3** [メニュー]の [ディスク] → [ロックキー管理] を順にクリックします。



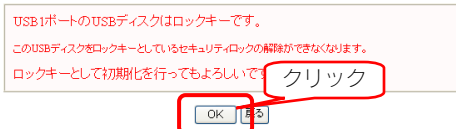
**4** 「USB1 ポートに接続した USB メモリーをロックキーとして初期化する」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

## ■ ロックキー管理



**5** 確認画面が表示されますので[OK]ボタンをクリックします。

## ■ ロックキー管理



以上で鍵情報の消去は完了しました。



●重要な鍵情報が保存された USB メモリーは市販のデータ消去ソフトを利用してデータ消去を行うとより確実に鍵情報を消去することができます。

●一般の USB メモリーとしてご利用になる場合は、Windows などから USB メモリーを初期化（フォーマット）してご利用ください。

# 操作編

# 共有フォルダを使う



# 共有フォルダの アクセス権

本製品の設定画面上で作成できる「共有」（アクセス権限）には以下の3つ（全共有、ユーザ共有、グループ共有）の種類があります。

## 全共有 全てのユーザに許可

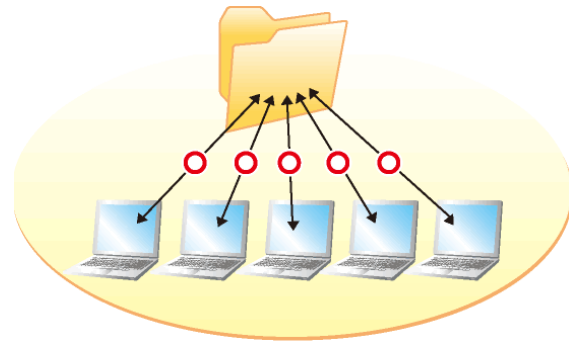
ネットワークに接続されている全てのパソコンから自由にファイルの読み書きができる共有です。

ネットワークにログイン時のユーザ名やパスワードに関係なく、そのままアクセスできますので、ユーザ管理やグループ管理を行う必要がありません。

本製品に初期設定で登録されている「disk1」フォルダも全共有のフォルダになります。

有効にできる共有サービス：

- Microsoft ネットワークファイル共有
- AppleShare ネットワークファイル共有
- Anonymous FTP を許可
- User FTP を許可



## ユーザ共有 指定ユーザのみ許可

特定の単一ユーザのみが読み書きできる共有です。

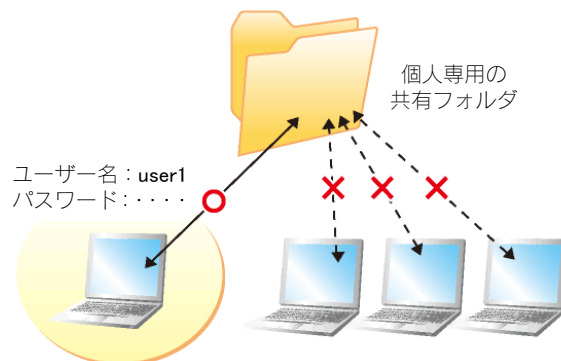
この共有にアクセスするためには、ネットワークにログイン時に特定ユーザのユーザ名、パスワードの入力が必要です。

特定のユーザ以外でも共有フォルダの存在を知ることができますが、中に入ってファイルを見たり、ファイルやフォルダを作成することはできません。

本製品でこの共有を作成するためには、まず本製品にユーザ登録が必要です。

有効にできる共有サービス：

- Microsoft ネットワークファイル共有
- AppleShare ネットワークファイル共有
- Anonymous FTP を許可
- User FTP を許可



## グループ共有 指定グループのみ許可

特定の単一グループのみが読み書きできる共有です。

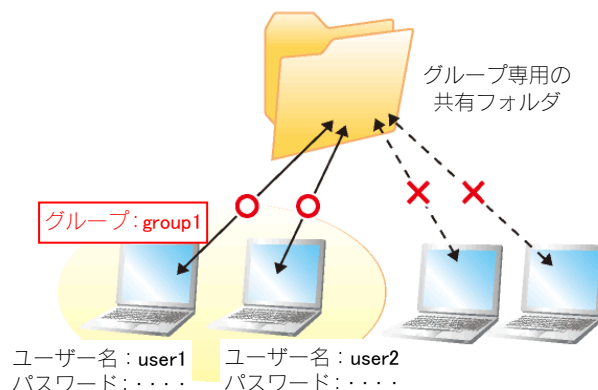
この共有にアクセスするためには、ネットワークにログイン時に特定ユーザのユーザ名、パスワードの入力が必要です。

特定のグループに登録されているユーザ以外でも共有フォルダの存在を知ることができますが、中に入ってファイルを見たり、ファイルやフォルダを作成することはできません。

本製品でこの共有を作成するためには、まず本製品にユーザ登録、次にグループ登録が必要です。

有効にできる共有サービス：

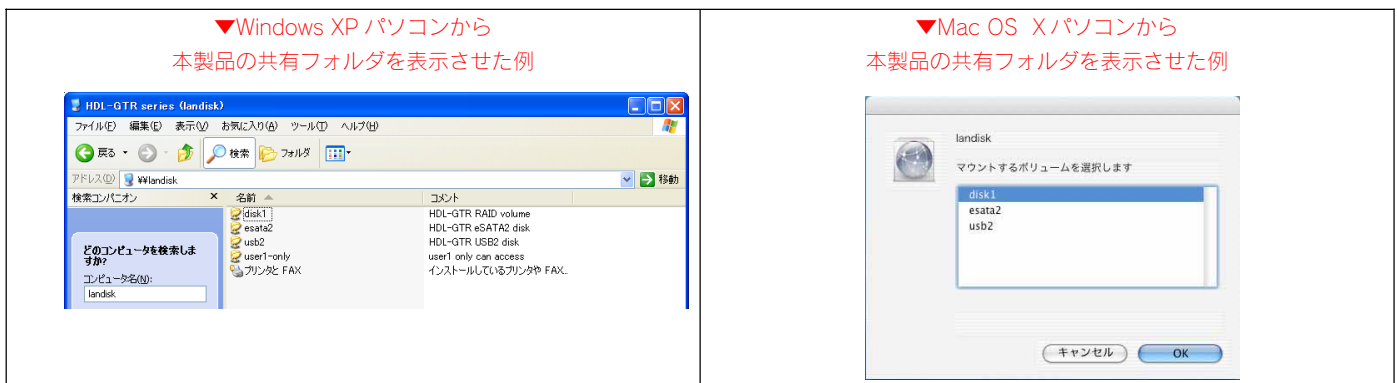
- Microsoft ネットワークファイル共有
- AppleShare ネットワークファイル共有
- Anonymous FTP を許可
- User FTP を許可



# ネットワーク上での 本製品の表示

本製品や本製品に接続した増設ハードディスクへのファイルの読み書き（アクセス）は、ネットワーク上から行います。ネットワーク上から本製品に作成した、あるいは作成されている共有フォルダを通して、ネットワーク上の複数台のパソコンでファイルを共有することができます。

以下は、ネットワーク上から本製品にアクセスした場合に表示されている共有フォルダの例です。



共有フォルダ名	説明
disk1	本製品出荷時にすでに作成されている内蔵ハードディスクの共有フォルダです。 アクセス権限は「全てのユーザに許可」として作成されているため、すべてのユーザからアクセスできます。
esata2	本製品の [eSATA ポート 2] に接続した eSATA ハードディスクです。 FAT あるいは NTFS 形式の場合は、接続すれば、この共有フォルダが表示されます。 ※eSATA ハードディスクを [eSATA ポート 1] に接続した場合は、[esata1] と表示されます。  増設ハードディスクの使い方については、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【ハードディスクやプリンタを増設する】(76ページ)</a>
usb2	本製品の [USB ポート 2] に接続した USB ハードディスクです。 FAT あるいは NTFS 形式の場合は、接続すれば、この共有フォルダが表示されます。 ※USB ハードディスクを [USB ポート 1] に接続した場合は、[usb1] と表示されます。  増設ハードディスクの使い方については、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【ハードディスクやプリンタを増設する】(76ページ)</a>
user1-only	本製品の設定画面（[共有フォルダ管理] 画面）から新規で作成した共有フォルダの例です。 アクセス権限を「指定ユーザのみ許可」として作成した共有フォルダで、共有フォルダ作成時に指定したユーザのみからアクセスできます。 共有フォルダの作成方法については、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【共有フォルダを作成する】(60ページ)</a>
プリンタと FAX (プリンタ)	OS 標準のアイコンです。Windows XP/2000 のみ表示されます。(Windows 2000 の場合は、「プリンタ」と表示されます) 削除することはできません。

# [ごみ箱]フォルダについて

ごみ箱機能が有効となっている共有フォルダからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、一旦 [ごみ箱] フォルダに保管されます。

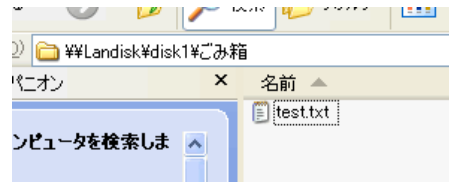
ごみ箱機能は、初期設定で無効となっています。

(設定は、[共有設定] → [共有フォルダ] 画面で行います。新しく [ごみ箱機能] を有効・無効にする共有フォルダを作成したり、すでに作成済みの共有フォルダに [ごみ箱機能] を有効・無効に設定することもできます。)

新規で [ごみ箱機能] を有効にする共有フォルダを作成する場合	→	<a href="#">【共有フォルダを作成する】 (60ページ)</a>
すでに作成済みの共有フォルダに [ごみ箱機能] を有効・無効にする場合	→	<a href="#">【共有フォルダの設定を変更する】 (67ページ)</a>
[ごみ箱] フォルダからファイルを戻す手順	→	<a href="#">【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】 (66ページ)</a>

## ▼ [disk1] フォルダの [ごみ箱機能] が有効にされている例

( [disk1] フォルダ下のファイルを消去すると [ごみ箱] フォルダが自動で作成されます )



● Windows (MS ネットワーク ファイル共有) でのみ利用できます。

● [ごみ箱] フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [ごみ箱] フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に [ごみ箱] フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。

● [ごみ箱] フォルダ内のファイルを削除すると、該当ファイルはハードディスクから完全に消去されますのでご注意ください。

● [ごみ箱] フォルダは、ファイルを消去してはじめて表示されます。

● ご利用のアプリケーションによっては、その動作中にファイル作成→削除を繰り返すものがあります。知らない内に [ごみ箱] フォルダにファイルが大量に存在している場合がありますので、定期的に [ごみ箱] フォルダ内を確認することをおすすめします。

# 共有フォルダを作成する

## ユーザを登録する

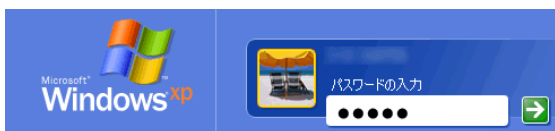
### STEP1 アクセスユーザを確認する

特定のユーザのみがアクセスできる共有フォルダを作成する場合は、そのユーザのネットワークにログオン時の【ユーザ名】と【パスワード】を確認しておく必要があります。（確認した【ユーザ名】と【パスワード】を、後で設定画面に登録します。）

1 作成する共有フォルダにアクセスさせるユーザのネットワークにログオン時の【ユーザ名】と【パスワード】を確認し、メモします。

この【ユーザ名】と【パスワード】を後で本製品の設定画面に登録します。

▼Windows XPでのネットワークログオン時の【ユーザ名】と【パスワード】



注意

【ユーザ名】【パスワード】を後で設定画面で登録しますが、設定できる文字には、以下の制限があります。以下の個所を参照してください。

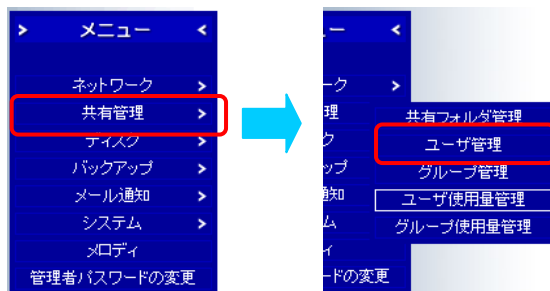
### STEP2 本製品にユーザを登録する

メモした【ユーザ名】と【パスワード】を、本製品の設定画面でユーザとして登録します。

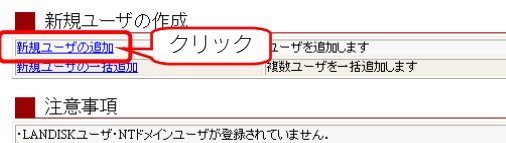
1 本製品の設定画面の【メニュー】をクリックします。



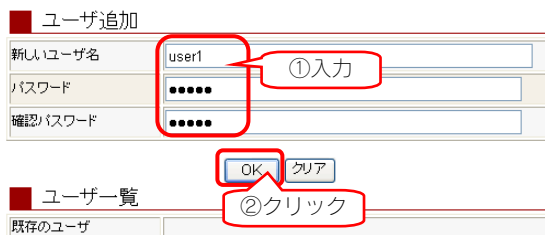
2 【メニュー】の【共有管理】→【ユーザ管理】順にクリックします。



3 【新規ユーザの追加】をクリックします。

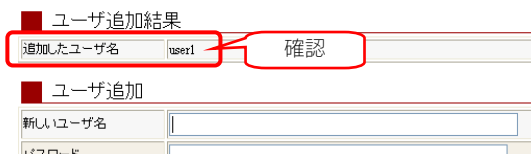


4 左のSTEP1の手順でメモした【ユーザ名】を【新しいユーザ名】欄に入力します。メモした【パスワード】を、【パスワード】、【確認パスワード】欄に入力後、【OK】ボタンをクリックします。



5 【ユーザ追加結果】の画面が表示されます。ユーザが追加されていることをご確認ください。

これで、ユーザ：user1が本製品に登録されました。



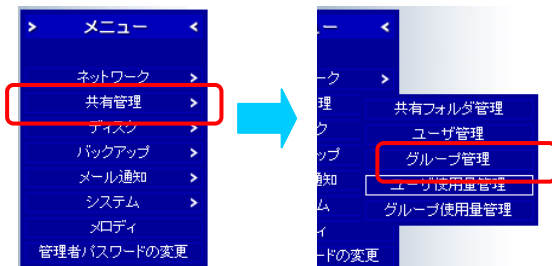
以上でユーザの登録は終了です。

# グループを登録する

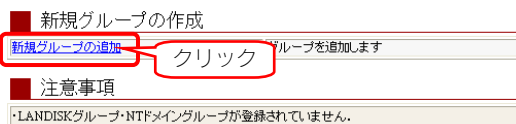
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の [共有管理] → [グループ管理] 順にクリックします。

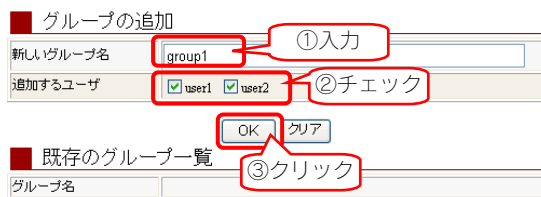


**3** [新規グループの追加]をクリックします。



**4** [新しいグループ名] にグループ名を入力後、 [追加するユーザー] でグループに追加するユーザーにチェックし、 [OK] ボタンをクリックします。  
※ [新しいグループ名]として使用できる文字については、以下の【注意】をご覧ください。

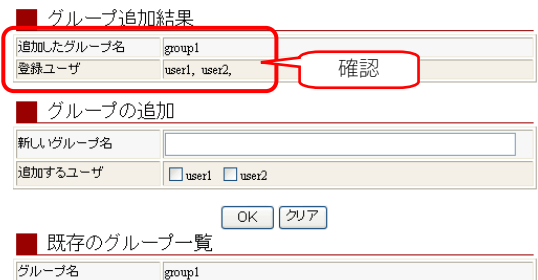
▼以下は、"group1"というグループを登録する場合の例です。



- 注意**
- ユーザー名とグループ名には同一の名称は使用できません。(グループ名と共有フォルダ名には同一の名称が使用できます。)
  - 1 グループに登録可能なユーザーは 300 ユーザーまでとなります。
  - その他、グループ名で使用できる文字には、制限があります。以下の個所を参照してください。  
【文字制限一覧】 (202ページ)

**5** [グループ追加結果] の画面が表示されます。グループが追加されていることをご確認ください。

これで、グループ : group1 が本製品に登録されました。



以上でグループの登録は終了です。

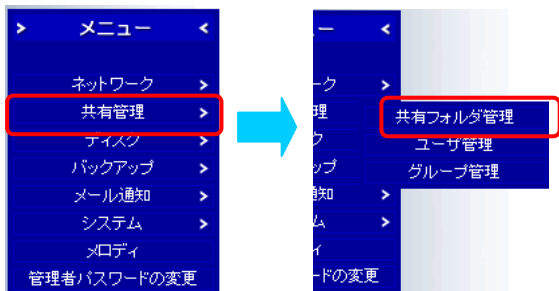
# 共有フォルダを作成する

共有フォルダを作成します。  
以下の例は、「指定ユーザ」用の共有フォルダを作成する例です。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の [共有管理] → [共有フォルダ管理] を順にクリックします。



**3** [新規共有フォルダの追加]をクリックします。

■ 新規共有フォルダの作成

新規共有フォルダの追加 **クリック** 共有フォルダを追加します

■ 共有フォルダ一覧

共有フォルダ名	操作	コメント	サービス
内蔵ボリューム1の共有			
disk1	詳細 変更 削除	HDL-GT RAID volume	Win Mac
eSATA ボリューム1の共有			
esata1	詳細 変更 削除	HDL-GT eSATA1 disk	Win Mac
eSATA ボリューム2の共有			
esata2	詳細 変更 削除	HDL-GT eSATA2 disk	Win Mac
USB ボリューム2の共有			
usb2	詳細 変更 削除	HDL-GT USB2 disk	Win Mac

**4** 作成する共有フォルダを設定します。  
(設定項目の詳細な説明については、次ページを参照)

※以下は、「user1-only」という共有フォルダを作成する場合の例です。

■ 新規共有フォルダの追加

共有フォルダ名 user1-only

共有フォルダのコメント user1 only can access  
※「共有のコメント」は、Windowsの共有のみ有効となります。

共有フォルダの作成先 内蔵ボリューム1  
※ 専用ファイルシステムされたディスクのみ選択できます。

アクセス権の選択  
 全てのユーザに許可  
 指定ユーザのみ許可  
 user1  
 指定グループのみ許可  
 group1  
このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く)

サービスの選択  
 Microsoftネットワークファイル共有  
 AppleShareネットワークファイル共有  
 Anonymous FTPを許可  
 User FTPを許可

ごみ箱機能  
 有効  無効  
 ※ ごみ箱機能は、Windowsの共有のみ利用可能です。

**①設定**

**OK** **クリック**

**5** [結果]の画面が表示されます。  
設定した内容をご確認ください。  
これで、ユーザ：user1 専用の共有フォルダが作成されました。

■ 結果

■ 共有フォルダの設定情報

共有フォルダ名	user1-only
コメント	user1 only can access
使用ボリューム	内蔵ボリューム1
対象ユーザ	user1 (読み書き可能)
対象サービス	Win Microsoftネットワークファイル共有 Mac AppleShareネットワークファイル共有
ごみ箱機能	無効
状態	利用可能

◆ [新規共有フォルダの追加] 画面での設定内容

項目	設定する内容	
共有フォルダ名	共有フォルダの名前を入力します。 この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク] や [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。	
共有フォルダのコメント	Windows 用です。 ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。	
共有フォルダの作成先	共有フォルダを作成するハードディスクを選択します。 <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <b>注意</b> FAT/NTFS 形式の増設ハードディスクに、新規に共有フォルダを作成することはできません。（ドライブ全体がひとつの共有として認識されます。）</div>	
アクセス権の選択	この共有フォルダにアクセスできるユーザやグループを選択します。 ここでは、[指定ユーザのみ許可] を選択し、ユーザ（画面例では本製品に登録した「user1」）を選択します。	
サービスの選択	共有フォルダのサービスを選択します。 目的に応じて [Microsoft ネットワーク ファイル共有] と [AppleShare ネットワーク ファイル共有] のどちらかあるいは両方を選択します。	
	Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	AppleShare ネットワーク ファイル共有	Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	Anonymaous FTP を許可	このアクセス権限では指定できません。
	User FTP を許可	User FTP をご利用する場合はこちらをチェックします。 FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。アクセス権が [指定ユーザのみ許可] の時のみ選択できます。 →同時に登録できる User FTP フォルダは 1 つのみとなります。User FTP 機能では FTP サービスを使ってファイルの読み書きが可能です。ファイル名が日本語の場合は、文字コード UTF-8 に対応する FTP クライアントソフトをご利用ください。
	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <b>注意</b> NT ドメイン・Active Directory ログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。</div>	
ごみ箱機能	Windows (MS ネットワーク ファイル共有) でのみ利用できます。 作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。 ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐに ファイルがなくなるわけではなく、一旦 [ごみ箱] フォルダに保管されます。 [ごみ箱] フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [ごみ箱] フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に [ごみ箱] フォルダ内のファイルを削除されることをおすすめします。 [ごみ箱] フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。 【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（66ページ）	

# 共有フォルダに アクセスする

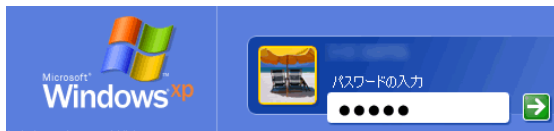
作成した共有フォルダにネットワーク上からアクセスします。

**1** ネットワークにログオンします。  
「指定ユーザ」用、あるいは、「指定グループ」用の共有フォルダにアクセスする場合は、本製品にユーザ登録したユーザ（「ユーザ名」「パスワード」）でログオンする必要があります。  
「全てのユーザ」用の共有フォルダにアクセスする場合は、ご利用のユーザのまま、ネットワークにログオンします。

▼「指定ユーザ」用、あるいは、「指定グループ」の共有フォルダにアクセスする場合（Windows Vista®の場合）

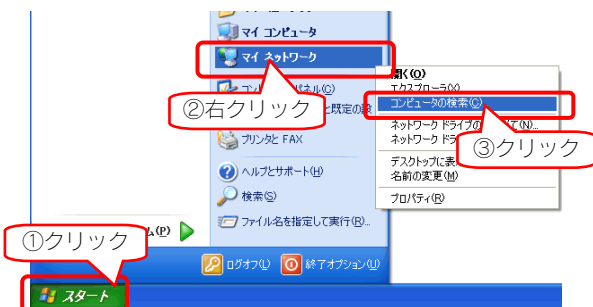


▼「指定ユーザ」用、あるいは、「指定グループ」の共有フォルダにアクセスする場合（Windows XP の場合）



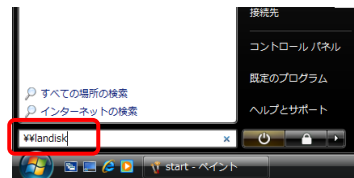
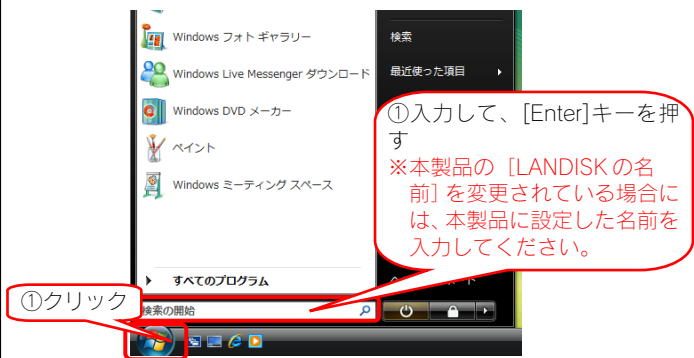
- ・共有フォルダにグループを登録した場合は、グループに登録したユーザ（ユーザ名、パスワード）でログオンします。
- ・別のユーザでログオンしている場合は、パソコンを再起動するか、ログオフして、本製品に登録したユーザ（ユーザ名、パスワード）でログオンし直してください。

**2** [スタート] → [マイネットワーク] → [コンピュータの検索] をクリックします。  
Windows Vista®の場合は、右上をご覧ください。



●Windows Vista®の場合  
[スタート] をクリックし、[検索の開始] をクリック後、「¥¥landisk」と入力し[Enter]キーを押します。  
※本製品の「LANDISK の名前」を変更した場合は、変更した名前を入力してください。

この後、**5**へお進みください。



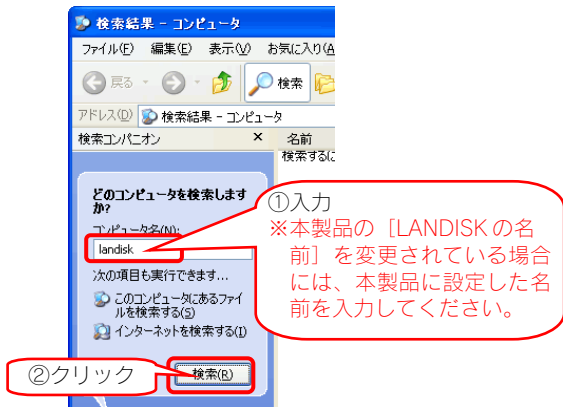
LANDISK が検索されない！

⇒以下の箇所を参照してください。

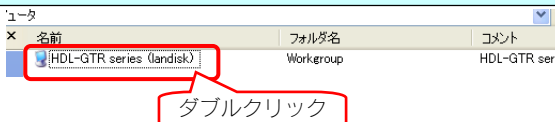
【困ったときには】の261ページ



**3** [コンピュータ名]に「landisk」と入力し、  
[検索]ボタンをクリックします。



**4** 「HDL-GTR series(Landisk)」が検索されますので、  
ダブルクリックします。  
※表示のされ方は Windows の設定により異なります。

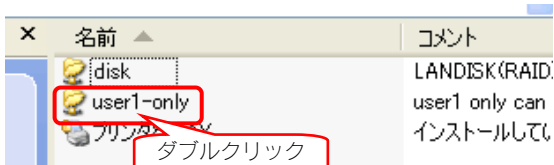


LANDISK が検索されない！

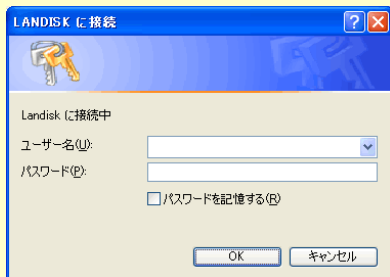
⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の261ページ

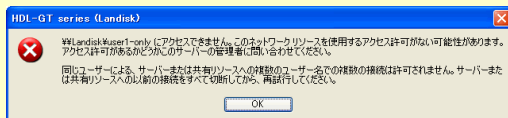
**5** 作成した共有フォルダ（以下の例では [user1-only]）が  
表示されます。  
共有フォルダ（ [user1-only] ）をダブルクリックします。



以下の画面が表示された！



または



⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の258ページ

**6** 表示された共有フォルダ内にファイルを書き込むことが  
できます。

正常に共有フォルダのウィンドウが表示されたら、  
共有フォルダとして使用できます。

# [ごみ箱]フォルダから ファイルを戻す

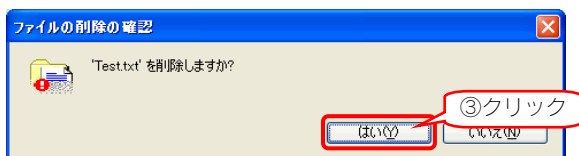
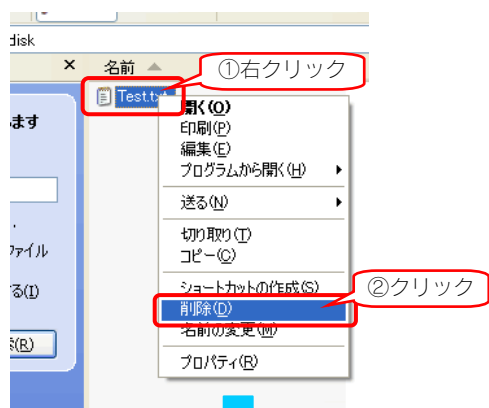
ここでは、「ごみ箱機能」を設定した [disk] フォルダからファイル (Test.txt) を削除後、[ごみ箱] フォルダから [disk] フォルダにファイル (Test.txt) を戻す手順について説明します。

※画面は Windows XP を例にしています。

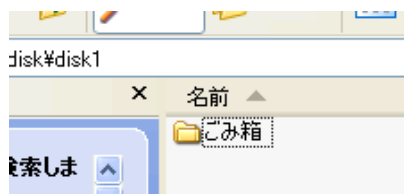
- 1** ネットワーク上から本製品の [disk1] 共有フォルダにアクセスします。



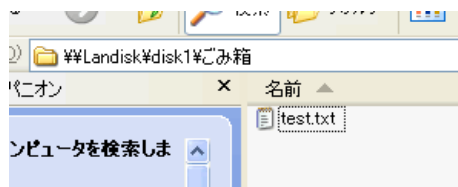
- 2** ファイルを削除します。



- 3** [disk1] フォルダからファイルが削除されると、[ごみ箱] フォルダが作成されます。  
(表示されていない場合は [F5] キーを押して更新してください。)  
[ごみ箱] フォルダをダブルクリックして、ファイルを移動 (またはコピー) します。



- 4** [ごみ箱] フォルダ内の削除したファイル (Test.txt) を [disk1] フォルダに移動 (またはコピー) します。



- 5** [disk1] フォルダにファイルを戻すことができます。



以上で「ごみ箱機能」を設定した場合の [ごみ箱] フォルダの使い方は終了です。

# 共有フォルダの設定を変更する

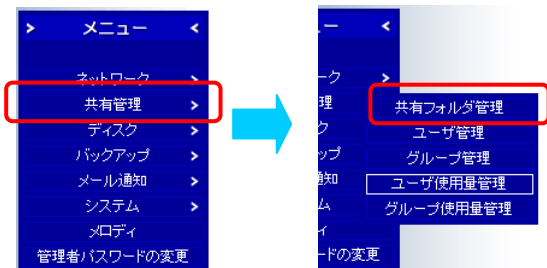
作成した共有フォルダの設定（[共有フォルダ名]、[コメント]、[アクセス権]、[サービス]）を変更することができます。

以下は、「share1」という共有フォルダのアクセス権を「全てのユーザに許可」から「指定ユーザのみ許可」に変更する例です。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の[共有管理] → [共有フォルダ管理] を順にクリックします。



**3** 設定を変更したい共有フォルダのフォルダ名横の[変更]をクリックします。



**4** 変更する項目を選択し（どれか1つのみ選択できます）、その項目の設定を変更後、[変更] ボタンをクリックします。  
(設定項目の詳細な説明については、次ページを参照)

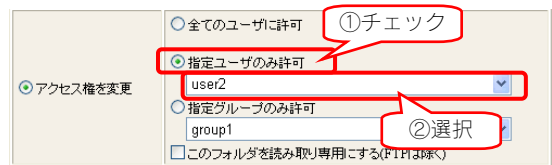
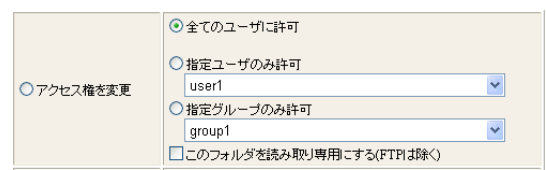


**注意** 同時に[共有フォルダ名]、[コメント]、[アクセス権]、[サービス]を変更することはできません。変更は、変更したい項目1つ1つ順に変更してください。

**5** ここからは、アクセス権の変更を例として説明します。

現在、[全てのユーザに許可]となっている設定を「user2」という[指定ユーザのみ許可]する設定に変更します。

- ① [指定ユーザのみ許可] をチェックします。
- ② [user2] を選択します。
- ③ [変更] ボタンをクリックします。



## 注意

共有の変更を開始しました。

STATUSランプの点滅が終了したら共有の変更は完了です。完了したら自動的に結果画面を表示します。

**6** [結果] の画面が表示されます。  
[対象ユーザ] が、user2 のみに変更されています。

## 結果



**7** 他の項目も変更する場合は、同様に「2」の手順から行って変更してください。

これで、共有フォルダの設定は変更されました。

◆ [共有フォルダの設定変更] 画面での設定内容

項目	設定する内容	
共有フォルダ名を変更	共有フォルダの名前を変更できます。 この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク] や [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。	
コメントを変更	Windows用です。 共有フォルダのコメントを変更できます。 ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。	
アクセス権を変更	共有フォルダにアクセスする権限（アクセス権）を変更できます。	
	全てのユーザに許可	本製品にアクセスできるすべてのユーザがアクセスできる設定です。
	指定ユーザのみ許可	本製品にユーザ登録したユーザの内、特定のユーザのみがアクセスできる設定です。
	指定グループのみ許可	本製品にグループ登録したグループの内、特定のグループのみがアクセスできる設定です。
	このフォルダを読み取り専用にする (FTP は除く)	本製品にアクセスできるすべてのユーザから読み取りのみできるようにする設定です。（書き込みを禁止します。）
<div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;">  <p>NTFS 増設ハードディスクの場合は、上記設定にかかわらず、読み取り専用となります。書き込みできる設定にすることはできません。</p> </div>		
サービスを変更	共有フォルダのサービスを変更できます。	
	Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	AppleShare ネットワーク ファイル共有	Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	Anonymous FTP を許可	Anonymous（匿名）FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。 →同時に登録できる Anonymous FTP フォルダは1つのみとなります。Anonymous FTP 機能を利用してファイルを書き込むことはできません。（読み取りのみとなります。）
	User FTP を許可	FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。共有フォルダのアクセス権がユーザ共有（単一のユーザのみがアクセスできる共有）の場合のみ指定できます。 →同時に登録できる User FTP フォルダは1つのみとなります。User FTP 機能では FTP サービスを使ってファイルの読み書きが可能です。ファイル名が日本語の場合は、文字コード UTF-8 に対応する FTP クライアントソフトをご利用ください。
<div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;">  <p>MS ドメイン・Active Directory ログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。</p> </div>		
ごみ箱機能	Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。 作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。 ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、一旦 [ごみ箱] フォルダに保管されます。 [ごみ箱] フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [ごみ箱] フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に [ごみ箱] フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。 [ごみ箱] フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。 【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（66ページ）	

# 共有フォルダを削除する

作成した共有フォルダを削除することができます。

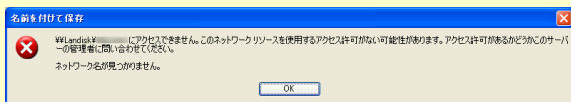


●共有フォルダを削除すると、共有フォルダの中のデータも同時に削除されます。必要なデータはあらかじめバックアップしてください。

管理者からのアクセス方法については、【管理者からの共有フォルダへのアクセス方法】(70ページ)を参照してください。

●削除しようとしている共有フォルダ内のファイルを編集などに使用している場合、削除後、以下のような保存先が見つからないなどのエラーとなります。

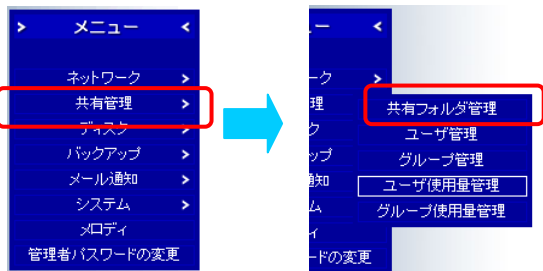
削除前に、削除する共有フォルダにアクセスしているユーザーがいないかご確認ください。



1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の[共有管理] → [共有フォルダ管理] を順にクリックします。



3 [共有フォルダ一覧]から削除する共有フォルダ名横の[削除]をクリックします。

■ 新規共有フォルダの作成

[新規共有フォルダの追加](#) 共有フォルダを追加します

■ 共有フォルダ一覧

共有フォルダ名	操作	コメント	サービス
内蔵ボリューム1の共有	詳細 変更 削除	HDL-GT RAID volume	Win Mac
share1	詳細 変更 削除	share for all user	Win Mac
user1-only	詳細 変更 削除		Win Mac
eSATA ボリューム1の共有	詳細 変更 削除	HDL-GT eSATA1 disk	Win Mac
esata1	詳細 変更 削除		Win Mac
eSATA ボリューム2の共有	詳細 変更 削除	HDL-GT eSATA2 disk	Win Mac
esata2	詳細 変更 削除		Win Mac
USB ボリューム2の共有	詳細 変更 削除	HDL-GT USB2 disk	Win Mac
usb2	詳細 変更 削除		Win Mac

Red boxes highlight the '削除' (Delete) button in the '共有管理' (Shared Management) dropdown and the '削除' (Delete) button in the table row for 'share1'. A red circle and arrow point to the '削除' button with the text 'クリック' (Click).

4 削除する共有フォルダを確認後、[OK] ボタンをクリックします。

## 共有フォルダ削除の確認

共有フォルダ「share1」を削除しようとしています。  
共有フォルダの削除を行うと、フォルダ内のデータも同時に削除されますので、必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。  
この共有を削除してもよろしいですか？



5 [結果] の画面が表示されます。

## 結果

共有フォルダ「share1」を削除しました。

これで、共有フォルダが削除されました。

# 管理者からの共有フォルダへのアクセス方法

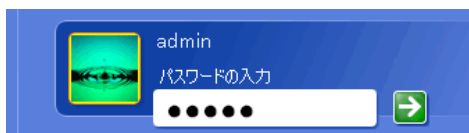
本製品の管理者は、すべての共有フォルダ（アクセス制限を設定した共有フォルダにも）にアクセスすることができます。（Windows パソコンからアクセスする場合のみ）

ネットワークにログインする際に、ユーザ名（admin）、本製品の管理者パスワード（出荷時は未設定）のユーザでログオンすれば、すべての共有フォルダにアクセスできます。

※管理者は、管理者以外の他のユーザ専用・グループ専用として作成した共有フォルダにもアクセスできます。



- [管理者以外の場合も管理者用のユーザ名（admin）パスワードが分かれば、すべての共有フォルダにアクセスできるようになります。必ず、設定画面を開く際のパスワードは変更してください。（ユーザ名 [admin] は変更することはできません。）  
【管理者パスワードを変更する】（147ページ）
- Macintosh パソコンから管理者権限で、すべての共有フォルダにアクセスすることはできません。
- 本アクセスを行う場合は本製品をワークグループモードでご利用ください。ドメインモードでは全てのユーザーにアクセスを許可した共有フォルダ以外は、アクセスできません。



## STEP1 パスワードを設定する

- 1 設定画面を開く際のパスワードを設定します。（ユーザ名 [admin] は変更することはできません。）  
以下の個所を参照してください。  
【管理者パスワードを変更する】（147ページ）  
※すでに設定済みの場合は設定の必要はありません。

## STEP2 ユーザアカウントを作成する

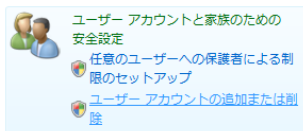
（Windows Vista®/XP/2000 のみ）

Windows Vista®/XP/2000 の場合、[step 1] でメモした [ユーザ名] と [パスワード] を、本製品の設定画面でユーザとして登録します。

- 1 Windows XP/2000 の場合は、Windows XP/2000 に以下の [ユーザ名] [パスワード] のログオンユーザを作成します。  
ユーザ名： admin  
パスワード： STEP1 の手順で設定したパスワード

### ●Windows Vista®の場合

[スタート] → [コントロールパネル] → [ユーザーアカウントと家族のための安全設定] → [ユーザーアカウントの追加または削除] で上記ユーザーアカウントを作成します。



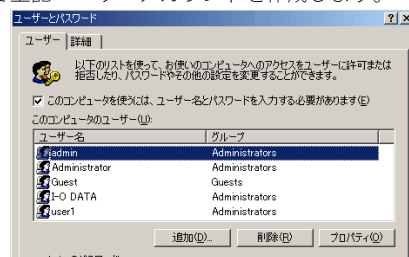
### ●Windows XP の場合

[スタート] → [コントロールパネル] → [ユーザーアカウント] で上記ユーザーアカウントを作成します。



### ●Windows 2000 の場合

[スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [ユーザーとパスワード] で上記ユーザーアカウントを作成します。



## STEP3 共有フォルダにアクセスする

それでは実際に管理者から共有フォルダにアクセスしてみましょう。  
※Macintosh パソコンからすべての共有フォルダにアクセスすることはできません。

**1** 以下の admin ユーザでネットワークにログオンします。

ユーザー名:	admin
パスワード:	STEP1 の手順で設定したパスワード

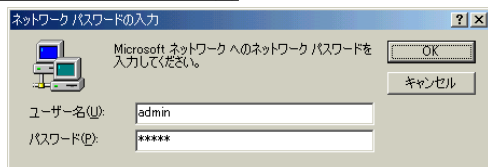
### ●Windows Vista®での例



### ●Windows XP での例



### ●Windows Me/98 での例



**2** 共有フォルダにアクセスします。  
アクセス方法は、管理者がご利用の OS により異なりますので、下記のご使用の OS の箇所へお進みください。

[【Windows Vista®から本製品にアクセスする】 \(23ページ\)](#)

[【Windows XP から本製品にアクセスする】 \(24ページ\)](#)

[【Windows 2000 から本製品にアクセスする】 \(25ページ\)](#)

[【Windows Me から本製品にアクセスする】 \(26ページ\)](#)

[【Windows 98 から本製品にアクセスする】 \(27ページ\)](#)

以上で、管理者からの共有フォルダへのアクセスは終了です。

# ハードディスク をチェックする



# ハードディスクの チェック方法

ハードディスクのチェックを定期的に行うことで、ディスクのエラー発生を早期に発見し、対処することができます。  
チェックには、アクティブリペアでのチェック、チェックディスクでのチェックの2つの方法があります。

## ●アクティブリペアを行う場合

※本製品は、ファームウェアバージョン 1.23 以降で、アクティブリペアのスケジュール実行を有効に設定しており、毎週日曜日午前 2 時 00 分よりアクティブリペアが自動的に開始されます。

[アクティブリペア]では、内蔵ハードディスクまたはミラーリングしているディスク（内蔵ハードディスク+eSATA ハードディスク）の一部に不良セクタが発見された場合、他の正常なディスクからデータを読み込んで、異常のあるディスクに書き込むことにより、ディスク不良によるデータ損失を未然に防止する機能です。[アクティブリペア]でのチェックには、以下の特徴があります。

- ・内蔵あるいはミラーリングしているディスクに何らかのエラーが発生している場合、検出あるいは修復を行うことができます。
- ・アクティブリペア中、設定画面その他の動作が遅くなる場合があります。
- ・アクティブリペア実行中は、外部からの操作等を行っていない状態でも、アクセス LED がすべて点滅した状態になります。
- ・アクティブリペア結果（正常終了やディスクエラーの状況）をメール送信できます。
- ・アクティブリペアは、バックグラウンドで処理を行うため、アクティブリペア中に本製品の他の操作を行うことができます。ただし、アクティブリペア中に [電源] ボタンで本製品の電源を切った場合、処理が中断されます。
- ・アクティブリペア実行中にスケジュールシャットダウン時刻になってもアクティブリペアが完了するまでスケジュールシャットダウンが開始されません。
- ・アクティブリペア実行中に、スケジュールバックアップ開始時間になった場合、スケジュールバックアップは開始されますが、アクティブリペアとバックアップの所要時間が長くなります。アクティブリペア時間とスケジュールバックアップが同時実行されないように設定することをおすすめします。
- ・アクティブリペアには、ネットワークからのアクセスおよびバックアップの処理がない状態で、おおよそ 10G/1 分かかります。例えば、RAID5 構成の HDL-GTR1.0 の場合、おおよそ  $750 \div 10 = 75$  分かかります。※あくまで目安の時間です。
- ・スケジュールを設定して指定した時間にアクティブリペアを実行することができます。
- ・本製品は、アクティブリペアのスケジュール実行を有効に設定しており、毎週日曜日午前 2 時 00 分よりアクティブリペアが自動的に開始されます。（ファームウェアバージョン 1.23 以降）
- ・アクティブリペアのスケジュール実行時刻に本製品の電源が OFF の場合、アクティブリペアのスケジュール実行は行われませんので、スケジュール実行時刻には本製品を起動しておいてください。



- [アクティブリペア]でチェックできるハードディスクは、RAID5、RAID1+0、Encrypted RAID5、Encrypted RAID1+0、のいずれかのモードで動作中の以下のハードディスクのみです。（RAID0 モードのハードディスクの不良セクタの修復は行えません。）
  - ・内蔵ハードディスク
  - ・ミラーリングしているディスク（内蔵ハードディスク+eSATA ハードディスク）
- RAID 崩壊モードの場合、アクティブリペアは実行できません。

## ●チェックディスクを行う場合

[チェックディスク]でのチェックには、以下の特徴があります。

- ・チェックディスクは、ボリュームを構成しているファイルシステムに論理的な障害が発生していないか検査し、修復を行います。
- ・チェックディスク中に電源を切ることはできません。完了するまでお待ちください。
- ・チェックディスク中は、本製品の他の操作を行うことができません。
- ・チェックディスクには、[エラーチェックのみを行う]と[エラーチェックと自動修復を行う]があります。  
[エラーチェックのみを行う]の場合、購入初期の正常な HDL-GTR1.0 の場合で約 2 分ほどかかります。  
[エラーチェックと自動修復を行う]の場合、購入初期の正常な HDL-GTR1.0 の場合で約 3 分ほどかかります。



- [チェックディスク]でチェックできるハードディスクは、以下のハードディスクのみです。
    - ・内蔵ハードディスク
    - ・ミラーリングしているディスク（内蔵ハードディスク+eSATA ハードディスク）
- FAT 形式や NTFS 形式の増設ハードディスクをチェックするときは、パソコンに増設ハードディスクを接続してチェックディスクを行ってください。  
方法は、OS 側のヘルプ等をご確認ください。

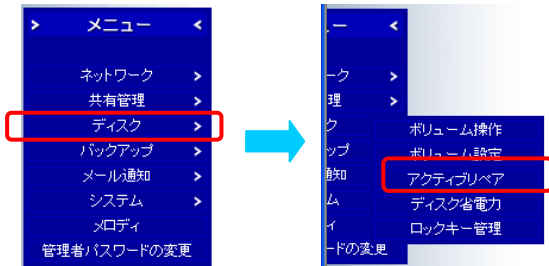
# [アクティブリペア]で チェックする

ここでは、[アクティブリペア]でハードディスクの状態をチェックする方法について説明します。

- 1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



- 2 [メニュー]の[ディスク] → [アクティブリペア]を順にクリックします。



- 3 [アクティブリペア機能]欄の[開始]ボタンをクリックします。  
→アクティブリペアを開始します。

## ■ アクティブリペア設定

現在の状態	アクティブリペアは実行していません
最終実行時刻	
アクティブリペア機能	<input type="button" value="開始"/> <input type="button" value="クリック"/>
<small>アクティブリペア機能を開始すると、内蔵ディスクの不良セクタの検出、および自動修復を行います。アクティブリペア機能で不良セクタが検出された場合、必要なデータのバックアップを行うことを推奨します。また、自動修復に失敗した場合でも、フォーマットを行うとエラーの回復を試みることができます。 <a href="#">ディスクエラーのメール通知</a>を設定すると、アクティブリペアの開始/終了時にメール通知を行います。</small>	

## ■ アクティブリペアのスケジュール実行

スケジュール実行機能	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
曜日指定	<input checked="" type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土
時刻指定	2 時 0 分
<small>スケジュール実行機能を設定しておく、指定した時間にアクティブリペアを実行します。ディスク故障の早期発見に役立ちます。</small>	

OK



- アクティブリペア中にも本製品の他の操作を行うことができます。

アクティブリペアは、バックグラウンドで処理を行うため、アクティブリペア中に本製品の他の操作を行うことができますが、設定画面その他の動作が遅くなる場合があります。また、アクティブリペア中に[電源]ボタンで本製品の電源を切った場合、処理が中断されます。

- アクティブリペアには、ネットワークからのアクセスおよびバックアップの処理がない状態で、おおよそ 10G/1 分かかります。

例えば、RAID5 構成の HDL-GTR1.0 の場合、おおよそ  $750 \div 10 = 75$  分かかります。

※あくまで目安の時間です。

- 異常があった場合は、システムログやログメールを参照してください。

- 4 [結果]の画面が表示されます。

## ■ 結果

アクティブリペアを開始しました。

再度、[アクティブリペア]の画面を開くと、[現在の状態]に「アクティブリペア実行中」と表示され、現在の進行状態のパーセント状態を確認できます。

## ■ アクティブリペア設定

### ■ アクティブリペア

現在の状態	アクティブリペア実行中 17% 完了
最終実行時刻	2006年8月14日 11:02:25に開始
アクティブリペア機能	<input type="button" value="開始"/> <input type="button" value="停止"/>
<small>アクティブリペア機能を開始すると、内蔵ボリューム1の不良セクタの検出、および自動修復を行います。アクティブリペア機能で不良セクタが検出された場合、必要なデータのバックアップを行うことを推奨します。また、自動修復に失敗した場合でも、内蔵ボリューム1のフォーマットを行うとエラーの回復を試みることができます。 <a href="#">ディスクエラーのメール通知</a>を設定すると、不良セクタの検出、および自動修復時にメール通知を行います。</small>	

■ アクティブリペアのスケジュール実行

- 5 [アクティブリペア]終了後、アクティブリペアが正常終了すると、「エラーは発見されませんでした」と表示されます。

## ■ アクティブリペア設定

### ■ アクティブリペア

現在の状態	エラーは発見されませんでした
最終実行時刻	2006年8月14日 11:03:56に終了
アクティブリペア機能	<input type="button" value="開始"/> <input type="button" value="停止"/>
<small>アクティブリペア機能を開始すると、内蔵ボリューム1の不良セクタの検出、および自動修復を行います。アクティブリペア機能で不良セクタが検出された場合、必要なデータのバックアップを行うことを推奨します。</small>	

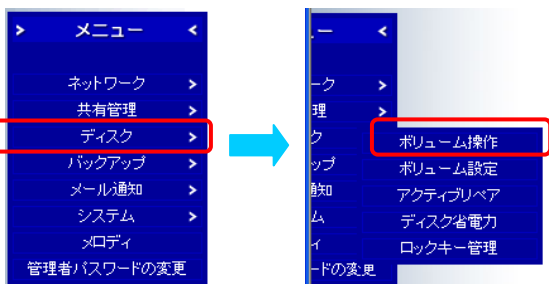
# [チェックディスク]で チェックする

ここでは、[チェックディスク]でのハードディスクの状態をチェックする方法について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



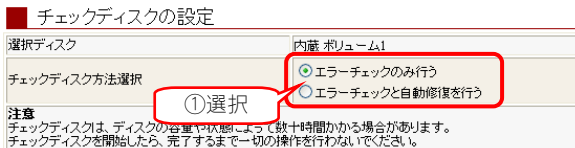
**2** [メニュー]の[ディスク] → [ボリューム操作]を順にクリックします。



**3** チェックするハードディスク横の[操作]欄で、[チェックディスク]を選択後、[実行]ボタンをクリックします。



**4** [チェックディスク方法選択]欄でチェック方法を選択後、[OK]ボタンをクリックします。  
→チェックディスクを開始します。



## 注意

チェックディスクを開始しました。

STATUSランプの点滅が終了したらチェックディスクは完了です。  
完了したら自動的に結果画面を表示します。  
チェックディスクが完了するまで一切の操作を行わないでください。

## ▼チェックディスク方法選択

エラーチェックのみ行う	<p>ファイルシステムのチェックのみを行います。異常が無い場合は早くチェックが終わります。</p> <p>※本製品の内蔵ハードディスクの場合、本製品の状態および容量により異なりますが、購入初期の正常なHDL-GTR1.0の場合で約2分ほどかかります。(時間は、保存されているファイル数、容量によって大きく変動します。)</p>
エラーチェックと自動修復を行う	<p>ファイルシステムのチェックとハードディスクの論理的なチェックと自動修復を行います。</p> <p>※本製品の内蔵ハードディスクの場合、状態および容量により異なりますが、購入初期の正常なHDL-GTR1.0の場合で約3分ほどかかります。(時間は、保存されているファイル数、容量によって大きく変動します。)</p>

**注意**

- チェックディスクを中断することはできません。チェックディスク中に電源を切るなどして中断しないでください。システムが破損する恐れがあります。
- FAT/NTFSでフォーマットされているハードディスクは選択できません。  
(直接パソコンに接続し、Windows上などでエラーチェックを行ってください。)

**5** [結果]の画面が表示されます。

## 結果

チェックディスクが終了しました。  
特に異常な箇所は見つかりませんでした。

以上でハードディスクのチェックは終了です。

# ハードディスクや プリンタを増設する

# 増設できる機器 (ハードディスクとプリンタ)



増設ハードディスク (eSATAハードディスク) で、HDL-GTR シリーズ本体とミラーリングを構築してご利用になる場合は、以下の個所を参照してください。  
【ミラーリングする】 (121ページ)

## ●USB ポートに増設できるハードディスクについて

本製品に USB ポートに増設できるハードディスクは、以下のハードディスクです。

本製品の USB ポートに、LANDISK シリーズ (HDL シリーズ、HDL-F シリーズ、HDL-W シリーズ、HDL-G シリーズ、HDL-GW シリーズ、HDL-GZ シリーズ、HDL-GX、HDL-GT シリーズ、HDL-GTR シリーズ、HDL-AV シリーズ) を接続することはできません。

※最新の対応機器については、[弊社ホームページ \(http://www.iodata.jp/\)](http://www.iodata.jp/)をご覧ください。

本製品の USB ポートで使用できる動作確認済みのハードディスク		
・ HDZ-UE シリーズ ・ HDW-UE シリーズ ・ HDW-UES シリーズ ・ HDX-UE シリーズ ・ HDA-iU シリーズ ・ HDOT-U シリーズ ・ HDOT-UE シリーズ	・ HDH-U シリーズ ・ HDH-UL シリーズ ・ HDH-UEH シリーズ ・ HDH-US シリーズ ・ HDH-USR シリーズ ・ HDA-iUM シリーズ ・ HDPX-U シリーズ	・ HDPX-SU シリーズ ・ HDC-U シリーズ ・ HDC-UX シリーズ ・ HDH-SU シリーズ ・ RHD-UX シリーズ ・ RHD2-U シリーズ ・ USB2-iVDR シリーズ

※iSPIS 対応ハードディスクを本製品でご利用いただく場合、iSPIS 機能は使用できません。

※バスパワーモードのハードディスクは、使用できません。

ハードディスクはセルフパワーモードでご利用ください。

※HDOT-U シリーズ、HDOT-UE シリーズのワンタッチボタンは利用できません。

※本製品には、2TB (2,199,023,255,040byte) より大きいディスク容量のハードディスクは接続できません。

※本製品には、パーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT) のハードディスクは接続できません。

## ●eSATA ポートに増設できるハードディスクについて

本製品に eSATA ポートに増設できるハードディスクは、以下のハードディスクです。

※最新の対応機器については、[弊社ホームページ \(http://www.iodata.jp/\)](http://www.iodata.jp/)をご覧ください。

本製品の eSATA ポートで使用できる動作確認済みのハードディスク	
・ HDC-UX シリーズ	・ RHD-UX シリーズ

※本製品には、2TB (2,199,023,255,040byte) より大きいディスク容量のハードディスクは接続できません。

※本製品には、パーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT) のハードディスクは接続できません。

## ●USB ポートに増設できるプリンタについて

動作確認済みプリンタについては、[弊社ホームページ \(http://www.iodata.jp/\)](http://www.iodata.jp/) の製品情報をご覧ください。

※プリンタは、背面の [USB ポート 2] にのみ接続できます。

※プリンタの双方向機能 (インク残量確認など) には対応していません。

※複合機 (プリンタ以外にスキャナ機能やリーダライタ機能を有するもの) をお使いの場合、本製品ではプリンタ機能にのみ対応します。

# 増設ハードディスクのフォーマット形式と使い方

増設するハードディスクのフォーマット形式によって使い方に制限があります。

	対応フォーマット ※1	
	FAT ※2	NTFS ※3
本製品での対応	○ (読み書き可)	△ (読み込みのみ可) ※書き込み不可
パソコンに接続した場合	○ (読み書き可)	○ (読み書き可)
主な用途	・ 本製品の容量増設用 ・ データバックアップ用	データ参照用
本製品からの取り外し	○ (取り外し可)	
ネットワーク上からのファイルの読み書き	○ (読み書き可)	△ (読み込みのみ可) ※書き込み不可
共有フォルダの作成	× ※本製品に接続後、初期状態で以下の共有フォルダが作成されます。 ・ USB ポート 1 に接続したハードディスク → 「usb1」 ・ USB ポート 2 に接続したハードディスク → 「usb2」 ・ eSATA ポート 1 に接続したハードディスク → 「esata1」 ・ eSATA ポート 2 に接続したハードディスク → 「esata2」	
ユーザ・グループ別アクセス制限	○	

※1 OS により、ネットワーク上で扱えるファイルサイズには制限があります。  
以下の個所を参照してください。

[【各 OS で使用できるファイルサイズについて】 \(198ページ\)](#)

※2 本製品で FAT32 にフォーマットする場合は以下の個所をご覧ください。

[【増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする】 \(87ページ\)](#)

オプション品の「RHD シリーズ」をパソコンでフォーマットする際は、別売の SerialATA 対応 5 インチベイ用内蔵ユニット [RHD-IN/SA] をご用意ください。

※3 NTFS でフォーマットする場合は、ハードディスクをパソコンに接続し、パソコン上からフォーマットしてください。  
(方法については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。)

なお、[RHD シリーズ] を NTFS でフォーマットするには、別売の SerialATA 対応 5 インチベイ用内蔵ユニット [RHD-IN/SA] を使用し、Windows パソコンからフォーマットしてください。

ただし、Macintosh から、NTFS 形式でフォーマットされた増設ディスクを共有フォルダとして利用することはできません。

※4 本製品には、パーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT) のハードディスクは接続できません。

# 増設ハードディスクの 接続と取り外しに関する注意

## ●接続時

---

- ・本製品の USB ポート（1、2）や eSATA ポート（1、2）には、対応の機器以外の機器は接続しないでください。（USB ハブや SATA ポートマルチプライヤーも接続できません。最新の対応 USB 機器および eSATA 機器は、[弊社ホームページ \(http://www.iodata.jp/\)](http://www.iodata.jp/)をご覧ください。）
- ・本製品の USB ポートに増設できる USB 機器については、[【増設できる USB 機器】（195ページ）](#) もご覧ください。
- ・本製品の eSATA ポートに増設できる eSATA 機器については、[【増設できる eSATA 機器】（196ページ）](#) もご覧ください。
- ・バスパワーで動作する弊社製 EasyDisk などの USB メモリーは、前面の [USB ポート 1] にもみ接続できます。
- ・バスパワーで動作するハードディスクは使用できません。必ずセルフパワーで接続してご利用ください。
- ・FAT/NTFS 形式の増設ハードディスクは、そのまま接続すれば使用できます。  
本製品に接続後、本製品で FAT32 形式にフォーマットすることもできます。  
NTFS でフォーマットする場合は、Windows Vista®/XP/2000 のパソコンに直接接続してフォーマットしてください。
- ・NTFS でフォーマットされたハードディスクは、読み込みのみ可能です。
- ・[USB ポート 1] の出荷時の動作モードは、[クイックコピー] 用となっています。
- ・増設ハードディスクで HDL-GTR シリーズ本体とミラーリングを行う場合は、[eSATA ポート 1] を使用する必要があります。
- ・弊社製 HDC-UX シリーズの接続ケーブルを切り替える場合は、一度、HDC-UX シリーズの電源ケーブルを抜いてください。
- ・FAT/NTFS 以外の増設ハードディスク（未フォーマット、あるいは、Macintosh でフォーマットしたハードディスクなど）を本製品に接続すると、[STATUS] ランプが赤く点滅し、ブザーが鳴ります。Windows パソコンでフォーマットするか、本製品に接続後、フォーマットを行ってください。ただし、増設ハードディスク内のデータはすべて消去されます。

## ●取り外し時

---

- ・ファイルコピー中に、USB ポートに接続した機器の接続や取り外しをしたり、本製品やハードディスクの電源を切らないでください。コピーの処理が正常に行われません。
- ・取り外し時は、必ず [ディスクの取り外し] 操作を行ってください。  
以下の個所を参照してください。  
[【増設ハードディスクを取り外す】（85ページ）](#)

# プリンタ使用時の注意

本製品でご利用になる場合は、以下にご注意ください。

- プリンタは本製品の **USB ポート 2** でのみご利用になれます。  
他の USB ポートにプリンタを接続してもご利用いただけません。
  - プリンタの電源は、本製品の電源の ON/OFF に関係なく、プリンタの電源を ON/OFF することができます。  
(本製品は、プリンタのホットプラグに対応しています。)  
ただし、プリンタの電源を ON にした後、印刷可能となるまでにしばらく時間がかかる場合があります。
  - 本製品に接続したプリンタは、本製品の電源が入っている状態でも取り外すことができます。  
プリンタを使用していないことを確認後、本製品から USB ケーブルを取り外してください。
  - Windows パソコン同士のみ共有プリンタとして使用できます。  
Mac OS では使用できません。
  - 本製品でプリンタを使用するすべてのパソコンにプリンタドライバをインストールする必要があります。  
各パソコンにプリンタに添付されている CD-ROM などをご利用の上、あらかじめプリンタドライバのインストールを行ってください。(詳細はプリンタの取扱説明書を参照してください。)
  - プリンタの双方向機能には対応しておりません。
  - 複合機(プリンタ機能以外にスキャナ機能やリーダライタ機能等を有するもの)をお使いの場合、プリンタ機能にのみ対応します。
  - Microsoft Windows Printing System(WPS)専用プリンタ、プリンタメーカーが独自に採用しているプリンティングシステムのプリンタでは、その仕様上プリントサーバ機能はご利用いただけません。
  - 本製品にプリンタは 1 台のみ接続できます。プリンタを 2 台以上接続することはできません。
  - 本製品の内蔵ハードディスクに空き容量が必要です。  
本製品を通して印刷時、プリントデータを本製品の内蔵ハードディスクにスプールするため、スプールデータ用の空き容量が必要になります。  
本製品の空き容量に関しては、設定画面の【ボリューム情報】をご確認ください。  
[【情報表示】](#) → [【ボリューム情報】](#) (210ページ)
- 印刷できなかった場合は、不要なデータを削除して空き容量を増やしてください。



# USB ポート 1 (前面) の設定について

出荷時 [USB ポート 1] の動作モードは、**クイックコピー** に設定されています。

その場合、増設するハードディスクを [USB ポート 1] に接続してもそのままでは共有ディスクとして使用できません。

USB ポート 1 で増設ハードディスクを使用できるようにするためには、動作モードを **共有ディスク (FAT/NTFS)** ] に変更する必要があります。

以下は、[USB ポート 1] の動作モードを **共有ディスク (FAT/NTFS)** ] に変更する手順です。

※暗号化ボリュームを使用時は以下の設定変更を行うことはできません。

クイックコピーとは・・・

本製品前面の[COPY]ボタンの機能です。

クイックコピーでは、EasyDisk やデジカメを [USB ポート 1] に接続した後、前面の[COPY]ボタンを押せば、自動的に EasyDisk やデジカメのデータをあらかじめ指定されている本製品の共有フォルダ内にコピーすることができます。

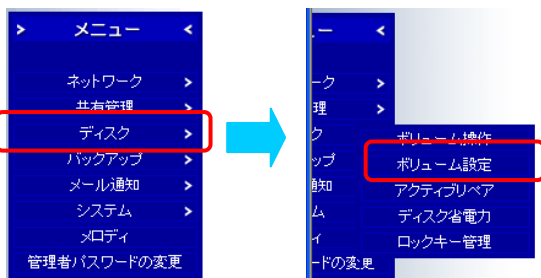
クイックコピー機能は、本製品前面の [USB ポート 1] でのみ機能します。また、USB ポート 1 の動作モードが [クイックコピー] となっている場合のみ機能します。

## USB ポート 1 を増設用に変更する

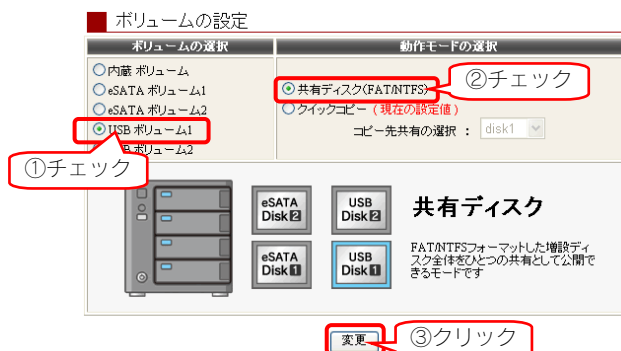
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の [ディスク] → [ボリューム設定] を順にクリックします。



**3** [USB ボリューム 1] をチェック後、[動作モードの選択] で [共有ディスク (FAT/NTFS)] にチェック後、[変更] ボタンをクリックします。



**4** [OK] ボタンをクリックします。

### ボリューム設定

USB ボリューム1の設定を変更しようとしています。  
USB ボリューム1の動作モードを共有ディスク(FAT/NTFS)に変更します。

変更してもよろしいですか

クリック [OK] [戻る]

**5** [OK] ボタンをクリックします。



**6** [結果] 画面が表示されます。

### 結果

USB ボリューム1の動作モードを共有ディスク(FAT/NTFS)に変更しました

これで、USB ポート 1 で増設ハードディスクを使用できるようになりました。

# ハードディスクを増設する

## ハードディスクを接続する

FAT32 形式や NTFS 形式のハードディスクは、接続すればそのままご利用になれます。

**注意**

●本製品の USB ポート、eSATA ポートに増設できるハードディスクは、FAT/NTFS 形式のハードディスクのみです。

●本製品に接続後、FAT32 形式でフォーマットすることもできます。

FAT32 形式以外の増設ハードディスクを FAT32 形式にフォーマットする場合は、接続後、[ボリューム操作] 画面にてフォーマットすることができます。

詳細については、以下の個所を参照してください。

[【増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする】 \(87 ページ\)](#)

●本製品に接続して NTFS 形式にフォーマットすることはできません。

NTFS 形式にフォーマットする場合は、パソコンに直接接続してフォーマットしてください。詳細については、ハードディスクの取扱説明書を参照してください。

オプション品の「RHD シリーズ」を NTFS フォーマット形式で使用する場合は、別売の「RHD-IN/SA」を使用し、Windows パソコンからフォーマットしてください。

●HDC-UX シリーズのケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、一度 HDC-UX シリーズの電源ケーブルをコンセントから抜き差ししてください。

パソコンや本製品の USB ポートでご利用になっていた HDC-UX シリーズの USB ケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、切り替える前に一度 HDC-UX シリーズの電源ケーブルの抜き差しを行ってください。

電源ケーブルの抜き差しを行わずに eSATA ケーブルに切り替えて本製品の [eSATA ポート] に接続しても、本製品に認識されない場合があります。

●Macintosh パソコンから NTFS フォーマットのハードディスクにアクセスすることはできません。

NTFS フォーマットのハードディスクを接続しても Macintosh パソコンから共有ディスクとしてご利用になることはできません。

**1** 本製品の電源が入っていることを確認します。

**注意**

●本製品の電源が入っている状態でハードディスクを接続できます。

**2**

増設ハードディスクの電源を ON にします。増設ハードディスクの電源の入れ方については、増設ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

電源連動機能ハードディスクの場合は、電源ボタン (スイッチ) を [AUTO] または [ON] にします。本製品に接続するまで増設ハードディスクの電源は入りませんが、問題ありません。

※電源連動機能については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

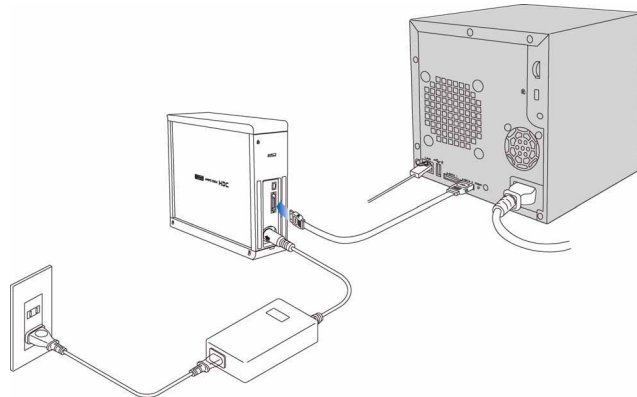
**注意**

●増設ハードディスクの電源を入れてから、本製品に接続してください。

**3**

本製品の USB ポートまたは eSATA ポートに増設用ハードディスクを接続します。

▼[eSATA ポート 2] に弊社 HDC-UX シリーズを接続する例



**注意**

●本製品の [STATUS] ランプが点滅中は、増設ハードディスクを接続しないでください。

本製品の電源が入っている状態で接続できますが、[STATUS] ランプが点滅中 (設定画面操作中) や、本製品にアクセス中 ([ACCESS] ランプが点滅中) に増設ハードディスクを接続しないでください。本製品にすでに別の増設ハードディスクを接続している場合にも、そのハードディスクのランプをご確認ください。

●ブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS] ランプが赤く点滅した場合は、ハードディスクが FAT/NTFS 形式ではありません。

以下の個所を参照して接続を確認してください。

[【ハードディスクの接続を確認する】 \(次ページ\)](#)

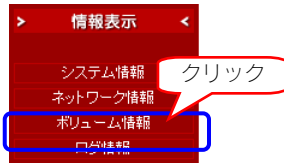
# ハードディスクの接続を確認する

正しく FAT32 あるいは NTFS ハードディスクが接続できているかを確認します。

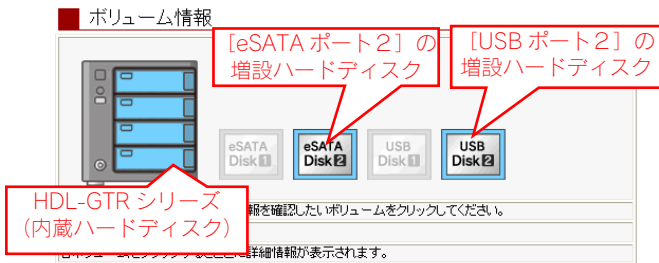
**1** 本製品の設定画面の情報表示メニューをクリックします。



**2** 情報表示メニューの [ボリューム情報] をクリックします。



**3** 接続されているハードディスクの接続状況が表示されます。



※画面は、[eSATA ポート 2] に eSATA ハードディスク、[USB ポート 2] に USB ハードディスクの 2 台の増設ハードディスクを接続している例です。

**4** 確認したいハードディスクをクリックすれば、各ハードディスクの詳細情報が表示されます。



以上で確認は終了です。

ネットワーク上から増設ハードディスクにアクセスする場合は、以下の箇所を参照して確認してください。

[\[増設ハードディスクにアクセスする\]](#) (次ページ)



eSATA ハードディスクを接続しても「停止」と表示される！  
⇒以下の箇所を参照してください。  
[\[困ったときには\] の277ページ](#)

▼ボリューム															
選択したボリュームの名前を表示します。															
eSATA ボリューム 1	外付け eSATA ドライブの内、背面の [eSATA ポート 1] に接続されているドライブです。														
eSATA ボリューム 2	外付け eSATA ドライブの内、背面の [eSATA ポート 2] に接続されているドライブです。														
USB ボリューム 1	外付け USB ドライブの内、前面の [USB ポート 1] に接続されているドライブです。														
USB ボリューム 2	外付け USB ドライブの内、背面の [USB ポート 2] に接続されているドライブです。														
▼動作モード															
ボリュームの動作モードを表示します。															
共有ディスク (FAT/NTFS) モード	接続された FAT/NTFS 形式のディスクが、共有ディスクとして使用できることを示します。														
ミラーリング	( [eSATA ボリューム 1] のみ ) HDL-GTR シリーズ本体と eSATA ハードディスクでミラーリング機能が利用可能なことを示します。														
クイックコピー	( [USB ボリューム 1] のみ ) USB クイックコピー機能が利用可能なことを示します。														
▼詳細情報															
このボリュームの状態を表示します。															
状態	<table border="1"> <tr> <td>正常動作しています</td> <td>ボリュームは正常に動作しています。</td> </tr> <tr> <td>停止</td> <td>ドライブは取り外しできる状態にあります。</td> </tr> <tr> <td>未使用</td> <td>未フォーマットか、FAT/NTFS/専用形式以外のボリュームです。</td> </tr> <tr> <td>未接続</td> <td>該当ポートにドライブが接続されていません。</td> </tr> <tr> <td>再構築を行っています (XX% complete)</td> <td>( [eSATA ボリューム 1] のみ ) ミラーリングのための再構築を行っています。</td> </tr> <tr> <td>eSATA ディスク 1 で単体動作中</td> <td>( [eSATA ボリューム 1] のみ ) ミラーリング中の内蔵ボリューム 1 と eSATA ハードディスクのミラー情報に不整合があり、eSATA ハードディスクから起動した場合の表示です。</td> </tr> <tr> <td>クイックコピー可能</td> <td>前面の [COPY] ボタンでクイックコピーが実行可能です。</td> </tr> </table>	正常動作しています	ボリュームは正常に動作しています。	停止	ドライブは取り外しできる状態にあります。	未使用	未フォーマットか、FAT/NTFS/専用形式以外のボリュームです。	未接続	該当ポートにドライブが接続されていません。	再構築を行っています (XX% complete)	( [eSATA ボリューム 1] のみ ) ミラーリングのための再構築を行っています。	eSATA ディスク 1 で単体動作中	( [eSATA ボリューム 1] のみ ) ミラーリング中の内蔵ボリューム 1 と eSATA ハードディスクのミラー情報に不整合があり、eSATA ハードディスクから起動した場合の表示です。	クイックコピー可能	前面の [COPY] ボタンでクイックコピーが実行可能です。
正常動作しています	ボリュームは正常に動作しています。														
停止	ドライブは取り外しできる状態にあります。														
未使用	未フォーマットか、FAT/NTFS/専用形式以外のボリュームです。														
未接続	該当ポートにドライブが接続されていません。														
再構築を行っています (XX% complete)	( [eSATA ボリューム 1] のみ ) ミラーリングのための再構築を行っています。														
eSATA ディスク 1 で単体動作中	( [eSATA ボリューム 1] のみ ) ミラーリング中の内蔵ボリューム 1 と eSATA ハードディスクのミラー情報に不整合があり、eSATA ハードディスクから起動した場合の表示です。														
クイックコピー可能	前面の [COPY] ボタンでクイックコピーが実行可能です。														
ボリューム情報	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">このボリュームの容量について表示します。</td> </tr> <tr> <td>全容量</td> <td>ボリューム全体の容量を表示します。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)</td> </tr> <tr> <td>空き容量</td> <td>ボリュームの空き容量を表示します。%は空き容量の占める割合です。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)</td> </tr> </table>	このボリュームの容量について表示します。		全容量	ボリューム全体の容量を表示します。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)	空き容量	ボリュームの空き容量を表示します。%は空き容量の占める割合です。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)								
このボリュームの容量について表示します。															
全容量	ボリューム全体の容量を表示します。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)														
空き容量	ボリュームの空き容量を表示します。%は空き容量の占める割合です。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)														
フォーマット形式	このボリュームのフォーマット形式を表示します。 <table border="1"> <tr> <td>FAT 形式</td> <td>Windows でそのまま利用可能な FAT 形式でフォーマットされています。このボリュームを取り外して Windows パソコンに接続すれば、そのまま読み書きが可能です。</td> </tr> <tr> <td>NTFS 形式</td> <td>Windows で NTFS 形式としてフォーマットされています。このボリュームは本製品では読み込み専用となります。</td> </tr> <tr> <td>専用形式</td> <td>( [eSATA ボリューム 1] のみ ) ミラーリング時の形式です。</td> </tr> <tr> <td>不明な形式</td> <td>上記以外の形式です。</td> </tr> </table>	FAT 形式	Windows でそのまま利用可能な FAT 形式でフォーマットされています。このボリュームを取り外して Windows パソコンに接続すれば、そのまま読み書きが可能です。	NTFS 形式	Windows で NTFS 形式としてフォーマットされています。このボリュームは本製品では読み込み専用となります。	専用形式	( [eSATA ボリューム 1] のみ ) ミラーリング時の形式です。	不明な形式	上記以外の形式です。						
FAT 形式	Windows でそのまま利用可能な FAT 形式でフォーマットされています。このボリュームを取り外して Windows パソコンに接続すれば、そのまま読み書きが可能です。														
NTFS 形式	Windows で NTFS 形式としてフォーマットされています。このボリュームは本製品では読み込み専用となります。														
専用形式	( [eSATA ボリューム 1] のみ ) ミラーリング時の形式です。														
不明な形式	上記以外の形式です。														
構成ディスク	このボリュームを構成しているドライブです。														

# 増設ハードディスクに アクセスする

増設したハードディスクにアクセスする手順について説明します。

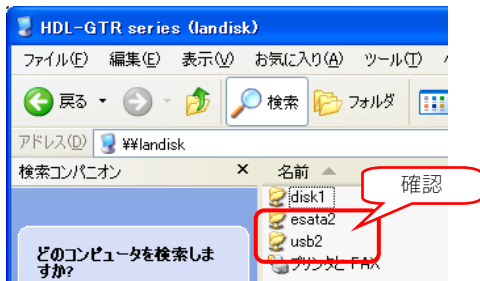
※以下は、Windows XP での確認例です。

ここでは、USB 接続ハードディスクと eSATA 接続ハードディスクの2台を、それぞれ [USB ポート 2]、[eSATA ポート 2] に接続した場合の確認例を説明します。

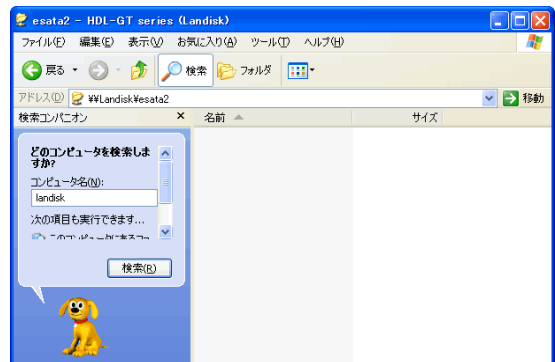
**1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。  
手順については、以下の個所を参照してください。  
・ Windows から本製品にアクセスする場合  
【Windows から本製品にアクセスする】 (22ページ)  
・ Mac OS から本製品にアクセスする場合  
【Mac OS から本製品にアクセスする】 (31ページ)

**2** USB 接続ハードディスクの場合は、一覧に共有フォルダ [usb $x$ ] が表示されます。  
eSATA 接続ハードディスクの場合は、一覧に共有フォルダ [esata $x$ ] が表示されます。  
これが増設ハードディスクです。  
[usb $x$ ] および [esata $x$ ] をダブルクリックします。  
※  $x$  には増設ハードディスクを接続した本製品の [USB ポート]または [eSATA ポート]番号が表示されます。

▼Windows XP での表示例



**3** 正常にウィンドウが表示されましたら、増設ハードディスクのデータを使用できます。



- 注意**
- NTFS フォーマットの増設ハードディスクは、読み込み専用です。  
ネットワーク上から NTFS フォーマットのハードディスクのデータを読み込むことはできますが、書き込むことはできません。
  - ハードディスクを複数パーティションに分割していた場合は、先頭のパーティションのみしか表示されません。
  - Mac OS から NTFS フォーマットの増設ハードディスクや読み取り専用の共有にアクセスすることはできません。
  - Mac OS でお使いになる場合、本製品では、AFP over TCP/IP による接続のみをサポート対象とします。

●ネットワーク上での各ハードディスクの表示

ハードディスクの接続先	ネットワーク上での表示
内蔵ハードディスク	→ disk1
USB ポート 1 接続	→ usb1
USB ポート 2 接続	→ usb2
eSATA ポート 1 接続	→ esata1
eSATA ポート 2 接続	→ esata2

# 増設ハードディスクを 取り外す

FAT32/NTFS 形式の増設ハードディスクを取り外す手順について説明します。

FAT32/NTFS 形式の増設ハードディスクを取り外す場合は、本製品の設定画面で「ディスクの取り外し」操作を行う必要があります。

取り外し時は、本製品の電源が入っている状態で取り外すことができます。

取り外し後、バックアップ用として保管したり、パソコンのUSBポートやeSATAポートに接続してそのまま使用することができます。

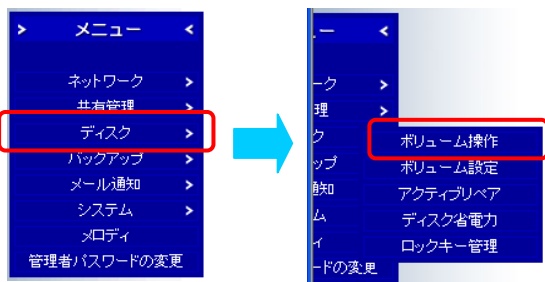
下記の手順にしたがって取り外しを行ってください。

(以下の例は、「eSATA ポート 2」に接続したハードディスクを取り外す手順です。)

**1** 本製品の設定画面の「メニュー」をクリックします。



**2** 「メニュー」の「ディスク」→「ボリューム操作」を順にクリックします。



**3** 取り外すボリューム欄の「操作」欄で「ディスクの取り外し」を選択後、「実行」ボタンをクリックします。  
※以下の画面は「eSATA ボリューム 2」の増設ハードディスクを取り外す場合の画面例です。

## ■ ボリューム情報

内蔵 ボリューム1	動作モード 状態 操作	RAID5(分散)リディ 正常動作しています フォーマット(専用) 実行
eSATA ボリューム1	動作モード 状態 操作	共有ディスク(FAT/NTFS)モード 未接続 現在可能な操作はありません
eSATA ボリューム2	動作モード 状態 操作	共有ディスク(FAT/NTFS)モード 正常動作しています ディスクの取り外し 実行
USB ボリューム1	動作モード 状態 操作	共有ディスク(FAT/NTFS)モード 未接続 現在可能な操作はありません
USB ボリューム2	動作モード 状態 操作	共有ディスク(FAT/NTFS)モード 正常動作しています フォーマット(FAT32) 実行

**注意** ●本製品動作中に以下の手順を行わずに、USB ケーブルやeSATA ケーブルを取り外すと、データの破損や本製品や増設ハードディスクの故障の原因になります。  
何らかの理由で、増設ハードディスクにアクセスが行われている最中に、USB ケーブルやeSATA ケーブルを取り外すとデータが破損するばかりか、本製品や増設ハードディスクの故障の原因になります。  
必ず以下の手順を行ってください。  
●本製品をシャットダウンし、本製品の電源を切った後に取り外すこともできます。

**4** 取り外すハードディスクを確認後、「OK」ボタンをクリックします。

## ■ ディスク取り外しの確認

警告:eSATA ボリューム2の取り外しを実行しようとしています。  
eSATA ボリューム2の取り外しを実行してもよろしいですか?

OK クリック

**5** 結果の画面が表示されますので、Web ブラウザを終了します。

## ■ 結果

eSATA ボリューム2の取り外しを行いました。  
eSATA ボリューム2のケーブルを抜いてください。  
STATUSランプの点滅が停止後、ファイル共有が再開されます。

**6** 取り外し手順を行った増設ハードディスクのUSB ケーブルまたはeSATA ケーブルを本製品から取り外します。

**注意** ●本製品の電源が入っている状態で本製品から取り外すことができます。

**7** 増設ハードディスクの電源を切ります。  
電源連動機能ハードディスクの場合は、USB ケーブルおよびeSATA ケーブルを取り外した時点で、電源が切れます。

※増設ハードディスクの電源の切り方については、増設ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。  
※電源連動機能については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。

以上で作業は完了です。

## ハードディスク取り外し後、 パソコンで使用時の注意

本製品で使用した増設ハードディスクを、パソコンに直接接続して使用する場合について説明します。

### ●本製品から取り外す場合

必ず取り外し手順を行う必要があります。

[【増設ハードディスクを取り外す】（前ページ）参照](#)

### ●Windows と MacOS で共有して利用していた場合

Windows パソコンに直接接続してハードディスク内を見ると、見覚えの無いファイル、フォルダが見える場合があります。

これは、Mac OS で、フォルダを作成したりファイルをコピーした際は、作成したファイル（フォルダ）の他に、別のファイル（フォルダ）が作成されるためです。

このファイル（フォルダ）には、Mac OS ユーザ用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。

# 増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする

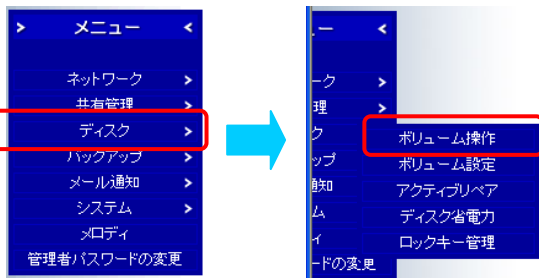
増設ハードディスクを本製品で FAT32 形式にフォーマットする手順について説明します。

- 注意**
- フォーマットするとデータはすべて消去されます。増設ハードディスク内に必要なデータがある場合は、事前にパソコンなどにバックアップしておいてください。
  - フォーマット中は電源を切ることはできません。完了するまでにお待ちください。
  - FAT32 形式にできるのは、増設ハードディスクのみです。内蔵ハードディスクは、本製品専用フォーマットです。FAT32 形式にすることはできません。
  - 本製品で NTFS 形式にすることはできません。増設ハードディスクを NTFS 形式にする場合は、Windows パソコンに直接接続してフォーマットしてください。詳細については、ハードディスクの取扱説明書を参照してください。

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の [ディスク] → [ボリューム操作] を順にクリックします。



3 フォーマットするボリューム欄の [操作] 欄で [フォーマット (FAT32)] を選択後、[実行] ボタンをクリックします。  
※以下の画面は [eSATA ボリューム 2] の増設ハードディスクをフォーマットする場合の画面例です。

■ ボリューム情報

内蔵 ボリューム1	動作モード RAID5(分散)リディ	状態 正常動作しています	操作 フォーマット(専用) 実行
eSATA ボリューム1	動作モード 共有ディスク(FAT/NTFS)モード	状態 未接続	操作 現在可能な操作はありません
eSATA ボリューム2	動作モード 共有ディスク(FAT/NTFS)モード	状態 正常動作しています	操作 フォーマット(FAT32) 実行
USB ボリューム1	動作モード 共有ディスク(FAT/NTFS)モード	状態 未接続	操作 現在可能な操作はありません
USB ボリューム2	動作モード 共有ディスク(FAT/NTFS)モード	状態 正常動作しています	操作 フォーマット(FAT32) 実行

4 [OK]ボタンをクリックします。

## フォーマットの確認

警告: eSATA ボリューム2をフォーマットしようとしています。  
フォーマットを実行すると、eSATA ボリューム2のすべてのデータ、共有が消去され、ディスクはFAT32形式のフォーマットになります。  
必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。

eSATA ボリューム2をフォーマットしますか?

OK クリック

## 削除される共有フォルダー一覧

共有名	コメント	アクセス権	サービス
estsata2	HDL-GT eSATA2 disk	すべてのユーザ	Win Mac

5 [OK]ボタンをクリックします。



6 結果の画面が表示されるまでお待ちください。

## 注意

eSATA ボリューム2のフォーマットを開始しました。  
STATUSランプの点滅が終了したらフォーマットは完了です。  
完了したら自動的に結果画面を表示します。

## 結果

eSATA ボリューム2のフォーマットが完了しました。

以上で作業は完了です。

# プリンタを増設する

## プリンタを 使用できるようにする

本製品にプリンタを接続して、パソコンからネットワーク経由で印刷するには、パソコン側でプリンタドライバをインストールした後、プリンタ用の設定を行えば印刷できるようになります。

プリンタを使用できる設定を行います。

### STEP 1 プリンタドライバを インストールする

お使いのパソコンに、使用するプリンタのプリンタドライバをインストールします。

プリンタの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。



プリンタドライバのインストール  
がうまくできない！  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の278ページ

インストール後、本製品にプリンタを接続します。

### STEP 2 プリンタを接続する

本製品でプリンタを使用できるように最初に本製品にプリンタを接続します。



必ず、【USBポート2】（背面ポート）に接続してください。  
USBポート1にプリンタを接続してもご利用いただけません。

1

本製品の電源が入っていることを確認します。  
本製品の電源が入っている状態で接続できます。

2

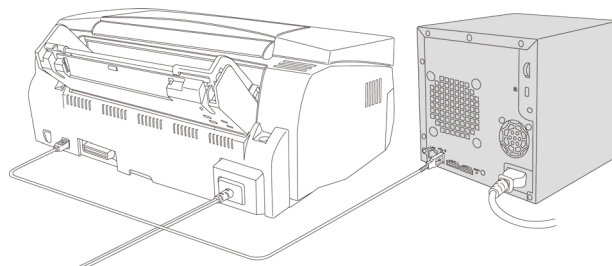
プリンタの電源を入れ、プリンタが起動することを確認します。



プリンタの電源を入れてから本製品に接続します。

3

本製品背面のUSBポート2にプリンタを接続します。  
※USBポート1ではご利用になれません。



以上で接続は完了です。

次に正しくプリンタが接続されているかを設定画面で確認します。



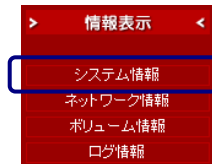
## STEP3 プリンタの接続を確認する

接続したプリンタの接続を設定画面で確認します。

- 1 本製品の設定画面の情報表示メニューをクリックします。



- 2 情報表示メニューの[システム情報]をクリックします。



- 3 [有効な共有サービス]に[プリントサーバ]が表示されていることを確認します。

### ■ システム情報

■ システムの情報	
システムバージョン	1.10
現在時刻	2007年01月05日 18時34分33秒
タイムサーバとの時刻同期	無効
有効な共有サービス	Microsoftネットワークファイル共有 AppleShareネットワークファイル共有 プリントサーバ
内蔵ボリュームの動作モード	RAID5(分散/リレイ) <b>確認</b>
クイックコピー	無効
セルフバックアップ	スケジュール無効
リモートバックアップ	スケジュール無効
ディスク省電力	なし
ランプの明るさ	明
起動スケジュール	無効
筐体内温度	34℃
メインファン回転数	2100 rpm
UPS接続状態	未接続
UPS/バッテリー充電容量	取得できません
UPS警告機能	無効



何も表示されていない!

⇒プリンタの情報を読み取るのに時間がかかる場合があります。

プリンタが正常に起動していることを確認後、しばらくしてから、再度、[システム情報]画面を開いてみてください。

以上で本製品への接続の確認は終了です。

次にパソコンに、本製品に接続したプリンタ用の設定を行います。

## STEP4 接続したプリンタから印刷する

本製品に接続したプリンタ用に、パソコンのプリンタ設定で[ポートの追加]を行います。

設定が終了すれば印刷できるようになります。

印刷方法はOSにより異なりますので、下記のご使用のOSをクリックしてください。

- ・ Windows Vista®の場合 (次ページ)
- ・ Windows XP/2000 の場合 (92ページ)
- ・ Windows Me/98 の場合 (94ページ)

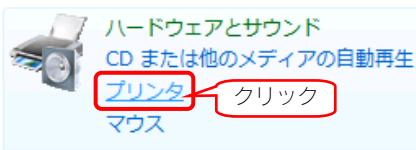
# Windows Vista® での印刷用設定

ここでは、Windows Vista®パソコンで本製品に接続したプリンタ用の設定を行います。  
設定がすべて終了すれば、印刷できます。

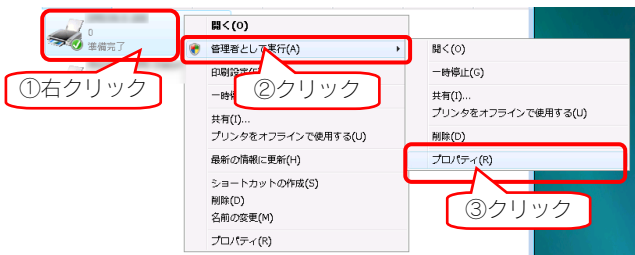
**1** お使いのパソコンに、使用するプリンタのプリンタドライバをインストールしていない場合は、インストールします。  
プリンタの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。

**2** 本製品にプリンタが接続されていることを確認します。  
取り外していた場合は、接続してください。

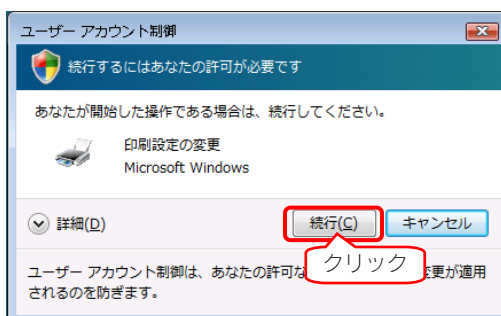
**3** [スタート]→[コントロールパネル]→[ハードウェアとサウンド]→[プリンタ]を順にクリックします。



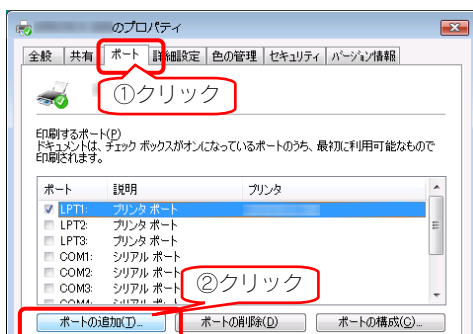
**4** 1の手順でインストールしたプリンタアイコンを右クリックし、表示されたメニューの[管理者として実行]→[プロパティ]をクリックします。



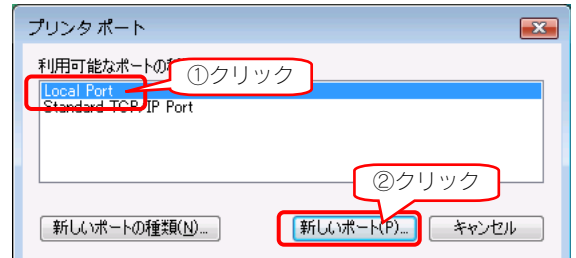
**5** ユーザーアカウント制御の画面が表示されますので、[続行]をクリックしてください。



**6** [ポート]タブをクリック後、[ポートの追加] ボタンをクリックします。



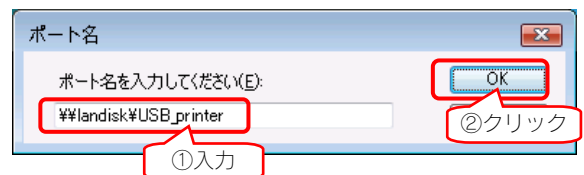
**7** [Local Port]をクリック後、[新しいポート] ボタンをクリックします。



**8** 以下のように[ポート名]を入力後、[OK] ボタンをクリックします。

\\landisk\USB\_printer

※上記の"landisk"の個所は出荷時の本製品の[LANDISK の名前]です。  
[LANDISK の名前]を変更している場合は、"landisk"の個所をその変更した名前を入力してください。

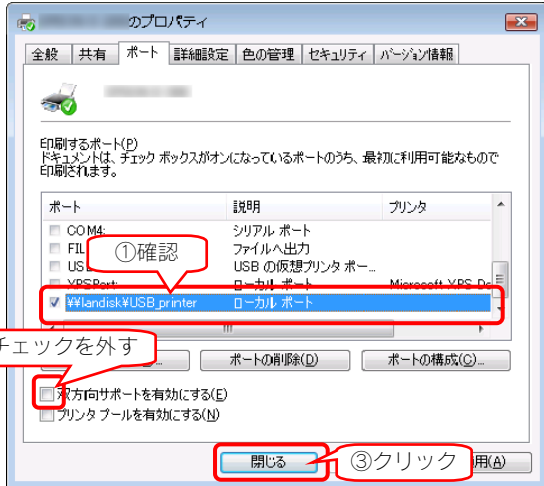


**9** [閉じる] ボタンをクリックします。



10

正しく設定されると以下の画面となります。  
表示を確認後、**【双方向サポートを有効にする】のチェックを外した後**、**【閉じる】** ボタンをクリックします。  
※本製品はプリンタの双方向機能には対応しておりません。チェックは外してください。（グレー表示となっている場合は設定の必要はありません。）



印刷ができない！

⇒以下の個所を参照してください。

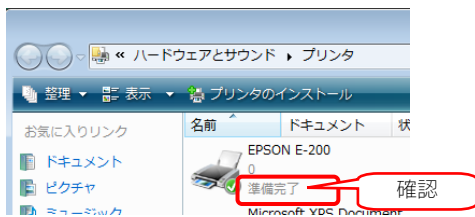
【困ったときには】の279ページ



●エラー画面が表示された場合は、正しく入力されていないか、本製品の**【LANDISKの名前】**が異なっている可能性があります。

入力および**【LANDISKの名前】**を再度ご確認ください。  
本製品の**【LANDISKの名前】**を指定してもエラーが出る場合は、本製品のIPアドレスを入力してご確認ください。  
(\*IPアドレスを指定する場合は、本製品のIPアドレスを「TCP/IP設定」で「次のIPアドレスを使う」にて固定にすることをおすすめします。)

[スタート]→[コントロールパネル]→[ハードウェアとサウンド]→[プリンタ]をクリックし、プリンタの状態が「準備完了」になっていることを確認します。



●プリンタの状態が**【オフライン】**になっている場合は、アイコンを右クリック後、**【プリンタをオフラインで使用する】**をクリックしてください。

これで、設定は完了です。  
本製品を利用して実際に印刷できるかお試しください。

# Windows XP/2000 での印刷用設定

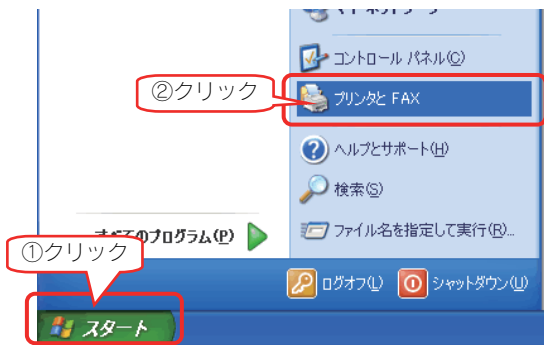
ここでは、Windows XP/2000 パソコンで本製品に接続したプリンタ用の設定を行います。  
設定がすべて終了すれば、印刷できます。

**1** お使いのパソコンに、使用するプリンタのプリンタドライバをインストールしていない場合は、インストールします。  
プリンタの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。

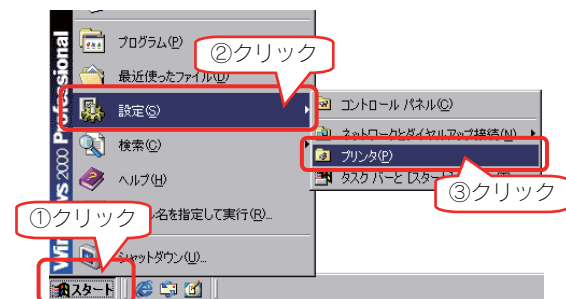
**2** 本製品にプリンタが接続されていることを確認します。  
取り外していた場合は、接続してください。

**3** [スタート]→[プリンタとFAX]を順にクリックします。  
(Windows 2000の場合は、[スタート]→[設定]→[プリンタ]を順にクリック)

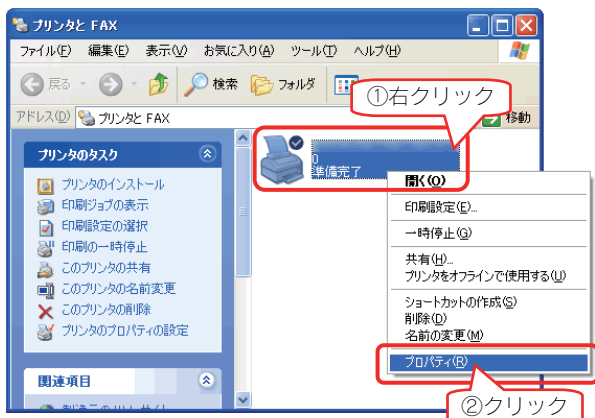
## ▼Windows XPの場合



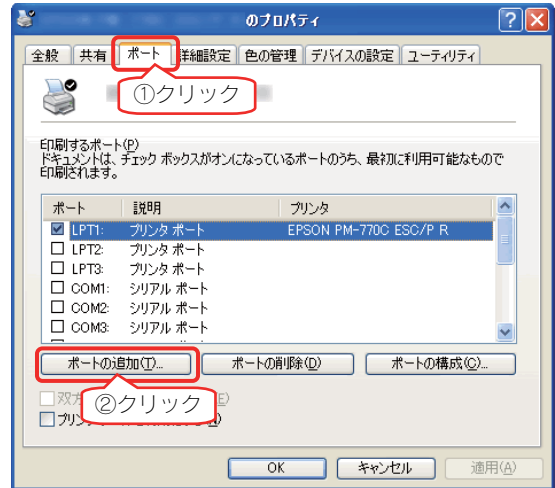
## ▼Windows 2000の場合



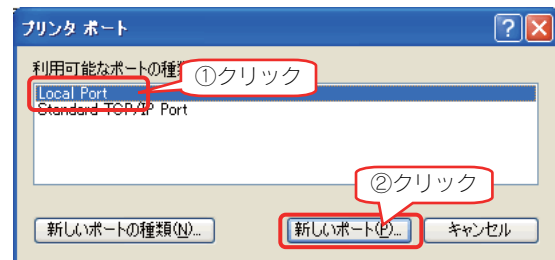
**4** 1の手順でインストールしたプリンタアイコンを右クリックし、表示されたメニューの「プロパティ」をクリックします。



**5** [ポート]タブをクリック後、[ポートの追加] ボタンをクリックします。



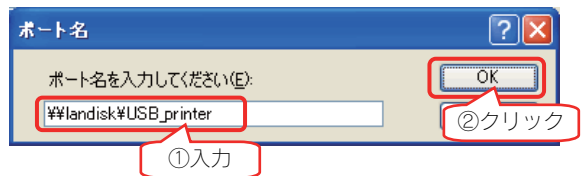
**6** [Local Port]をクリック後、[新しいポート] ボタンをクリックします。



**7** 以下のように[ポート名]を入力後、[OK] ボタンをクリックします。

\\landisk\USB\_printer

※上記の"landisk"の個所は出荷時の本製品の[LANDISKの名前]です。  
[LANDISKの名前]を変更している場合は、"landisk"の個所をその変更した名前を入力してください。

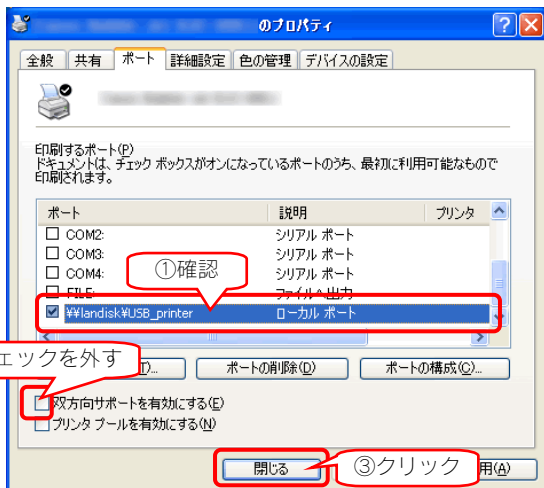


8 「閉じる」 ボタンをクリックします。



9 正しく設定されると以下の画面となります。  
表示を確認後、「**双方向サポートを有効にする**」のチェックを外した後、「閉じる」 ボタンをクリックします。

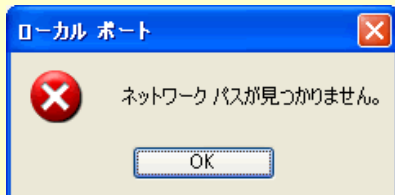
※本製品はプリンタの双方向機能には対応しておりません。チェックを外してください。（グレー表示となっている場合は設定の必要はありません。）



●以下のエラー画面が表示された場合は、正しく入力されていないか、本製品の「LANDISKの名前」が異なっている可能性があります。

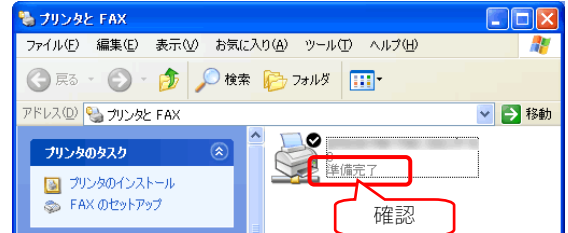
入力および「LANDISKの名前」を再度ご確認ください。本製品の「LANDISKの名前」を指定してもエラーが出る場合は、本製品の IP アドレスを入力してご確認ください。

(\*IP アドレスを指定する場合は、本製品の IP アドレスを「TCP/IP 設定」で「次の IP アドレスを使う」にて固定にすることをお奨めいたします。)

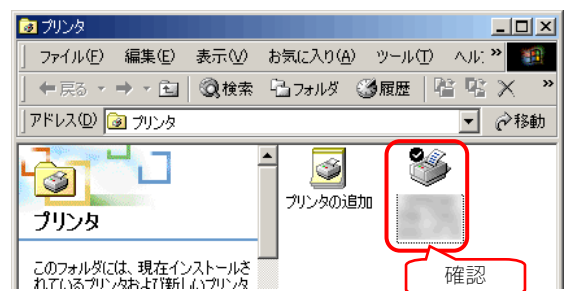


プリンタの状態が「準備完了」となっていることを確認します。  
※Windows 2000 の場合は、アイコンがアクティブになっていることを確認します。

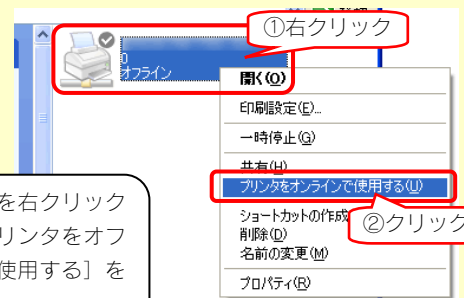
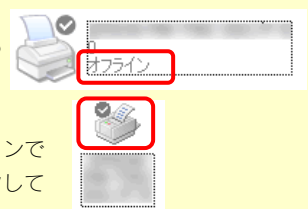
▼Windows XP の場合



▼Windows 2000 の場合



●プリンタの状態が「オフライン」になっている場合は、アイコンを右クリック後、「プリンタをオフラインで使用する」をクリックしてください。



アイコンを右クリック後、「プリンタをオフラインで使用する」をクリック

これで、設定は完了です。  
本製品を利用して実際に印刷できるかお試しください。



印刷ができない！

⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の279ページ

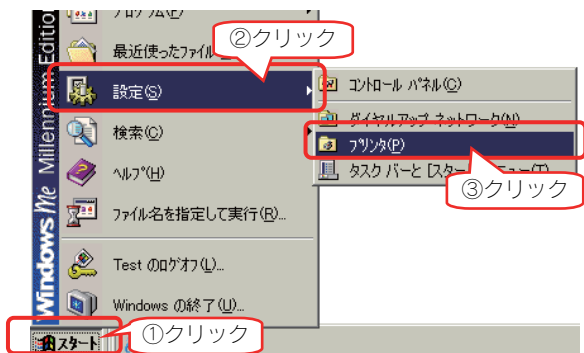
# Windows Me/98 での印刷用設定

ここでは、Windows Me/98 パソコンで本製品に接続したプリンタ用の設定を行います。  
設定がすべて終了すれば、印刷できます。

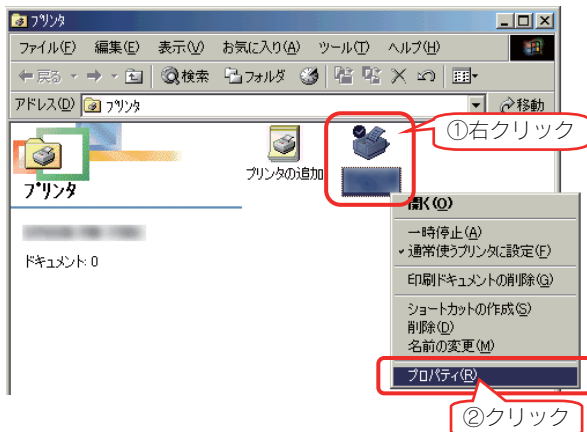
**1** お使いのパソコンに、使用するプリンタのプリンタドライバをインストールしていない場合は、インストールします。  
プリンタの取扱説明書をご覧になり、メーカーの指定するインストール方法にしたがってください。

**2** 本製品にプリンタが接続されていることを確認します。  
取り外していた場合は、接続してください。

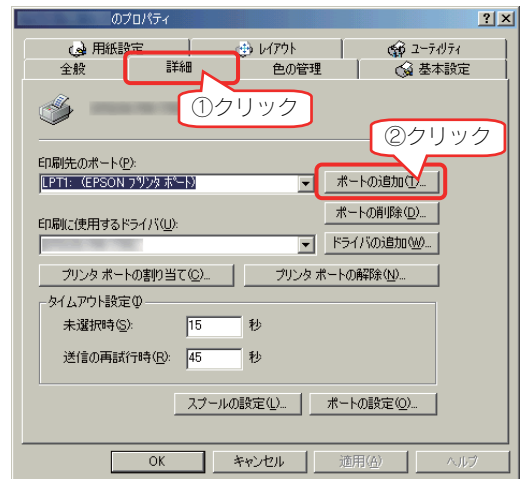
**3** [スタート] → [設定] → [プリンタ] を順にクリックします。



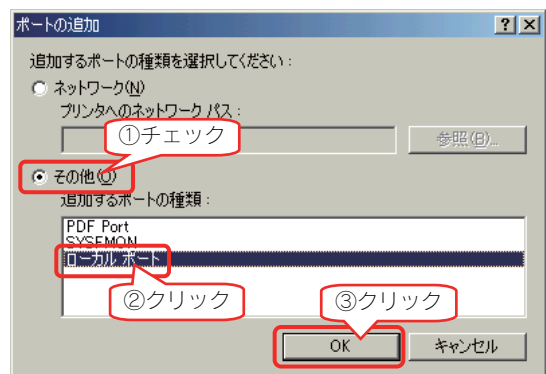
**4** 手順でインストールしたプリンタアイコンを右クリックし、表示されたメニューの [プロパティ] をクリックします。



**5** [詳細]タブをクリック後、[ポートの追加] ボタンをクリックします。



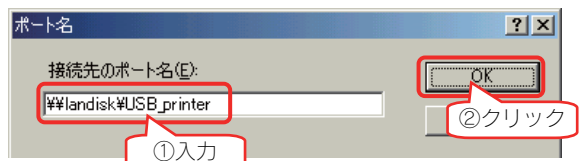
**6** [その他]をチェックし、[ローカルポート]をクリック後、[OK] ボタンをクリックします。



**7** 以下のように[接続先のポート名]を入力後、[OK] ボタンをクリックします。

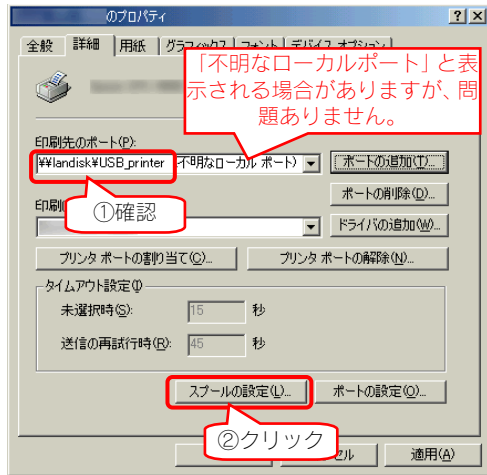
\\landisk\USB\_printer

※上記の"landisk"の個所は出荷時の本製品の[LANDISK の名前]です。  
[LANDISK の名前]を変更している場合は、"landisk"の個所をその変更した名前を入力してください。



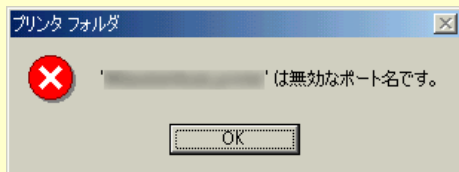
8

正しく設定されると以下の画面となります。  
表示を確認後、[スプールの設定] ボタンをクリックします。



●以下のエラー画面が表示された場合は、正しく入力されていないか、本製品の [LANDISK の名前] が異なっている可能性があります。

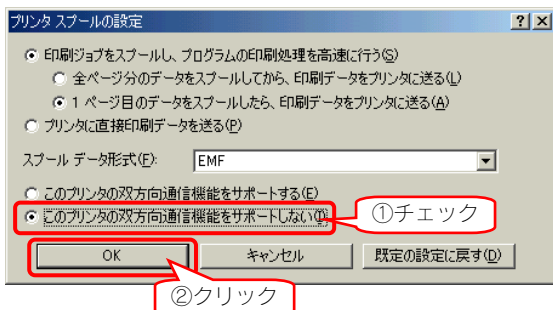
入力および [LANDISK の名前] を再度ご確認ください。  
本製品の [LANDISK の名前] を指定してもエラーが出る場合は、本製品の IP アドレスを入力してご確認ください。  
(\*IP アドレスを指定する場合は、本製品の IP アドレスを「TCP/IP 設定」で「次の IP アドレスを使う」にて固定にすることを推奨いたします。)



9

[このプリンタの双方向通信機能をサポートしない] をチェック後、[OK] ボタンをクリックします。

※本製品はプリンタの双方向機能には対応していません。サポートしないの方をチェックしてください。(グレー表示となっている場合は設定の必要はありません。)



これで、設定は完了です。

本製品を利用して実際に印刷できるかお試しください。



印刷ができない！

⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の279ページ

**バックアップする**



# データのバックアップ について

万一に備えて定期的にデータはバックアップすることをおすすめします。  
本製品では、以下のバックアップを行うことができます。

クイックコピー	本製品前面の[COPY]ボタンの機能です。 クイックコピーでは、EasyDisk やデジカメを [USB ポート 1] に接続した後、前面の[COPY]ボタンを押せば、自動的に EasyDisk やデジカメのデータをあらかじめ指定されている本製品の共有フォルダ内にコピーすることができます。 クイックコピー機能は、本製品前面の [USB ポート 1] でのみ機能します。また、USB ポート 1 の動作モードが [クイックコピー] となっている場合のみ機能します。
セルフバックアップ	本製品上に作成した共有フォルダの内容を指定した共有フォルダへバックアップすることができます。 ユーザー、グループの情報や、各共有フォルダのアクセス権設定等は保存することができません。 ・本製品の内蔵ハードディスクのデータを増設ハードディスクにバックアップする。 ・増設ハードディスクのデータを本製品の内蔵ハードディスクにバックアップする。 ・複数増設ハードディスクを接続している場合は、増設ハードディスク同士でバックアップする。
リモートバックアップ	指定したネットワーク上の共有フォルダの内容を、本製品上の指定した共有フォルダへバックアップすることができます。 登録ユーザーやグループの情報や、各共有フォルダのアクセス権設定等は保存することができません。 バックアップ元には、最大 10 個指定することができます。 ・同一 LAN 内にある Windows パソコンの共有フォルダのデータを本製品の内蔵ハードディスクまたは、増設ハードディスクにバックアップする。 ・他の LANDISK の共有フォルダのデータを本製品の内蔵ハードディスクまたは、増設ハードディスクにバックアップする。



● [クイックコピー]、[セルフバックアップ] および [リモートバックアップ] はデータ**のみ**のバックアップです。  
本製品のシステムも含めてバックアップを行う場合は、ミラーリングを構築後、ミラーリングしたディスクを保管するという方法にてバックアップすることができます。【ミラーリングする】(121ページ)

- [クイックコピー]、[セルフバックアップ] および [リモートバックアップ] を同時に実行することはできません。
- バックアップ中、ファイル共有などが遅くなる場合があります。
- リモートバックアップ元にはネットワーク上の共有フォルダを 10 個まで指定できます。
- Windows パソコンの共有フォルダをバックアップするには、事前にパソコン側で共有設定しておく必要があります。  
手順については、パソコンの取扱説明書を参照してください。
- Macintosh パソコンの共有フォルダをリモートバックアップすることはできません。
- リモートバックアップは、ドメインコントローラが存在する環境で、かつ、LANDISK がドメインに参加している場合ではご利用いただけません。

# クイックコピーで使用できる デジカメや EasyDisk

デジカメや弊社製 EasyDisk のデータを、本製品前面の[COPY]ボタンでまるごと本製品や増設ハードディスクにコピーすることができます。

## 使用できるデジカメや EasyDisk について

動作確認済みデジカメや EasyDisk については、[弊社ホームページ \(http://www.iodata.jp/\)](http://www.iodata.jp/)の製品情報をご覧ください。

使用できるデジカメや EasyDisk は以下のものです。

- ・ USB マスストレージクラスの転送に対応し、かつ、そのモードに設定されているデジカメ
- ・ FAT または NTFS 形式のデジカメ、または EasyDisk

## 本製品でご利用になる場合の注意

本製品でご利用になる場合は、以下にご注意ください。

- ・ デジカメや EasyDisk は本製品の **USB ポート 1** でのみご利用になれます。  
他の USB ポートにデジカメや EasyDisk を接続してもご利用いただけません。
- ・ コピー先のディスクに空き容量が十分あることをご確認ください。
- ・ コピー先が FAT32 形式の場合、ファイルシステムの制限のため、ファイルサイズが 4G バイト以上のファイルはバックアップできません。
- ・ コピー先に NTFS 形式の増設ハードディスクを選択してもコピーすることはできません。  
NTFS 形式のハードディスクに書き込みはできません。
- ・ [USB ポート 1] で増設ハードディスクを使用するために [USB ポート 1] の設定を変更した場合は、クイックコピーの設定に戻す必要があります。  
[【USB ポート 1 \(前面\)の設定について】 \(100ページ\)](#)



- すでに [USB ポート 1] に USB 機器を接続している場合は、その USB 機器の取り外し処理を行う必要があります。  
[【増設ハードディスクを取り外す】 \(85ページ\) 参照](#)

# セルフ／リモート バックアップする際の注意

バックアップする前に、以下をご確認ください。

- バックアップ元ディスクとバックアップ先ディスクは別々にすることをおすすめします。  
万一、ディスクが故障した場合でもどちらかのデータを取り出すことができます。
- バックアップ中はバックアップ元、先の共有フォルダへアクセスしないでください。  
データ不整合、バックアップ失敗の原因となります。
- バックアップ中は Web 設定画面操作や、本製品のボタン操作などを行わないでください。
- バックアップ元の共有のサブフォルダには半角英数字を使用してください。  
半角英数字以外は、フォルダ選択画面でうまく表示されない場合があります。保証対象外となります。（株）やⅡなどの機種依存文字は正常に表示できませんのでご注意ください。  
※リモートバックアップ元にはサブフォルダは指定できません。
- 増設ハードディスクにバックアップする場合は、事前に増設ハードディスクを接続しておいてください。  
【ハードディスクやプリンタを増設する】（76ページ）
- NTFS 形式の増設ハードディスクをバックアップ先に指定することはできません。
- バックアップ可能な最大ファイルサイズは、バックアップ先のファイルシステムの仕様に依存します。（内蔵ハードディスク上の共有フォルダの場合のみ無制限です。）  
バックアップ先が、FAT32 形式の場合、ファイルシステムの制限のため、ファイルサイズが4G バイト以上のファイルはバックアップできません。  
そのファイルを含むバックアップ元フォルダはバックアップエラーとなり、不完全なバックアップデータとなります。
- セルフバックアップしたデータは以下の手順で確認できます。  
【セルフバックアップしたデータを確認する】（108ページ）
- バックアップログメール送信機能を使用する場合は、[メール通知] → [メール基本設定] を行っておく必要があります。  
【メール基本設定】（230ページ）
- リモートバックアップは、同一 LAN 内の LANDISK および Windows パソコンのデータのみバックアップできます。  
ルーターを越えた（別セグメントの）パソコンおよび LANDISK のデータをバックアップすることはできません。  
リモートバックアップ元にはネットワーク上の共有フォルダを 10 個まで指定できます。
- リモートバックアップでは、ネットワークを介して通信するため、その時のネットワーク上のパソコンやトラフィックなどの通信状態により、正常に完了しないことがあります。  
正常にバックアップされたかは、毎回ご確認くださいをおすすめします。  
【リモートバックアップしたデータを確認する】（117ページ）
- リモートバックアップのバックアップ先は、本製品（あるいは本製品に接続した増設ハードディスク）のみです。  
リモートバックアップでは、本製品（および本製品に接続した増設ハードディスク）のデータを、他の LANDISK やパソコンへバックアップすることはできません。

# USB ポート 1 (前面) の設定について

出荷時 [USB ポート 1] の動作モードは、**クイックコピー** に設定されていますが、増設ハードディスク用に動作モードを **共有ディスク (FAT/NTFS)** に変更した場合は、**クイックコピー** に戻す必要があります。

以下は、[USB ポート 1] の動作モードを **クイックコピー** に変更する手順です。

※ [USB ポート 1] の動作モードを出荷時から変更していない場合は、以下の手順を行う必要はありません。

※ **クイックコピー** に設定すると、USB ポート 1 のネットワークへの公開は行われなくなります。

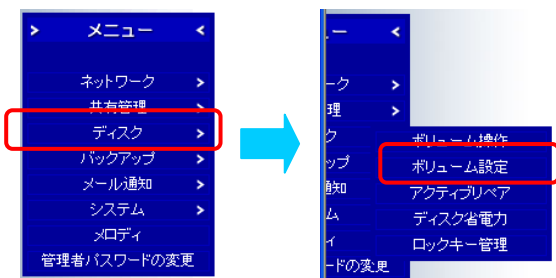
## USB ポート 1 をクイックコピー用に設定する

USB ポート 1 で増設ハードディスク用に変更した設定を、USB クイックコピー用に戻します。

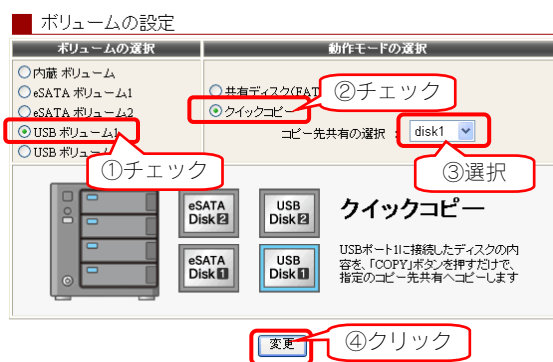
**1** 本製品の設定画面の [メニュー] をクリックします。



**2** [メニュー] の [ディスク] → [ボリューム設定] を順にクリックします。



**3** [USB ボリューム 1] をチェック後、[動作モードの選択] で [クイックコピー] にチェック後、[コピー先共有の選択] でコピー先を選択後、[変更] ボタンをクリックします。



コピー先	[コピー先共有の選択] で表示される共有フォルダ名
内蔵ボリューム 1	disk1
eSATA ボリューム 1	esata1
eSATA ボリューム 2	e sata2
USB ボリューム 2	usb2



- コピー先に [usb1] (USB ポート 1) は選択できません。
- NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクはコピー先に選択できません。

**4** [OK] ボタンをクリックします。

### ボリューム設定

USB ボリューム 1 の設定を変更しようとしています。

USB ボリューム 1 の動作モードをクイックコピーに変更します。USB ボリューム 1 の動作モードを変更すると、現在の USB ボリューム 1 のすべての共有情報が消去され、ディスクは取り外すことができます。USB1 ポートは「クイックコピー」機能のコピー元ディスクの接続ポートになります。「クイックコピー」モードでは、USB1 ポートに接続したディスクはネットワークに公開されません。

変更してもよろしいですか

クリック [OK] [戻る]

### 削除される共有フォルダー一覧

共有名	コメント	アクセス権	サービス
usb1	HDL-GT USB1 disk	すべてのユーザ	Win Mac

**5** [OK] ボタンをクリックします。



**6** [結果] 画面が表示されます。

### 結果

USB ボリューム 1 の動作モードをクイックコピーに変更しました

これで、USB ポート 1 をクイックコピー用に使用できるようになりました。

# クイックコピー

## デジカメや EasyDisk のデータをコピーする

[COPY]ボタンを使えば、本製品にデジカメや EasyDisk のデータをコピーすることができます。



●必ず、USB ポート 1 に接続してください。

USB ポート 2 にデジカメや EasyDisk を接続しても[COPY]ボタンは使用できません。



●出荷時のコピー先は、内蔵ハードディスクの [disk1] 共有フォルダに設定されています。

他の共有フォルダや増設ハードディスクに切り替えたい場合は、以下の個所を参照してください。

【コピー先を変更する】(103ページ)

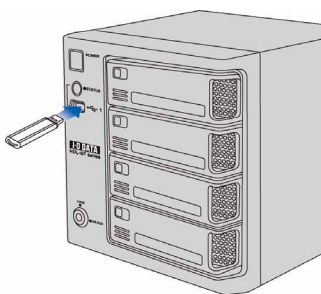
1

本製品前面の USB ポート 1 にデジカメや EasyDisk を接続します。

[STATUS] ランプが点滅し、しばらくすると点灯します。

※他の USB ポートではご利用になれません。

▼EasyDisk を接続する例



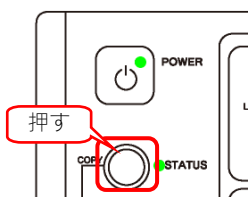
●必ず、USB ポート 1 に接続してください。

他の USB ポートにデジカメや EasyDisk を接続しても [COPY]ボタンは使用できません。

2

本製品前面の[COPY]ボタンを“ピッ”と音がするまで押します。

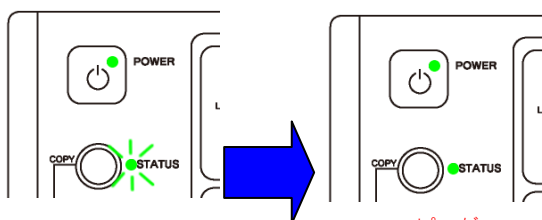
→コピーを開始します。



3

コピー中は、STATUS ランプが点滅します。

“ピッピッピ”と音が鳴り、点滅が点灯に変わったらコピー完了です。



コピーが  
終了した状態

以上でコピーは完了です。コピー完了後は、そのままデジカメや EasyDisk を取り外すことができます。

ネットワーク上からコピーしたデータを確認する場合は、以下の個所を参照して確認してください。

【コピーしたデータを確認する】(次ページ)

### ●データコピー先について

データは、コピー先（出荷時は内蔵ハードディスクの [disk1] ）の共有フォルダの下に、自動で作成される [quickcopy] フォルダ内にコピーされます。

さらにその下に順に「コピー時点の [年月日-時刻] 」を元にしたフォルダ → [usb1] フォルダを作成し、そのフォルダ内に接続したデジカメや EasyDisk のデータがコピーされます。

[指定したディスク共有フォルダ] - [quickcopy]  
- [年月日-時刻] - [usb1] フォルダ

複数のデジカメ・EasyDisk をコピーする場合にも、データは [年月日-時刻] フォルダで区別されますので、上書きされることはありません。

以下は、コピー先に内蔵ハードディスクを指定した例です。

```
disk1 - HDL-GTR series (Landisk)
├── quickcopy
│   └── 20060810-150145
│       └── usb1
```

# コピーしたデータを 確認する

デジカメや EasyDisk のデータが正しくコピーされているかを確認します。

※以下は、Windows XP での確認例です。

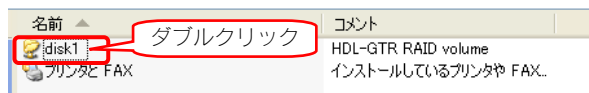
データを本製品内蔵ハードディスクの [disk1] 共有フォルダにコピーした場合での確認例を説明します。

**1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。

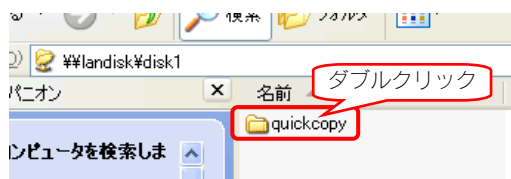
手順については、以下の個所を参照してください。

- ・ Windows から本製品にアクセスする場合  
【Windows から本製品にアクセスする】 (22ページ)
- ・ Mac OS から本製品にアクセスする場合  
【Mac OS から本製品にアクセスする】 (31ページ)

**2** [disk1]フォルダをダブルクリックします。

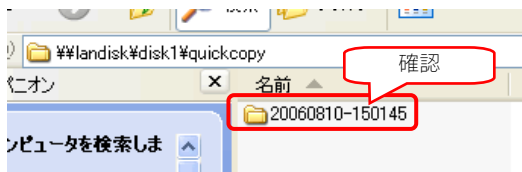


**3** [quickcopy]フォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



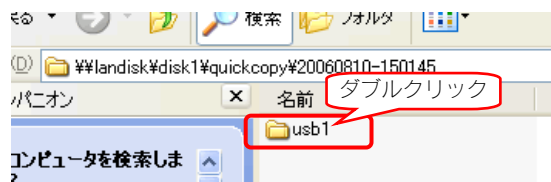
[quickcopy]フォルダについて…  
[COPY]ボタンでコピーする手順を行った場合に自動で作成されるフォルダです。

**4** 年月日-時刻のフォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックし、ファイルがコピーされているかご確認ください。



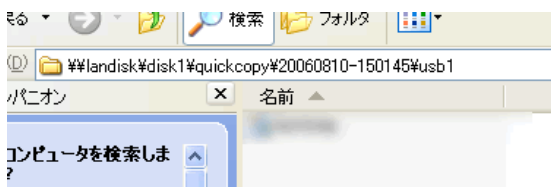
年月日-時刻フォルダについて…  
[COPY]ボタンでコピーする手順を行った場合に、  
[quickcopy]フォルダの下に、デジカメ・EasyDiskのデータコピーを開始した年月日・時刻をもとにして、自動で作成されるフォルダです。  
上記画面例 ( [20060810-150145] ) は、2006年08月10日15時01分45秒にコピーを開始したときに作成した例です。

**5** [usb1]フォルダをダブルクリックします。



[usb1]フォルダについて…  
自動で作成されるフォルダです。

**6** コピーしたファイルやフォルダが表示されます。



以上で確認は終了です。

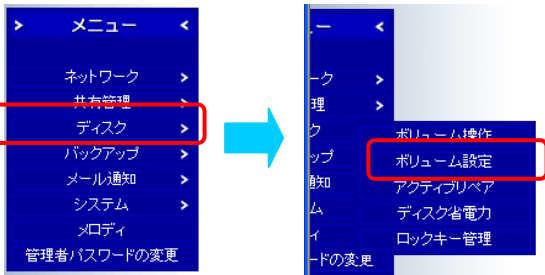
# コピー先を変更する

コピー先を出荷時の [disk1] から変更する場合の手順です。

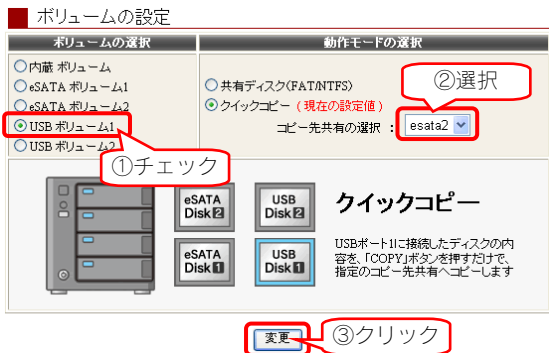
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の [ディスク] → [ボリューム設定] を順にクリックします。



**3** [USB ボリューム 1]をチェック後、[動作モードの選択]で [クイックコピー] がチェックされていることを確認後、[コピー先共有の選択] でコピー先を選択後、[変更] ボタンをクリックします。



コピー先	[コピー先共有の選択] で表示される共有フォルダ名
内蔵ボリューム 1	disk1
eSATA ボリューム 1	esata1
eSATA ボリューム 2	e sata2
USB ボリューム 2	usb2



- コピー先に [usb1] (USB ポート 1) は選択できません。
- NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクはコピー先に選択できません。

**4** [OK] ボタンをクリックします。

## ボリューム設定

USB ボリューム1の設定を変更しようとしています。  
「クイックコピー」のコピー先共有を「esata2」に変更します。  
変更してもよろしいですか



**5** [OK] ボタンをクリックします。



**6** [結果] 画面が表示されます。

## 結果

クイックコピーのコピー先共有を「esata2」に変更しました

これで、クイックコピーのコピー先の変更は終了です。

# セルフバックアップ

## 今すぐ セルフバックアップする

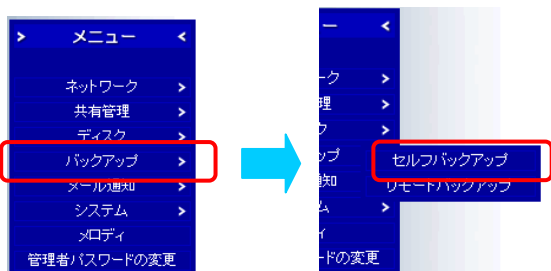
今すぐセルフバックアップを行う場合の設定について説明します。

以下の例は、本製品内蔵ハードディスク内の [disk1] 共有フォルダのデータを、[USB ポート 2] に接続した増設ハードディスクにバックアップする例です。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の [バックアップ] → [セルフバックアップ] を順にクリックします。



**3** バックアップ元を指定します。

[バックアップ元フォルダ指定] 横の [選択] ボタンをクリックし、[バックアップ元フォルダの選択] 画面でバックアップ元 (ここでは [disk1]) をチェック後、[OK] ボタンをクリックします。



### バックアップ

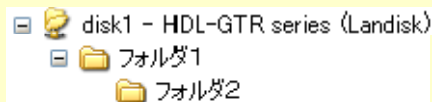
#### バックアップ元フォルダの選択

ボリューム名	共有フォルダ名選択
内蔵ボリューム1	<input checked="" type="checkbox"/> disk1
eSATA ボリューム1	<input type="checkbox"/> esata1
eSATA ボリューム2	<input type="checkbox"/> esata2
USB ボリューム1	<input type="checkbox"/> usb1
USB ボリューム2	<input type="checkbox"/> usb2

②選択 (チェック)      OK    クリア  
③クリック

接続されていない増設ハードディスクはグレー表示となります。  
(選択しないでください。)

- 注意**
- バックアップ元には 300 までの共有フォルダを指定することができます。複数の増設ハードディスクも選択できます。
  - バックアップ元にフォルダを指定する場合は、2 階層下のフォルダまで指定できます。
- 以下の例では「フォルダ1」まで指定可能です。



**4** バックアップ先を指定します。

[バックアップ先共有指定] 横の [選択] ボタンをクリックし、[バックアップ先共有フォルダの選択] 画面でバックアップ先 (ここでは [usb2]) をチェック後、[OK] ボタンをクリックします。



### バックアップ

#### バックアップ先共有フォルダの選択

ボリューム名	共有フォルダ名
内蔵ボリューム1	<input type="checkbox"/> disk1
eSATA ボリューム1	<input type="checkbox"/> esata1
eSATA ボリューム2	<input type="checkbox"/> esata2
USB ボリューム1	<input type="checkbox"/> usb1
USB ボリューム2	<input checked="" type="checkbox"/> usb2

②選択 (チェック)      OK    クリア      ③クリック

- 注意**
- バックアップ元ディスクとバックアップ先ディスクは別にするをおすすめします。万一、ディスクが故障した場合でもどちらかのデータを取り出すことができます。
  - バックアップ先に複数の共有フォルダを指定することはできません。
  - NTFS フォーマットの増設ハードディスクをバックアップ先に指定することはできません。バックアップ元に指定することはできます。



## 5 [バックアップ方式] を選択 (チェック) します。

■ セルフバックアップの設定

バックアップ元フォルダ指定	1個のフォルダ指定済	選択
バックアップ先共有指定	<input type="checkbox"/>	選択
バックアップ方式	<input type="radio"/> 毎回上書き(backupフォルダ) <input checked="" type="radio"/> 履歴(日付時刻フォルダ)	全て ↓ 残す
バックアップオプション	<input type="checkbox"/> 設定と同時にバックアップを開始する <input type="checkbox"/> バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする	
	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない	

### バックアップ方式

バックアップの方式を選択します。

毎回上書き	バックアップするごとに backup フォルダに上書きします。
履歴	常に指定した回数分のバックアップを[日付時刻]フォルダに残します。 指定回数を越えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。

※バックアップを実行すると、本製品は [バックアップ先共有指定] で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。  
その際、[毎回上書き] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [backup] フォルダを作成し、さらにその下に [backup] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。  
[履歴] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [backup] フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した [日付時刻] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。

## 6 [設定と同時にバックアップを開始する]をチェック後、[OK] ボタンをクリックします。

①チェック

バックアップオプション	<input checked="" type="checkbox"/> 設定と同時にバックアップを開始する <input type="checkbox"/> バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする
スケジュールバックアップ機能	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 曜日指定: <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 時刻指定: 0 時 0 分
バックアップログメール送信機能	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 送信先メールアドレス

②クリック

## 7 [バックアップ実行時の注意] の画面が表示されます。内容を確認後、[今すぐバックアップ実行] をクリックします。→バックアップを開始します。本製品のブザー音が「ピッ」と鳴り、[STATUS]ランプが緑点滅状態になります。

### バックアップ実行時の注意

バックアップ設定内容を有効にします。以下の点に注意してください。

・バックアップ実行中はWEB設定画面は使用できません。  
・バックアップ中に十分な容量がある事を確認してください。  
・バックアップ実行時間中はバックアップするファイルの容量や、装置へのアクセス状況により非常に長くなる場合があります。  
・装置の電源ボタンを1秒押ししてシャットダウンすると強制中断可能ですが、バックアップデータは保証されません。  
・装置の時刻を正確にあわせてください。  
・バックアップ前にアプリケーションやOSなどが使用中のファイルがある場合は、バックアップが正常に行えなかったり、エラー終了する場合があります。  
・バックアップしたファイルは必ずお客様にて正常にバックアップされた事を確認してください。

クリック



### 注意

現在セルフバックアップを実行中です。

装置のSTATUSランプが点滅中は他の操作を行わないでください。完了したら自動的に結果画面を表示します。

**注意**

- バックアップ中は、[STATUS] ランプが点滅しますので、点滅が停止するまで設定画面にアクセスしないでください。
- バックアップ中はバックアップ元、先の共有フォルダへアクセスしないでください。データ不整合、バックアップ失敗の原因となります。



バックアップにかかる時間は?

⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の281ページ

## 8 [結果] の画面が表示されます。

### 結果

スケジュール設定、およびバックアップが完了しました。

バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピッピッピッ」となります。これでバックアップは完了です。実際にバックアップしたデータは、以下の個所を参照して確認してください。

【セルフバックアップしたデータを確認する】 (108ページ)



ブザーが「ピーピーピー」と鳴って、[STATUS] ランプが赤点滅し、バックアップエラーになる!

⇒[COPY]ボタンを押して[STATUS]ランプが緑点灯に変わることを確認します。その後以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の282ページ

# セルフバックアップをスケジュールする

スケジューリングを行ってバックアップする場合の設定について説明します。

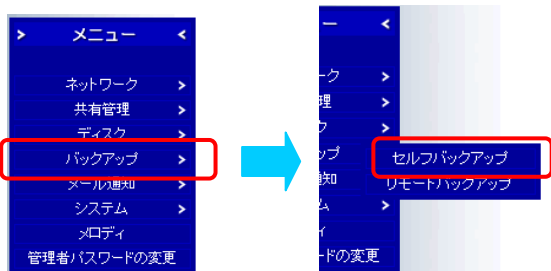
ここではスケジュールのみの設定を行います。(今すぐバックアップは実行しません。)

以下の例は、指定した日時に、本製品内蔵ハードディスク内の [disk1] 共有フォルダのデータを、[USB ポート 2] に接続した増設ハードディスクにバックアップする例です。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

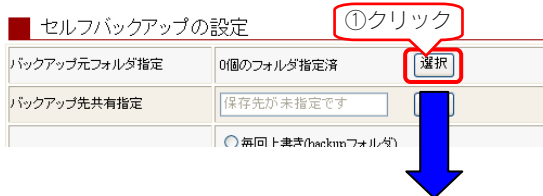


**2** [メニュー]の [バックアップ] → [セルフバックアップ] を順にクリックします。



**3** バックアップ元を指定します。

[バックアップ元フォルダ指定] 横の [選択] ボタンをクリックし、[バックアップ元フォルダの選択] 画面でバックアップ元 (ここでは [disk1]) をチェック後、[OK] ボタンをクリックします。



## バックアップ

### バックアップ元フォルダの選択



②選択 (チェック)

OK クリア

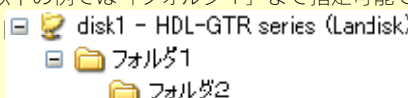
③クリック

接続されていない増設ハードディスクはグレー表示となります。(選択しないでください。)

### 注意

- バックアップ元には 300 までの共有フォルダを指定することができます。複数の増設ハードディスクも選択できます。
- バックアップ元にフォルダを指定する場合は、2 階層下のフォルダまで指定できます。

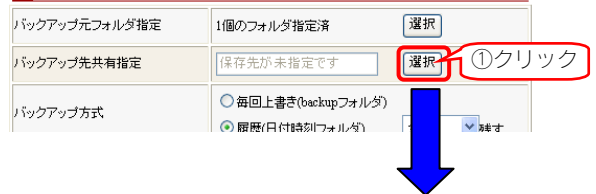
以下の例では「フォルダ 1」まで指定可能です。



**4** バックアップ先を指定します。

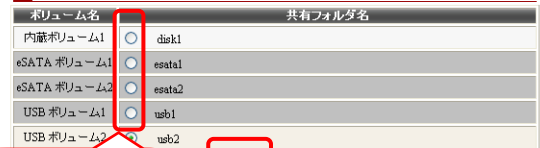
[バックアップ先共有指定] 横の [選択] ボタンをクリックし、[バックアップ先共有フォルダの選択] 画面でバックアップ先 (ここでは [usb2]) をチェック後、[OK] ボタンをクリックします。

## セルフバックアップの設定



## バックアップ

### バックアップ先共有フォルダの選択



②選択 (チェック)

③クリック

### 注意

- バックアップ元ディスクとバックアップ先ディスクは別にするをおすすめします。万一、ディスクが故障した場合でもどちらかのデータを取り出すことができます。
- バックアップ先に複数の共有フォルダを指定することはできません。
- NTFS フォーマットの増設ハードディスクをバックアップ先に指定することはできません。バックアップ元に指定することはできます。

**5** [バックアップ方式] を選択 (チェック) します。

■ セルフバックアップの設定

バックアップ元フォルダ指定	1個のフォルダ指定済	選択
バックアップ先共有指定	選択	選択
バックアップ方式	<input type="radio"/> 毎回上書き(backupフォルダ) <input checked="" type="radio"/> 履歴(日付時刻フォルダ)	全て 残す
バックアップオプション	<input type="checkbox"/> 設定と同時にバックアップを開始する <input type="checkbox"/> バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする <input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない	

**バックアップ方式**

バックアップの方式を選択します。

毎回上書き	バックアップするごとに backup フォルダに上書きします。
履歴	常に指定した回数分のバックアップを[日付時刻]フォルダに残します。 指定回数を越えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。

※バックアップを実行すると、本製品は [バックアップ先共有指定] で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。  
その際、[毎回上書き] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [backup] フォルダを作成し、さらにその下に [backup] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。  
[履歴] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [backup] フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した [日付時刻] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。

**6** [スケジュールバックアップ機能] で [使用する] をチェック後、バックアップする曜日と時刻を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

バックアップオプション

設定と同時にバックアップを開始する  
 バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする

使用する  使用しない

スケジュール/バックアップ機能

曜日指定  日  月  火  水  木  金  土  日

時刻指定 12 時 0 分

バックアップログメール送信機能

使用  送信先

①チェック ②設定 ③クリック OK クリア

**スケジュールバックアップ機能**

設定したスケジュールでバックアップを行う場合に [使用する] をチェックします。

曜日指定	バックアップする曜日を指定します。 ※複数の指定が可能です。
時刻指定	バックアップする時刻を指定します。 24 時間制で指定します。 例) 午後 9 時の場合は、[21]時[0]分

**注意** ●他のスケジュール設定と重ならないようご注意ください。

**7** [バックアップ実行時の注意] の画面が表示されます。内容を確認後、[スケジュール設定保存] をクリックします。→スケジュール設定を保存します。

■ バックアップ実行時の注意

バックアップ設定内容を有効にします。以下の点に注意してください。

- ・バックアップ実行中はWEB設定画面は使用できません。
- ・バックアップ先に十分な容量がある事を確認してください。
- ・バックアップ実行時間がバックアップするファイルの容量や、装置へのアクセス状況により非常に長くなる場合があります。
- ・装置の電源ボタンを1秒押ししてシャットダウンすると強制中断可能ですが、バックアップデータは保証されません。
- ・装置の時刻を正確にあわせてください。
- ・バックアップ元(アプリケーションやOSなど)が使用中のファイルがある場合は、バックアップが正常に行えなかったり、エラー終了する場合があります。
- ・バックアップしたファイルは必ずお客様にて正常にバックアップされた事を確認してください。

クリック スケジュール設定保存 戻る

**8** [結果] の画面が表示されます。

■ 結果

スケジュール設定を完了しました。

戻る

これでスケジュールの設定は完了です。  
バックアップ中は[STATUS]ランプが緑点滅になります。バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピッピッピッ」と鳴り、[STATUS]ランプが緑点灯に変わります。

- ・設定したスケジュールでバックアップが実施されているかを確認する場合は、バックアップログを確認します。[バックアップログを確認する] (118ページ)
- ・バックアップしたデータは、以下の個所を参照してください。[セルフバックアップしたデータを確認する] (108ページ)

??  
ブザーが「ピー・ピーピー」と鳴り、[STATUS]ランプが赤点滅し、バックアップエラーになる！  
⇒[COPY]ボタンを押して[STATUS]ランプが緑点灯に変わることを確認します。その後以下の個所を参照してください。  
[困ったときには] の282ページ

??  
バックアップにかかる時間は？  
⇒以下の個所を参照してください。  
[困ったときには] の281ページ

# セルフバックアップした データを確認する

セルフバックアップしたデータを確認します。

※以下は、Windows XP での確認例です。

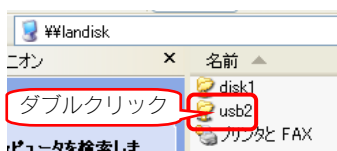
ここでは、内蔵ハードディスクの [disk1] 共有フォルダのデータを [USB ポート 2] の増設ハードディスクにバックアップした場合の確認例を説明します。

**1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。

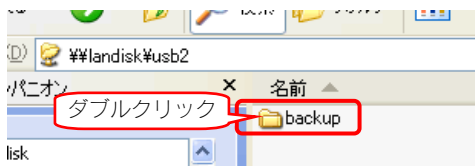
手順については、以下の個所を参照してください。

- ・ Windows から本製品にアクセスする場合  
【Windows から本製品にアクセスする】 (22ページ)
- ・ Mac OS から本製品にアクセスする場合  
【Mac OS から本製品にアクセスする】 (31ページ)

**2** バックアップした先のフォルダをダブルクリックします。  
ここでは、[usb2]フォルダをダブルクリックします。



**3** [backup]フォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



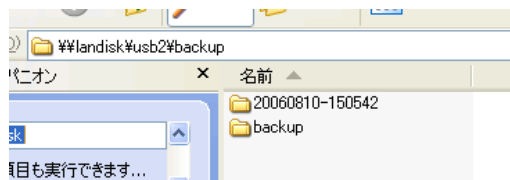
[backup]フォルダについて・・・  
セルフバックアップを行った場合に自動で作成されるフォルダです。

**4** セルフバックアップ時に設定した [バックアップ方式] に応じたフォルダをダブルクリックします。

▼セルフバックアップ設定時の [バックアップ方式] の  
選択画面



▼以下は [毎回上書き] でのバックアップと  
[履歴] でのバックアップの両方を行った場合の画面です。

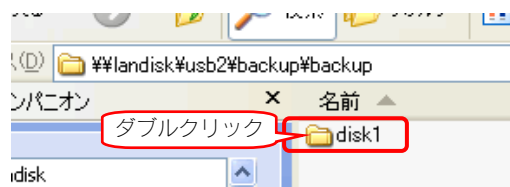


[backup]フォルダについて・・・  
セルフバックアップを行った場合に、[バックアップ方式]で [毎回上書き (backup フォルダ)] を選択した場合に自動で作成されるフォルダです。  
このフォルダに毎回上書きされます。

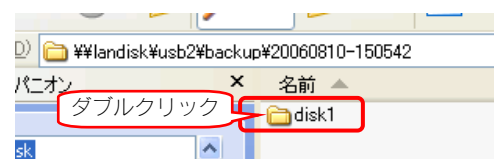
日付時刻フォルダについて・・・  
セルフバックアップを行った場合に、[バックアップ方式]で [履歴 (日付時刻フォルダ)] を選択した場合に、セルフバックアップを開始した年月日・時刻をもとにして、自動で作成されるフォルダです。  
画面例 ( [20060810-150542] ) は、2006年08月10日15時05分42秒にバックアップを開始したときに作成した例です。

**5** バックアップしたバックアップ元のフォルダが表示されないので、ダブルクリックします。  
ここでは、[disk1]フォルダをダブルクリックします。

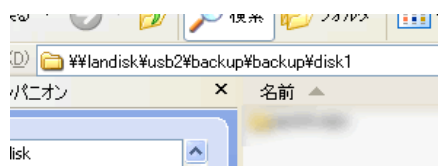
● [毎回上書き (backup フォルダ)] を選択した場合



● [履歴 (日付時刻フォルダ)] を選択した場合



**6** バックアップしたファイルやフォルダが表示されます。



以上で確認は終了です。

?? バックアップデータを見せないようできますか?  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の282ページ

# リモートバックアップ

## 今すぐ リモートバックアップする

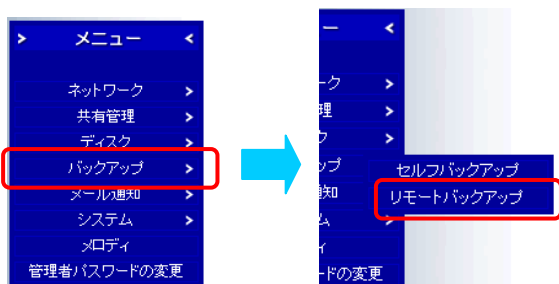
今すぐリモートバックアップを行う場合の設定について説明します。

以下の例は、同一ネットワーク上の他の LANDISK の内蔵ハードディスク内の [disk] 共有フォルダのデータやパソコン内の共有フォルダのデータを、本製品の [disk1] 共有フォルダにバックアップする例です。

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

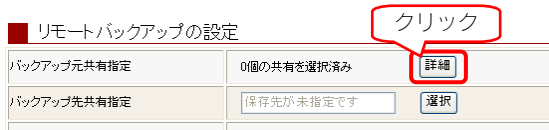


2 [メニュー]の [バックアップ] → [リモートバックアップ] を順にクリックします。



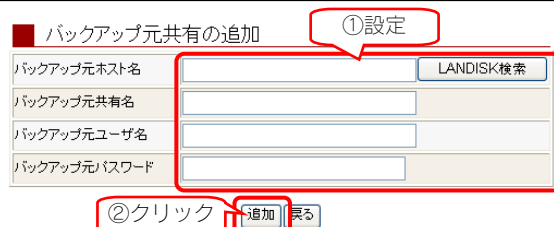
3 バックアップ元を指定します。

[バックアップ元共有指定] 欄にバックアップ元（ネットワーク上の他の LANDISK や Windows パソコン）を指定します。（最大 10 個まで指定できます。）  
[詳細] ボタンをクリックします。



4 [バックアップ元ホスト名]、[バックアップ元共有名] [バックアップ元ユーザ名] [バックアップ元パスワード] を指定後、[追加] ボタンをクリックします。

各項目の詳細については、次ページを参照してください。



**注意**

DHCP サーバより IP アドレスを自動取得にしてご利用の場合、DHCP サーバとなっている機器を再起動したり、あるいは、バックアップ元の LANDISK やパソコンを再起動すると IP アドレスが変更される可能性があります。

IP アドレスを指定する場合は、リモートバックアップを行う前に、毎回バックアップ元の IP アドレスをご確認ください。

●ネットワーク上のHDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GXR、HDL-GT、HDL-GTR シリーズからバックアップする場合の [バックアップ元ホスト名]

■ バックアップ元共有の追加

①クリック

LANDISK検索

バックアップ元ホスト名

バックアップ元共有名

バックアップ元ユーザ名

バックアップ元パスワード

追加 戻る

▼ネットワーク上に他のHDL-GTR が1台ある場合の例

■ リモートバックアップ元LANDISKの検索結果

選択	名前	IPアドレス	MACアドレス
<input checked="" type="radio"/>	LANDISK	192.168.0.4	00:a0:b0:.....

②クリック

OK クリア

■ バックアップ元共有の追加

③入力

LANDISK検索

バックアップ元ホスト名

バックアップ元共有名

バックアップ元ユーザ名

バックアップ元パスワード

④クリック

追加 戻る

バックアップ元ホスト名	バックアップ元ホスト名を指定します。上記手順のように、[LANDISK 検索] ボタンをクリックしホスト名を指定することができます。
バックアップ元共有名	バックアップ元共有フォルダを指定します。 ※バックアップ元に指定できる共有名(フォルダ)は最大10個までです。
バックアップ元ユーザ名	アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、ユーザー名は任意のものを使用できます。ただし、【文字制限一覧】(202ページ)で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。
バックアップ元パスワード	アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、[バックアップ元に設定する場合は、パスワードは任意に設定してください。ただし、【文字制限一覧】(202ページ)で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。

**注意** ネットワーク上に他の LANDISK (HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GXR、HDL-GT、HDL-GTR シリーズ) が見つからない場合は、以下の画面が表示されます。

■ リモートバックアップ元LANDISKの検索結果

LANDISKが見つかりませんでした。  
[OK]ボタンをクリックすると前画面に戻ります。

OK クリア

他の LANDISK があるのにこの画面が表示された場合は、他の LANDISK の以下をご確認ください。

- ・電源が入っていること
- ・LAN ケーブルでネットワークに接続されていること
- ・同一ネットワーク内にあること

●ネットワーク上のHDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GXR、HDL-GT、HDL-GTR シリーズ以外の LANDISK やネットワーク上の Windows パソコンからバックアップする場合の [バックアップ元ホスト名]

■ バックアップ元共有の追加

①入力

LANDISK検索

バックアップ元ホスト名

バックアップ元共有名

バックアップ元ユーザ名

バックアップ元パスワード

②クリック

追加 戻る

	バックアップ元ホスト名を指定します。	
バックアップ元ホスト名	バックアップ元が Windows XP/2000 パソコンの場合	バックアップ元の LANDISK の名前か、IP アドレスを入力します。
	バックアップ元が Windows Me/98 パソコンの場合	パソコンの [コンピュータ名] が、IP アドレスを入力します。
	バックアップ元が Windows Me/98 パソコンの場合	パソコンの [コンピュータ名] を入力します。 (IP アドレスではご利用いただけません。)
バックアップ元共有名	バックアップ元共有フォルダを指定します。 ※バックアップ元に指定できる共有名(フォルダ)は最大10個までです。	
バックアップ元ユーザ名	アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、ユーザー名は任意のものを使用できます。ただし、【文字制限一覧】(202ページ)で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。	
バックアップ元パスワード	アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、[バックアップ元に設定する場合は、パスワードは任意に設定してください。ただし、【文字制限一覧】(202ページ)で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。	

**5** 設定を確認後、[OK] ボタンをクリックします。

[バックアップ元共有の一覧] に設定した内容が追加されていることを確認します。

バックアップ元の追加が無い場合は、[戻る] ボタンをクリックして次に進んでください。

別の共有をバックアップ元に追加する場合は、[追加] ボタンで同様に追加してください。(最大 10 個まで追加できます。)

※ブラウザの [戻る] ボタンを押して戻らないでください。設定が正しく反映されません。

以下のリモートバックアップ元共有指定を追加しようとしています。

ホスト名	
共有名	
ユーザー名	

この指定を追加してもよろしいですか？

①クリック [OK]

#### バックアップ元共有の追加

バックアップ元ホスト名	LANDISK検索
バックアップ元共有名	
バックアップ元ユーザー名	
バックアップ元パスワード	

追加 [戻る] ②クリック

#### バックアップ元共有の一覧

ホスト名	共有名	操作
		削除

**6** 次に、バックアップ先を指定します。

[バックアップ先共有指定] 横の [選択] ボタンをクリックし、[バックアップ先共有フォルダの選択] 画面でバックアップ先 (ここでは [disk1]) をチェック後、[OK] ボタンをクリックします。

#### リモートバックアップの設定

バックアップ元共有指定	1個の共有を選択済み	詳細
バックアップ先共有指定	保存先が未指定です	選択
バックアップ方式	<input type="radio"/> 毎回上書き(backupフォルダ) <input checked="" type="radio"/> 履歴(日付時刻フォルダ)	全て

#### バックアップ先共有フォルダの選択

ボリューム名	共有フォルダ名
内蔵ボリューム1	<input checked="" type="radio"/> disk1
eSATA ボリューム1	<input type="radio"/> esata1
eSATA ボリューム2	<input type="radio"/> esata2
USB ボリューム1	<input type="radio"/> usb1
USB ボリューム2	<input type="radio"/> usb2

②選択 (チェック) [OK] ③クリック

接続されていない増設ハードディスクはグレー表示となります。(選択しないでください。)

**注意**

●NTFS フォーマットの増設ハードディスクをバックアップ先に指定することはできません。

**7** [バックアップ方式] を選択 (チェック) します。

#### リモートバックアップの設定

バックアップ元共有指定	1個の共有を選択済み	詳細
バックアップ先共有指定	disk	選択
バックアップ方式	<input type="radio"/> 毎回上書き(backupフォルダ) <input checked="" type="radio"/> 履歴(日付時刻フォルダ)	全て
バックアップオプション	<input type="checkbox"/> 設定と同時にバックアップを開始する <input type="checkbox"/> バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする	

#### バックアップ方式

バックアップの方式を選択します。

**毎回上書き** バックアップするごとに backup フォルダに上書きします。

**履歴** 常に指定した回数分のバックアップを[日付時刻]フォルダに残します。指定回数を超えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。

※バックアップを実行すると、本製品は [バックアップ先共有指定] で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。

その際、[毎回上書き] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [netbackup] フォルダを作成し、さらにその下に [backup] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。

[履歴] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [netbackup] フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した [日付時刻] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。

**8** [設定と同時にバックアップを開始する] をチェック後、[OK] ボタンをクリックします。

バックアップオプション	<input checked="" type="checkbox"/> 設定と同時にバックアップを開始する <input type="checkbox"/> バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする
スケジュールバックアップ機能	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 曜日指定: <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 時刻指定: 0 時 0 分
バックアップログメール送信機能	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 送信先メールアドレス

①チェック [OK] クリア

**9** [バックアップ実行時の注意] の画面が表示されます。  
内容を確認後、[今すぐバックアップ実行] をクリックしま  
す。  
→バックアップを開始します。本製品のブザー音が「ピツ」  
と鳴り、[STATUS]ランプが緑点滅状態になります。

#### ■ リモートバックアップ実行時の注意

リモートバックアップ設定内容を有効にします。  
以下の点に注意してください。

- ・バックアップ実行中はWEB設定画面は使用できません。
- ・バックアップ先に十分な容量がある事を確認してください。
- ・バックアップ実行時間中はバックアップするファイルの容量や、ネットワークのトラフィック、装置へのアクセス状況により非常に長くなる場合があります。
- ・装置の電源ボタンを1秒押してシャットダウンすると強制中断可能ですが、バックアップデータは保証されません。
- ・装置の時刻を正確にあわせてください。
- ・バックアップ元との通信が非常に遅い場合や、LINKが切れた場合は正常にバックアップ完了できません。
- ・バックアップ先にアプリケーションやOSなどが使用中のファイルがある場合は、バックアップが正常に行えなかったり、エラー終了する場合があります。
- ・バックアップしたファイルは必ずお客様にて正常にバックアップされた事を確認してください。

クリック 



#### ■ 注意

現在リモートバックアップを実行中です。  
装置のSTATUSランプが点滅中は他の操作を行わないでください。  
完了したら自動的に結果画面を表示します。

#### 注意

- バックアップ中は、[STATUS] ランプが点滅しますので、点滅が停止するまで設定画面にアクセスしないでください。
- バックアップ中はバックアップ元、先の共有フォルダへアクセスしないでください。  
データ不整合、バックアップ失敗の原因となります。

**10** [結果] の画面が表示されます。

#### ■ 結果

スケジュール設定、およびバックアップが完了しました。

バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピツピツピツ」となります。これでバックアップは完了です。実際にバックアップしたデータは、以下の個所を参照してください。

[\[リモートバックアップしたデータを確認する\] \(117ページ\)](#)



ブザーが「ピーピーピー」鳴って[STATUS]ランプが赤点滅でバックアップエラーになる！  
⇒[COPY]ボタンを押して[STATUS]ランプが緑点灯に変わることを確認します。その後以下の個所を参照してください。

[【困ったときには】の282ページ](#)



バックアップにかかる時間は？  
⇒以下の個所を参照してください。

[【困ったときには】の281ページ](#)



# リモートバックアップをスケジュールする

スケジュールリングを行ってバックアップする場合の設定について説明します。

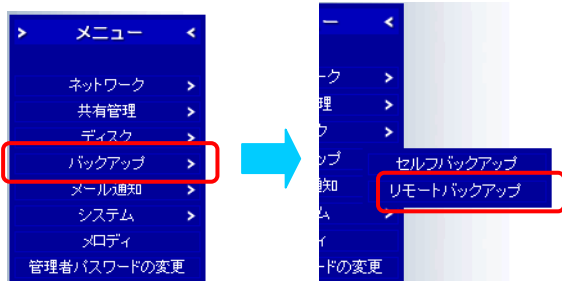
ここではスケジュールのみの設定を行います。（今すぐバックアップは実行しません。）

以下の例は、指定した日時に、同一ネットワーク上の LANDISK の内蔵ハードディスク内の [disk] 共有フォルダのデータを、本製品の [disk1] 共有フォルダにバックアップする例です。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

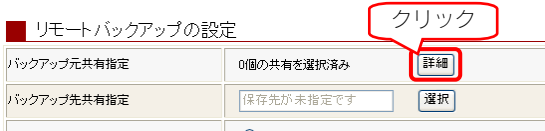


**2** [メニュー]の [バックアップ] → [リモートバックアップ] を順にクリックします。



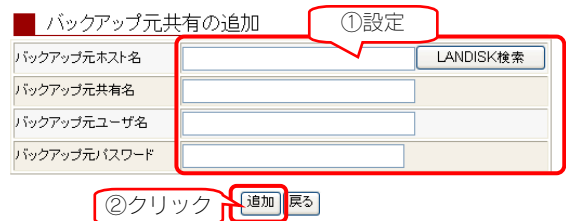
**3** バックアップ元を指定します。

[バックアップ元共有指定] 欄にバックアップ元（ネットワーク上の他の LANDISK や Windows パソコン）を指定します。（最大 10 個まで指定できます。）  
[詳細] ボタンをクリックします。



**4** [バックアップ元ホスト名]、[バックアップ元共有名] [バックアップ元ユーザ名] [バックアップ元パスワード] を指定後、[追加] ボタンをクリックします。

各項目の詳細については、次ページを参照してください。



**注意**

DHCP サーバより IP アドレスを自動取得にしてお利用の場合、DHCP サーバとなっている機器を再起動したり、あるいは、バックアップ元の LANDISK やパソコンを再起動すると IP アドレスが変更される可能性があります。

IP アドレスを指定する場合は、リモートバックアップを行う前に、毎回バックアップ元の IP アドレスをご確認ください。

●ネットワーク上のHDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GXR、HDL-GT、HDL-GTR シリーズからバックアップする場合の [バックアップ元ホスト名]

■ バックアップ元共有の追加

①クリック

バックアップ元ホスト名  LANDISK検索

バックアップ元共有名

バックアップ元ユーザ名

バックアップ元パスワード

追加 戻る

▼ネットワーク上に他のHDL-GTRが1台ある場合の例

■ リモートバックアップ元LANDISKの検索結果

選択	名前	IPアドレス	MACアドレス
<input checked="" type="radio"/>	LANDISK	192.168.0.4	00:a0:b0:.....

②クリック

OK クリア

■ バックアップ元共有の追加

③入力

バックアップ元ホスト名  LANDISK検索

バックアップ元共有名

バックアップ元ユーザ名

バックアップ元パスワード

④クリック

追加 戻る

バックアップ元ホスト名	バックアップ元ホスト名を指定します。上記手順のように、[LANDISK 検索] ボタンをクリックしホスト名を指定することができます。
バックアップ元共有名	バックアップ元共有フォルダを指定します。 ※バックアップ元に指定できる共有名(フォルダ)は最大10個までです。 ※サブフォルダは指定できません。
バックアップ元ユーザ名	バックアップ元共有フォルダにアクセス権を設定してあるユーザ名を入力します。アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、ユーザ名は任意のものを使用できます。
バックアップ元パスワード	アクセス権設定をしていない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、[バックアップ元に設定する場合は、パスワードは任意に設定してください。ただし、【文字制限一覧】(202ページ)で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。

**注意**

ネットワーク上に他の LANDISK (HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GXR、HDL-GT、HDL-GTR シリーズ) が見つからない場合は、以下の画面が表示されます。

■ リモートバックアップ元LANDISKの検索結果

LANDISKは見つかりませんでした。  
[OK]ボタンをクリックすると前画面に戻ります。

OK クリア

他の LANDISK があるのにこの画面が表示された場合は、他の LANDISK の以下をご確認ください。

- ・電源が入っていること
- ・LAN ケーブルでネットワークに接続されていること
- ・同一ネットワーク内にあること

●ネットワーク上のHDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GXR、HDL-GT、HDL-GTR シリーズ以外の LANDISK やネットワーク上の Windows パソコンからバックアップする場合の [バックアップ元ホスト名]

■ バックアップ元共有の追加

①入力

バックアップ元ホスト名  LANDISK検索

バックアップ元共有名

バックアップ元ユーザ名

バックアップ元パスワード

②クリック

追加 戻る

	バックアップ元ホスト名を指定します。	
	LANDISK の場合	バックアップ元の LANDISK の名前か、IP アドレスを入力します。
バックアップ元ホスト名	バックアップ元が Windows XP/2000 パソコンの場合	パソコンの [コンピュータ名] か、IP アドレスを入力します。
	バックアップ元が Windows Me/98 パソコンの場合	パソコンの [コンピュータ名] を入力します。 (IP アドレスではご利用いただけません。)
バックアップ元共有名	バックアップ元共有フォルダを指定します。 ※バックアップ元に指定できる共有名(フォルダ)は最大10個までです。	
バックアップ元ユーザ名	バックアップ元共有フォルダにアクセス権を設定してあるユーザ名を入力します。アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、ユーザ名は任意のものを使用できます。	
バックアップ元パスワード	アクセス権設定をしていない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、[バックアップ元に設定する場合は、パスワードは任意に設定してください。ただし、【文字制限一覧】(202ページ)で設定画面上で使用できない文字に該当する文字は使用できません。	

**5** 設定を確認後、[OK] ボタンをクリックします。

[バックアップ元共有の一覧] に設定した内容が追加されていることを確認します。  
バックアップ元の追加が無い場合は、[戻る] ボタンをクリックして次に進んでください。  
別の共有をバックアップ元に追加する場合は、[追加] ボタンで同様に追加してください。(最大 10 個まで追加できます。)

※ブラウザの [戻る] ボタンを押して戻らないでください。  
設定が正しく反映されません。

以下のリモートバックアップ元共有指定を追加しようとしています。

ホスト名	
共有名	
ユーザ名	

この指定を追加してもよろしいですか？

①クリック [OK]

#### バックアップ元共有の追加

バックアップ元ホスト名	LANDISK検索
バックアップ元共有名	
バックアップ元ユーザ名	
バックアップ元パスワード	

[追加] [戻る] ②クリック

#### バックアップ元共有の一覧

ホスト名	共有名	操作
		削除

**6** 次に、バックアップ先を指定します。

[バックアップ先共有指定] 横の [選択] ボタンをクリックし、[バックアップ先共有フォルダの選択] 画面でバックアップ先 (ここでは [disk1]) をチェック後、[OK] ボタンをクリックします。

#### リモートバックアップの設定

バックアップ元共有指定	1個の共有を選択済み	詳細
バックアップ先共有指定	保存先が未指定です	選択
バックアップ方式	<input type="radio"/> 毎回上書き(backupフォルダ) <input checked="" type="radio"/> 履歴(日付時刻フォルダ)	残す

#### バックアップ先共有フォルダの選択

ボリューム名	共有フォルダ名
内蔵ボリューム1	<input checked="" type="radio"/> disk1
eSATA ボリューム1	<input type="radio"/> esata1
eSATA ボリューム2	<input type="radio"/> esata2
USB ボリューム1	<input type="radio"/> usb1
USB ボリューム2	<input type="radio"/> usb2

②選択 (チェック) [OK] ③クリック

接続されていない増設ハードディスクはグレー表示となります。(選択しないでください。)

**注意**

●NTFS フォーマットの増設ハードディスクをバックアップ先に指定することはできません。

**7** [バックアップ方式] を選択 (チェック) します。

#### リモートバックアップの設定

バックアップ元共有指定	1個の共有を選択済み	詳細
バックアップ先共有指定	disk	選択
バックアップ方式	<input type="radio"/> 毎回上書き(backupフォルダ) <input checked="" type="radio"/> 履歴(日付時刻フォルダ)	全て 残す
バックアップオプション	<input type="checkbox"/> 設定と同時にバックアップを開始する <input type="checkbox"/> バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする	

#### バックアップ方式

バックアップの方式を選択します。

毎回上書き	バックアップするごとに backup フォルダに上書きします。
履歴	常に指定した回数分のバックアップを[日付時刻]フォルダに残します。 指定回数を超えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。

※バックアップを実行すると、本製品は [バックアップ先共有指定] で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。

その際、[毎回上書き] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [netbackup] フォルダを作成し、さらにその下に [backup] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。

[履歴] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [netbackup] フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した [日付時刻] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。

**8** [スケジュールバックアップ機能] で [使用する] をチェック後、バックアップする曜日と時刻を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

バックアップオプション	<input type="checkbox"/> 設定と同時にバックアップを開始する <input type="checkbox"/> バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする
スケジュールバックアップ機能	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない 曜日指定 <input checked="" type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 <input type="checkbox"/> 日 時刻指定 12 時 0 分
バックアップログメール送信機能	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 送信先メールアドレス

③クリック [OK] クリア

#### スケジュールバックアップ機能

設定したスケジュールでバックアップを行う場合に [使用する] をチェックします。

曜日指定	バックアップする曜日を指定します。 ※複数の指定が可能です。
時刻指定	バックアップする時刻を指定します。 24 時間制で指定します。 例) 午後 9 時の場合は、[21]時[0]分

**注意**

●他のスケジュール設定と重ならないようご注意ください。

**9** [リモートバックアップ実行時の注意] の画面が表示されます。内容を確認後、[スケジュール設定保存] をクリックします。  
→スケジュール設定を保存します。

#### ■ リモートバックアップ実行時の注意

リモートバックアップ設定内容を有効にします。  
以下の点に注意してください。

- ・バックアップ実行中はWEB設定画面は使用できません。
- ・バックアップ先に十分な容量がある事を確認してください。
- ・バックアップ実行時間またはバックアップするファイルの容量や、ネットワークのトラフィック、装置へのアクセス状況により非常に長くなる場合があります。
- ・装置の電源ボタンを1秒押ししてシャットダウンすると強制中断可能ですが、バックアップデータは保証されません。
- ・装置の時刻を正確にあわせてください。
- ・バックアップ元との通信が非常に悪い場合や、LINKが切れた場合は正常にバックアップ完了できません。
- ・バックアップ元にアプリケーションやOSなどが使用中のファイルがある場合は、バックアップが正常に行えなかったり、エラー終了する場合があります。
- ・バックアップしたファイルは必ずお客様にて正常にバックアップされた事を確認してください。

クリック

[結果] の画面が表示されます。

#### ■ 結果

スケジュール設定を完了しました。

これでス

バックアップ中は[STATUS]ランプが緑点滅になります。バックアップが完了すると本製品のブザーが「ピッピッピッ」と鳴り、[STATUS]ランプが緑点灯に変わります。

**注意**

● 指定した時間に本製品の電源が off になっている場合はバックアップは行われません。

・設定したスケジュールでバックアップが実施されているかを確認する場合は、バックアップログを確認します。 [[バックアップログを確認する](#)] (118ページ)

・バックアップしたデータは、以下の個所を参照してください。

[[リモートバックアップしたデータを確認する](#)] (次ページ)



ブザーが「ピーピーピー」と鳴り、[STATUS]ランプが赤点滅し、バックアップエラーになる！

⇒[COPY]ボタンを押して[STATUS]ランプが緑点灯に変わることを確認します。その後以下の個所を参照してください。

[【困ったときには】の282ページ](#)



バックアップにかかる時間は？

⇒以下の個所を参照してください。

[【困ったときには】の281ページ](#)

**注意**

リモートバックアップでは、ネットワークを介して通信するため、その時のネットワーク上のパソコンやトラフィックなどの通信状態により、正常に完了しないことがあります。

正常にバックアップされたかは、毎回ご確認することをおすすめします。

# リモートバックアップしたデータを 確認する

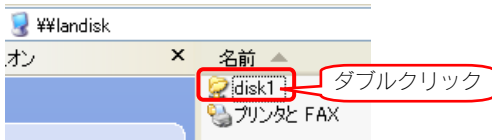
リモートバックアップしたデータを確認します。

※以下は、Windows XP での確認例です。

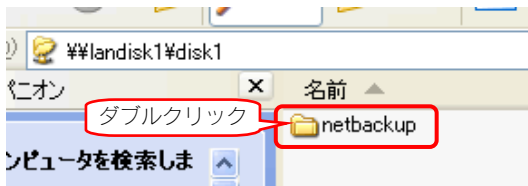
ここでは、データを本製品の [disk1] 共有フォルダにバックアップした場合の確認例を説明します。

- 1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示します。  
手順については、以下の個所を参照してください。
- ・ Windows から本製品にアクセスする場合  
【Windows から本製品にアクセスする】 (22ページ)
  - ・ Mac OS から本製品にアクセスする場合  
【Mac OS から本製品にアクセスする】 (31ページ)

- 2** バックアップした先のフォルダをダブルクリックします。  
ここでは、[disk1]フォルダをダブルクリックします。



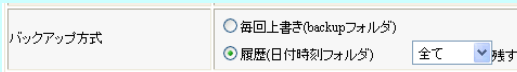
- 3** [netbackup]フォルダが作成されていることを確認後、ダブルクリックします。



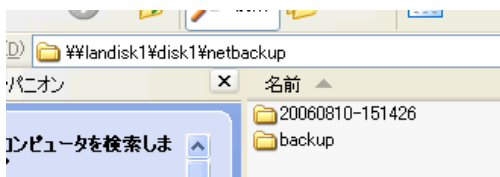
[netbackup]フォルダについて  
リモートバックアップを行った場合に自動で作成されるフォルダです。

- 4** リモートバックアップ時に設定した [バックアップ方式] に  
応じたフォルダをダブルクリックします。

▼リモートバックアップ設定時の [バックアップ方式] の  
選択画面



▼以下は [毎回上書き] でのバックアップと  
[履歴] でのバックアップの両方を行った場合の画面です。



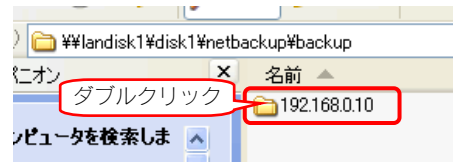
[backup]フォルダについて・・・  
リモートバックアップを行った場合に、[バックアップ方式] で【毎回上書き (backup フォルダ)】を選択した場合に自動で作成されるフォルダです。  
このフォルダに毎回上書きされます。

日付時刻フォルダについて・・・  
リモートバックアップを行った場合に、[バックアップ方式] で【履歴 (日付時刻フォルダ)】を選択した場合に、セルフバックアップを開始した年月日・時刻をもとにして、自動で作成されるフォルダです。

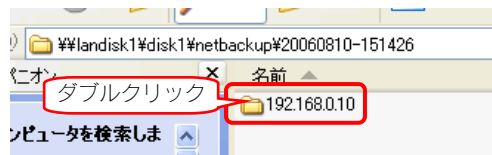
画面例 ( [20060810-151426] ) は、2006年08月10日15時14分26秒にバックアップを開始したときに作成した例です。

- 5** バックアップしたバックアップ元の IP アドレスのフォルダ  
が表示されますので、ダブルクリックします。  
画面例は、バックアップ元の IP アドレスが  
[192.168.0.10] での例です。

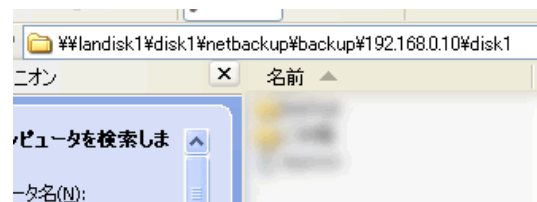
- [毎回上書き (backup フォルダ)] を選択した場合



- [履歴 (日付時刻フォルダ)] を選択した場合



- 6** バックアップしたファイルやフォルダが表示されます。



以上で確認は終了です。

?? バックアップデータを見せないようできますか?  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の282ページ

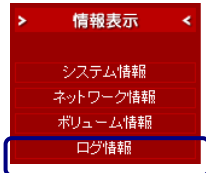
# バックアップログを確認する

設定画面の [情報表示] → [ログ情報] でバックアップログを確認します。

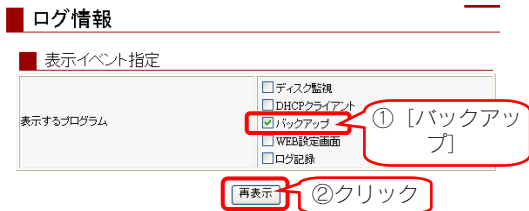
1 本製品の設定画面の情報表示メニューをクリックします。



2 情報表示メニューの [ログ情報] をクリックします。



3 [表示イベント指定] で、[バックアップ] 以外のチェックを外し、[再表示] ボタンをクリックします。



画面は一例です。

4 [ログ] 欄にバックアップログが表示されます。

▼セルフバックアップを行った場合の画面例

■ ログ		
日時	プログラム	内容
8月10日 19:15:04	バックアップ	セルフバックアップ開始(20060810-191503)
8月10日 19:15:04	バックアップ	セルフバックアップ正常終了

日時	バックアップを開始、終了した日時を表示します。	
プログラム	バックアップ	
内容	バックアップの状態を表示します。	
	セルフバックアップ開始	セルフバックアップを開始した日付と時刻を表示します。
	セルフバックアップ正常終了	セルフバックアップが正常終了したことを表します。

**注意**

ログ情報は、以下のような状況のときに削除されます。

- ・ ログのサイズが一定のサイズを超えた場合
- ・ 本製品をシャットダウンした場合
- ・ 「システムログのメール送信」を[有効]にしていて、ログメールが送信された後

※システムログをメール送信する設定については、【システムログをメール送信する】(151ページ)をご覧ください。

これでバックアップログの確認は終了です。

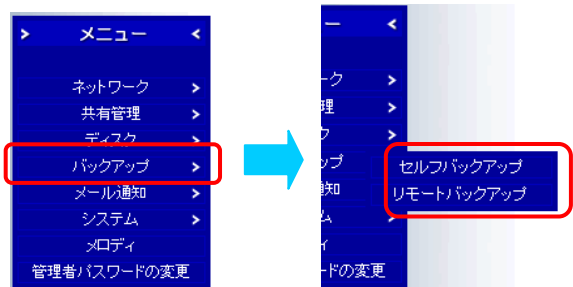
# スケジュールバックアップ設定を無効にする

スケジュールしていたバックアップ設定を無効にする設定について説明します。

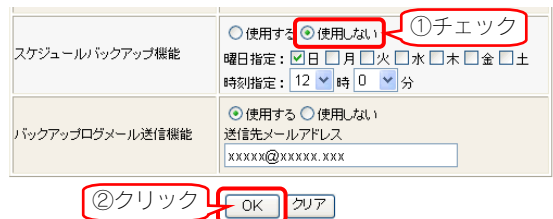
1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の [バックアップ] メニューでスケジュール設定しているバックアップ設定 ( [セルフバックアップ] または [リモートバックアップ] ) を順にクリックします。



3 [スケジュールバックアップ機能] 欄の [使用しない] をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。



4 [OK] ボタンをクリックします。

バックアップ設定を無効に設定します。よろしいですか？

クリック [OK] 戻る

5 [結果] の画面が表示されます。

**結果**

バックアップ設定を無効に設定しました。

戻る

これでスケジュールしていたバックアップ設定を無効にする設定は終了です。

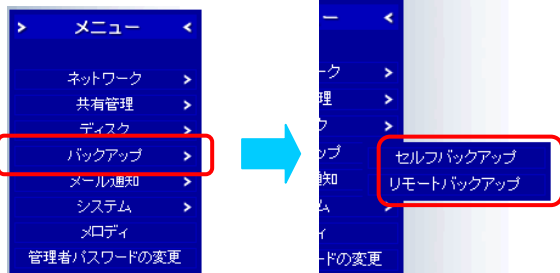
# バックアップログをメール送信する

バックアップログ情報のメール送信設定を行います。

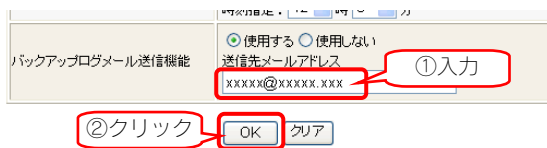
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の[バックアップ]で設定しているバックアップ設定（[セルフバックアップ]または[リモートバックアップ]）を順にクリックします。

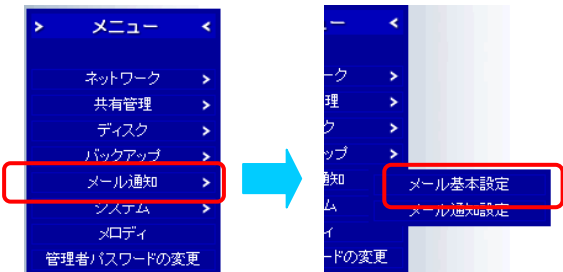


**3** [バックアップログメール送信機能]欄で、[使用する]にチェックし、[送信先メールアドレス]を入力後、[OK]ボタンをクリックします。

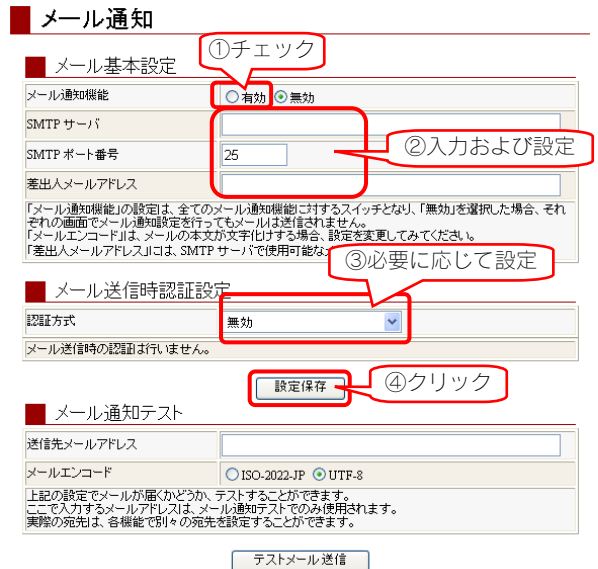


送信先メールアドレス	バックアップログを送信する送信先のメールアドレスを入力します。 ※メール送信先は、1宛先のみです。
------------	--

**4** メール送信機能全般の設定をします。  
[メニュー]の[メール通知] → [メール基本設定]を順にクリックします。



**5** [メール通知機能]の[有効]をチェックし、[SMTPサーバ] [SMTPポート番号] [差出人メールアドレス]を入力および設定します。  
必要に応じて、[メール送信時認証設定]を設定します。  
すべて設定後、[設定保存]ボタンをクリックします。



メール基本設定	
メール通知機能	ログ情報やバックアップ完了通知などをメールで送信するかどうかを設定します。
SMTPサーバ	メール送信に利用する SMTP サーバを設定します。プロバイダや会社のメールサーバなど、送りたいメールアドレスに合致するサーバ名を入力してください。
SMTPポート番号	メール送信に利用する TCP ポート番号を指定します。(初期値: 25) ご利用のプロバイダがセキュリティ上の理由で 25 番ポートでのメール送信を遮断している場合は、適切な番号に変更してください。
差出人メールアドレス	送信するメールアドレスの差出人を設定することができます。送信メールサーバが差出人チェックを実行している場合や、どこから送られてきているのかを明確にしたい場合などに設定します。
メール送信時認証設定	
認証方式	メール送信時の認証方式を選択できます。指定する SMTP サーバがサポートしている認証方式を設定してください。
POPサーバ	POP サーバ名を入力します。(POP before SMTP 時のみ)
ユーザ名	メール受信に使用するユーザ名を入力します。
パスワード	メール受信に使用するパスワードを入力します。

6 "メール設定を保存しました" と表示されます。

### メール通知

メール設定を保存しました

7 画面下の「メール通知テスト」で、正しく設定されたかを確認します。  
「送信先メールアドレス」を入力後、「テストメール送信」ボタンをクリックします。  
→テストメールを送信します。

### メール通知テスト

送信先メールアドレス  ①入力

上記の設定でメールが届くかどうか、テストすることができます。  
ここで入力するメールアドレスは、メール通知テストでのみ使用されます。  
実際の宛先は、各機能で別々の宛先を設定することができます。

②クリック

### メール通知テスト

送信先メールアドレス	送信先のメールアドレスを入力します。
------------	--------------------

8 正しく送信されると以下の画面となります。

### メール通知

メール送信のテストを行いました  
メールの送信に成功しました。宛先にメールが届いているか確認して下さい。



以下のようなエラーが表示された！

### メール通知

メールの送信のテストを行いました  
メール送信サービスの接続に失敗しました。

⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の288ページ

9 メール受信側のパソコンでは、以下のようなメールが届きます。  
※表示はお使いのメーラーにより異なります。

### ▼件名

件名	差出人	送信日時	サ
[landisk] メール通知テスト			

### ▼内容

差出人: LANDISK 宛先:  
件名: [landisk] メール通知テスト 日時: Mon, 1  
テストメールです

これでバックアップログ情報のメール送信設定は終了です。



バックアップログメールが送信されない！

⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の281ページ

## 弊社製 EasySaver LE を使う

本製品は、オートバックアップソフト「EasySaverLE」の無料ダウンロード対象製品です。

EasySaverLEは弊社ホームページ「サポートライブラリ」からダウンロードできます。

＜サポートライブラリ＞

<http://www.iodata.jp/lib/>

弊社製 EasySaver LE を使用して、パソコンのデータを本製品にバックアップしたり、逆に本製品のデータをパソコンにバックアップしたりすることができます。

詳細は、EasySaver LE の取扱説明書を参照してください。

### 注意

●EasySaverLE を使用してバックアップする場合、バックアップ元（先）に使用する本製品、あるいは、増設ハードディスクを事前にネットワークドライブに割り当てておく必要があります。

【(Windows) ネットワークドライブの割り当て方法がわからない】(290ページ)

●増設ハードディスクをバックアップで使用する場合は、事前に増設ハードディスクを接続しておいてください。

【ハードディスクやプリンタを増設する】(76ページ)



# ミラーリングする

(eSATA ハードディスクを増設する、  
RAID モード[RAID1+0]に変更する)

# ミラーリングに 使用できる増設ハードディスク

本製品本体と eSATA ハードディスクでミラーリングを構築することができます。(HDL-GTR3.0/4.0 では eSATA ミラーリング機能は利用できません。)

ミラーリングとして増設できるハードディスク (ミラーディスク) は、以下のハードディスクです。

※最新の対応機器については、[弊社ホームページ \(http://www.iodata.jp/\)](http://www.iodata.jp/)をご覧ください。

ミラーリングで使用できる動作確認済みのハードディスク	以下の弊社製ハードディスクが対応しています。 ・HDC-UX シリーズ、・RHD-UX シリーズ															
ミラーリングで接続する本製品のポート	<p>背面の <b>[eSATA ポート 1]</b> に接続する必要があります。</p> <p>本製品の [eSATA ポート 2]、あるいは、[USB ポート 1 または 2] に接続してもミラーリングを構築することはできません。</p> <p>すでに [eSATA ポート 1] に、ミラーリングを構築する以外の増設ハードディスクを接続している場合は、一度取り外す必要があります。</p> <p><a href="#">【増設ハードディスクを取り外す】(85ページ)</a></p>															
ミラーリングに必要な増設ハードディスクの容量	<table border="1" data-bbox="518 891 1455 1167"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">現在の RAID モード</th> </tr> <tr> <th>RAID0</th> <th>RAID1+0</th> <th>RAID5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HDL-GTR1.0 とミラーリングを行う場合</td> <td>約 1TB</td> <td>約 500GB</td> <td>約 750GB</td> </tr> <tr> <td>HDL-GTR2.0 とミラーリングを行う場合</td> <td>約 2TB</td> <td>約 1TB</td> <td>約 1.5TB</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 2007 年 6 月時点で、HDL-GTR2.0 とミラーリングできる容量の HDC-UX シリーズ、RHD-UX シリーズはありません。</p>		現在の RAID モード			RAID0	RAID1+0	RAID5	HDL-GTR1.0 とミラーリングを行う場合	約 1TB	約 500GB	約 750GB	HDL-GTR2.0 とミラーリングを行う場合	約 2TB	約 1TB	約 1.5TB
	現在の RAID モード															
	RAID0	RAID1+0	RAID5													
HDL-GTR1.0 とミラーリングを行う場合	約 1TB	約 500GB	約 750GB													
HDL-GTR2.0 とミラーリングを行う場合	約 2TB	約 1TB	約 1.5TB													

# eSATA ハードディスクで ミラーリングを構築する

## ミラーリングを構築する

本製品に eSATA ハードディスクを [eSATA ポート 1] に接続して、本製品と eSATA ハードディスクでミラーリングを構築することができます。

構築するには、ミラーリングにする eSATA ハードディスクを接続後、[eSATA ポート 1] の動作モードを [ミラーリング] に設定すれば構築できます。

### STEP 1 eSATA ハードディスクを eSATA1 に接続する

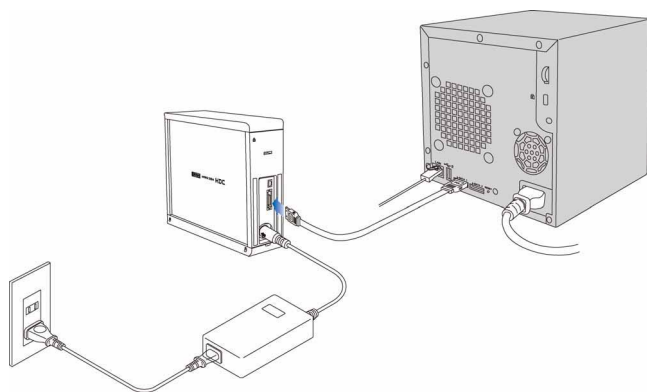
ミラーリングにする eSATA ハードディスクを本製品の eSATA ポートに接続します。

- 1 本製品の電源が入っていることを確認します。

**注意** 本製品の電源が入っている状態で接続できます。

- 2 eSATA ハードディスクの電源ケーブルを電源コンセントに接続します。

- 3 本製品の [eSATA ポート 1] に eSATA ハードディスクを接続します。  
eSATA ハードディスクは、本製品に接続してはじめて電源が入ります。(電源連動機能)  
※eSATA ハードディスクの電源連動機能については、  
eSATA ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。



以上で接続は完了です。

次に、eSATA ポート 1 の動作モードを [ミラーリング] に設定します。



- HDC-UX・RHD-UX シリーズのケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、一度 HDC-UX・RHD-UX シリーズの電源ケーブルをコンセントから抜き差ししてください。

パソコンや本製品の USB ポートでご利用になっていた HDC-UX・RHD-UX シリーズの USB ケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、切り替える前に一度 HDC-UX シリーズの電源ケーブルの抜き差しを行ってください。電源ケーブルの抜き差しを行わずに eSATA ケーブルに切り替えて本製品の [eSATA ポート] に接続しても、本製品に認識されない場合があります。

- 本製品のランプが点滅中は、増設ハードディスクを接続しないでください。

本製品の電源が入っている状態で接続できますが、[STATUS] ランプが点滅中 (設定画面操作中) や、本製品にアクセス中 ([ACCESS] ランプが点滅中) に増設ハードディスクを接続しないでください。

本製品にすでに別の増設ハードディスクを接続している場合にも、そのハードディスクのランプをご確認ください。

- 以前に [ミラーディスクの保管] を行った後、別の eSATA ハードディスクを接続すると、ミラーリングを開始します。

以前に [ミラーディスクの保管] を行い、eSATA ハードディスクを取り外した場合、[eSATA ポート 1] の動作モードは [ミラーリングモード] のままです。

[eSATA ポート 1] に HDC-UX シリーズを取り付けると、FAT/NTFS フォーマットでデータがある場合のみ、そのままではミラーリングを開始しませんが、それ以外のフォーマット形式の eSATA ハードディスクの場合、接続後、自動的にミラーリングの構築を開始します。(以前の eSATA ハードディスクのデータは消去されます。)

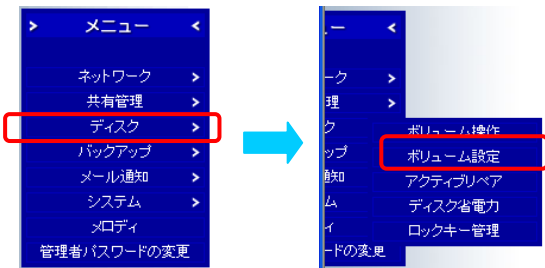
## STEP2 動作モードを[ミラーリング]に設定する

eSATA ハードディスクを接続した [eSATA ポート 1] の動作モードを [ミラーリング] に設定します。  
設定後、自動的にミラーリングの構築を開始します。

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の [ディスク] → [ボリューム設定] を順にクリックします。



3 [eSATA ボリューム 1] をチェック後、  
[ミラーリング] をチェックし、 [変更] ボタンをクリックします。



4 [OK] ボタンをクリックします。

### ボリューム設定

eSATA ボリューム1の設定を変更しようとしています。  
eSATA ボリューム1の動作モードをミラーリングに変更します。  
eSATA ボリューム1の動作モードを変更すると、現在のeSATA ボリューム1のすべてのデータが消去され、内蔵ボリュームとミラーリングを開始します。  
変更してもよろしいですか



### 削除される共有フォルダー一覧

共有名	コメント	アクセス権	サービス
esata1	HDL-GT eSATA1 disk	すべてのユーザ	Win Mac

5 [OK] ボタンをクリックします。



6 本製品の [STATUS] ランプが点灯し、[結果] 画面が表示されたら、ミラーリング設定完了です。

### 結果

eSATA ボリューム1の動作モードをミラーリングに変更しました

7 続けてミラーリング再構築が行われます。  
再構築が完了すれば、ミラーリング設定はすべて完了です。

構築中は、[STATUS] ランプが緑点灯、4つの [ACCESS] ランプはすべて青点減します。

構築状況は、[情報表示]の [ボリューム情報] 画面の [eSATA Disk 1] の [状態] 情報で確認することができます。

[再構築を行っています]の表示が、[正常動作しています]の表示となれば、構築終了です。

### ボリューム情報



再度状態を確認するには、[情報表示] → [ボリューム情報] をクリックしてください。  
一度開いた [ボリューム情報] 画面の情報は、再度 [ボリューム情報] 画面を開かないと更新されません。

以上でミラーリングの構築は完了です。

# ミラーディスクを保管する

本製品と eSATA ハードディスクでミラーリング運用中に eSATA ハードディスクを「ミラーディスクの保管」機能で取り外すことができます。

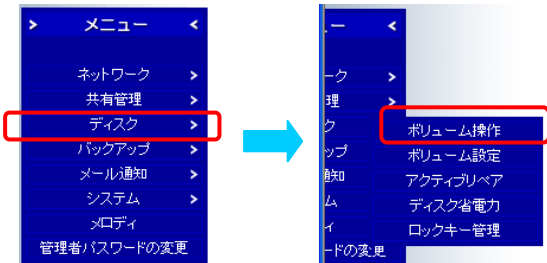
取り外した eSATA ハードディスクは、取り外した時点のミラーリング上に作成した共有データ、および、登録ユーザー、グループ情報やネットワーク設定などすべての設定情報が記録された、ミラーディスクとして保管することができます。

本製品に接続する eSATA ハードディスクを定期的に交換することで、ミラーリングを行いながら、ミラーリングしたディスク上に作成した共有データ、すべての設定情報を一定期間バックアップとして保管するといった運用も可能になります。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の [ディスク] → [ボリューム操作] を順にクリックします。



**3** [eSATA ボリューム 1] の [操作] 欄で [ミラーディスクの保管] を選択後、[実行] ボタンをクリックします。



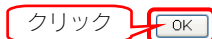
**4** [OK] ボタンをクリックします。

## 確認

「ミラーディスクの保管」を実行しようとしています。

「ミラーディスクの保管」を実行した場合、システムシャットダウンが開始されます。  
本装置の電源が完全にOFFになった後、本装置より eSATA HDD1 を取り外し、システムおよび内蔵ボリューム1上のデータのバックアップディスクとして保管することができます。

「ミラーディスクの保管」を実行しますか？



**5** [OK] ボタンをクリックします。



**6** 結果の画面が表示されますので、Web ブラウザを終了します。

## 結果

「ミラーディスクの保管」のため、シャットダウン処理を開始しました

本装置の電源が完全にOFFになった後、本装置より eSATA HDD1 を取り外すことができます。

ブラウザを終了してください。

**7** 本製品が自動的にシャットダウンを開始します。シャットダウンが終了し、本製品の電源が切れること（[POWER] ランプが赤点灯すること）を確認します。

**8** eSATA ハードディスクの eSATA ケーブルを本製品の eSATA ポートから取り外します。

**注意**

● 保管後、[eSATA ポート 1] の動作モードは、[ミラーリング] のままです。

別の eSATA ハードディスクで、再度ミラーリングを構築する場合は、その eSATA ハードディスクを接続するだけで、構築を開始します。

ただし、FAT/NTFS フォーマットで、かつ、データのある eSATA ハードディスクの場合は、接続後、[ディスク] → [ボリューム操作] 画面から [eSATA ボリューム 1] の [操作] 欄で [ミラーリング開始] を実行する必要があります。

[eSATA ポート 1] で FAT/NTFS ハードディスクとして使用したい場合は、[eSATA ポート 1] の動作モードを [共有ディスク (FAT/NTFS)] に設定する必要があります。

以上でミラーディスクの保管は完了です。

# ミラーディスクから復旧する

HDL-GTR シリーズ本体のシステムを、「ミラーディスクの保管」を行った eSATA ハードディスクのシステムに戻す（復旧する）ことができます。

以下のステップにしたがって作業を行います。

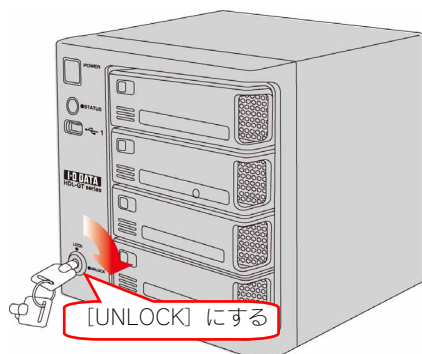
- STEP1** : カートリッジをすべて取り外す
- STEP2** : eSATA ハードディスクを接続する
- STEP3** : システムを起動させる
- STEP4** : カートリッジを戻す
- STEP5** : システムを復旧させる

## STEP1 カートリッジをすべて取り外す

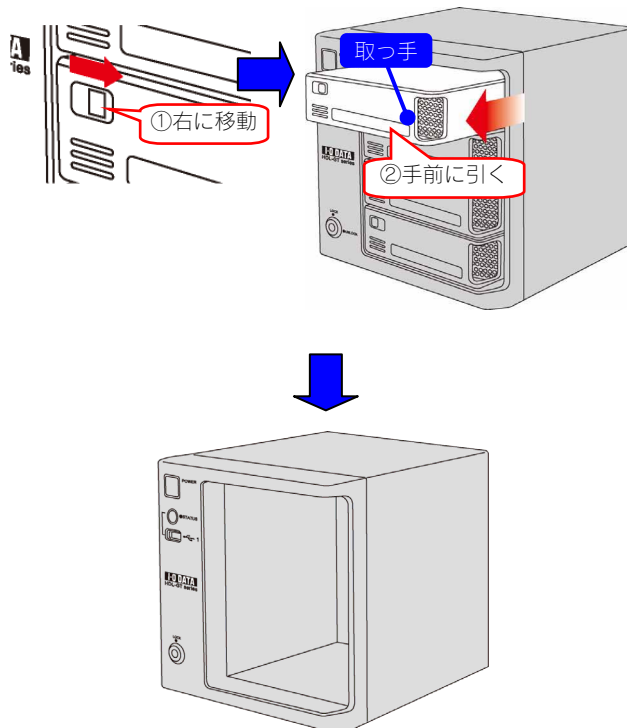
本製品の電源を切った状態で、内蔵ハードディスクの4台のカートリッジすべてを取り外します。

- 1** 本製品の電源が入っている場合は、「電源」ボタンを押して、電源を切ります。  
⇒本製品の電源が切れていることを確認します。  
( [POWER] ランプが赤点灯していることを確認します。)

- 2** LOCK キーの LOCK を解除します。  
添付のロックキーで LOCK を時計周りにまわして、[UNLOCK] にします。



- 3** カートリッジ4台すべてを取り外します。
- ①カートリッジの「スライドスイッチ」を右に移動（[UNLOCK]）します。
  - ②カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り出します。
- 4台のカートリッジすべてを取り外します。  
※どのカートリッジから取り外しても構いません。

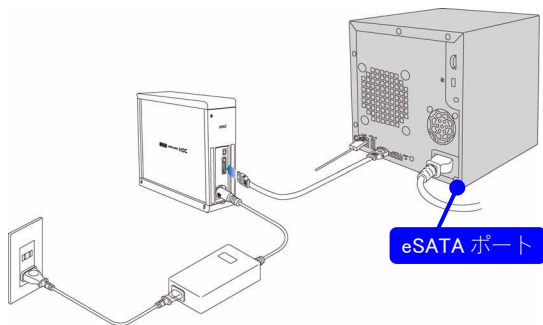


## STEP2 eSATA ハードディスクを接続する

「ミラーディスクの保管」を行った eSATA ハードディスクを本製品の [eSATA ポート 1] に接続します。

1 「ミラーディスクの保管」を行った eSATA ハードディスクの電源ケーブルを電源コンセントに接続します。

2 本製品の [eSATA ポート 1] に eSATA ハードディスクを接続します。  
eSATA ハードディスクは、本製品の電源を入れて、はじめて電源が入ります。（電源連動機能）  
※eSATA ハードディスクの電源連動機能については、eSATA ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。



次に、eSATA ハードディスクからシステム起動させます。

## STEP3 システムを起動させる

本製品の電源を入れて、eSATA ハードディスクからシステムを起動させます。

1 本製品の [電源] ボタンを押します。  
⇒ [STATUS] ランプが緑点滅を開始します。



2 [STATUS] ランプが緑色に点灯すれば、起動完了です。  
※「IP アドレス自動取得する(DHCP)」の設定で使用中で、LAN ケーブルを接続していない等で DHCP サーバから IP アドレスが取得できない状態の場合であれば、[STATUS] ランプが赤点滅になります。

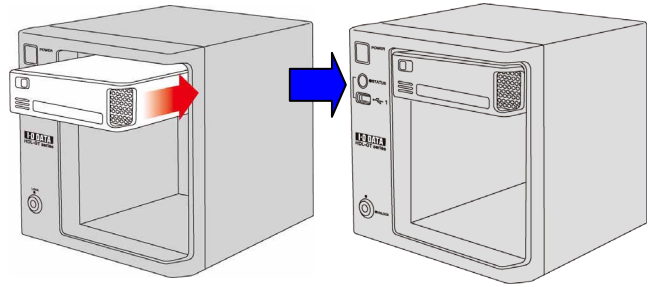
?? 電源を入れると、[STATUS] ランプが赤点滅し、ブザーが鳴り続ける！  
⇒ [COPY] ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、以下の箇所を参照してください。  
【「ミラーディスクの保管」を行った eSATA ハードディスクから起動できない】(250ページ)

## STEP4 カートリッジを戻す

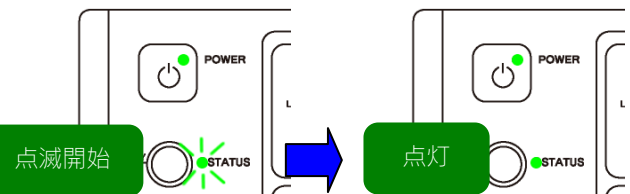
取り外していた4台のカートリッジを1台ずつ、すべて元に戻します。

**注意** ●同時に複数台取り付けないでください。  
必ず、1台ずつ [STATUS] ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

1 カートリッジを1台ずつ順に取り付けます。  
カートリッジをスロットの奥まで挿入します。



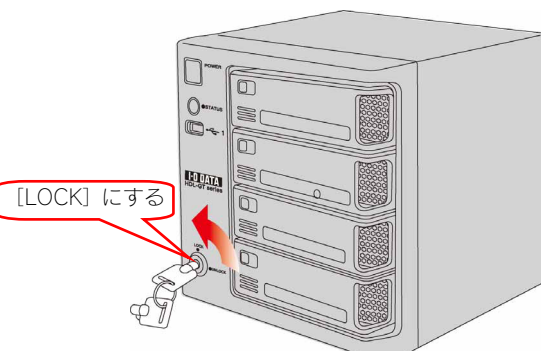
2 取り付けしたカートリッジの [スライドスイッチ] を左側 ([LOCK]) に移動させます。  
→ [STATUS] ランプが点滅しますので、点灯するまでお待ちください。



**注意** ●必ずカートリッジ1台ずつ行ってください。  
[STATUS] ランプが点滅したまま、別のカートリッジをセットすると、正しく構築できない場合があります。必ず、1台ずつ [STATUS] ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

2 2台目以降のカートリッジも同様に取り付け、4台ともすべて取り付けます。

3 添付のロックキーで LOCK を反時計周りにまわして、[LOCK] にします。



## STEP5 システムを復旧させる

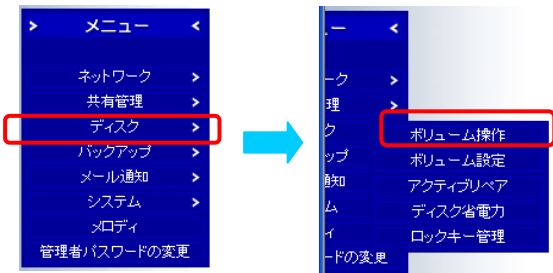
[ミラーディスクの保管] を行った eSATA ハードディスクのシステムを本製品の内蔵ハードディスクに復旧させます。

**1** [STATUS] ランプが緑点灯となっていることを確認後、本製品の設定画面を開きます。

**2** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**3** [メニュー]の [ディスク] → [ボリューム操作] を順にクリックします。



**4** [内蔵ボリューム1] の [操作] 欄で [eSATA ディスク1 からミラーリング開始] を選択後、[実行] ボタンをクリックします。

### ボリューム情報

ボリューム	動作モード	状態	操作
内蔵 ボリューム1	RAID5(分散/リレイ)	停止	eSATAディスク1からミラーリング開始 <input type="button" value="実行"/>
eSATA ボリューム1	RAID5(分散/リレイ)	停止	現在可能な操作はありません
eSATA ボリューム2	共有ディスク(FAT/NTFS)モード	未接続	現在可能な操作はありません
USB ボリューム1	共有ディスク(FAT/NTFS)モード	未接続	現在可能な操作はありません
USB ボリューム2	共有ディスク(FAT/NTFS)モード	未接続	現在可能な操作はありません



**注意** ●ミラーリングの再構築にはディスク容量および処理中の本製品の使用状況にもよりますが、目安として RAID5 構成の HDL-GTR1.0 において約 1 2 時間要します。再構築中はミラーリングによるデータ保護が有効ではありませんのでご注意ください。

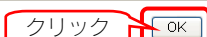
**5** [OK] ボタンをクリックします。

### ミラーリング開始の確認

警告:「ミラーリング開始」を実行しようとしています。

現在「内蔵ボリューム1」は「eSATAディスク1」のみで単体動作していますが、「ミラーリング開始」を実行すると、現在の「内蔵ボリューム1」の内容を保持したまま、「内蔵ディスク1」「内蔵ディスク2」「内蔵ディスク3」「内蔵ディスク4」の内容をすべて消去して「内蔵ボリューム1」に組み込み、再構築を開始します。必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。

「ミラーリング開始」を実行しますか？



**6** [OK] ボタンをクリックします。



**7** 本製品の [STATUS] ランプが点灯し、[結果] 画面が表示されたら、ミラーリング設定完了です。

### 結果

ミラーリングを開始しました

**8** 続けてミラーリング再構築が行われます。再構築が完了すれば、システムの復旧はすべて完了です。

構築中は、[STATUS] ランプが緑点灯、4つの [ACCESS] ランプはすべて青点滅します。

構築状況は、[情報表示]の [ボリューム情報] 画面の [eSATA Disk1] の [状態] 情報で確認することができます。[再構築を行っています]の表示が、[正常動作しています]の表示となれば、構築終了です。

### ボリューム情報

ボリューム	動作モード	状態
eSATA ボリューム1	RAID5(分散/リレイ)	再構築を行っています (66% complete)
eSATA ボリューム2	RAID5(分散/リレイ)	停止
USB ボリューム1	共有ディスク(FAT/NTFS)モード	未接続
USB ボリューム2	共有ディスク(FAT/NTFS)モード	未接続



ボリューム	動作モード	状態
eSATA ボリューム1	RAID5(分散/リレイ)	正常動作しています
eSATA ボリューム2	RAID5(分散/リレイ)	停止
USB ボリューム1	共有ディスク(FAT/NTFS)モード	未接続
USB ボリューム2	共有ディスク(FAT/NTFS)モード	未接続

再度状態を確認するには、[情報表示] → [ボリューム情報] をクリックしてください。一度開いた [ボリューム情報] 画面の情報は、再度 [ボリューム情報] 画面を開かないと更新されませ

以上の操作で eSATA ハードディスクからのシステムは復旧されます。



# RAID(1+0)で ミラーリングを構築する

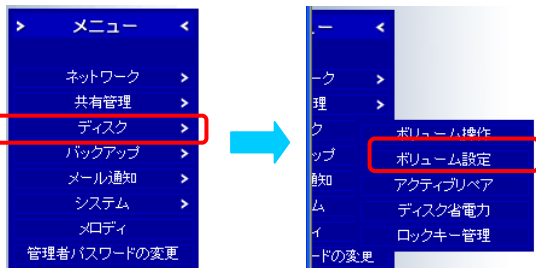
RAID (1+0) (ミラーストライピング) は、ディスクの利用効率は低いですが、データ保護機能が最も高いモードです。  
内蔵ディスク1、3および内蔵ディスク2、4で2つのミラーリングペアを構成し、2つのミラーリングペアをさらにストライピングすることにより、1つのボリュームとして使用できます。  
また、ディスクセットの保管機能により、内蔵ディスク1、2 (上2つ) または内蔵ディスク3、4 (下2つ) をディスクセットとして取り外し、内蔵ボリューム、及びシステム全体のバックアップとして保管することができます。  
トラブル発生時は、保管したディスクセットを接続してシステムを起動すると、ディスクセットを保管した時点のシステムの状態 (内蔵ボリュームの共有データ、登録ユーザ/グループ情報、その他各種設定) まで戻ることができます。

## ミラーリングを構築する

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

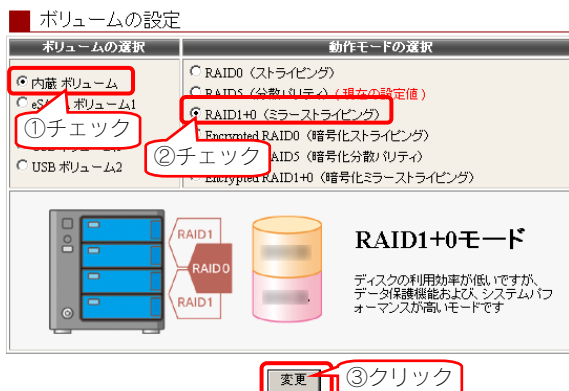


2 [メニュー]の[ディスク] → [ボリューム設定] を順にクリックします。



3 [内蔵ボリューム] をチェック後、[RAID1+0 (ミラーストライピング)] をチェックし、[変更] ボタンをクリックします。

### ボリューム設定



4 [OK] ボタンをクリックします。

### ボリューム設定

内蔵ボリュームの設定を変更しようとしています。  
内蔵ボリュームの動作モードをRAID1+0(ミラーストライピング)に変更します。  
内蔵ボリュームの動作モードを変更すると、現在の内蔵ボリュームのすべてのデータが消去されます。  
必要なデータがある場合は、あらかじめバックアップを取っておいてください。  
変更してもよろしいですか

クリック

### 削除される共有フォルダ一覧

共有名	コメント	アクセス権	サービス
-----	------	-------	------

5 [OK] ボタンをクリックします。



以上の操作でミラーリングを設定できます。

# ディスクセットを保管する

RAID1+0 (ミラーストライピング) している内蔵ハードディスクのディスクセット (上段2つのカートリッジ、または、下段2つのカートリッジ) を取り外し、システムのバックアップとして保管することができます。

取り外し後、取り外した位置に新しいディスクセットをセットする必要があります。

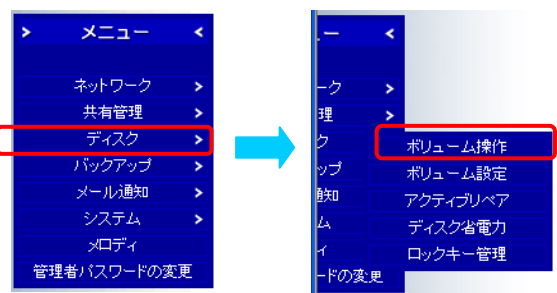
**注意** ディスクセットの保管後、同一容量の新しいカートリッジ2台をセットする必要があります。  
保管前に、別売オプション品をご購入ください。  
【オプション品について】 (296ページ)

## STEP1 [ディスクセットの保管]を実行する

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の[ディスク] → [ボリューム操作] を順にクリックします。



3 [内蔵ボリューム1]の[操作]欄で、[ディスクセット1の保管]または[ディスクセット2の保管]を選択し、[実行]ボタンをクリックします。

ボリューム情報	
内蔵 ボリューム1	動作モード RAID1+0(ミラーストライピング) 状態 正常動作しています 操作 <b>ディスクセット2の保管</b> <b>実行</b> ● 詳細情報
eSATA ボリューム1	動作モード 未接続 状態 未接続 操作 現在可能な操作はありません ● 詳細情報
	動作モード 共有ディスク(FAT/NTFS)モード

4 [OK]ボタンをクリックします。

**確認**

「ディスクセット2の保管」を実行しようとしています

「ディスクセット2の保管」を実行した場合、システムシャットダウンが開始されます。  
本装置の電源が完全にOFFになった後、本装置より内蔵ディスク2]を構成する内蔵ディスク3と内蔵ディスク4を取り外し、システムおよび内蔵ボリューム1のバックアップディスクセットとして保管することができます。

「ディスクセット2の保管」を実行しますか?

**OK** クリック

5 [OK]ボタンをクリックします。



6 結果の画面が表示されます。

**結果**

「ディスクセット2の保管」のため、シャットダウン処理を開始しました  
本装置の電源が完全にOFFになった後、本装置より内蔵ディスク3と内蔵ディスク4を取り外すことができます。  
ブラウザを終了してください。

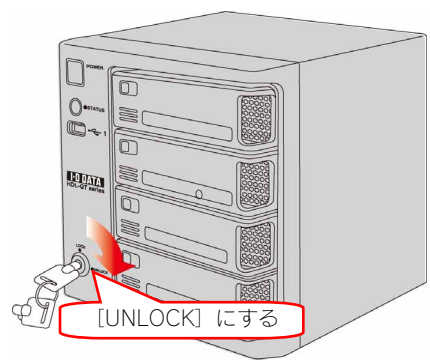
7 しばらくすると、本製品がシャットダウンします。  
→ [POWER] ランプが赤く点灯するまでお待ちください。

## STEP2 ディスクセットを取り外す

[ディスクセットの保管]で指定したディスクセット1または2を取り外します。

- ・ディスクセット1の場合→カートリッジ1と2
- ・ディスクセット2の場合→カートリッジ3と4

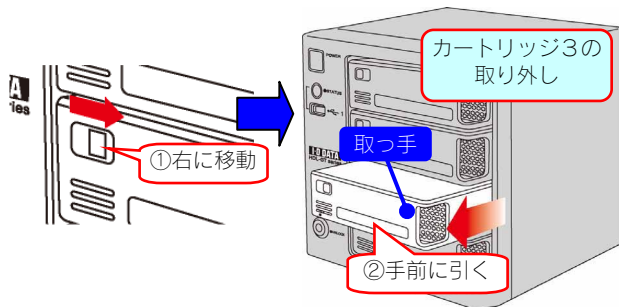
1 LOCK キーのLOCK を解除します。  
添付のロックキーで LOCK を時計周りにまわして、[UNLOCK] にします。



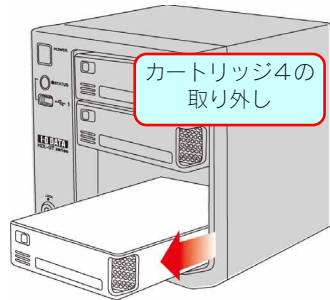
**2** ディスクセット（上段または下段2つのカートリッジ）を取り外します。

- ①取り外すカートリッジの「スライドスイッチ」を右側（[UNLOCK]）に移動します。
  - ②カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り外します。
- 同様にもう1台のカートリッジを取り外します。

▼下段2つのカートリッジ（3、4）を取り外す例



**注意**  
取り外したカートリッジを混同しないよう、添付の「インデックスシール」を貼るなどの区別をした上で保管してください。



### STEP3 システムを起動させる

本製品の電源を入れて、ディスクセットからシステムを起動させます。

**1** 本製品の「電源」ボタンを押します。  
⇒ [STATUS] ランプが緑点滅を開始します。

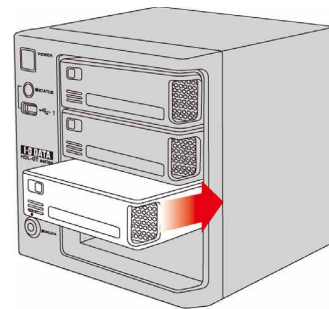
**2** [STATUS] ランプが緑色に点灯すれば、起動完了です。  
※「IP アドレス自動取得する(DHCP)」の設定で使用中で、LAN ケーブルを接続していない等で DHCP サーバから IP アドレスが取得できない状態の場合であれば、[STATUS] ランプが赤点滅になります。

### STEP4 ディスクセットを取り付ける

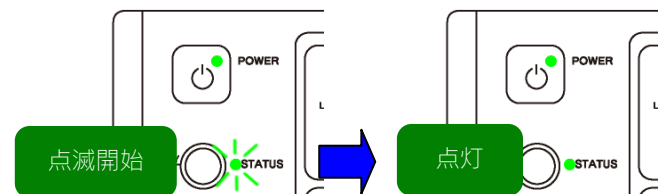
取り外した位置に新しいカートリッジ2台を取り付けます。

**注意** ●同時に2台のカートリッジ取り付けないでください。  
必ず、1台ずつ [STATUS] ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

**1** 新しいカートリッジ2台を1台ずつ順に取り付けます。  
1台目の新しいカートリッジをスロットの奥まで挿入します。



**2** 取り付けたカートリッジの「スライドスイッチ」を左側（[LOCK]）に移動させます。  
→ [STATUS] ランプが点滅しますので、点灯するまでお待ちください。



**注意** ●必ずカートリッジ1台ずつ行ってください。  
[STATUS] ランプが点滅したまま、別のカートリッジをセットすると、正しく構築できない場合があります。  
必ず、1台ずつ [STATUS] ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

**3** 同様にもう1台のカートリッジを取り付けます。

**4** 添付のロックキーで LOCK を反時計周りにまわして、[LOCK] にします。

以上の操作でディスクセットの保管は終了です。

# ディスクセットから復旧する

HDL-GTR シリーズ本体のシステムを、「ディスクセットの保管」を行った2台のカートリッジのシステムに戻す（復旧する）ことができます。以下のステップにしたがって作業を行います。

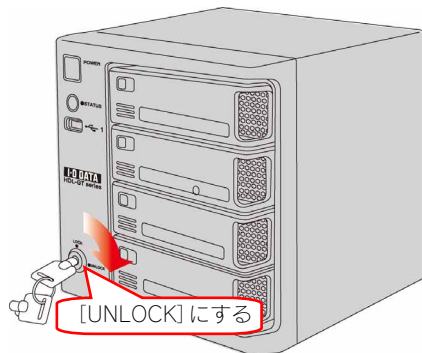
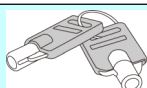
- STEP1** : カートリッジをすべて取り外す
- STEP2** : ディスクセットを取り付ける
- STEP3** : システムを起動させる
- STEP4** : 残りのカートリッジを取り付ける

## STEP1 カートリッジをすべて取り外す

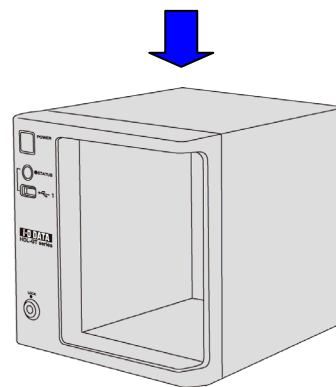
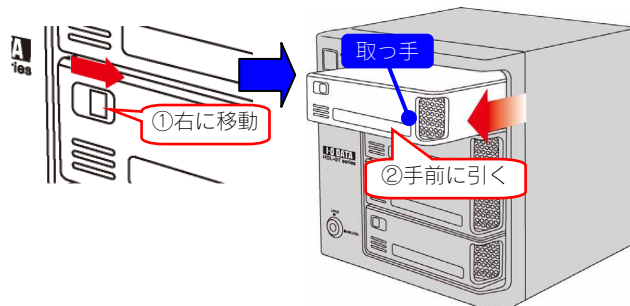
本製品の電源を切った状態で、内蔵ハードディスクの4台のカートリッジすべてを取り外します。

- 1** 本製品の電源が入っている場合は、「電源」ボタンを押して、電源を切ります。  
⇒本製品の電源が切れていることを確認します。  
( [POWER] ランプが赤点灯していることを確認します。)

- 2** LOCK キーの LOCK を解除します。  
添付のロックキーで LOCK を時計周りにまわして、[UNLOCK] にします。



- 3** カートリッジ4台すべてを取り外します。  
①カートリッジの「スライドスイッチ」を右に移動（[UNLOCK]）します。  
②カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り外します。  
4台のカートリッジすべてを取り外します。  
※どのカートリッジから取り外しても構いません。



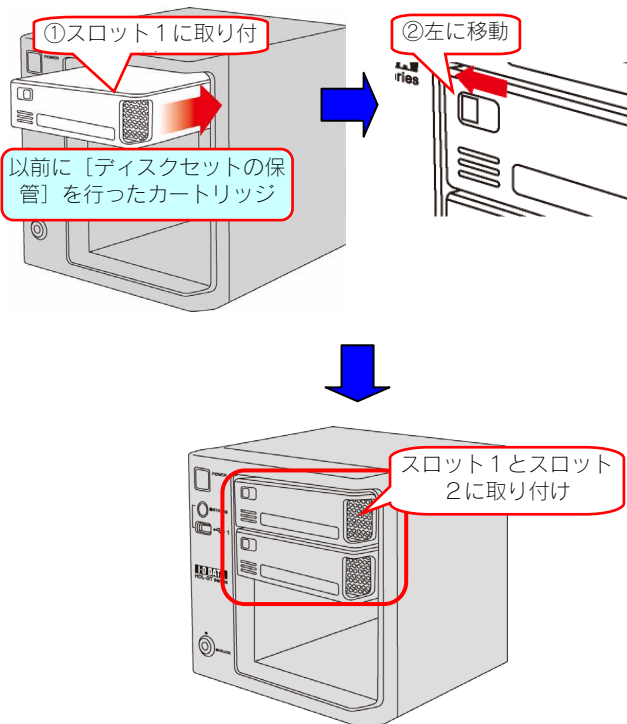
## STEP2 ディスクセットを取り付ける

【ディスクセットの保管】を行ったディスクセット（カートリッジ2台）のみを取り付けます。

- 注意**
- 必ずスロット1とスロット2に取り付けてください。
  - 【ディスクセットの保管】を行った2台のカートリッジは、どちらをスロット1とスロット2に取り付けても構いません。

**1** 本製品の電源が切れている状態で、【ディスクセットの保管】を行ったカートリッジ2台を取り付けます。  
※必ずスロット1とスロット2に取り付けてください。

- ①カートリッジをスロット1の奥まで挿入します。
  - ②【スライドスイッチ】を左側（【LOCK】）に移動させます。
- 同様にもう1台のカートリッジをスロット2に取り付けます。



## STEP3 システムを起動させる

本製品の電源を入れて、ディスクセットからシステムを起動させます。

**1** 本製品の【電源】ボタンを押します。  
⇒【STATUS】ランプが緑点滅を開始します。

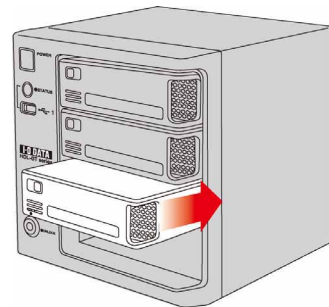
**2** 【STATUS】ランプが緑色に点灯すれば、起動完了です。  
※【IP アドレス自動取得する(DHCP)】の設定で使用中で、LAN ケーブルを接続していない等で DHCP サーバから IP アドレスが取得できない状態の場合であれば、【STATUS】ランプが赤点滅になります。

## STEP4 残りのカートリッジを取り付ける

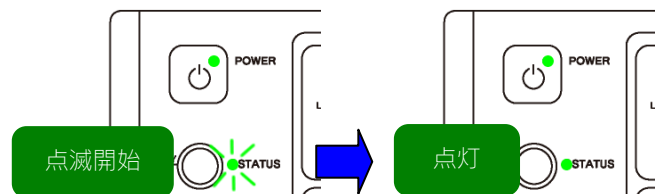
残りの2台のカートリッジを1台ずつ、すべて元に戻します。

- 注意**
- 取り付けるカートリッジの以前のデータは消去されます。
  - 同時に残り2台を取り付けしないでください。
- 必ず、1台ずつ【STATUS】ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

**1** 残りのカートリッジ2台を1台ずつ順に取り付けます。  
カートリッジをスロット3の奥まで挿入します。



**2** 取り付けしたカートリッジの【スライドスイッチ】を左側（【LOCK】）に移動させます。  
→【STATUS】ランプが点滅しますので、点灯するまでお待ちください。



- 注意**
- 必ずカートリッジ1台ずつ行ってください。
- 【STATUS】ランプが点滅したまま、別のカートリッジをセットすると、正しく構築できない場合があります。
- 必ず、1台ずつ【STATUS】ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

**3** 同様にもう1台のカートリッジを取り付けます。

**4** 添付のロックキーでLOCKを反時計周りにまわして、【LOCK】にします。

以上の操作でディスクセットからの復旧は終了です。

# UPS 装置を接続する

# UPS 装置の接続を確認する

UPS 装置を本製品の USB ポートに接続し、UPS 装置の接続を確認します。

## STEP1 UPS を接続する

本製品で UPS を使用できるように接続します。

**注意**

- 本製品の電源が入っていても入っていても接続できます。
- 本製品に接続できる UPS 装置については、弊社ホームページをご覧ください。  
(<http://www.iodata.jp/>)

**1** UPS の電源を入れ、UPS が起動することを確認します。

**2** 本製品背面の USB ポートに UPS を接続します。

以上で接続は完了です。

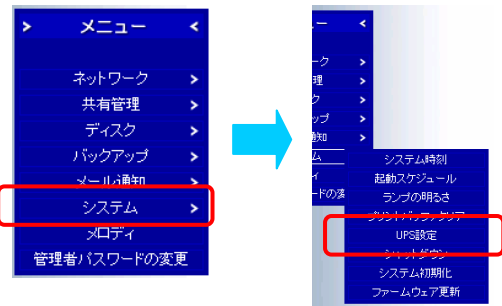
次に正しく接続されているかを確認します。

## STEP2 接続を確認する

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。

情報表示 > **メニュー** < ログオフ

**2** [メニュー]の [システム] → [UPS 設定] を順にクリックします。



**3** [UPS 接続状態]を確認します。

**UPS 状態**

UPS接続状態	接続中
UPSバッテリー充電容量	100%

**UPS 警告**

UPS警告機能  有効  無効

「UPS警告機能」を有効に設定すると、UPSの接続が確認できない、または停電状態を検出すると、ブザー音とSTATUSランプ(赤点滅)でお知らせします

**シャットダウン条件**

停電後の経過時間	10分後にシャットダウン
UPSバッテリー充電容量	10%以下でシャットダウン

UPS接続中に停電状態を検出すると、上記のシャットダウン条件のいずれかに一致した時点でシャットダウン処理を開始します

OK

以上で完了です。

**注意**

- エラーメッセージが表示された場合  
「UPS が電源に接続されていません。UPS のバッテリー電源で動作している可能性があります。UPS の電源接続を確認してください。この警告が不要な場合は、「UPS 警告機能」を無効に設定してください。」  
→ UPS が正常に接続され、UPS から「電源断」信号を受信した場合に表示します。  
「本製品に UPS が接続されていません。UPS の接続を確認してください。この警告が不要な場合は、「UPS 警告機能」を無効に設定してください。」  
→ UPS 警告機能が有効になっているが、UPS が接続されていない状態です。

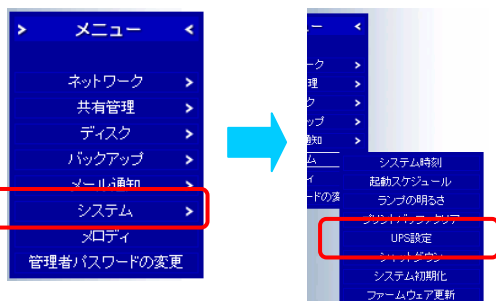
# UPS 警告機能を有効にする

本製品の USB ポートに接続した UPS 装置の状況によって警告メッセージを表示させるようにします。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の [システム] → [UPS 設定] を順にクリックします。



**3** [UPS 警告機能]の[有効]にチェックを付け、[シャットダウン条件]を選択してから、[OK]ボタンをクリックします。

## UPS状態

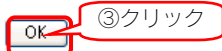
UPS接続状態	接続中
UPS/バッテリー充電容量	100.0 %

## UPS警告

UPS警告機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
「UPS警告機能」を有効に設定すると、UPSが接続が確認できない、または停電状態を とSTATUSランプ(赤点滅)で知らせます。	

## シャットダウン条件

停電後の経過時間	10分後にシャットダウン
UPS/バッテリー充電容量	10%以下でシャットダウン
UPS接続中に停電状態を検出すると、上記のシャットダウン条件のいずれかに一致し 処理を開始します	



以上で完了です。



# FTP サーバ 機能を利用する

# FTP サーバ

## 本製品での FTP サーバ機能

本製品の FTP サーバ機能としては、Anonymous FTP と User FTP サービスの2通りの設定ができます。

<p>Anonymous FTP (次ページ参照)</p>	<p>FTP クライアントソフトでユーザ名を「anonymous」にして接続することで、どのユーザからでも FTP での「ダウンロード」のみが可能になります。</p> <div data-bbox="387 734 1433 954"><p>Anonymous FTP サービスをご利用の場合 FTP クライアントから接続するには、下記のユーザ名、パスワードでログインしてください。 ユーザ名：anonymous パスワード：任意 Anonymous FTP 機能はダウンロード専用であり、本製品へのアップロードはできません。ダウンロード方法については、各 FTP ソフトの使い方をご覧ください。</p></div> <div data-bbox="387 983 1437 1232"><p>《Anonymous FTP サービス使用上の注意》</p><ul style="list-style-type: none"><li>・本サービスは、全共有（全てのユーザがアクセス可能な共有）フォルダに対してのみ設定できます。</li><li>・Anonymous FTP 機能ではファイルのアップロードはできませんので、あらかじめ Windows ネットワークファイル共有または AppleShare ネットワークファイル共有機能を利用してファイルをコピーしてください。</li><li>・インターネットへ FTP サービスを公開した場合、誰でもファイルのダウンロードが可能となります。お使いのルータの設定（ファイアウォールなどのセキュリティ）は、充分にご留意ください。</li></ul></div>
<p>User FTP (142ページ参照)</p>	<p>あらかじめ本製品にユーザを登録し、そのユーザに限り FTP での「ダウンロード」のほか「アップロード」も可能となります。</p> <div data-bbox="387 1321 1433 1541"><p>User FTP サービスをご利用の場合 FTP クライアントから接続するには、下記のユーザ名、パスワードでログインしてください。 ユーザ名：許可したユーザ名 パスワード：設定したパスワード User FTP 機能では、ダウンロード、アップロードが可能です。ダウンロード・アップロード方法については、各 FTP ソフトの使い方をご覧ください。</p></div> <div data-bbox="387 1570 1437 1749"><p>《User FTP サービス使用上の注意》</p><ul style="list-style-type: none"><li>・本サービスは、ユーザ共有（単一のユーザのみアクセス可能な共有）フォルダに対してのみ設定できます。</li><li>・インターネットへ FTP サービスを公開した場合、お使いのルータの設定（ファイアウォールなどのセキュリティ）は、充分にご留意ください。</li></ul></div>

# Anonymous FTP

ここでは、本製品で Anonymous FTP を使用する手順について説明します。

本製品で Anonymous FTP を使用するには、本製品の [FTP サービス] を有効にした後、新規作成あるいは既存の共有フォルダに Anonymous FTP 設定すれば、その共有フォルダで Anonymous FTP を使用することができます。  
以下のステップに従って FTP 設定します。

## STEP1 FTP サービスを有効にする

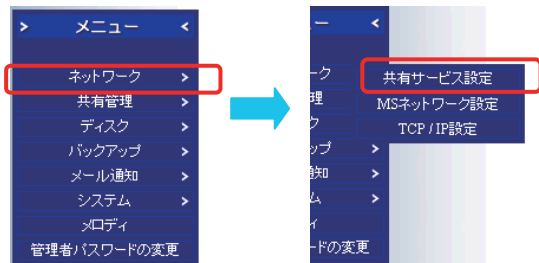
設定画面の [サービス設定] で [FTP] を有効にします。

- 注意**
- 本サービスを有効にするため作成する共有フォルダはネットワークの全ユーザより読み書き可能となります。
  - インターネットへ FTP サービスを公開した場合、誰でもファイルのダウンロードが可能となります。お使いのルータの設定（ファイアウォールなどのセキュリティ）は、充分にご確認ください。

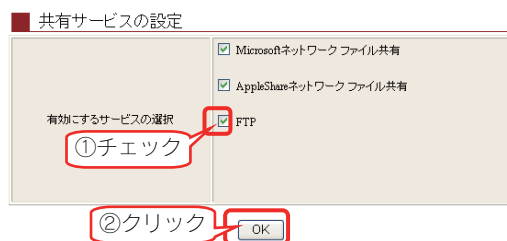
1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の [ネットワーク] → [共有サービス設定] を順にクリックします。



3 [FTP]をチェックし、[OK] ボタンをクリックします。



4 [結果] 画面が表示されます。  
[FTP]が [有効] となっていることをご確認ください。

### 結果

#### サービス設定

Microsoftネットワーク共有	有効
Microsoftネットワーク共有アクセスログ	無効
AppleShareネットワーク共有	有効
FTP	有効

次に、共有フォルダに Anonymous FTP 設定します。

## STEP2 共有フォルダに Anonymous FTP 設定する

共有フォルダに Anonymous FTP の設定をします。

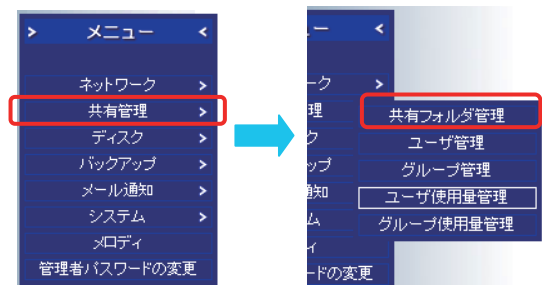
ここでは、新規で Anonymous FTP 用の共有フォルダを作成する場合を例に説明します。

- 注意**
- すでにすべてのユーザからアクセスできる共有フォルダを作成済みの場合、その共有フォルダを Anonymous FTP 設定にすることもできます。その場合は、以下の個所を参照して、共有フォルダの [Anonymous FTP を許可] を有効にしてください。  
【共有フォルダの設定を変更する】（67ページ）参照

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の [共有管理] → [共有フォルダ管理] を順にクリックします。



3 [新規共有フォルダの追加]をクリックします。

### 新規共有フォルダの作成

[新規共有フォルダの追加] をクリックして共有フォルダを追加します。

### 共有フォルダ一覧

共有フォルダ名	操作	コメント	サービス
内蔵ボリューム1の共有 disk1	詳細 変更 削除	HDL-GT RAID volume	Win Mac
eSATA ボリューム1の共有 esata1	詳細 変更 削除	HDL-GT eSATA1 disk	Win Mac
eSATA ボリューム2の共有 esata2	詳細 変更 削除	HDL-GT eSATA2 disk	Win Mac
USB ボリューム2の共有 usb2	詳細 変更 削除	HDL-GT USB2 disk	Win Mac

**4** 作成する共有フォルダを設定します。  
(設定項目の詳細な説明については、次ページを参照)

※以下は、"ftp-all"というすべてのユーザーにアクセスを許可する共有を作成する例です。

「Anonymous FTP」をご利用いただく場合には、「サービスの選択」項目で「Anonymousを許可」にチェックを付けてください。

**新規共有フォルダの追加**

共有フォルダ名	ftp-all	設定
共有フォルダのコメント	FTP for all user (anonymous) ※「共有のコメント」は、Windowsの共有のみ有効となります	
共有フォルダの作成先	内蔵ボリューム1 ※専用フォーマットされたディスクのみ選択できます。	
アクセス権の選択	<input checked="" type="radio"/> 全てのユーザーに許可 <input type="radio"/> 指定ユーザーのみ許可 <input type="radio"/> 指定グループのみ許可 <input type="checkbox"/> このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く)	チェック
サービスの選択	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoftネットワークファイル共有 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShareネットワークファイル共有 <input checked="" type="checkbox"/> Anonymous FTPを許可 <input type="checkbox"/> User FTPを許可	チェック
ごみ箱機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 ※「ごみ箱機能」は、Windowsの共有のみ利用可能です。	
OK		クリック

**5** 「結果」の画面が表示されます。  
設定した内容をご確認ください。

**結果**

**共有フォルダの設定情報**

共有フォルダ名	ftp-all
コメント	FTP for all user (anonymous)
使用ボリューム	内蔵ボリューム1
対象ユーザ	すべてのユーザ(読み書き可能)
対象サービス	Microsoftネットワークファイル共有 AppleShareネットワークファイル共有 Anonymous FTPを許可
ごみ箱機能	無効
状態	利用可能

これで、本製品内に Anonymous FTP 用の共有フォルダが作成されます。

FTP クライアントからのご利用については、以下の個所を参照してください。

[【FTP クライアントから接続する】 \(145ページ\)](#)



- Anonymous FTP 用の共有フォルダは 1 つだけ設定できます。  
新しく Anonymous FTP 共有フォルダを設定すると、以前の Anonymous FTP 共有設定はクリアされます。

◆ [新規共有フォルダの追加] 画面での設定内容

項目	設定する内容	
共有フォルダ名	共有フォルダの名前を入力します。 この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク] や [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。	
共有フォルダのコメント	Windows 用です。 ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。	
共有フォルダの作成先	共有フォルダを作成するハードディスクを選択します。  FAT/NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクに、新規に共有フォルダを作成することはできません。 （ドライブ全体がひとつの共有として認識されます。）	
アクセス権の選択	この共有フォルダのアクセスできるユーザやグループを選択します。 ここでは、 <b>[全てのユーザに許可]</b> を選択します。	
サービスの選択	共有フォルダのサービスを選択します。 目的に応じて [Microsoft ネットワーク ファイル共有] と [AppleShare ネットワーク ファイル共有] のどちらかあるいは両方を選択します。	
	Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	AppleShare ネットワーク ファイル共有	Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	Anonymous FTP を許可	<b>Anonymous FTP をご利用する場合はこちらをチェックします。</b> Anonymous（匿名）FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。 →同時に登録できる Anonymous FTP フォルダは1つのみとなります。 Anonymous FTP 機能を利用してファイルを書き込むことはできません。（読み取りのみとなります。）
	User FTP を許可	User FTP は、ユーザ共有（単一のユーザのみがアクセスできる共有）の場合のみ指定できます。
	 NT ドメイン・ActiveDirectory ログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。	
ごみ箱機能	Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。 作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。 ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、一旦 [ごみ箱] フォルダに保管されます。 [ごみ箱] フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [ごみ箱] フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に [ごみ箱] フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。 [ごみ箱] フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。 【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（66ページ）	

# User FTP

ここでは、本製品で User FTP を使用する手順について説明します。

本製品で User FTP を使用するには、本製品の [FTP サービス] を有効にした後、新規作成あるいは既存の共有フォルダに User FTP 設定すれば、その共有フォルダで User FTP を使用することができます。

以下のステップにしたがって FTP 設定します。

## STEP1 FTP サービスを有効にする

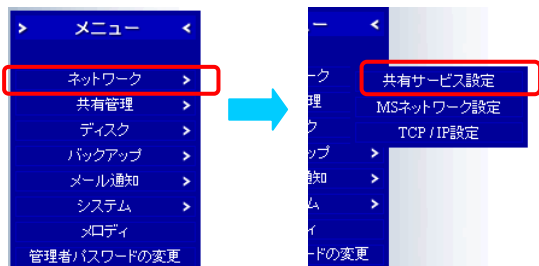
設定画面の [サービス設定] で [FTP] を有効にします。

**注意** インターネットへ FTP サービスを公開した場合、お使いのルータの設定（ファイアウォールなどのセキュリティ）は、充分にご留意ください。

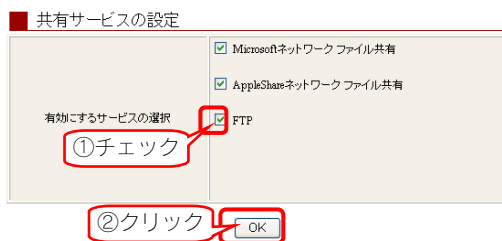
1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の [ネットワーク] → [共有サービス設定] を順にクリックします。



3 [FTP]をチェックし、[OK] ボタンをクリックします。



4 [結果] 画面が表示されます。  
[FTP]が [有効] となっていることをご確認ください。

### 結果

サービス設定	
Microsoftネットワーク共有	有効
Microsoftネットワーク共有アクセスログ	無効
AppleShareネットワーク共有	有効
FTP	有効 <b>確認</b>

次に、共有フォルダに User FTP 設定します。

## STEP2 共有フォルダに User FTP 設定する

共有フォルダに User FTP の設定をします。

ここでは、新規で User FTP 用の共有フォルダを作成する場合を例に説明します。

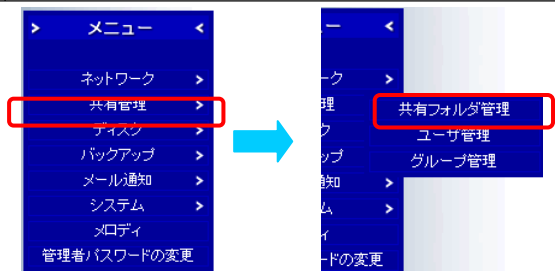
**注意** ● User FTP でご利用になる場合、事前に本製品の設定画面で User FTP で使用できるユーザを登録しておく必要があります。  
【共有フォルダを作成する】（60ページ）

●すでにユーザ専用としている共有フォルダを作成済みの場合、その共有フォルダを User FTP 設定にすることもできます。  
その場合は、以下の個所を参照して、共有フォルダの [User FTP を許可] を有効にしてください。  
【共有フォルダの設定を変更する】（67ページ）参照

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の [共有管理] → [共有フォルダ管理] を順にクリックします。



3 [新規共有フォルダの追加]をクリックします。

新規共有フォルダの作成			
新規共有フォルダの追加		クリック	
共有フォルダ一覧			
内蔵ボリューム1の共有	操作	コメント	サービス
disk1	詳細 変更 削除	HDL-GT RAID volume	Win Mac
eSATA ボリューム1の共有	操作	コメント	サービス
esata1	詳細 変更 削除	HDL-GT eSATA1 disk	Win Mac
eSATA ボリューム2の共有	操作	コメント	サービス
esata2	詳細 変更 削除	HDL-GT eSATA2 disk	Win Mac
USB ボリューム2の共有	操作	コメント	サービス
usb2	詳細 変更 削除	HDL-GT USB2 disk	Win Mac

**4** 作成する共有フォルダを設定します。  
(設定項目の詳細な説明については、次ページを参照)

※以下は、"user1"というユーザーに User FTP サービスを許可する場合の例です。

「UserFTP を許可」でご利用いただく場合には「サービスの選択」項目で「UserFTP を許可」にチェックを付けてください。

**新規共有フォルダの追加**

共有フォルダ名	ftp-user
共有フォルダのコメント	FTP for user1 ※「共有のコメント」は、Windowsの共有のみ有効となります。
共有フォルダの作成先	内蔵ボリューム1 ※ 専用フォーマットされたディスクのみ選択できます。
アクセス権の選択	<input type="radio"/> 全てのユーザーに許可 <input checked="" type="radio"/> 指定ユーザーのみ許可 user1 <input type="radio"/> 指定グループのみ許可 group1 <input type="checkbox"/> このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く)
サービスの選択	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoftネットワークファイル共有 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShareネットワークファイル共有 <input type="checkbox"/> Anonymous FTPを許可 <input checked="" type="checkbox"/> User FTPを許可
ごみ箱機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 ※「ごみ箱機能」は、Windowsの共有のみ利用可能です。

OK

**5** [結果]の画面が表示されます。  
設定した内容をご確認ください。

**結果**

**共有フォルダの設定情報**

共有フォルダ名	ftp-user
コメント	FTP for user1
使用ボリューム	内蔵ボリューム1
対象ユーザー	user1 (読み書き可能)
対象サービス	Win Microsoftネットワークファイル共有 Mac AppleShareネットワークファイル共有 FTP User FTPを許可
ごみ箱機能	無効
状態	利用可能


これで、本製品内に User FTP 用の共有フォルダが作成されます。

FTP クライアントからのご利用については、以下の個所を参照してください。

[【FTP クライアントから接続する】 \(145ページ\)](#)

**注意** ● User FTP 用の共有フォルダは、1 ユーザにつき、1 つだけ設定できます。

◆ [新規共有フォルダの追加] 画面での設定内容

項目	設定する内容	
共有フォルダ名	共有フォルダの名前を入力します。 この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク] や [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。	
共有フォルダのコメント	Windows 用です。 ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。	
共有フォルダの作成先	共有フォルダを作成するハードディスクを選択します。 <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> FAT/NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクに、新規に共有フォルダを作成することはできません。 (ドライブ全体がひとつの共有として認識されます。)</div>	
アクセス権の選択	この共有フォルダのアクセスできるユーザやグループを選択します。 ここでは、 <b>【指定ユーザのみ許可】</b> を選択し、ユーザを選択します。	
サービスの選択	共有フォルダのサービスを選択します。 目的に応じて [Microsoft ネットワーク ファイル共有] と [AppleShare ネットワーク ファイル共有] のどちらかあるいは両方を選択します。	
	Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	AppleShare ネットワーク ファイル共有	Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	Anonymous FTP を許可	このアクセス権限では指定できません。
	User FTP を許可	<b>User FTP をご利用する場合はこちらをチェックします。</b> FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。アクセス権が [指定ユーザのみ許可] の時のみ選択できます。 →同時に登録できる User FTP フォルダは 1 つのみとなります。User FTP 機能では FTP サービスを使ってファイルの読み書きが可能です。ファイル名が日本語の場合は、文字コード UTF-8 に対応する FTP クライアントソフトをご利用ください。
	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> NT ドメイン・Active Directory ログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。</div>	
ごみ箱機能	Windows (MS ネットワーク ファイル共有) でのみ利用できます。 作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。 ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、一旦 [ごみ箱] フォルダに保管されます。 [ごみ箱] フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに [ごみ箱] フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に [ごみ箱] フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。 [ごみ箱] フォルダの使い方については以下の箇所を参照してください。 【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】（66ページ）	



# FTP クライアントから 接続する

## ●FTP クライアントからのご利用について

- ・ Anonymous FTP をご利用になる場合

作成した Anonymous FTP フォルダに保存されているファイルを FTP 経由でダウンロードできます。  
作成された Anonymous FTP 用の共有フォルダは、ネットワーク経由で誰でもデータを参照できるようになります。  
FTP クライアントから接続するには、下記のユーザ名、パスワードでログインしてください。

ユーザ名	anonymous
パスワード	任意

- ・ User FTP をご利用になる場合

作成したフォルダに保存されているファイルを FTP 経由でダウンロード/アップロードできます。  
作成された User FTP の共有フォルダは、アクセスを許可設定したユーザに限りアクセスできます。  
設定したユーザ以外からのデータの参照はできませんので、ご注意ください。  
FTP クライアントから接続するには、下記のユーザ名、パスワードでログインしてください。

ユーザ名	設定したユーザ名
パスワード	設定したパスワード

## ●FTP クライアントソフトについて

LAN 内や外部から FTP でアクセスするには、FTP クライアントソフトが必要となりますので、別途ご用意ください。  
なお、Windows 標準の FTP 機能を使用する場合は、以下のように接続してください。  
(Windows 標準の FTP 機能の詳細な操作方法や不明点は、パソコンメーカー様へお問い合わせください。)



本製品の FTP サービスを利用して日本語ファイル名を取り扱う場合は、文字コード UTF-8 に対応した FTP クライアントソフトをご利用ください。  
UTF-8 に対応していない FTP クライアントソフトをご利用する場合、日本語ファイル名が文字化けします。

## ●Windows 標準の FTP 機能を使用する場合

※Windows 標準の FTP 機能の詳細な操作方法や不明点は、パソコンメーカー様へお問い合わせください。

- ①[スタート]-[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
- ②「名前」欄に、以下のように入力し、[OK] ボタンをクリックします。

`ftp://xxx.xxx.xxx.xxx`

※「xxx.xxx.xxx.xxx」の部分は、同一 LAN 内から接続する場合は本製品の IP アドレスを入力します。  
外部から接続する場合は、ルーターの WAN 側 IP アドレス、または、ダイナミック DNS サービス等で設定したホスト名を入力します。

- ③「Anonymous FTP」の場合、設定した Anonymous FTP 用の共有フォルダが開きます。  
「User FTP」の場合、[ファイル]-[ログイン方法]をクリックして、本製品で登録したユーザー名とパスワードを入力してログオンすると、「User FTP」用の共有フォルダが開きます。)

外部から FTP でアクセスする場合に、「ブロードバンドルーター」を使用している環境では、ブロードバンドルーターで「ポート開放」の設定も行ってください。

(ポート開放手順は、お使いのルーターの取扱説明書等をご覧ください。)

※「ポート開放」時のセキュリティ確保については、十分にご注意ください。



FTP サーバー機能を使用すると、フォルダやファイル名が文字化けしてしまう！  
⇒以下の個所を参照してください。  
【困ったときには】の287ページ

# システムを管理する

# 管理者パスワードを変更する

管理者は本製品の設定すべてや、全ての共有（全共有、ユーザ共有、グループ共有）にアクセスできる権限を持っています。

※全ての共有にアクセスできるのは Windows パソコンからのみです。他の人にパスワードが漏れないようしっかり管理し、定期的にパスワードを変更するようにしましょう。

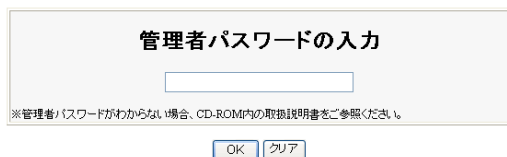
※管理者パスワードは以下の場合に使用します。

**注意** ●パスワードは忘れないようしっかり管理しましょう。  
設定したパスワードを忘れた場合、確認する方法はありません。  
設定したパスワードを忘れてしまった場合には、本製品背面の [RESET] ボタンでリセットしないと使用できなくなります。

【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】  
（156ページ）参照

●出荷時、パスワードは設定されていません。

・本製品の設定画面を開く場合



・管理者として共有フォルダにアクセスする際のパスワード  
※全ての共有にアクセスできるのは Windows パソコンからのみです。



・Windows用ユーティリティ「Magical Finder」から「IP設定」画面を開く場合



ここでは、管理者用の本製品設定時のパスワードの設定手順について説明します。

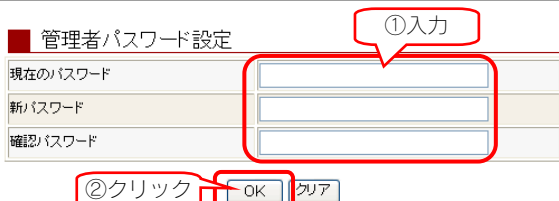
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** 左に表示される[メニュー]の「管理者パスワードの変更」をクリックします。



**3** 「現在のパスワード」と「新パスワード」「確認パスワード」を設定後、[OK] ボタンをクリックします。



現在のパスワード	管理者の現在のパスワードを入力します。 ※出荷時の場合は、設定されていません。（空欄のままにします。）
新パスワード	管理者の新しいパスワードを入力します。 <b>注意</b> ●パスワードで使用できる文字には、以下の制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。 ●入力するパスワードは、「●●●●●●」と表示され、確認できませんので、お間違えないようご注意ください。
確認パスワード	確認のため管理者の新しいパスワードをもう一度入力します。

**4** 「結果」の画面が表示されます。

以上で管理者用パスワードの設定は終了です。

# ファームウェアを 更新する

ファームウェアは弊社ホームページよりダウンロードできます。

<http://www.iodata.jp/lib>

ファームウェアの更新（アップデート）には、新しい機能の追加のほかにも装置の修正など、重要な更新が含まれます。

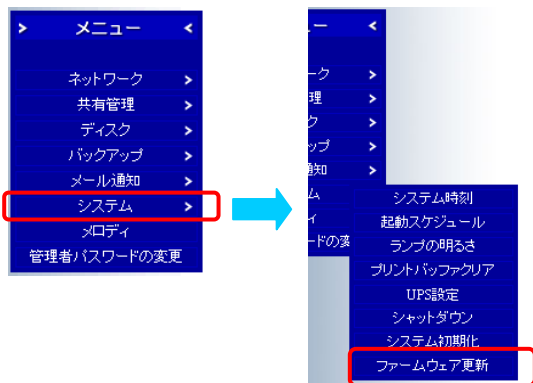
定期的に弊社サポート・ライブラリ（<http://www.iodata.jp/lib>）を確認し、最新のファームウェアで本製品をご利用ください。

ここでは、ファームウェアの更新手順について説明します。

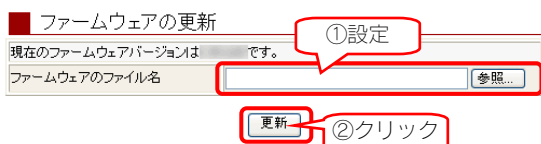
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の [システム] → [ファームウェア更新] を順にクリックします。



**3** [参照] ボタンをクリックして、ダウンロードしたファームウェアのファイル名(update.tgz)を設定し、[更新] ボタンをクリックします。



**4** 本製品の[STATUS]ランプが点滅を開始します。  
更新後、本製品が再起動します。

※ファームウェアのファイルサイズおよび本製品の状態により変化しますが、2～3分程度かかります。

以上でファームウェアの更新（アップデート）は終了です。

**注意**

●ファームウェアを更新する際は、パソコンのファイアーウォールの設定を解除してください。  
解除されていないと、正常に更新できない場合があります。

●ファームウェアの更新中は本製品の電源を切らないでください。  
更新中に電源を切ると、本製品を破損する恐れがあります。

●ファームウェアの更新後、本製品は自動的に再起動します。  
再起動完了時、DHCP サーバのあるネットワーク環境では、[STATUS]ランプ（緑色）が点灯します。  
DHCP サーバのないネットワーク環境や、DHCP サーバからのIP アドレス取得に失敗すると、[STATUS]ランプが赤く点滅します。  
DHCP サーバがあるのに、[STATUS]ランプが赤く点滅している場合には、以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の250ページ

●完全にファームウェアを更新するために、本製品にアクセスしているユーザがいらないことを確認するか、パソコンと本製品を1対1で接続して実行してください。

●ファームウェアバージョンを以前のバージョンに戻すことはできません。

●ファームウェアを更新後、設定画面が変更される場合がありますので、ブラウザのキャッシュのクリアを行ってください。

# 起動スケジュールを設定する

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の[システム] → [起動スケジュール] を順にクリックします。



3 [起動スケジュール機能] の[有効] をチェック後、[起動スケジュール表の設定] を設定し、[OK] ボタンをクリックします。

■ 起動スケジュール機能 ①チェック

起動スケジュール機能  有効  無効

「起動スケジュール機能」の設定で「無効」を選択した場合、「起動スケジュール表」で設定を行っても起動スケジュール機能は動作しません。

■ 起動スケジュール表の設定 ②設定

設定方法の選択

毎日指定時刻に起動・終了

平日の指定時刻に起動・終了

曜日個別の指定時刻に起動・終了

曜日	起動設定	起動時刻指定	終了設定	終了時刻指定
日曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
月曜日	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	8 : 0	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	22 : 0
火曜日	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	8 : 0	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	22 : 0
水曜日	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	8 : 0	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	22 : 0
木曜日	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	8 : 0	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	22 : 0
金曜日	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	8 : 0	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	22 : 0
土曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0

③クリック

▼起動スケジュール機能	
起動スケジュール機能	起動スケジュールの有効・無効を設定します。
▼起動スケジュール表の設定	
毎日指定時刻に起動・終了	毎日、同じ起動時刻、同じ終了時刻で設定する場合に選択します。
平日の指定時刻に起動・終了	月～金曜日で曜日毎に設定する場合に選択します。 (土曜、日曜日は無効となります。)
曜日個別の指定時刻に起動・終了	各曜日を個別に設定したい場合に選択します。

4 [結果] 画面が表示されます。

## 結果

起動スケジュール設定を有効にしました。

## 起動スケジュール表

曜日	起動設定	起動時刻指定	終了設定	終了時刻指定
日曜日	無効	0時0分	無効	0時0分
月曜日	有効	8時0分	有効	22時0分
火曜日	有効	8時0分	有効	22時0分
水曜日	有効	8時0分	有効	22時0分
木曜日	有効	8時0分	有効	22時0分
金曜日	有効	8時0分	有効	22時0分
土曜日	無効	0時0分	無効	0時0分

以上で起動スケジュールの設定は終了です。

## 注意

- 起動スケジュール設定を使用する場合は、電源コンセントに常に接続した状態（電源を切った場合は[POWER]ランプが赤点灯の状態：スタンバイ状態）にしておいてください。  
電源コンセントから電源ケーブルを取り外した状態では、起動スケジュール機能は動作しません。
- 起動スケジュールによる終了（シャットダウン）に関して、指定した終了時間にアクティブリペア、バックアップ、リビルドが行われている場合、処理が完了するまで終了しません。また、処理中に指定した起動時刻をすぎた場合も終了しません。

# システムログを確認する

設定画面の【情報表示】→【ログ情報】でシステムログを確認することができます。

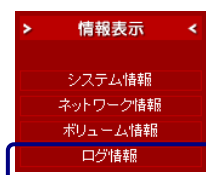
※システムログの一覧は、以下の個所を参照してください。

[【ログ一覧】 \(203ページ\)](#)

**1** 本製品の設定画面の情報表示メニューをクリックします。



**2** 情報表示メニューの【ログ情報】をクリックします。



**3** 【ログ】欄にシステムログが表示されます。



※画面は一例です。

ご利用環境により、表示される内容は異なります。

▼表示イベント指定	
表示するプログラム	記録されたログの種類のうち、表示するイベントを選択できます。 → [再表示] ボタンを押すとチェックをつけた項目のみが表示されます。
[再表示] ボタン	[表示するプログラム] 設定に応じて、再度ログを表示します。
▼ログ	
日時	ログを記録した日時を表示します。
プログラム	イベント名を表示します。
内容	ログ内容を表示します。 ログ内容の詳細については <a href="#">【ログ一覧】 (203ページ)</a> をご覧ください。

**注意**

ログ情報は、以下のような状況のときに削除されます。

- ・ログのサイズが一定のサイズを超えた場合
- ・本製品をシャットダウンした場合
- ・「システムログのメール送信」を[有効]にしている、ログメールが送信された後

※システムログをメール送信する設定については、[【システムログをメール送信する】 \(151ページ\)](#) をご覧ください。

これでシステムログの確認は終了です。

# システムログをメール送信する

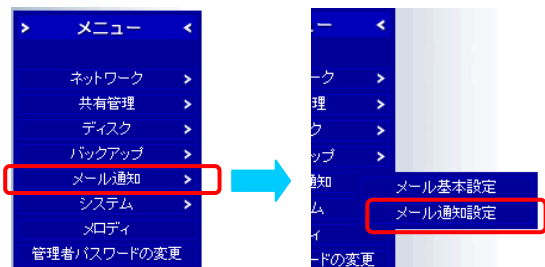
システムログ情報をメール送信することができます。  
 ※システムログの一覧は、以下の個所を参照してください。

[\[ログ一覧\] \(203ページ\)](#)

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の [メール通知] → [メール通知設定] を順にクリックします。



**3** [システムログ]欄で、[有効] にチェックし、[送信先メールアドレス] を入力後、[OK] ボタンをクリックします。

## ■ メール通知

**注意**  
 [メール基本設定]の「メール通知機能」が「無効」に設定されています。  
 「メール通知機能」を使用するには、「メール通知機能」を「有効」に設定してください。

### ■ メール通知設定

内容	メール通知	送信先メールアドレス
セルフバックアップログ	<input type="checkbox"/> 有効	
リモートバックアップログ	<input type="checkbox"/> 有効	
システムログ	<input checked="" type="checkbox"/> 有効	
システム起動	<input type="checkbox"/> 有効	
システム温度	<input type="checkbox"/> 有効	
ディスクエラー通知	<input type="checkbox"/> 有効	

①チェック

②入力

OK ③クリック

## ■ メール通知

メール通知設定を保存しました

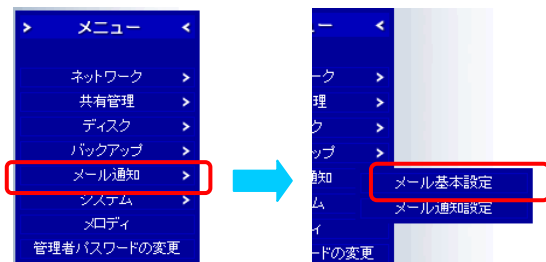
**注意**  
 [メール基本設定]の「メール通知機能」が「無効」に設定されています。  
 「メール通知機能」を使用するには、「メール通知機能」を「有効」に設定してください。

■ メール通知設定中

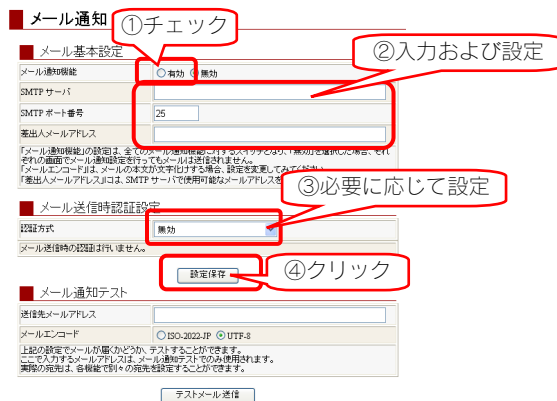
送信先メールアドレス

システムログを送信する送信先のメールアドレスを入力します。  
 ※メール送信先は、1宛先のみです。

**4** メール送信機能全般の設定をします。  
 [メニュー]の [メール通知] → [メール基本設定] を順にクリックします。



**5** [メール通知機能] の [有効] をチェックし、[SMTPサーバ] [SMTPポート番号] [差出人メールアドレス] を入力および設定します。  
 必要に応じて、[メール送信時認証設定] を設定します。  
 すべて設定後、[設定保存] ボタンをクリックします。



メール基本設定	
メール通知機能	ログ情報やバックアップ完了通知などをメールで送信するかどうかを設定します。
SMTPサーバ	メール送信に利用する SMTP サーバを設定します。プロバイダや会社のメールサーバなど、送りたいメールアドレスに合致するサーバ名を入力してください。
SMTPポート番号	メール送信に利用する TCP ポート番号を指定します。(初期値: 25) ご利用のプロバイダがセキュリティ上の理由で 25 番ポートでのメール送信を遮断している場合は、適切な番号に変更してください。
差出人メールアドレス	送信するメールアドレスの差出人を設定することができます。送信メールサーバが差出人チェックを実行している場合や、どこから送られてきているのかを明確にしたい場合などに設定します。

メール送信時認証設定	
認証方式	メール送信時の認証方式を選択できます。 指定する SMTP サーバがサポートしている認証方式を設定してください。
POP サーバ	POP サーバ名を入力します。(POP before SMTP 時のみ)
ユーザ名	メール受信に使用するユーザ名を入力します。
パスワード	メール受信に使用するパスワードを入力します。

**6** "メール設定を保存しました" と表示されます。

#### ■ メール通知

メール設定を保存しました

**7** 画面下の [メール通知テスト] で、正しく設定されたかを確認します。

[送信先メールアドレス] を入力後、 [テストメール送信] ボタンをクリックします。

→テストメールを送信します。

#### ■ メール通知テスト

送信先メールアドレス  ①入力

上記の設定でメールが届くかどうか、テストすることができます。  
ここで入力するメールアドレスは、メール通知テストでのみ使用されます。  
実際の宛先は、各機能で別々の宛先を設定することができます。

②クリック

#### メール通知テスト

送信先メールアドレス	送信先のメールアドレスを入力します。
------------	--------------------

**8** 正しく送信されると以下の画面となります。

#### ■ メール通知

メール送信のテストを行いました  
メールの送信に成功しました。宛先にメールが届いているか確認して下さい。



以下のようなエラーが表示された！

#### ■ メール通知

メールの送信のテストを行いました  
メール送信サーバとの接続に失敗しました。

⇒以下の個所を参照してください。

[【困ったときには】の288ページ](#)

**9** メール受信側のパソコンでは、以下のようなメールが届きません。  
※表示はお使いのメーラーにより異なります。

▼件名

件名	差出人	送信日時	サ
[landisk] メール通知テスト			

▼内容

差出人: LANDISK 宛先:  
件名: [landisk] メール通知テスト 日時: Mon, 1  
テストメールです

これでシステムログ情報のメール送信設定は終了です。

**注意**

- UTF-8 対応のメールソフトをご使用ください。
- システムログは、LANDISK 内のログが一定の大きさを超えた場合に送信されます。



# 省電力機能を使う

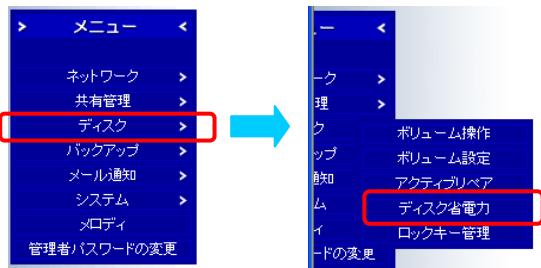
ここでは、ハードディスクの省電力機能の設定について説明します。

ハードディスクを省電力設定にすることにより、一定時間アクセスがなければ内蔵ハードディスクの回転を停止します。これにより電力消費を抑えることができます。また、本製品の省電力機能に対応しているドライブを増設ハードディスクとして使用することにより増設ハードディスクも同時に省電力モードに設定することができます。

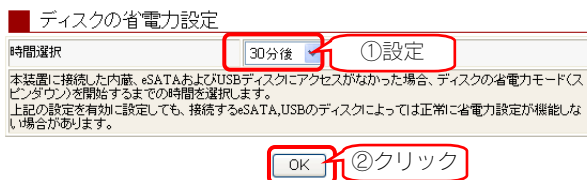
**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の [ディスク] → [ディスク省電力] を順にクリックします。



**3** [時間選択] で時間を設定後、[OK] ボタンをクリックします。



**4** [結果] の画面が表示されます。

## 結果

ディスク省電力開始時間を30分後に設定しました。

以上でハードディスクの省電力機能の設定は終了です。

## 注意

本製品を DHCP クライアントモードでご使用の場合、アドレスを更新する際に、内蔵ディスクがスピニングアップします。  
また、ネットワークの通信中やシステム処理のためにディスクアクセスすることがあります。  
DHCP サーバのリース時間を長く設定すると、アドレス更新によるスピニングアップ間隔も長くできます。

### ▼ディスクの省電力設定

時間選択	一定時間、本製品や増設ハードディスクにアクセスがない場合に、ハードディスクの動作を停止させる機能です。この停止までの時間を変更できます。「1分後」、「2分後」、「3分後」、「5分後」、「10分後」、「15分後」、「20分後」、「30分後」、「1時間後」、「なし」から選択できます。(初期値は「なし」です。)
------	---

### ▼ボリュームごとの省電力設定

内蔵ボリューム	省電力機能を設定したいドライブは「有効」を選択します。増設ドライブは必ず省電力機能に対応しているドライブをご利用の時のみ「有効」を選択してください。
eSATA ボリューム 1	
eSATA ボリューム 2	
USB ボリューム 1	
USB ボリューム 2	

**出荷時設定に戻す**

# 出荷時設定への戻し方

次のような場合、設定を出荷時設定（初期設定）に戻してください。

- ・本製品の IP アドレスがわからなくなった場合
- ・管理者の情報（[パスワード] など）がわからなくなった場合

## 本製品の出荷時設定への戻し方

本製品の出荷時設定への戻し方には 2 通りの方法があります。

### ●方法 1：IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す

→手順については [【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】](#)（次ページ）参照

本製品背面の [RESET] ボタンで初期化します。

万一本製品に設定した IP アドレスを忘れた場合や本製品設定時の管理者パスワードを忘れてしまった場合に行います。

初期化される項目は下記の 3 つのみです。

IP アドレス	[DHCP クライアント] 設定を [on] にします。 IP アドレスを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
管理者パスワード	「なし」に設定します。 管理者パスワードを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
ジャンボフレーム	「未使用 (mtu:1500)」に設定します。



- 上記以外のすべての設定情報は変更されません。
- ハードディスク内のデータは残ります。(消去されません。)

### ●方法 2：本製品のすべての設定を出荷時状態に戻す

→手順については [【本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す】](#)（157ページ）参照

設定画面の[システム初期化]で本製品のすべての設定の初期化、および、内蔵ハードディスクをフォーマットします。

※HDL-GTR1.0 の場合で約 3 分かかります。（時間は本製品の容量によって変化します。）

初期化される項目は下記のとおりです。

- ・すべての装置設定
- ・内蔵ハードディスクの全データ



事前にハードディスク内のデータをバックアップしてください。  
(増設ハードディスクのデータも事前にバックアップしてください。)

## 方法 1

# IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す

本製品背面の [RESET] ボタンで IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す（初期化する）ことができます。万一本製品に設定した IP アドレスを忘れた場合や本製品設定時の管理者パスワードを忘れてしまった場合に行います。

### ●初期化項目

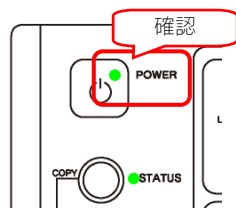
初期化される項目は下記の3つのみです。  
※他の設定は初期化されません。

IP アドレス	[DHCP クライアント] 設定を [on] にします。IP アドレスを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
管理者パスワード	「なし」に設定します。管理者パスワードを設定していた場合は、最初から設定し直す必要があります。
ジャンボフレーム	「未使用 (mtu : 1500)」に設定します。



- 初期化処理中は、本製品の電源を切らないでください。
- ハードディスク内のデータは残ります。（消去されません。）
- ネットワークに接続したまま行うことができます。

- 1** 本製品の電源が入っていること（[POWER] ランプが点灯していること）を確認します。  
電源が入っていない場合は、電源を入れます。

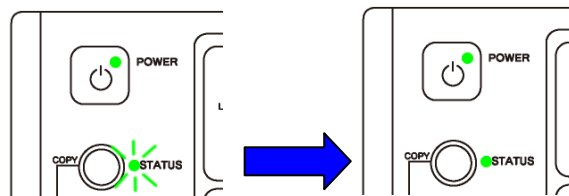


- 初期化は、本製品の電源が入っている状態で行います。
- ACCESS ランプ点灯・点滅中には、初期化しないでください。

- 2** 背面の RESET ボタンを先の細いもので約 2 秒以上、STATUS ランプが点滅し、「ピツ」と音が鳴るまで押します。



- 3** [STATUS] ランプが緑色点灯（DHCP サーバーがある場合）、または、赤色点滅（DHCP サーバーがない場合）すれば、初期化完了です。



IP アドレスと管理者パスワードが初期値となりますので、再度設定をやり直してください。

## 方法2

# 本製品のすべての設定を 出荷時設定に戻す

設定画面の[システム初期化]で本製品のすべての設定を  
出荷時設定にもどし（初期化）、さらに、内蔵ハードディスクを  
フォーマットします。

### ●初期化項目

初期化される項目は下記の項目です。

- ・すべての装置設定
- ・内蔵ハードディスクの全データ

### 注意

●事前にハードディスク内のデータをバックアップして  
ください。

（増設ハードディスクのデータも事前にバックアップして  
ください。）

- 増設ハードディスクのデータは消去されませんが、取り外  
しておくことをおすすめします。
- 内蔵ハードディスクの4つのカートリッジはすべて接続し  
ておく必要があります。
- [システム初期化]を行うと、以前のRAIDモードに関係  
なく、RAID5（分散パリティ）になります。
- 動作モードもすべて初期設定に戻ります。  
eSATAハードディスクを[ミラーリングモード]でご利用  
の場合、先に[ミラーディスクの保管]を行ってください。  
[ミラーディスクを保管する]（125ページ）

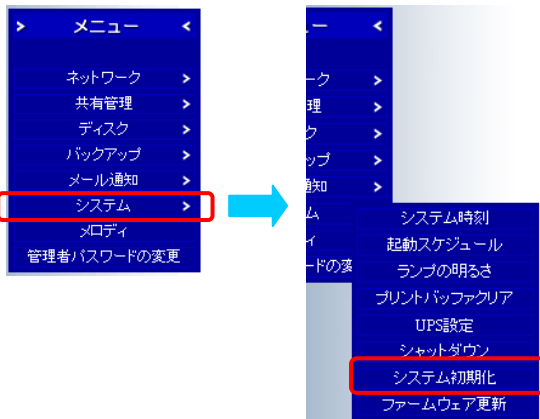
## 1

本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



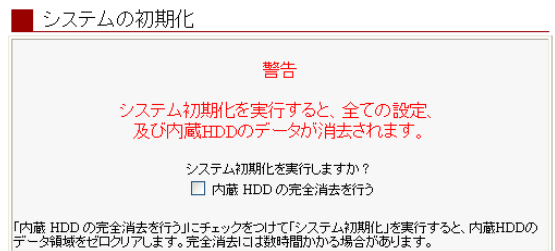
## 2

[メニュー]の[システム] → [システム初期化]を順に  
クリックします。



## 3

[OK] ボタンをクリックします。



### 注意

●[内蔵HDDの完全消去を行う]をチェックし  
た場合、内蔵ハードディスクをフォー  
マットした後、全てのデータ領域に0（ゼロ）  
を書き込みます。

本製品を廃棄や譲渡される場合にチェックしてくだ  
さい。（本処理には、目安として、1Gバイトあたり約1  
分ほど要します。）

## 4

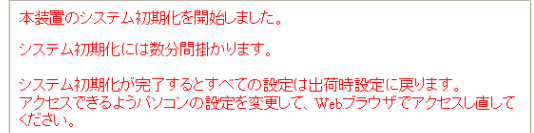
[OK] ボタンをクリックします。



## 5

[結果] 画面が表示されます。

### ■結果



### 注意

- [結果] 画面が表示された後、自動的に本製品が  
再起動しますが、再起動後もシステム初期化処  
理を続行しています。  
[STATUS] ランプが緑点灯または赤点滅状態にな  
るまでそのまましばらくお待ちください。
- システム初期化処理中に電源を切ったり、カートリッジを取  
り外したりすると、本製品が正常に起動しなくなり  
ます。  
[STATUS] ランプが緑点灯または赤点滅状態になるまで、  
何も操作しないでください。

すべての設定が初期値となりますので、再度設定をやり直し  
てください。

**RAID が  
崩壊したときには**

# RAID が 崩壊したときには

本製品使用中に以下の状態の場合、内蔵ボリューム 1 に異常が発生し、RAID が崩壊した状態（RAID 崩壊モード）となっています。一旦、RAID 崩壊モードとなった場合、バックアップを行っていた場合はバックアップしていた状態に戻すか、あるいは、強制的に内蔵ボリューム 1 を再設定\*（RAID を再構成）するしかありません。

※強制的に再設定を行うと、内蔵ボリューム 1 を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム 1 上の共有フォルダの設定、および共有フォルダ内のデータは失われます。ただし、それ以外のユーザ、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができます。

## ▼RAID 崩壊モードの状態

ランプやブザー	状態	補足
[STATUS] ランプ	赤点滅	
[ACCESS] ランプ	赤点灯	スライドスイッチが LOCK されているすべてのカートリッジが赤点灯します。 (未接続、あるいは、UNLOCK のカートリッジは消灯状態です。)
ブザー	「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている	前面の [COPY] ボタンを押すとブザーは停止します

RAID 崩壊モードとなった場合、以下のいずれかの対処を行ってください。

※ブザーは、前面の [COPY] ボタンを押せば止まります。

## ●対処 1：保管したミラーディスクから復旧する

以前に eSATA ハードディスクに「ミラーディスクの保管」を行い、システムのバックアップがある場合は、その eSATA ハードディスクからシステムを復旧することができます。

手順については、以下の個所を参照してください。

[【ミラーディスクから復旧する】（126ページ）](#)

## ●対処 2：保管したディスクセットから復旧する

以前に「ディスクセットの保管」を行ったディスクセット（カートリッジ 2 台）がある場合は、その eSATA ハードディスクからシステムを復旧することができます。

手順については、以下の個所を参照してください。

[【ディスクセットから復旧する】（132ページ）](#)

## ●対処 3：RAID を再構成する

設定画面の [メンテナンス] 操作で RAID を再構成することができます。

ただし、[メンテナンス] での RAID の再構成では、ユーザ、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリューム 1 を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム 1 上に作成した共有フォルダ、および共有フォルダ内のデータはすべて失われます。

手順については、以下の個所を参照してください。

[【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】（次ページ）](#)

# RAID 崩壊モードから RAID を再構成する

ここでは、RAID 崩壊状態から内蔵ボリューム1のRAIDを再構成する方法として、設定画面の「メンテナンス」での方法について説明します。

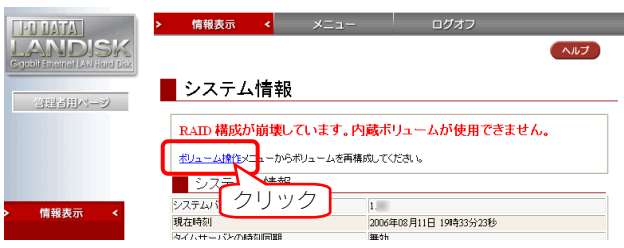
**注意** ●以下の「メンテナンス」でのRAIDの再構成では、ユーザ、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリューム1を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム1上に作成した共有フォルダ、および共有フォルダ内のデータはすべて失われます。

●「メンテナンス」でのRAIDの再構成は現在のRAIDモードでの再構成です。  
設定画面の「メニュー」→「ディスク」→「ボリューム設定」で、別の「RAIDモード」に変更することも可能です。  
ただし、「メンテナンス」操作同様、ユーザ、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリューム1を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム1上に作成した共有フォルダ、および共有フォルダ内のデータはすべて失われます。

●RAID崩壊状態になった後、一旦本製品の電源を切る（シャットダウン）すると、以下の手順ができなくなります。  
万一、電源を切った場合には、以下の個所を参照してください。  
【強制的にRAIDを再構成する】（次ページ）

**1** 本製品の設定画面を開きます。  
開き方については、以下の個所を参照してください。  
【設定画面の開き方】（37ページ）

**2** 設定画面を開くと、「システム情報」に、「RAID構成が崩壊しています」と表示されています。  
画面上の「ボリューム操作」をクリックします。



**3** 「操作」欄で「メンテナンス」を選択後、「実行」ボタンをクリックします。

**ボリューム操作**

**ボリューム情報**

内蔵ボリューム1	動作モード 状態 操作	RAID5(分散リレディ) 崩壊 メンテナンス 実行
	詳細情報	①選択 ②クリック
eSATAボリューム1	動作モード 状態 操作	未接続 現在可能な操作はありません
	詳細情報	
	動作モード	共有ディスク(FAT/NTFS)モード

**4** [OK] ボタンをクリックします。

**内蔵ボリューム1のメンテナンス**

「内蔵ボリューム1」は動作モードの再設定が必要です

再設定を実行すると、「内蔵ディスク1」「内蔵ディスク2」「内蔵ディスク3」「内蔵ディスク4」は「内蔵ボリューム1」のRAID5(分散リレディ)構成ディスクとして組み込みます。  
現在の「内蔵ディスク1」「内蔵ディスク2」「内蔵ディスク3」「内蔵ディスク4」上のデータは消去されます。  
「内蔵ボリューム1」の再設定を実行しますか？

**5** [OK] ボタンをクリックします。



**6** 数分後、以下の画面となります。

**結果**

内蔵ボリュームの動作モードをRAID5(分散リレディ)に変更しました

以上でRAIDの再構成は終了です。

他のRAIDモードに変更する場合は、以下の個所を参照してください。

【RAIDモードの変更】（41ページ）



## 強制的に RAID を再構成する

ここでは、RAID を構成するカートリッジを誤って FAT32 フォーマットにしたために、あるいは、RAID 崩壊後、本製品の電源を入れなおした場合など、正常な RAID が構成されていないために、本製品を起動できなくなった場合の再構成を行う手順について説明します。

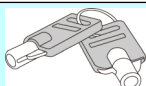


●本操作を行うと、ユーザ、グループの設定をはじめとする各種設定は引き継ぐことができますが、内蔵ボリューム1を再度作成し直しますので、以前の内蔵ボリューム1上に作成した共有フォルダ、および共有フォルダ内のデータはすべて失われます。

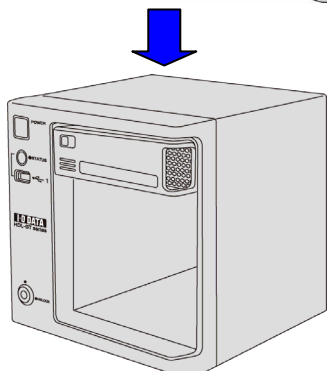
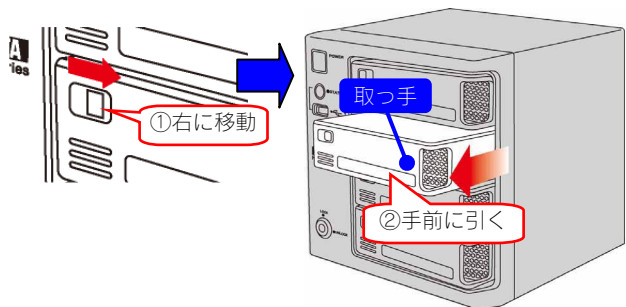
### STEP1 カートリッジ1以外を取り外す

**1** 本製品の電源が入っている場合は、「電源」ボタンを押して、電源を切ります。  
→本製品の電源が切れていることを確認します。  
( [POWER] ランプが赤点灯していることを確認します。)

**2** LOCK キーの LOCK を解除します。  
添付のロックキーで LOCK を時計周りにまわして、[UNLOCK] にします。



**3** RAID システムの入っているスロット1のカートリッジ1台だけを残して、残りのカートリッジ3台すべてを取り外します。  
①カートリッジの [スライドスイッチ] を右に移動 ( [UNLOCK] ) します。  
②カートリッジの「取っ手」を手前に引いてカートリッジを取り出します。  
スロット2～4の3台のカートリッジを取り外します。  
※どのカートリッジから取り外しても構いません。

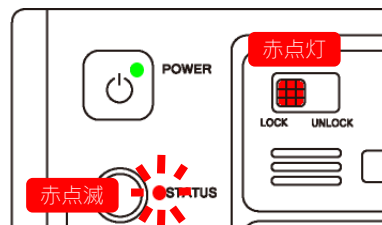


### STEP2 システムを起動させる

1 台のカートリッジで本製品のシステムを起動させます。

**1** 本製品の [電源] ボタンを押します。

**2** しばらくすると、ブザーが「ピーピーピー」と繰り返し鳴り、[STATUS] ランプが赤点滅、[ACCESS] ランプが赤点灯します。  
※本製品は起動途中で停止している状態です。



**3** [COPY] ボタンを押して、まずブザーを止めます。

### STEP3 設定用パソコンの IP アドレスを一時的に変更する

本製品起動途中の停止画面を開き、この後の作業を行います。ただし、ネットワーク内に DHCP サーバのあり、なしにかかわらず、本製品は「192.168.0.200」の固定の IP アドレスで起動しているため、パソコン側も一時的に「192.168.0」と同じセグメントで「192.168.0.200」以外に設定する必要があります。

**1** パソコンの [IP アドレス] [サブネットマスク] を一時的に以下の値に変更します。  
[IP アドレス] ・ ・ ・ 192.168.0.xxx  
(xxx には 200 を除く 1~254 のいずれかの値)  
[サブネットマスク] ・ ・ ・ 255.255.255.0



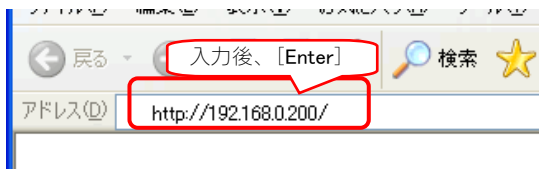
パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない  
⇒以下の個所を参照してください。  
【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】  
(292ページ)



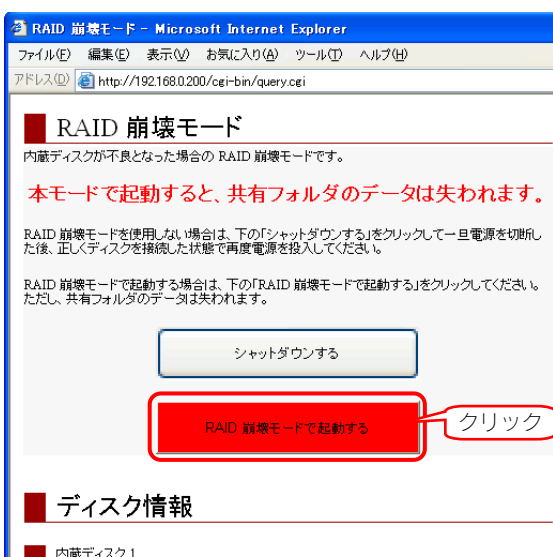
●後で元の設定に戻しますので、必ず現在の [IP アドレス] [サブネットマスク] [デフォルトゲートウェイ] [ (ルータ) アドレス] などはメモしておいてください。  
●停止画面を「Magical Finder」から開くことはできません。

## STEP4 停止画面を開く

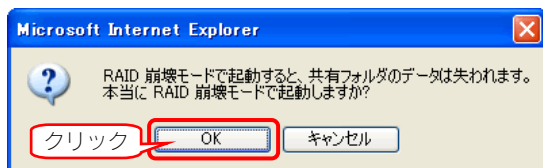
- 1 Web ブラウザを起動して下記を入力し、[Enter]キーを押します。  
http://192.168.0.200/



- 2 以下の画面が表示されます。  
[RAID 崩壊モードで起動する] をクリックします。



- 3 [OK] ボタンをクリックします。



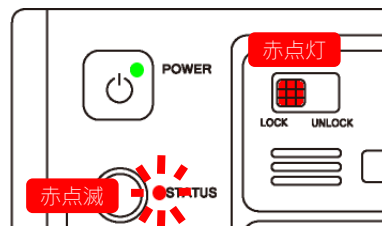
- 4 以下の画面が表示され、本製品は「RAID 崩壊モード」で起動します。  
→この後、本製品の IP アドレスは、以前に使用していた IP アドレス環境での IP アドレスで起動します。

### システム起動

内蔵ディスク 1 が起動ディスクとして選択されました。  
現在本起動中です。

起動後の IP アドレスは、内蔵ディスク 1 に保存されている設定値になります。このため、現在のアドレス (192.168.0.200) と異なる場合があります。

- 5 しばらくすると、ブザーが「ピーピーピー」と3回鳴り、  
[STATUS] ランプが赤点滅、[ACCESS] ランプが赤点灯します。

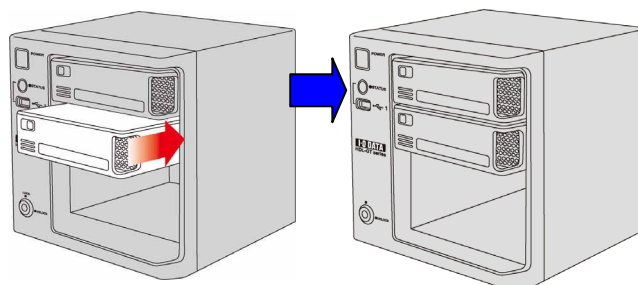


## STEP5 カートリッジを戻す

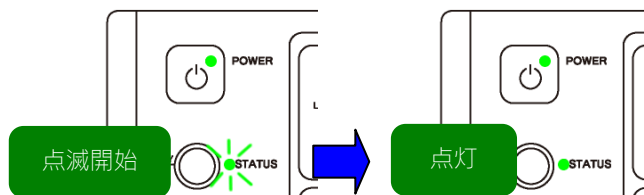
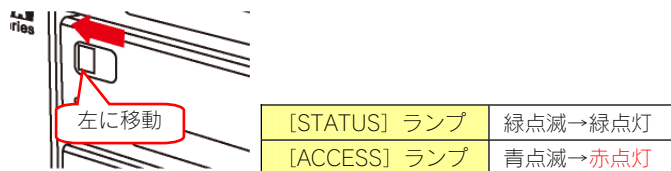
取り外していた3台のカートリッジを1台ずつ、すべて元に戻します。

- 注意** ●同時に複数台取り付けしないでください。  
必ず、1台ずつ [STATUS] ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

- 1 カートリッジを1台ずつ順に取り付けます。  
カートリッジをスロットの奥まで挿入します。



- 2 取り付けしたカートリッジの [スライドスイッチ] を左側 ( [LOCK] ) に移動させます。  
[STATUS] ランプが緑点滅から緑点灯に変わり、「ピー」とブザーが鳴るまでお待ちください。  
[ACCESS] ランプは赤く点灯します。

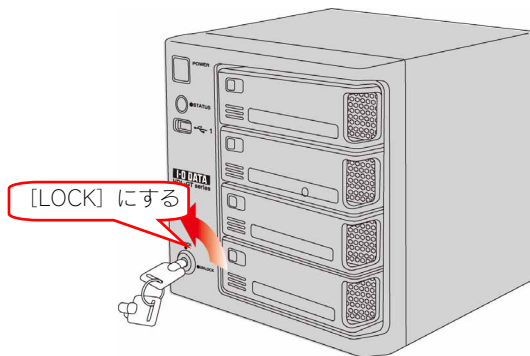


- 3** 3台以降のカートリッジも同様に取り付け、4台ともすべて取り付けます。



●必ずカートリッジ1台ずつ行ってください。  
[STATUS] ランプが点滅したまま、別のカートリッジをセットすると、正しく構築できない場合があります。必ず、1台ずつ [STATUS] ランプが点灯することを確認してから次のカートリッジを取り付けてください。

- 4** 添付のロックキーで LOCK を反時計周りにまわして、[LOCK] にします。



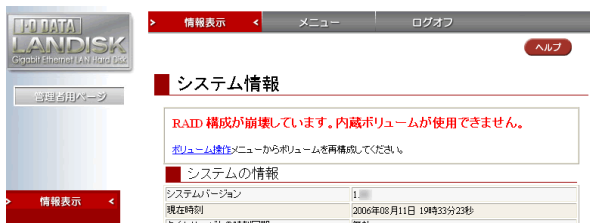
## STEP6 RAID を再構成する

設定画面上から RAID の再構成を開始させます。

- 1** [STEP3] で変更したパソコンの [IP アドレス] [サブネットマスク] [デフォルトゲートウェイ] [(ルータ) アドレス]などをすべて以前使用していた値に戻します。

- 2** 本製品の設定画面を開きます。  
開き方については、以下の個所を参照してください。  
[【設定画面の開き方】\(37ページ\)](#)

設定画面を開くと、[システム情報]に、「RAID 構成が崩壊しています」と表示されています。



この後の手順は、RAID 崩壊モードから RAID を再構成する手順と同様です。

以下の個所を参照してください。

[【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】\(160ページ\)](#)

# ランプ表示別の対応

# ランプ表示別の対応

ランプやブザーによって、現在の状態や操作が正常か、あるいは、エラーが発生しているかを知ることができます。通常以下ようになります。

[STATUS]ランプ	正常時	緑点灯、緑点滅
	エラー時	赤点滅
[ACCESS]ランプ	正常時	青点灯、青点滅
	エラー時	赤点灯、赤点滅
ブザー	正常時	「ピッ」または「ピー」が1回 「ピポパポ」
	エラー時	「ピー」「ピー」「ピー」と3回鳴る、または、鳴り続けている 「ピーポーピーポー」と鳴り続けている

※エラー状況によってはブザーが鳴り続けます。一旦ブザーを止める場合は、前面の[COPY]ボタンを押してください。

ランプ・ブザー		POWER	STATUS	ACCESS (※1)				ブザー	対応
				CT1	CT2	CT3	CT4		
状態・操作									
電源コンセントに接続時		赤点灯	消灯	消灯	消灯	消灯	消灯		
起動後	正常	緑点灯	緑点灯	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピー」と1回鳴る	ご利用になれます。
	エラー1	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」と3回鳴る	起動エラー状態です。 以下の個所を参照してください。 【補足1：起動エラー1】(168ページ)
	エラー2	緑点灯	赤点滅	赤点灯	赤点灯	赤点灯	赤点灯	「ピーピーピー…」と鳴り続けている	起動停止状態です。 以下の個所を参照してください。 【補足2：起動エラー2】(168ページ)
	エラー3	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ドレミドレミ…」と鳴り続けている	UPS 警告機能が有効で、UPS が未接続の状態です。 【UPS 装置の接続を確認する】(135ページ)
システムシャットダウン後		赤点灯	消灯	消灯	消灯	消灯	消灯		
使用中に RAID 崩壊		緑点灯	赤点滅	赤点灯	赤点灯	赤点灯	赤点灯	「ピーポーピーポーピーポー…」と鳴り続けている	RAID 崩壊状態です。 以下の個所を参照してください。 【補足3：使用中エラー】(168ページ)
使用中にディスク構成異常		緑点灯	赤点滅	赤点滅(※3)	赤点滅(※3)	赤点滅(※3)	赤点滅(※3)	「ピ、ピ、ピ…」と鳴り続けている	RAID 構成ディスクに障害が発生した状態です。
定期警告	ディスク構成異常警告	緑点灯	赤点滅	赤点滅/消灯(※4)	赤点滅/消灯(※4)	赤点滅/消灯(※4)	赤点滅/消灯(※4)	「ピ、ピ、ピ…」と鳴り続けている	RAID 構成ディスクに障害が発生したかディスクを取り外した状態です。
	空き容量警告	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピピ、ピピ、ピピ…」と鳴り続けている	ディスクの空き容量が少なくなっているか、ユーザ・グループの使用量が制限に近づいています。不要なファイルを削除してください。
	UPS 警告	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ドレミ、ドレミ…」と鳴り続けている	UPS 警告機能が有効で、UPS が未接続の状態です。【UPS 装置の接続を確認する】(135ページ)
カートリッジ取り外し操作 (スライドスイッチ [UNLOCK] 操作) (※2)	正常 (取り外し可能)	緑点灯	緑点灯	消灯(※5)	消灯(※5)	消灯(※5)	消灯(※5)	「ピー」と1回鳴る	カートリッジを取り外しできる状態です。
	取り外し不可	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」と3回鳴る	カートリッジを取り外すことはできません。 スライドスイッチを必ず LOCK の状態に戻してください。 このカートリッジはシステムで使用されている状態ですので、無理に取り外すとボリュームが崩壊しデータを失う場合があります。

※1 カートリッジが接続してあり、スライドスイッチが [LOCK] されているもののみです。カートリッジが未接続または、スライドスイッチが [UNLOCK] のものは消灯しています。

※2 スライドスイッチが [UNLOCK] 時の状態を示しています。

※3 障害が発生したカートリッジのみ [赤点滅] になります。正常に動作しているカートリッジについては、[青点灯] のままです。

※4 障害が発生したカートリッジのみ [赤点滅] し、カートリッジが未接続またはスライドスイッチが [UNLOCK] のものは消灯しています。正常に動作しているカートリッジについては、[青点灯] のままです。

※5 カートリッジが接続してあり、スライドスイッチが [LOCK] されているものは [青点灯] のままです。

ランプ・ブザー 状態・操作		POWER	STATUS	ACCESS (※1)				ブザー	対応
				CT1	CT2	CT3	CT4		
カートリッジ取り付け操作 (スライドスイッチ [LOCK] 操作)	正常	緑点灯	緑点灯	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピー」と1回鳴る	ご利用になれます。 再構築が必要な場合は再構築が自動的に始まり、[ACCESS] ランプは細かく青点滅します。
	取り付け失敗1	緑点灯	赤点滅	赤点灯	赤点灯	赤点灯	赤点灯	「ピーピーピー」と3回鳴る	以下の個所を参照してください。 【【補足4：カートリッジ取り付け時エラー1】】 (169ページ)
	取り付け失敗2	緑点灯	赤点滅	赤点滅	赤点滅	赤点滅	赤点滅	「ピーピーピー」と鳴り続けている	システムが取り付けを拒否しました。カートリッジを取り付けて使用することはできません。 スライドスイッチを必ず UNLOCK の状態に戻してください。(再び [STATUS] ランプが点滅しますので、[ACCESS] ランプが消灯するまでお待ちください。) 以下の個所を参照してください。 【【補足5：カートリッジ取り付け時エラー2】】 (169ページ)
共有ディスク (FAT/NTFS) モード時の増設ハードディスクの接続時	正常	緑点灯	緑点灯	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピー」と1回鳴る	増設ハードディスクを使用できる状態です。
	接続失敗	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」と3回鳴る	FAT/NTFS 形式以外のフォーマット形式のディスクを接続しています。 この場合、いったんケーブルを抜いて FAT/NTFS 形式にパソコンなどでフォーマットしてから再度接続する必要があります。 または、接続したまま WEB 操作画面「フォーマット (FAT32)」を実行することで、FAT32 形式にフォーマットすることができます。
ミラーリングモード時の eSATA ハードディスクの接続時	正常	緑点灯	緑点灯	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピー」と1回鳴る	e SATA ハードディスクとミラーリングできる状態です。
	接続失敗	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」と3回鳴る	FAT/NTFS 形式でフォーマットされ、データが入っている場合などは、接続してもミラーリングできません。 以下の個所を参照してください。 【【補足6：eSATA 接続エラー (ミラーリング時)】】 (169ページ)
クイックコピーモード時の USB メモリー等の接続時	正常	緑点灯	緑点灯	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピー」と1回鳴る	クイックコピーを実行可能な状態になりました。 [COPY] ボタンを長押しすることでクイックコピーを実行できます。
	接続失敗	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」と3回鳴る	クイックコピーはできません。 F A T / N T F S 形式以外のフォーマット形式の USB メモリーや USB マスストレージクラスの転送に対応していないデジカメ等を接続しています。

※1 カートリッジが接続しており、スライドスイッチが [LOCK] されているもののみです。  
カートリッジが未接続または、スライドスイッチが [UNLOCK] のものは消灯しています。

ランプ・ブザー 状態・操作		POWER	STATUS	ACCESS (※1)				ブザー	補足
				CT1	CT2	CT3	CT4		
ボリューム設定 変更を実行時	正常	緑点灯	緑点灯	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピー」 と1回鳴る	システムがボリューム設定処理を 正常完了しました。 この後、必要があれば再構築が自動 的に始まります。
	エラー	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」 と3回鳴る	システムがボリューム設定処理を 失敗しています。 もう一度操作をやり直す必要があ ります。
フォーマット	正常	緑点灯	緑点灯	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピー」 と1回鳴る	正常にフォーマットが終了しまし た。
	エラー	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」 と3回鳴る	何らかのエラーが発生しています。 [ログ情報]をご確認ください。
チェックディス ク	正常	緑点灯	緑点灯	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピー」 と1回鳴る	正常にチェックディスクが終了し ました。
	エラー	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」 と3回鳴る	何らかのエラーが発生しています。 [ログ情報]をご確認ください。
メンテナンス	正常	緑点灯	緑点灯	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピー」 と1回鳴る	正常にメンテナンスが終了しまし た。
	エラー	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」 と3回鳴る	何らかのエラーが発生しています。 [ログ情報]をご確認ください。
eSATA ティス ク1からミラー リング開始	正常	緑点灯	緑点灯	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピー」 と1回鳴る	正常に終了しました。
	エラー	緑点灯	赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」 と3回鳴る	何らかのエラーが発生しています。 [ログ情報]をご確認ください。

※1 カートリッジが接続してあり、スライドスイッチが【LOCK】されているもののみです。

カートリッジが未接続または、スライドスイッチが【UNLOCK】のものは消灯しています。

## 【補足1：起動エラー1】

					ブザー
赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」 と3回鳴る

上記のように、[STATUS] ランプが赤点滅している（[ACCESS] ランプは青点灯）場合は、DHCP サーバより IP アドレスを取得できていない状態です。

以下の個所を参照してください。

[【困ったときには】の【本製品の電源を入れたら、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと3回鳴った】](#)（242ページ）

## 【補足2：起動エラー2】

					ブザー
赤点滅	赤点灯	赤点灯	赤点灯	赤点灯	「ピーピーピー」 と鳴り続けている

上記のように、本製品起動時に、[STATUS] ランプが赤点滅し、[ACCESS] ランプがすべて赤点灯、かつ、ブザーが「ピーピーピー」と鳴り続けている場合は、何らか理由により、システムを起動できない状態です。（本製品はシステム停止中です。）

[COPY] ボタンを押して、一旦ブザーを止め、以下の手順で起動時の停止画面を開いてください。

以下の個所を参照してください。

[【困ったときには】の【起動時に \[ACCESS\] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている】](#)（243ページ）

## 【補足3：使用中エラー】

					ブザー
赤点滅	赤点灯	赤点灯	赤点灯	赤点灯	「ピーポーピー ポーピーポー」 と鳴り続けている

上記のように、本製品使用中に [STATUS] ランプが赤点滅し、[ACCESS] ランプがすべて赤点灯、かつ、ブザーが「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている場合は、何らか理由により、本製品の RAID が崩壊している状態です。

[COPY] ボタンを押して、一旦ブザーを止め、以下の手順で起動時の停止画面を開いてください。

以下の個所を参照してください。

[【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】](#)（160ページ）



## 【補足4：カートリッジ取り付け時エラー1】

					ブザー
赤点滅	赤点灯	赤点灯	赤点灯	赤点灯	「ピーピーピー」と3回鳴る

上記のように、カートリッジ取り付け時（スライドスイッチを [LOCK] 状態にした後）、[STATUS] ランプが赤点滅し、取り付けたカートリッジの [ACCESS] ランプが赤点灯した場合は、そのままではそのカートリッジを使用できません。

以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の【カートリッジの取り付け（スライドスイッチを [LOCK] した）後に、LOCK したカートリッジの ACCESS ランプが赤く点灯している】（274ページ）

## 【補足5：カートリッジ取り付け時エラー2】

					ブザー
赤点滅	赤点滅	赤点滅	赤点滅	赤点滅	「ピーピーピー」と鳴り続けている

上記のように、カートリッジ取り付け時（スライドスイッチを [LOCK] 状態にした後）、[STATUS] ランプが赤点滅し、取り付けたカートリッジの [ACCESS] ランプが赤点滅した場合は、そのままではそのカートリッジを使用できません。

以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の【カートリッジの取り付け（スライドスイッチを [LOCK] した）後に、LOCK したカートリッジの ACCESS ランプが赤く点滅している】（275ページ）

## 【補足6：eSATA 接続エラー（ミラーリング時）】

					ブザー
赤点滅	青点灯	青点灯	青点灯	青点灯	「ピーピーピー」と3回鳴る

上記のように、本製品が [ミラーリングモード] 中に、eSATA ハードディスクを接続して使用時起動時に、[STATUS] ランプが赤点滅した場合は、ミラーリングできない eSATA ハードディスクの可能性があります。

以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の【eSATA ハードディスクを [eSATA ポート 1] に接続すると、STATUS ランプが赤く点滅し、ブザーが「ピーピーピー」と鳴った】（277ページ）

# Active Directory ・ NT ドメインログオン 機能を使う

# NT ドメイン・Active Directory ログオン機能を使用する際の注意

本製品で NT ドメイン・Active Directory ログオン機能を使用する際には、以下にご注意ください。

- NT ドメイン・Active Directory ログオン機能は、ドメインユーザ数 1000 人、およびグループ数 1000 グループの環境で動作確認を行っております。  
それ以上の規模のドメインでは、本製品の応答が著しく遅くなる場合があります。
- Mac OS の場合は、利用できません。
- Windows Server 2008 の場合は、NT ドメインは利用できません。
- ワークグループ、NT ドメイン、Active Directory の参加方法を切り替えると、それまで使用していたアクセス権が設定されている共有（ユーザ共有、グループ共有、ドメインユーザ共有、ドメイングループ共有）が利用できなくなります。あらかじめ、データをバックアップした後に、各参加方法へ切り替えるか、共有のアクセス権で「すべてのユーザ」に変更してください。  
すべてのユーザ共有は参加方法を切り替えてもそのままご利用いただけます。
- ドメインモードからワークグループモードへ切り替えると、それまでドメインモードで利用していたアクセス権が設定されている共有が利用できなくなります。  
あらかじめデータをバックアップした後にワークグループモードへ移行してください。

# Active Directory ログオン 機能とは

Active Directory が構築された Windows ネットワークに LANDISK が参加できる機能です。Active Directory 管理のユーザ情報、グループ情報を利用して LANDISK 上の共有フォルダにアクセス権限の設定が行えます。

LANDISK へユーザ登録を行わずにすむのでユーザ情報が一元管理できるほか、Active Directory 管理下のユーザが一度認証すれば同じ Active Directory 内の機器へ認証無しにアクセスできる一元認証機能が利用可能になります。

# Active Directory 機能を設定する

Active Directory が構築された Windows ネットワークに LANDISK が参加できる機能です。Active Directory 管理のユーザ情報、グループ情報を利用して LANDISK 上の共有フォルダにアクセス権限の設定が行えます。  
LANDISK へユーザ登録を行わずにすむのでユーザ情報が一元管理できるほか、Active Directory 管理下のユーザが一度認証すれば同じ Active Directory 内の機器へ認証無しにアクセスできる一元認証機能が利用可能になります。

## STEP1 LANDISK の TCP/IP 設定を設定する

Active Directory では名前解決に DNS を使用します。そのため Active Directory へ参加するためには 「DNS ドメイン名」、「DNS サーバアドレス」が正しく設定されている必要があります。



### ●DNS ドメイン名

Active Directory を運用しているネットワークのドメイン名を入力します。例えば DNS サーバ名が dns.landisk.local という名称で DNS サーバのホスト名が dns である場合、「landisk.local」がドメイン名に該当します。

### ●DNS サーバアドレス

DNS サーバの IP アドレスを入力します。  
dns.landisk.local というマシンに割り当てられているアドレスが 192.168.0.1 であった場合はそのまま「192.168.0.1」を入力します。

5

[確認]画面で[OK]ボタンをクリックした後、[結果]画面が表示されたら、Web ブラウザを閉じます。



●Active Directory の名前解決が行える DNS サーバがドメインコントローラと別のサーバにて構築されている場合は、その DNS サーバアドレスを入力します。

1

本製品の設定画面を開きます。  
開き方については、以下の個所を参照してください。  
【Macintosh パソコンから設定画面を開く】 (40ページ)

2

本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



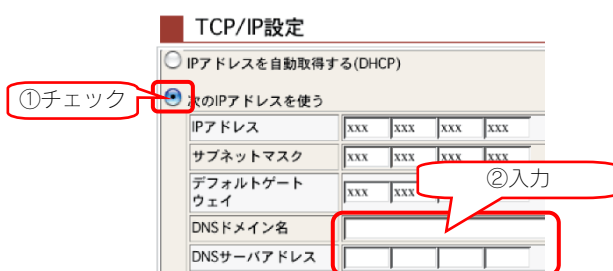
3

[メニュー]の [ネットワーク] → [TCP/IP] を順にクリックします。



4

[次の IP アドレスを使う] をチェック後、「DNS ドメイン名」をドメインコントローラのドメイン名(フル DNS 名)、「DNS サーバアドレス」をドメインコントローラの IP アドレスにそれぞれ設定します。入力後、[OK] ボタンをクリックします。



## STEP2 Active Directory へ ログオンする

**注意**

### ●ログオンする前の注意

・ワークグループ、NTドメイン、Active Directoryの参加方法を切り替えるとそれまで使用していたアクセス権が設定されている共有（ユーザ共有、グループ共有）が利用できなくなります。あらかじめデータをバックアップした後に各参加方法へ切り替えるか、共有のアクセス権を「全てのユーザ」に変更してください。全てのユーザがアクセスできるように設定されていた共有フォルダはActive Directoryログオン後もそのままご利用いただけます。

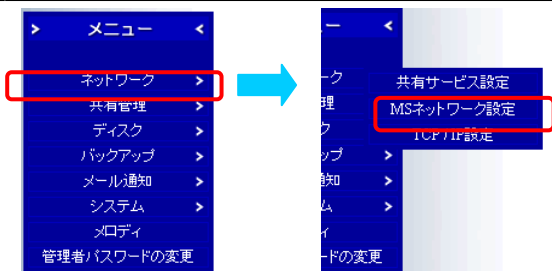
・Active Directoryの仕様により、Administratorパスワードが1度も変更されていない場合、ログオンは失敗します。Administratorパスワードを変更してから設定を行ってください。

・ドメインコントローラの時刻設定とLANDISKの時刻設定が5分以上離れているとログオンは失敗します。両者の時刻設定を合わせてから設定を行ってください。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の[ネットワーク] → [MS ネットワーク] を順にクリックします。



**3** [参加方法の選択] で [Active Directory] を選択します。

### ■ MSネットワーク設定

#### ■ 名称の設定

LANDISKの名前	LANDISK
コンピュータの説明	HDL-GTR series

#### ■ ネットワーク参加方法の設定

参加方法の選択	<input type="radio"/> ワークグループ <input type="radio"/> NTドメイン <input checked="" type="radio"/> Active Directory
ドメイン名(NetBIOS名)	WORKGROUP
ドメイン名(フルDNS名)	
ドメインコントローラの名前	
管理者ユーザ名	
管理者パスワード	

チェック

- 4** 各項目を入力します。
- ①[ドメイン名(NetBIOS名)] に Windows 2000 以前のドメイン名を入力します。
  - ②[ドメイン名(フル DNS 名)] にドメイン名を入力します。
  - ③[ドメインコントローラの名前] にドメインコントローラの名前を入力します。
  - ④[管理者ユーザ名] に Active Directory の Administrator 権限を持ったユーザ名を入力します。
  - ⑤[管理者パスワード] に [管理者ユーザ名] で指定したユーザのパスワードを入力します。
  - ⑥[OK]ボタンをクリックします。

### ■ MSネットワーク設定

#### ■ 名称の設定

LANDISKの名前	LANDISK
コンピュータの説明	HDL-GTR series

#### ■ ネットワーク参加方法の設定

参加方法の選択	<input type="radio"/> ワークグループ <input type="radio"/> NTドメイン <input checked="" type="radio"/> Active Directory
ドメイン名(NetBIOS名)	WORKGROUP
ドメイン名(フルDNS名)	
ドメインコントローラの名前	
管理者ユーザ名	
管理者パスワード	
WINSサーバアドレス	

**注意**  
管理者ユーザ名とは、Active DirectoryのAdministrator権限を持ったユーザ名を指定してください。ドメインでご利用になる場合はワークグループに切替えないようご注意ください。ドメインにログオンした後にメソッドが、ドメイングループで作成した共有は、ワークグループに切替えると使用不可になりますので、事前にデータを保存し共有を削除してください。また、異なるドメインにログオンした場合に以前ドメイングループで作成した共有は使用できません。

OK クリア

**注意** どのように入力してよいかわからない場合は、次の手順でご確認ください。

●手順（ドメインコントローラとなっているパソコンで確認します）

1. [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]→[システム]を開きます。
2. [コンピュータ名]タブをクリックします。
3. [ドメイン名]に表示されている文字列を確認します。この文字列が「ドメイン名（フルDNS名）」です。
4. [フルコンピュータ名]の、最初のピリオドの前までが「ドメインコントローラの名前」です。

※フルコンピュータ名が「Server.domain.local」の場合は、ドメインコントローラの名前は「Server」となります。

- 5** 結果画面が表示されます。その後、[情報表示] → [ネットワーク]を開いて以下を確認します。
- ・[ドメイン名(NetBIOS名)][ドメイン名(フルDNS名)][ドメインコントローラ名]が登録されていること
  - ・[Active Directoryへの参加状況]が「信頼アカウントが正常」となっていること

以上で設定は完了です。

# NT ドメインログオン機能を使う

ここでは、本製品で NT ドメインログオン機能を使用する手順について説明します。

NT ドメインログオン機能を利用する場合は、前もってサーバへの本製品の登録が必要です。

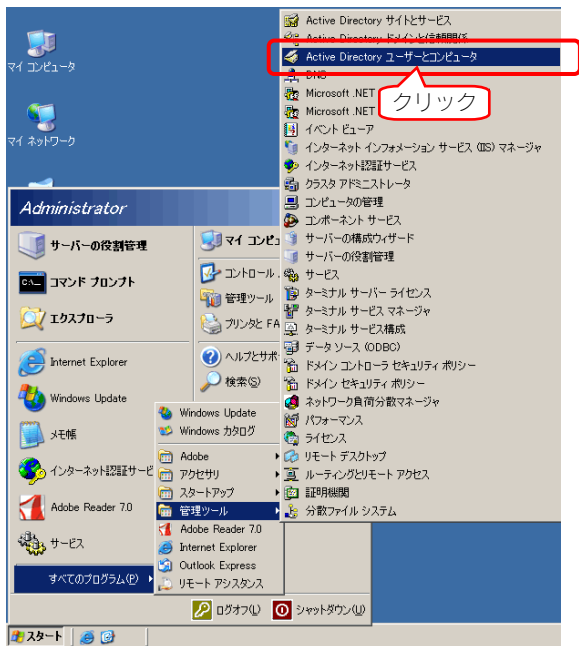
ここでは、Windows Server 2003 の例を示します。

Windows Server 2003 に本製品を登録後、本製品のドメインを設定します。

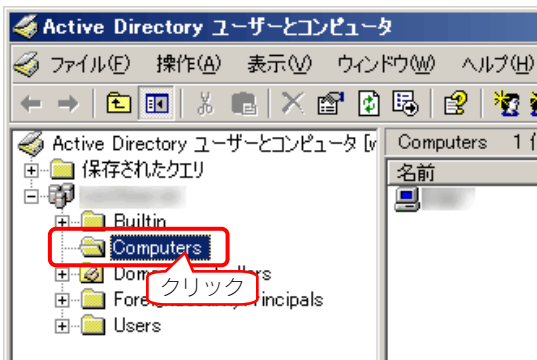
## STEP 1 Windows Server 2003 に本製品を登録する

本製品を Windows Server 2003 に本製品を登録します。

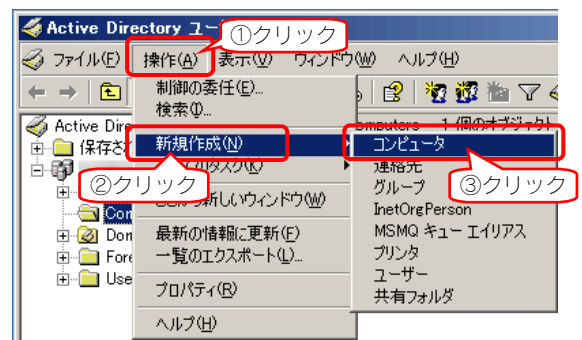
- 1** [スタート]→[プログラム]→[管理ツール]→[Active Directory ユーザーとコンピュータ]をクリックします。



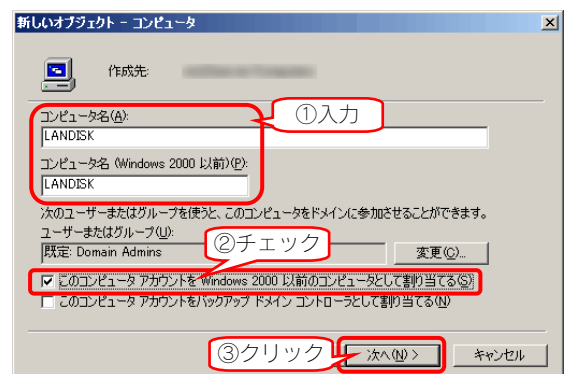
- 2** 表示された画面で[Computers]をクリックします。



- 3** [操作]→[新規作成]→[コンピュータ]をクリックします。



- 4** サーバに本製品を登録します。  
① [コンピュータ名] に本製品の名前を入力します。  
② [このコンピュータアカウントを Windows 2000 以前のコンピュータとして割り当てる]にチェックを付けます。  
③ [次へ]ボタンをクリックします。



- 5** 本製品が登録されます。

以上でサーバにコンピュータが追加されます。  
これで、サーバの設定は終了です。  
次に本製品にドメインの設定をします。

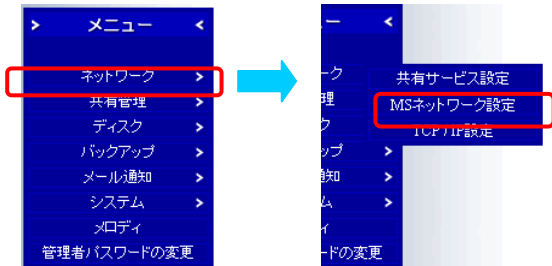
## STEP2 本製品のドメインを設定する

本製品のドメインを設定します。

- 1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



- 2** [メニュー]の[ネットワーク] → [MS ネットワーク] を順にクリックします。



- 3** 以下を設定し、[OK] ボタンをクリックします。
- ①[参加方法の選択]で[NT ドメイン]を選択します。
  - ②[ドメイン名]を入力します。
  - ③[ドメインコントローラの名前]に、アクセス先のドメインサーバの名前を入力します。

### MSネットワーク設定

<b>■ 名称の設定</b>	
LANDISKの名前	LANDISK
コンピュータの説明	HDL-GTR series
<b>■ ネットワーク参加方法の設定</b>	
参加方法の選択	<input type="radio"/> ワークグループ <input checked="" type="radio"/> NTドメイン
ドメイン名	<input type="text"/>
ドメインコントローラの名前	<input type="text"/>
WINSサーバアドレス	<input type="text"/>
<b>注意</b> ドメインでご利用になる場合はワークグループに切替えないようご注意ください。ドメインログオンした後にドメインユーザ、ドメイングループにて作成した共有は、ワークグループに切替えると使用不可になりますので、事前にデータを保存し共有を削除してください。また、異なるドメインにログオンした場合は以前のドメインユーザ、ドメイングループで作成した共有は使用できません。	
④クリック <input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="クリア"/>	

- 注意**
- ドメインモードで共有を作成する場合は、ユーザ名にはスペースは使用できません。ドメイングループ名のみスペースが使用できます。
  - ユーザ名、グループ名に本製品で使用できない文字が含まれている場合は、そのユーザ/グループは、共有の作成時表示されません。  
詳しくは、【文字制限一覧】(202ページ)をご確認ください。
  - ユーザ名にはアルファベットの大文字 (A~Z) は使用できません。
  - 画面の注意文をご理解の上、設定してください。
  - NT ドメイン機能をご使用になる場合は、Active Directory は「混在モード」の必要があります。ネイティブモードの場合は本製品の「Active Directory 機能」をご使用ください。

- 4** [結果] 画面が表示されます。

### 結果

#### ■ 名称の設定

LANDISKの名前	LANDISK
コンピュータの説明	HDL-GTR series

#### ■ ネットワーク参加方法の設定

参加方法の選択	NTドメイン
ドメイン名	EDENDOMAIN2003
ドメインコントローラの名前	EPIA.2003



以下のようなエラーが表示された！

### 結果

ドメインログオン実行中にエラーが発生しました。

ドメイン名、ドメインコントローラ名が正しいこと、ドメインコントローラのコンピュータアカウントに「LANDISKの名前」が登録されていることを確認し、もう一度設定を行ってください。  
上記の設定の確認後、再び本エラーが表示される場合は、いったんドメインコントローラのコンピュータアカウントに登録した「LANDISKの名前」を削除し、再度登録してから、もう一度設定を行ってください。

⇒以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の286ページ

- 5** 本製品の[情報表示]メニューの[ネットワーク]を開いて、以下をご確認ください。

- ① [ドメイン名] [ドメインコントローラ名] が登録されていること
- ② [ドメインへの参加状況] が「信頼アカウントが正常」となっていること

### ネットワーク情報

#### ■ ネットワークの情報

LANDISKの名前	LANDISK
コンピュータの説明	HDL-GTR series
ドメイン名	<input type="text"/>
ドメインコントローラ名	<input type="text"/>
ドメインへの参加状況	信頼アカウントが正常
WINSサーバアドレス	<input type="text"/>
DHCPクライアント	有効
IPアドレス	<input type="text"/>
サブネットマスク	<input type="text"/>
デフォルトゲートウェイ	<input type="text"/>
DNSドメイン名	<input type="text"/>
DNSサーバアドレス	<input type="text"/>
MACアドレス	<input type="text"/>
ジャンボフレーム	未使用(mtu:1500)

以上で設定は完了です。



# Windows ファイルサー ビスアクセスログ機能

# Windows ファイルサービス アクセスログ機能の概要

登録ユーザーが本製品に対してどのような操作を行ったかを記録することができます。ファイルの参照、作成、編集などのアクセス記録がリアルタイムに記録され、管理者宛にメール通知を行うよう設定できますので、監査記録として利用することが可能です。

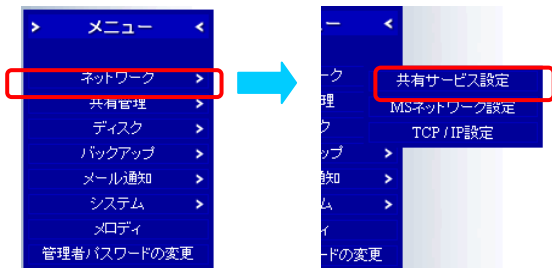
# アクセスログを有効にする

ここでは、アクセスログを有効にする手順について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



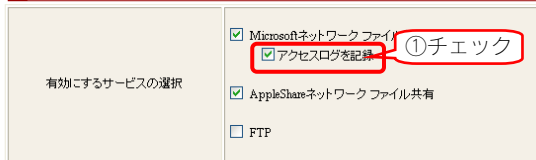
**2** [メニュー]の[ネットワーク] → [共有サービス] を順にクリックします。



**3** [アクセスログを記録]のチェックを有効にし、[OK]ボタンをクリックします。

## 共有サービス設定

### 共有サービスの設定



以上でアクセスログ機能が有効になりました。

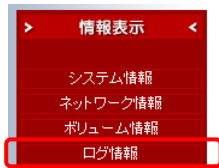
# アクセスログを確認する

ここでは、アクセスログを確認する手順について説明します。

- 1 本製品の設定画面の[情報表示]をクリックします。



- 2 [情報表示]の[ログ情報]をクリックします。



- 3 [表示イベント指定]で、[MS 共有アクセスログ]以外のチェックを外し、[再表示]ボタンをクリックします。

以上で[ログ]欄にアクセスログが表示されます。

# アクセスログのリファレンス

ここでは、アクセスログの内容について説明します。

① 1月9日 15:13:51 ② MS 共有アクセスログ ③ nobody ④ xxx.xxx.xxx.xxx: ⑤ open ⑥ 成功 ⑦ disk1 ⑧ rtest.txt

No	内容
①	日時が表示されます。
②	MS 共有アクセスログ固定です。
③	操作を行ったユーザ名が表示されます。 ※全てのユーザ共有では、各ユーザは全て「nobody」と表示されます。
④	クライアント PC の IP アドレスが表示されます。
⑤	クライアント PC から行われた操作が表示されます。表示される操作は下記です。 connect - クライアント PC が共有フォルダに接続した際に記録されます。 disconnect - クライアント PC が共有フォルダの接続を解除した際に記録されます。 open - ファイル作成、または既存ファイルが開かれた際に記録されます。 close - ファイルが閉じられた際に記録されます。 mkdir - フォルダ作成時に記録されます。 rmdir - フォルダ削除時に記録されます。 rename - ファイル/フォルダの名前が変更されたときに記録されます。 unlink - ファイル削除時に記録されます。
⑥	操作結果が表示されます。成功または失敗となります。
⑦	操作対象の共有フォルダ名が表示されます。
⑧	操作対象のファイル/フォルダ/共有名が表示されます。 ※open 操作では、下記のような属性が付加され表示されます。 r! 対象ファイルを読み込み属性で開いた。 w! 対象ファイルを書き込み属性で開いた。

# アクセスログをメール送信する

システムログのメール送信先にアクセスログを送信することができます。

[【システムログをメール送信する】\(151ページ\)](#) を参照し、システムログ転送を有効に設定してください。  
アクセスログも送信されるようになります。

# 使用量制限を設定する

# 使用量制限について

## ● 使用量制限について

- ・本製品の内蔵ボリューム 1 上に作成した共有フォルダを使用するユーザおよびグループごとに使用量の制限を設定することができます。
- ・すべてのユーザが使用可能な全共有に対して使用量制限を設定する場合は、ユーザ:ゲストに対して設定することで制限することができます。
- ・使用量制限機能により計算される使用量は、アクセスする共有により以下のようになります。

全共有	どのユーザがファイルを保存しても、ユーザ名「ゲスト」の使用量が増加します。
ユーザ共有	ファイルを保存したユーザの使用量が増加します。
グループ共有	ファイルを保存したユーザの使用量と該当グループの使用量が増加します。

また、保存したユーザの使用量も増加します。

※NT ドメインモード、ActiveDirectory モードの場合は、ドメインユーザ共有へファイルを保存すると、そのドメインユーザの使用量と、そのユーザの所属するプライマリグループの使用量も増加します。

## ● 使用量制限を設定する場合の注意

- ・使用量制限を使用するに設定した場合、ユーザ使用量設定とグループ使用量設定が同時に有効になります。
- ・使用量制限を使用しないに設定した場合、ユーザ使用量設定とグループ使用量設定が同時に無効になります。
- ・「制限設定値」付近でのファイルの書込みはできない場合があります。
- ・「使用量制限」を「使用する」に設定する際や「制限設定値」を設定する際、ユーザ数・グループ数・ファイル数により、設定に時間がかかる場合があります。

## ● ユーザ使用量制限の画面例

現在の使用量が制限値の 80%~89%になると黄色、現在の使用量が制限値の 90%以上になると赤色の背景色で表示されます。

### ■ ユーザ使用量管理

#### ■ 使用量制限

使用量制限  使用する  使用しない

使用量制限機能を使用しない場合は、ユーザ、およびグループ使用量設定は無効になります。

#### ■ ユーザ使用量設定

一括入力

ユーザ名	現在の使用量	現在の使用率	制限設定値
ゲスト	2.0GB	20.5%	10 GB
user1	812.0MB	81.2%	1 GB
user2	1.5GB	98.8%	1.5 GB
user3	27.0MB	無制限	0 GB

「一括入力」ボタンで、すべてのユーザに同じ制限設定値を一括入力できます。  
制限設定値を「0」に設定すると、設定値「無制限」として設定されます。  
すべてのユーザが使用可能な全共有の使用量制限を行うには、ユーザ名「ゲスト」に対して設定を行います。

OK



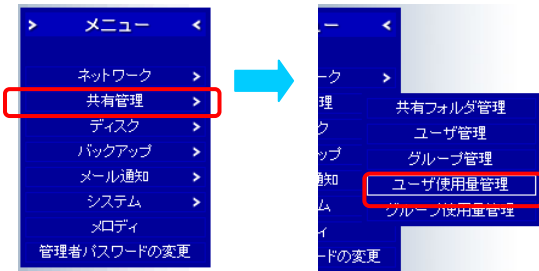
# ユーザごとに使用量制限を設定する

ここでは、ユーザごとに使用量制限を設定する手順について説明します。

**1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



**2** [メニュー]の[共有管理] → [ユーザ使用量管理] を順にクリックします。

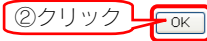


**3** 使用量制限機能を[使用する]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。

## ユーザ使用量管理

### 使用量制限

使用量制限  使用する  使用しない  
使用量制限機能を使用しない場合は、ユーザ、およびグループ使用量設定は無効となります。



**4** 各ユーザの使用量制限値の欄に数値を入力し、[OK]ボタンをクリックします。  
 ※[一括入力]ボタンをクリックすると、すべてのユーザに同じ設定値を一括で入力することができます。

## ユーザ使用量管理

### 使用量制限

使用量制限  使用する  使用しない  
使用量制限機能を使用しない場合は、ユーザ、およびグループ使用量設定は無効となります。

### ユーザ使用量設定

ユーザ名	現在の使用量	現在の使用率	制限設定値
ゲスト	0MB	無制限	10 GB
user1	0MB	無制限	1 GB
user2	0MB	無制限	1.5 GB
user3	0MB	無制限	0 GB

「一括入力」ボタンで、すべてのユーザに同じ制限設定値を一括入力できます。制限設定値を「0」に設定すると、設定値「無制限」として設定できます。すべてのユーザが使用可能な全共有の使用量制限を行わない場合は、ユーザ名「ゲスト」に対して設定を行います。



- 各ユーザに対して、内蔵ボリューム1の全容量を超える制限設定値を設定することはできません。
- 制限設定値は半角数値のみ小数点1位まで設定できます。
- 制限設定値に「0」を設定した場合、そのユーザは使用量制限が、無制限設定になります。

**5** 使用量制限の設定結果が表示されます。

## ユーザ使用量管理

設定を保存しました。

### 使用量制限

使用量制限  使用する  使用しない  
使用量制限機能を使用しない場合は、ユーザ、およびグループ使用量設定は無効となります。

### ユーザ使用量設定

一括入力

ユーザ名	現在の使用量	現在の使用率	制限設定値
ゲスト	0MB	0.0%	10 GB
user1	0MB	0.0%	1 GB
user2	0MB	0.0%	1.5 GB
user3	0MB	無制限	0 GB

「一括入力」ボタンで、すべてのユーザに同じ制限設定値を一括入力できます。制限設定値を「0」に設定すると、設定値「無制限」として設定できます。すべてのユーザが使用可能な全共有の使用量制限を行わない場合は、ユーザ名「ゲスト」に対して設定を行います。

OK

これで、各ユーザの使用量制限が設定されました。

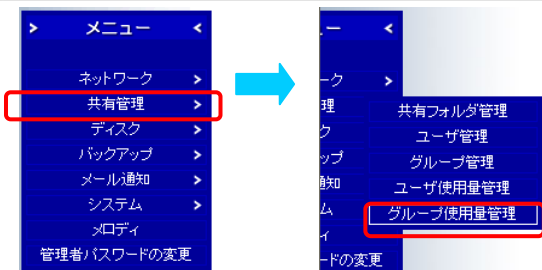
# グループごとに使用量制限を設定する

ここでは、グループごとに使用量制限を設定する手順について説明します。

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の[共有管理] → [グループ使用量管理] を順にクリックします。



3 使用量制限機能を[使用する]をクリックして選択し、[OK]ボタンをクリックします。

## グループ使用量管理

### ■ 使用量制限

使用量制限  使用する  使用しない  
使用量制限機能を使用しない場合は、ユーザ、およびグループ使用量設定は無効になります。

①選択  
②クリック

4 各グループの使用量制限値の欄に数値を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

※[一括入力]ボタンをクリックすると、すべてのグループに同じ設定値を一括で入力することができます。

## グループ使用量管理

### ■ 使用量制限

使用量制限  使用する  使用しない  
使用量制限機能を使用しない場合は、ユーザ、およびグループ使用量設定は無効になります。

### ■ グループ使用量設定

グループ名	現在の使用量	現在の使用率	制限設定値
group1	0MB	0.0%	<input type="text" value="1"/> GB
group2	0MB	0.0%	<input type="text" value="1.5"/> GB
group3	0MB	無制限	<input type="text" value="0"/> GB

「一括入力」ボタンで、すべてのグループに同じ制限設定値を一括入力できます。制限設定値を「0」に設定すると、設定値「無制限」として設定できます。

①入力  
②クリック

## 注意

- 各グループに対して、内蔵ボリューム1の全容量を超える制限設定値を設定することはできません。
- 制限設定値は半角数値のみ小数点1位まで設定できます。
- 制限設定値に「0」を設定した場合、そのグループは使用量制限が、無制限設定になります。

5 使用量制限の設定結果が表示されます。

## ■ グループ使用量管理

設定を保存しました。

### ■ 使用量制限

使用量制限  使用する  使用しない  
使用量制限機能を使用しない場合は、ユーザ、およびグループ使用量設定は無効になります。

### ■ グループ使用量設定

グループ名	現在の使用量	現在の使用率	制限設定値
group1	0MB	0.0%	<input type="text" value="1"/> GB
group2	0MB	0.0%	<input type="text" value="1.5"/> GB
group3	0MB	無制限	<input type="text" value="0"/> GB

「一括入力」ボタンで、すべてのグループに同じ制限設定値を一括入力できます。制限設定値を「0」に設定すると、設定値「無制限」として設定できます。

これで、各グループの使用量制限が設定されました。

# 定期警告機能を設定する

# 定期警告機能について

## ● 定期警告機能について

定期警告機能は、定期的(毎時 15 分)に以下 3 項目の状態をチェックし、異常を検出した場合、警告ブザーと STATUS ランプにて警告を行います。また、COPY ボタンを押すと警告は停止しますが、次回チェック時に再度異常を検出した場合、再度警告します。

定期警告機能は、それぞれの項目ごとに有効/無効の設定ができます。出荷時設定はすべて無効となっております。

警告の種類	ブザー音	STATUS ランプ	説明
ディスク構成異常警告	ピ、ピ、ピ、…	赤点滅	RAID ディスク構成に異常がある場合に警告します。
空き容量警告	ピピ、ピピ、ピピ、…	赤点滅	空き容量が、空き容量警告機能の指定値を下回った場合に警告します。また、使用量制限機能が有効な場合は、ユーザ・グループ別の使用量制限値の空き容量が 20%または 10%以下になった場合にも警告します。 ※空き容量警告を利用する場合、メール通知で空き容量警告機能を有効にする必要があります。
UPS 警告	ドレミ、ドレミ、ドレミ、…	赤点滅	UPS の接続が確認できない、または、停電状態を検出すると警告します。 ※UPS 警告を利用する場合、UPS 設定で UPS 警告機能を有効にする必要があります。

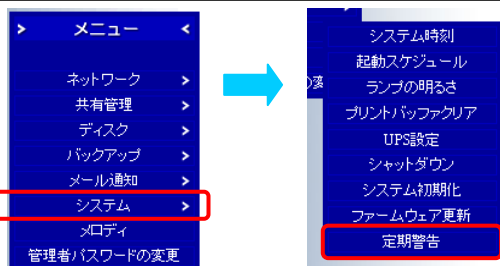
# ディスク構成異常警告音を有効に設定する

ここでは、定期的なディスク構成異常警告音を有効に設定する手順について説明します。

1 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



2 [メニュー]の [システム] → [定期警告] を順にクリックします。



3 ディスク構成異常警告[有効]をクリックして選択し、[OK] ボタンをクリックします。

## 定期警告

### 定期警告音設定

ディスク構成異常警告	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
空き容量警告	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
UPS警告	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効

定期警告(毎時15分)に各状態を確認し、異常があればブザーとLEDでお知らせします。  
空き容量警告を利用する場合、メール通知で空き容量警告機能を有効にする必要があります。  
UPS警告を利用する場合、UPS設定でUPS警告機能を有効にする必要があります。

②クリック

OK



● 空き容量警告を利用する場合、メール通知で空き容量警告機能を有効にする必要があります。

● UPS 警告を利用する場合、UPS 設定で UPS 警告機能を有効にする必要があります。

以上で、設定は完了です。

仕 様

# 仕 様

商品名		LANDISK Tera			
製品型番		HDL-GTR1.0	HDL-GTR2.0	HDL-GTR3.0	HDL-GTR4.0
内蔵 HDD	容量	1.0TB	1.0TB	3.0TB	4.0TB
LAN	転送規格	IEEE 802.3、IEEE802.3ab、IEEE802.3u (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)			
	最大転送速度	1000/100/10Mbps			
	コネクタ	RJ45×1			
	アクセス方法	CSMA/CD			
	MDI/MDI-X	自動切換			
	適合ケーブル	UTP カテゴリ6以上、100m以下			
eSATA ホスト	転送規格	SATA I / SATA II (NCQ 対応)			
	最大転送速度	3.0Gbps (SATA II) / 1.5Gbps (SATA I)			
	コネクタ	eSATA コネクタ×2			
USB ホスト	転送規格	USB 2.0(1.1 含む)			
	最大転送速度	480Mbps			
	コネクタ	USB A コネクタ×2			
電力	電源	AC 100V、50/60Hz			
	消費電力	63W(TYP)	68W(TYP)	73W(TYP)	67W(TYP)
環境仕様	省エネ区分	i	i	i	i
	エネルギー消費効率 ※1	0.057(W/GB)	0.032(W/GB)	0.024(W/GB)	0.015(W/GB)
	グリーン購入法	適合			
動作環境	使用温湿度	5~35℃、10~85%(結露無きこと)			
物理仕様	外形寸法	170(W)×230(D)×183(H)mm (脚を含む)			
	質量	約 7kg			

※1 省エネ法に基づくエネルギー消費効率は、最大構成における待機中の消費電力を、物理的な最大記憶容量で除したものです。

# 動作環境

本製品は、「LAN インターフェイスを搭載し、TCP/IP が正常に動作する機器」であれば対応しています。

## ● サポート対象機種・OS

LAN インターフェイスを使用できる下記の機種

機種	OS
・DOS/V マシン ※弊社では、OADG 加盟メーカーの DOS/V マシンで動作確認しています。	・ Windows Vista® ・ Windows XP ・ Windows 2000 Professional ・ Windows Server 2008 ※1 ・ Windows Server 2003 ※2 ・ Windows 2000 Server ※2 ・ Windows Me ※3 ・ Windows 98(Second Edition 含む) ※3
・ Apple Macintosh ・ Power Macintosh ・ iMac ・ iBook ・ PowerBook ・ eMac	・ Mac OS X (10.1~10.4) ・ Mac OS 8.1~9.2.2

※1 本製品上に作成した共有フォルダへのアクセス、および Active Directory ログオン機能のみ対応し、添付ソフトウェア、ブラウザによる設定画面操作、プリントサーバー機能等はサポート対象外です。

※2 本製品上に作成した共有フォルダへのアクセス、および NT ドメインログオン・ActiveDirectory ログオン機能のみ対応し、添付ソフトウェア、ブラウザによる設定画面操作、プリントサーバー機能等はサポート対象外です。

※3 HDL-GT3.0、HDL-GT4.0 ではサポート対象外 OS です。

弊社では、上記の OS でご利用いただく場合のみをサポート範囲とさせていただきます。  
上記以外の OS でご利用いただく場合のサポートは行っておりませんのでご了承ください。

▼サポート対象外 OS 一覧（日本語版に限る）

- ・ Windows 95 (Ver.4.00.950, 4.00.950a,4.00.950B, 4.00.950C)
- ・ Windows NT
- ・ Mac OS X 10.0.x
- ・ Mac OS 7.6~8.0

## ● 設定に必要なソフトウェア

本製品を設定するには、以下のバージョンのいずれかの Web ブラウザーが必要です。お持ちでない場合は、別途ご用意ください。

- ・ Internet Explorer バージョン 6.0 以上
- ・ Safari バージョン 2.0 以上
- ・ Netscape バージョン 7.0

## ● LAN 環境

本製品は、LAN で接続します。

パソコンが LAN コネクタを搭載していない場合は、LAN アダプターが必要です。（別売の弊社製 ETG2-PCI など）

複数のパソコンを接続するには、ハブ（ハブ機能付きルータ含む）が必要です。（別売の弊社製 ETG3-SH8N など）

無線 LAN 接続をする場合は、無線アクセスポイントと無線 LAN アダプターを接続したパソコンが必要です。

### LAN アダプター

本製品に接続するパソコンの LAN アダプターの設定をご確認ください。

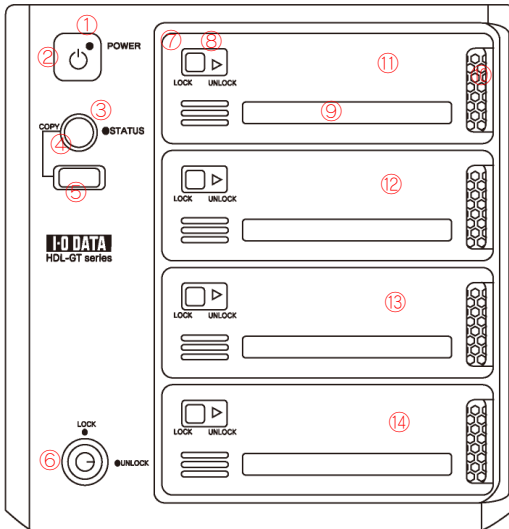
（LAN アダプター：LAN ボード、USB LAN アダプター、LAN PC カードなど）

※LAN アダプター使用時は、パソコンに取り付け、必要なソフトウェアをインストールしておいてください。（詳しくは、各 LAN アダプターの取扱説明書をご覧ください。）



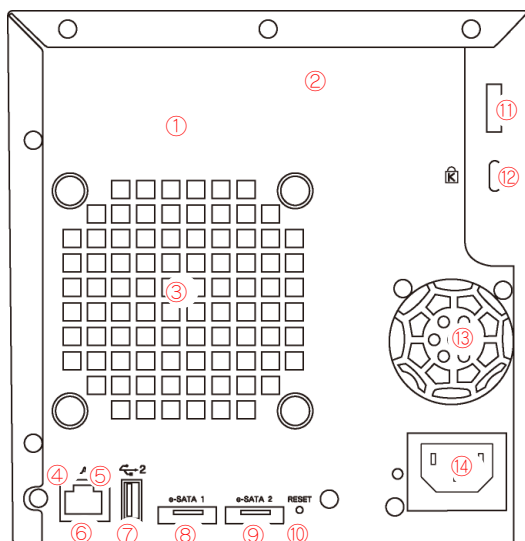
# 各部の名称・機能

## ●前面



No	名称	機能・状態	
①	[POWER] ランプ (パワー)	赤点灯	電源ケーブルが電源コンセントに接続されている状態 (スタンバイ状態)
		緑点灯	電源が入っている状態
②	[電源] ボタン	本製品の電源を入/切します。	
		緑点灯	正常に起動完了した状態
③	[STATUS] ランプ (ステータス)	緑点減	起動中、シャットダウン中、チェックディスク時、本製品設定中、ファームウェアアップデート中、USB および eSATA 機器の取り外し、マウント中、フォーマット中、バックアップ処理中
		赤点減	DHCP サーバーより IP アドレスを取得できない状態、または、クイックコピーなどでエラーが発生している (エラーについては、設定画面の【ログ情報】(213ページ) で確認できます。)

④	[COPY] ボタン	<p>前面の [USB ポート 1] に接続した USB 機器のデータを、内蔵ハードディスクの [disk1] フォルダにコピーします。                      ※本製品出荷時にはコピー先として、内蔵ハードディスク内の [disk1] フォルダが設定されています。                      USB ポート 2 や eSATA ポート 1 および 2 に接続したハードディスクにコピーする場合は、あらかじめ本製品の設定画面でコピー先を変更しておく必要があります。                      設定方法は、【コピー先を変更する】(103ページ) の個所を参照してください。</p>	
⑤	USB ポート 1	<p>USB 機器を接続します。                      弊社製 EasyDisk などの USB メモリーの USB 機器は、[USB ポート 1] にのみ接続できます。                      ※接続できる USB 機器については、【増設できる USB 機器】(195ページ) の項目をご覧ください。                      ※ [USB ポート 1] は出荷時、[クイックコピー] 用に設定されているため、USB ハードディスクを増設用としてご利用になる場合は、接続後、動作モードを [共有ディスク (FAT/NTFS) モード] に設定する必要があります。                      設定方法は、【USB ポート 1 (前面) の設定について】(81ページ) の個所を参照してください。                      ※ [USB ポート 1] にバスパワーハードディスクは接続できません。必ずセルフパワーにてご利用ください。                      ※プリンタを接続する場合は、[USB ポート 2] に接続してください。                      ※パソコンの USB ポートとの接続はできません。</p>	
⑥	カートリッジ 固定 LOCK	UNLOCK	すべてのカートリッジのスライドスイッチを操作 (LOCK/UNLOCK) できるようにします。
		LOCK	すべてのカートリッジのスライドスイッチを UNLOCK できない (カートリッジを取り外せない) ようにします。
⑦	スライドスイッチ	UNLOCK	<p>カートリッジを装置から取り外したい時にスライドさせます。                      UNLOCK 後、[ACCESS] ランプが青点灯した場合は、カートリッジは取り外せません。                      【◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル】(274ページ) の個所を参照してください。</p>
		LOCK	<p>カートリッジを装置に固定させたい時にスライドさせます。                      LOCK 後、[ACCESS] ランプが赤点灯または赤点減した場合は、使用できないカートリッジの可能性がありま                      【◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル】(274ページ) の個所を参照してください。</p>
⑧	[ACCESS] ランプ (アクセス)	青点灯	本製品内蔵ハードディスクへアクセスがない状態
		青点減	本製品内蔵ハードディスクへアクセス中
		赤点灯	未フォーマットか、認識できないフォーマットのハードディスクが接続されている状態
		赤点減	ハードディスクに復旧困難なエラー (セクターエラーなど) が発生している状態
		消灯	取り外し処理が完了した状態
⑨	シール貼付溝	添付の [インデックスシール] を貼る場所です。	
⑩	取っ手	カートリッジを取り外す時に使用する取っ手です。 ※吸気口となっていますので、ふさがないようにしてください。	
⑪	カートリッジ 1 ・ スロット 1	カートリッジを挿入する場所です。	
⑫	カートリッジ 2 ・ スロット 2	カートリッジ交換時には、以下の個所を参照してください。 【オプション品について】(296ページ)	
⑬	カートリッジ 3 ・ スロット 3		
⑭	カートリッジ 4 ・ スロット 4		



名称	機能・状態	
①	シリアル番号(S/N)	12桁の英数字です。
②	MAC アドレス	[00A0B0] で始まる 12 桁の英数字です。
③	メイン FAN	装置全体を冷却します。 ※ふさがないでください。
④	1000/100/10	橙点灯 1000BASE-T で接続中
		緑点灯 100BASE-TX で接続中
		消灯 LAN 未接続または 10BASE-T で接続中
⑤	[ACT/LINK] ランプ (アクト/リンク)	黄点灯 LAN リンク時
		黄点減 データ送受信中
		消灯 LAN 未接続
⑥	LAN ポート	本製品添付の LAN ケーブルを接続します。 ※Auto-MDI/MDI-X です。ストレートおよびクロスケーブルのどちらのケーブルでも接続できます。
⑦	USB ポート 2	USB 機器を接続します。 ※接続できる USB 機器については、【増設できる USB 機器】(195ページ)の項目をご覧ください。 ※ [USB ポート 2] にバスパワーハードディスクは接続できません。必ずセルフパワーにてご利用ください。 ※プリンタを接続する場合は、[USB ポート 2] に接続してください。 ※パソコンの USB ポートとの接続はできません。
⑧	eSATA ポート 1	eSATA 機器を接続します。 ※接続できる eSATA 機器については、【増設できる eSATA 機器】(196ページ)の項目をご覧ください。 ※パソコンの eSATA ポートとの接続はできません。
⑨	eSATA ポート 2	eSATA 機器を接続します。 ※接続できる eSATA 機器については、【増設できる eSATA 機器】(196ページ)の項目をご覧ください。 ※パソコンの eSATA ポートとの接続はできません。
⑩	[RESET] ボタン	本製品の [IP アドレス] [管理者パスワード] [ジャンプフレーム] 設定を初期化します。(ハードディスク内のデータは残ります。) LAN ケーブルを取り外した後、本製品の電源を入れたまま 2 秒以上押しは初期化されます。 ※すべての設定を初期化する場合は、【本製品のすべての設定を出荷時設定に戻す】(157ページ)の項をご覧ください。ただし、同時に、内蔵ハードディスクをフォーマットしますので、データはすべて消去されます。
⑪	セキュリティワイヤー 取付穴	弊社製 [WIRE-100] あるいは、市販のセキュリティワイヤーご利用時には、この穴にワイヤーを通してください。
⑫	ケンジントンスロット	盗難防止用のロックケーブルを購入し、取り付けることができます。 ※ケンジントンスロットについて・・・ ケンジントンロックに合うように作られたセキュリティスロットのことです。ケンジントンロックを固定された安全な机やラックなどに巻き付け、スロットに差し込みカギをかけることで盗難を防ぎます。 詳しくは、Kensington マイクロサーバーのホームページをご覧ください。 <a href="http://www.nanayojapan.co.jp/products/security/">http://www.nanayojapan.co.jp/products/security/</a>
⑬	電源 FAN	電源ユニットを冷却します。 ※ふさがないでください。
⑭	電源コネクタ	添付の「電源ケーブル」を接続します。

# 増設できる USB 機器

本製品の前面および背面の USB ポートに USB 機器を接続して使用することができます。



●USB 機器を増設する前に、以下の注意もご確認ください。

【使用上のご注意】 (7ページ)

●本製品の USB ポートには、以下の対応機器以外の機器は接続しないでください。

※USB ハブも接続できません。

最新の対応機器については、[弊社ホームページ \(http://www.iodata.jp/\)](http://www.iodata.jp/)をご覧ください。

●本製品の USB ポートに、LANDISK シリーズ(HDL シリーズ、HDL-W シリーズ、HDL-G シリーズ、HDL-GW シリーズ、HDL-GZ シリーズ、HDL-GX、HDL-GTR シリーズ、HDL-AV シリーズ) を接続することはできません。

## 増設できる USB ハードディスク

※最新の対応機器については、[弊社ホームページ \(http://www.iodata.jp/\)](http://www.iodata.jp/)をご覧ください。

本製品の USB ポートで使用できる動作確認済みのハードディスク	・ HDZ-UE シリーズ ・ HDW-UE シリーズ ・ HDW-UES シリーズ ・ HDX-UE シリーズ ・ HDA-iU シリーズ ・ HDOT-U シリーズ ・ HDOT-UE シリーズ	・ HDH-U シリーズ ・ HDH-UL シリーズ ・ HDH-UEH シリーズ ・ HDH-US シリーズ ・ HDH-USR シリーズ ・ HDA-iUM シリーズ ・ HDPX-U シリーズ	・ HDPX-SU シリーズ ・ HDC-U シリーズ ・ HDC-UX シリーズ ・ HDH-SU シリーズ ・ RHD2-U シリーズ ・ RHD-UX シリーズ ・ USB2-iVDR シリーズ
	※iSPIS 対応ハードディスクを本製品でご利用いただく場合、iSPIS 機能は使用できません。 ※バスパワーモードのハードディスクは、使用できません。 ハードディスクはセルフパワーモードでご利用ください。 ※HDOT-U シリーズ、HDOT-UE シリーズのワンタッチボタンは利用できません。		
対応フォーマット	本製品に接続可能なハードディスクのフォーマット形式については、以下の個所を参照してください。 【ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い】 (199ページ) ※弊社製 LAN-iCN、LAN-iCN2、LANDISK で使用していたハードディスクは、本製品が対応するフォーマット形式に再フォーマットしてからご利用ください。		

※本製品には、2TB (2,199,023,255,040byte) より大きいディスク容量のハードディスクは接続できません。

※本製品には、パーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT)のハードディスクは接続できません。

## 増設できる USB 対応プリンタ

対応 USB 対応プリンタ

動作確認済み機種については、[弊社ホームページ \(http://www.iodata.jp/\)](http://www.iodata.jp/)の製品情報をご覧ください。



●プリンタは本製品背面の [USB ポート 2] にのみ接続して使用できます。

●プリンタの双方向機能には対応していません。

●複合機 (プリンタ機能以外にスキャナ機能やリーダライタ機能等を有するもの) の場合、プリント機能のみ対応します。

●Microsoft Windows Printing System(WPS)専用プリンタ、プリンタメーカーが独自に採用しているプリンティングシステムのプリンタでは、その仕様上プリントサーバ機能はご利用いただけません。

## 接続できる UPS

対応 UPS

APC 社の UPS (USB 接続タイプ : ES500 / ES725 / CS350 / CS500)

# 増設できる eSATA 機器

本製品の eSATA ポートに増設できるハードディスクは、以下のハードディスクです。  
※最新の対応機器については、弊社ホームページ (<http://www.iodata.jp/>)をご覧ください。



●eSATA 機器を増設する前に、以下の注意もご確認ください。

【使用上のご注意】 (7ページ)

●本製品の eSATA ポートに、ポートマルチプライヤー (Port Multiplier) は接続できません。

●本製品の eSATA ポートには、以下の対応機器以外の機器は接続しないでください。

最新の対応機器については、弊社ホームページ (<http://www.iodata.jp/>)をご覧ください。

動作確認済み eSATA ハードディスク	以下の弊社製ハードディスクに対応しています。 ・HDC-UX シリーズ                      ・RHD-UX シリーズ
対応フォーマット	本製品に接続可能なハードディスクのフォーマット形式については、以下の個所を参照してください。 【ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い】 (199ページ) ※弊社製 LAN-iCN、LAN-iCN2、LANDISK で使用していたハードディスクは、本製品が対応するフォーマット形式に再フォーマットしてからご利用ください。

※本製品には、2TB (2,199,023,255,040byte) より大きいディスク容量のハードディスクは接続できません。  
※本製品には、パーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT) のハードディスクは接続できません。



## 各 OS で使用できるファイルサイズについて

Windows Vista®/XP/2000 Windows 2008/2003/2000 Server	特に制限はありません。
Windows Me	4G バイト以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱うことはできません。
Windows 95~98	2G バイト以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱うことはできません。
Mac OS X	特に制限はありません。
Mac OS(Classic)	2G バイト以上のファイルサイズはネットワーク経由では扱うことはできません。

# ハードディスクのフォーマット形式による機能の違い

増設するハードディスクのフォーマット形式によって使い方に制限があります。

	対応フォーマット※1	
	FAT※2	NTFS※3
本製品での対応	○ (読み書き可)	△ (読み込みのみ可) ※書き込み不可
パソコンに接続した場合	○ (読み書き可)	○ (読み書き可)
主な用途	・本製品の容量増設用 ・データバックアップ用	データ参照用
本製品からの取り外し	○ (取り外し可)	
ネットワーク上からのファイルの読み書き	○ (読み書き可)	△ (読み込みのみ可) ※書き込み不可
共有フォルダの作成	×  ※本製品に接続後、初期状態で以下の共有フォルダが作成されます。 ・USB ポート 1 に接続したハードディスク→「usb1」 ・USB ポート 2 に接続したハードディスク→「usb2」 ・eSATA ポート 1 に接続したハードディスク→「esata1」 ・eSATA ポート 2 に接続したハードディスク→「esata2」	
ユーザ・グループ別アクセス制限	○	

※1 OS により、ネットワーク上で扱えるファイルサイズには制限があります。  
以下の個所を参照してください。

[【各 OS で使用できるファイルサイズについて】 \(198ページ\)](#)

※2 本製品で FAT32 にフォーマットする場合は以下の個所をご覧ください。

[【増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする】 \(87ページ\)](#)

オプション品の「RHD シリーズ」をパソコンでフォーマットする際は、別売の SerialATA 対応 5 インチベイ用内蔵ユニット [RHD-IN/SA] をご用意ください。

※3 NTFS でフォーマットする場合は、ハードディスクをパソコンに接続し、パソコン上からフォーマットしてください。  
(方法については、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。)

Macintosh から、NTFS 形式でフォーマットされた増設ディスクを共有フォルダとして利用することはできません。

※4 本製品には、パーティションテーブルが GUID Partition Table (GPT) のハードディスクは接続できません。

# 出荷時設定一覧

出荷時設定表			
項目	初期値		
システムバージョン	1.10 (出荷時期による)		
MAC アドレス	00:A0:B0:xx:xx:xx (製品ごとに異なる)		
◆ネットワーク			
共有サービス 設定	Microsoft ネットワーク ファイル共有	有効	
	アクセスログ記録	無効	
	AppleShare ネットワーク ファイル共有	有効	
	FTP	無効	
	プリントサーバ	無効	
MS ネットワ ーク設定	LANDISK の名前	LANDISK	
	コンピュータの説明	HDL-GTR series	
	参加方法	ワークグループ	
	ワークグループ	WORKGROUP	
	ドメインコントローラの名前	なし	
	WINS サーバアドレス	なし	
TCP/IP 設定	TCP/IP の設定	IP アドレスを自動取得する (DHCP)	
		自動取得失敗時 IP アドレス	192.168.0.200 (AutoIP 自動割当 169.254.xxx.xxx)
		サブネットマスク	255.255.255.0 (AutoIP アドレスは 255.255.0.0)
		デフォルトゲートウェイ	なし
		DNS ドメイン名	localdomain
	DNS サーバアドレス	なし	
ジャンボフレーム	未使用 (1500byte)		
◆共有管理			
共有フォルダ 管理	作成済み共有	disk1	
		場所	内蔵ボリューム 1
		コメント	HDL-GTR RAID volume
		アクセス権	全てのユーザに許可/読み書き可能
		サービス	Microsoft ネットワーク ファイル共有 AppleShare ネットワーク ファイル共有
		ごみ箱機能	無効
ユーザ管理	登録済みユーザ	なし	
グループ管理	登録済みグループ	なし	
ユーザ使用量 管理	使用量制限	使用しない	
グループ使用 量管理	使用量制限	使用しない	
◆ディスク			
ボリューム操作	動作モード	RAID5 (分散パリティ)	
	状態	正常動作しています	
	操作	フォーマット (専用)	
ボリューム設定	ボリュームの選択	内蔵ボリューム	
	動作モードの選択	RAID5 (分散パリティ)	
アクティブリペア	現在の状態	アクティブリペアは実行していません	
	スケジュール実行機能	使用する ※ファームウェアバージョン 1.23 以降	
ディスク省電力	時間選択	なし	
	内蔵ボリューム	無効	
	eSATA ボリューム 1	無効	
	eSATA ボリューム 2	無効	
	USB ボリューム 1	無効	
	USB ボリューム 2	無効	



◆バックアップ			
セルフバックアップ			なし
リモートバックアップ			なし
◆メール通知			
メール基本設定	メール基本設定	メール通知機能	無効
		SMTP サーバ	なし
		SMTP ポート番号	25
		差出人メールアドレス	なし
	メール送信時認証設定	認証方式	無効
		POP サーバ	なし
		ユーザ名	なし
	メール通知テスト	パスワード	なし
送信先メールアドレス		なし	
メール通知設定	セルフバックアッププログラム	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	リモートバックアッププログラム	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	システムログ	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
	システム起動終了通知	メール通知	無効
		送信先メールアドレス	なし
システム温度エラー通知	メール通知	無効	
	送信先メールアドレス	なし	
ディスクエラー通知	メール通知	無効	
	送信先メールアドレス	なし	
使用量通知設定	メール通知		使用しない
	空き容量警告機能		使用しない
	使用量レポート機能		使用しない
◆システム			
システム時刻			手動設定
起動スケジュール	起動スケジュール機能		無効
	起動スケジュール表の設定	設定方法の選択	曜日個別の指定時刻に起動・終了
		起動設定	無効
		起動時刻設定	なし
		終了設定	無効
		終了時刻設定	なし
ランプの明るさ			明
UPS 設定	UPS 警告		無効
	シャットダウン条件	停電後の経過時間	10 分後にシャットダウン
		UPS バッテリー充電容量	10%以下でシャットダウン
◆定期警告			
定期警告音設定	ディスク構成異常警告		無効
	空き容量警告		無効
	UPS 警告		無効
◆メロディ			
メロディ設定			なし
◆管理者パスワード			
管理者パスワード	現在のパスワード		なし
	新パスワード		なし
	確認パスワード		なし



# ログ一覧

※表中\*\*\*の部分には USB ポート番号、eSATA ポート番号や共有名などの情報が入ります。

## ●バックアップ

内容	詳細
usbp1: 停止処理異常終了	クイックコピー後、USB ポート 1 のデバイスの抜きとり処理が異常終了した場合に出力されます。
クイックコピー正常終了	クイックコピーが正常終了しました。
クイックコピー異常終了	クイックコピーが異常終了しました。
クイックコピー設定エラー	クイックコピーの設定取得でエラーが発生しました。
クイックコピー開始***	クイックコピーを開始しました。
コピーエラー***	コピー実行中にエラーが発生しました。
コピー元エラー***	コピー元フォルダに問題があります。
コピー元共有エラー***	コピー元共有に問題があります。
コピー元設定エラー	コピー元設定に問題があります。
コピー先エラー***	コピー先フォルダに問題があります。
コピー先フォルダ作成エラー***	コピー先フォルダの作成でエラーが発生しました。
コピー先フォルダ削除エラー***	コピー先フォルダの削除でエラーが発生しました。
コピー先共有エラー***	コピー先共有に問題があります。
コピー先に空き容量がありません***	コピー先に空き容量がありません。
セルフバックアップ正常終了	セルフバックアップが正常終了しました。
セルフバックアップ異常終了	セルフバックアップが異常終了しました。
セルフバックアップ設定エラー	セルフバックアップの設定取得でエラーが発生しました。
セルフバックアップ開始***	セルフバックアップを開始しました。
バックアップや他の処理のため開始できませんでした	バックアップもしくはコピーが他の処理のため開始できませんでした。
バックアップもしくはコピー中にシャットダウンが開始されました	バックアップもしくはコピー中に電源断され強制中断されました。
他の処理のため開始できませんでした	バックアップもしくはコピーが他の処理のため開始できません。
ファイル情報変更エラー	ファイル情報の変更時にエラーが発生しました。
リモートバックアップ正常終了	リモートバックアップが正常終了しました。
リモートバックアップ異常終了	リモートバックアップが異常終了しました。
リモートバックアップ設定エラー	リモートバックアップの設定取得でエラーが発生しました。
リモートバックアップ開始***	リモートバックアップを開始しました。
ログメール送信エラー	ログメールの送信でエラーが発生しました。
履歴フォルダ削除エラー	履歴フォルダの削除でエラーが発生しました。
設定ファイルオープンエラー***	装置内部で設定ファイルのオープンでエラーが発生しました。

## ●ログ記録

内容	詳細
メール送信に失敗しました。(***)	メールの送信に失敗した時に出力されます。
終了	ログ記録プログラムが終了された時に出力されます。
開始	ログ記録プログラムが起動された時に出力されます。

## ●DHCP クライアント

内容	詳細
DHCP 成功: アドレス: *** , 更新間隔: *** 秒	DHCP サーバから取得に成功した時に出力されます。
DHCP 失敗: AutoIP アドレス: ***	DHCP サーバから取得に失敗した時に出力されます。

## ●FTP サーバ

内容	詳細
アップロード: ユーザ: *** クライアント: *** ファイル: ***	FTP クライアントから FTP サーバへファイルが転送された時に出力されます。
ダウンロード: ユーザ: *** クライアント: *** ファイル: ***	FTP サーバから FTP クライアントへファイルが転送された時に出力されます。
ログイン: ユーザ: *** クライアント: ***	FTP クライアントが登録ユーザとしてログインした時点で出力されます。
ログイン: 匿名ユーザ(ftp) クライアント: *** パスワード: '***'	FTP クライアントが匿名ユーザとしてログインした時点で出力されます。
ログイン失敗: ユーザ: *** クライアント: ***	FTP クライアントが登録ユーザとしてログインを試みたが、ログインに失敗した場合に出力されます。
接続: クライアント: ***	FTP クライアントから接続があった時点で出力されます。

## ● ユーザ管理

内容	詳細
ユーザ *** の削除	ユーザの削除処理を行った時に出力されます。
ユーザ *** の追加	ユーザの追加処理を行った時に出力されます。
***: FTP 共有変更	そのユーザに対する FTP 共有を変更した場合に出力されます。
***: パスワード変更	そのユーザのパスワードの変更処理を行った場合に出力されます。
***: ユーザ削除	ユーザの削除処理を行った時に出力されます。
***: ユーザ追加	ユーザの追加処理を行った時に出力されます。

## ● デバイス管理

内容	詳細
***: 開始	USB ポートにデバイスが差し込まれた時に出力されます。また、チェックディスク・フォーマット時にも出力されます。
***: 開始処理正常終了	USB ポートなどに差し込まれたデバイスの挿し込み処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。
***: 開始処理異常終了	USB ポートなどに差し込まれたデバイスの差し込み処理に失敗した場合に出力されます。
プリンタ開始処理終了	プリンタの開始処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。
プリンタ停止処理終了	プリンタの停止処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。
RAID 崩壊モードへ移行	RAID ボリュームが崩壊した場合に出力されます。
***: 停止	デバイスが抜かれた時に出力されます。また、チェックディスク・フォーマット時にも出力されます。
***: 停止処理異常終了	USB ポートのデバイスの抜き取り処理に失敗した場合に出力されます。
***: フォーマット開始	ディスクのフォーマットを開始した時点で出力されます。
***: 専用フォーマット	内蔵ディスク・専用ディスクのフォーマットを開始した時点で出力されます。
***: FAT32 フォーマット	FAT32 フォーマットを開始した時点で出力されます。
***: フォーマット正常終了	ディスクのフォーマットが正常終了した時点で出力されます。
***: フォーマット異常終了	ディスクのフォーマットに失敗した場合に出力されます。
***: チェックディスク: 開始	チェックディスクを開始した時点で出力されます。
***: チェックディスク: エラー発見	チェックディスクで異常が発見された場合に出力されます。
***: チェックディスク: 異常なし	チェックディスクで異常が発見されなかった場合に出力されます。
***: ポート設定変更: *** =>	ポート設定変更の開始段階で、ポート設定を解除した時点で出力されます。
***: ポート設定変更完了: => ***	ポート設定変更が正常終了した場合に出力されます。
***: ポート設定変更失敗: => ***	ポート設定変更が異常終了した場合に出力されます。
RAID 構成変更完了: => ***	RAID 構成変更が正常終了した場合に出力されます。
RAID 構成変更失敗: => ***	RAID 構成変更が異常終了した場合に出力されます。
***: 容量不足	接続したドライブの容量が不足している場合に出力されます。

## ● 共有サービス設定

内容	詳細
設定変更	共有サービスの起動設定が変更された場合に表示されます。

## ● 共有設定

内容	詳細
***: *** の属性変更	共有の属性が変更された場合に出力されます。
***: 共有削除	共有が削除された場合に出力されます。
***: 共有追加	共有が追加された場合に出力されます。
***: 名前変更	共有の名前が変更された場合に出力されます。
***: 所有者変更	共有の所有者が変更された場合に出力されます。

## ● グループ管理

内容	詳細
***: グループ削除	グループを削除した時に出力されます。
***: グループ追加	グループを追加した時に出力されます。
***: ユーザ *** 追加	グループにユーザを追加した時に出力されます。
***: ユーザ *** 削除	グループからユーザを削除した時に出力されます。

## ● WEB 設定画面

内容	詳細
管理者ログアウト : ***	WEB 設定画面よりログアウト時にログアウトした PC の IP アドレスとともに出力されます。
管理者ログイン失敗 : ***	WEB 設定画面にログイン失敗時にログインを試みた PC の IP アドレスとともに出力されます。
管理者ログイン成功 : ***	WEB 設定画面にログイン成功時にログインした PC の IP アドレスとともに出力されます。
ログ情報を全消去	WEB 設定画面よりログ情報を全消去しました。

## ●NTP 時刻同期

内容	詳細
NTP サーバ: ***接続失敗	NTP サーバへの接続に失敗した場合に出力されます。
微調整: サーバ: ***, 誤差: *** 秒	NTP プロトコルによる時刻同期を行ったときに出力されます。この場合、システムクロックは徐々に調製されます。
有効な NTP サーバなし NTP 終了	NTP プロトコルによる時刻同期を終了します。
調整: サーバ: ***, 誤差: *** 秒	NTP プロトコルによる時刻同期を行ったときに出力されます。この場合、システムクロックはジャンプしています。

## ●ファームウェア更新

内容	詳細
ファームウェア更新失敗: ***	ファームウェア更新に失敗した場合にエラーコードと共に表示されます。
ファームウェア更新成功: ***	ファームウェア更新に成功した場合に表示されます。

## ●RAID 監視

内容	詳細
監視プログラム開始	監視プログラムが起動したときに出力されます。
監視プログラム停止	監視プログラムが停止したときに出力されます。
***: HDD 発見	監視プログラムが起動時にディスクを発見した時に出力します。
***: 単体動作	単体動作に移行した時に出力します。
***: 再構築開始	再構築を開始した時に出力されます。
***: 再構築 *** % 完了	再構築の進捗を出力します。
***: 再構築終了	再構築を終了した時に出力されます。
*** ***: ミラー有効	ミラーリングが有効になった時に出力されます。
***: エラー	ディスクにエラーを検出した時に出力されます。
***: 回復不能エラー	再構築中に回復不能なエラーを検出した時に出力されます。

## ●ディスク

内容	詳細
致命的エラー: 内蔵ハードディスクをマウントできません。	内蔵ハードディスクがマウントできない場合に出力されます。内蔵ハードディスクが論理的に、もしくは物理的に破損しています。
内蔵ハードディスクの暗号化ロック解除に失敗しました。	内蔵ハードディスクが暗号化されており、起動時にボリュームの開始処理に失敗した場合に出力されます。ロックキーが挿し込まれていない場合もありますが、ボリュームが論理的もしくは物理的に破損している場合もあります。

## ●ディスク修復

内容	詳細
***: 終了 欠陥修復完了	アクティブリペアのスキャンが終了し、修復可能なエラーを修復した時に出力されます。
***: 終了 欠陥修復失敗 ディスクの内容をバックアップした後に、フォーマットを実行してください	アクティブリペアのスキャンが終了し、エラーを修復できない場合に出力されます。
不良ブロック: ***: *****; . . . ***: *****; . . . . . .	次の行から不良ブロックの一覧が追記されます。
開始	アクティブリペアを開始したときに出力されます。
終了 異常なし	アクティブリペアのスキャンが終了し、異常セクタがなかった時に出力されます。
終了 欠陥修復完了	アクティブリペアのスキャンが終了し、修復可能なエラーを修復した時に出力されます。
終了 欠陥修復失敗 ディスクの内容をバックアップした後に、フォーマットを実行してください	アクティブリペアのスキャンが終了し、エラーを修復できない場合に出力されます。
失敗	何らかの理由でアクティブリペアのスキャンが失敗した場合に出力されます。
中断	アクティブリペアのスキャンが中断された時に出力されます。

## ●システム温度エラー通知

内容	詳細
装置温度が異常です。装置の設置環境を見直してください。 システムを強制終了します。	装置温度が異常な高温となった場合に出力されます。
FAN が停止しました。装置が高温となり障害の原因となります。 FAN の状態を確認してください。	装置 FAN が停止した場合に出力されます。

## ●UPS 接続

内容		詳細
UPS 監視	起動	UPS 監視プログラムが起動した時点で出力されます。
	停止	UPS 監視プログラムが停止された時点で出力されます。
	バッテリーでの運用を開始	UPS が電源供給元をバッテリーへと切替えた時に出力されます。
	商用電源での運用に復旧	UPS が商用電源からの電源供給に復旧した時に出力されます。
	バッテリー稼働時間の制限に達しました。	UPS がバッテリーから電源を供給していたが、バッテリーが空に近付いた時に出力されます。
	バッテリー残量の下限に達しました。	UPS がバッテリーから電源を供給していたが、バッテリーが空に近付いた時に出力されます。
	シャットダウン処理を開始します。	シャットダウン処理を開始した時に出力されます。
UPS 接続	UPS 異常: UPS 状態を確認してください。	UPS が通常運用と確認できない場合に出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ UPS が接続されていない。</li> <li>・ 内蔵バッテリー運用など通常運用ではない。</li> <li>・ その他何らかの通信異常、で発生します。</li> </ul> 起動後は、UPS 抜去時のみ発生します。
デバイス管理	UPS 開始処理終了	UPS の開始処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。
	UPS 停止処理終了	UPS の停止処理を行い、正常に終了した場合に出力されます。

## ●空き容量警告

内容	詳細
ディスクの空き容量が***%以下になりました。	空き容量が"ディスクの空き容量警告"で指定したパーセント以下になると出力されます。
ユーザ**の空き容量が 20%以下になりました。	ユーザの制限設定値に対する空き容量が 20%以下になった場合に出力されます。
ユーザ**の空き容量が 10%以下になりました。	ユーザの制限設定値に対する空き容量が 10%以下になった場合に出力されます。
グループ**の空き容量が 20%以下になりました。	グループの制限設定値に対する空き容量が 20%以下になった場合に出力されます。
グループ**の空き容量が 10%以下になりました。	グループの制限設定値に対する空き容量が 10%以下になった場合に出力されます。
ドメインユーザ**の空き容量が 20%以下になりました。	ドメインユーザの制限設定値に対する空き容量が 20%以下になった場合に出力されます。
ドメインユーザ**の空き容量が 10%以下になりました。	ドメインユーザの制限設定値に対する空き容量が 10%以下になった場合に出力されます。
ドメイングループ**の空き容量が 20%以下になりました。	ドメイングループの制限設定値に対する空き容量が 20%以下になった場合に出力されます。
ドメイングループ**の空き容量が 10%以下になりました。	ドメイングループの制限設定値に対する空き容量が 10%以下になった場合に出力されます。

## ●Windows ファイルサービスアクセスログ

[【アクセスログのリファレンス】 \(181ページ\)](#) をご参照ください。

# 設定画面の リファレンス

システムバージョン	1.10
現在時刻	2006年12月20日 08時15分59秒
タイムサーバとの時刻同期	無効
有効な共有サービス	Microsoftネットワークファイル共有 AppleShareネットワークファイル共有
内蔵ボリュームの動作モード	RAID5(分散パリティ)
クイックコピー	有効
セルフバックアップ	スケジュール無効
リモートバックアップ	スケジュール無効
ディスク省電力	なし
ランプの明るさ	明
起動スケジュール	無効
筐体内温度	27.0℃
メインFAN回転数	rpm
UPS接続状態	未接続
UPSバッテリー充電容量	取得できません
UPS警告機能	無効

項目	内容	初期値
システムバージョン	本製品システムのバージョンです。	1.10 (出荷時期による)
現在時刻	本製品に設定されている時刻です。	
タイムサーバとの時刻同期	装置の時刻をタイムサーバから取得するかどうかについて表示します。取得する場合、タイムサーバの設定状況と設定するタイミングも表示します。 例) タイムサーバ: ntp.jst.mfeed.ad.jp 同期タイミング: 装置起動時など 設定は、 <a href="#">[メニュー]</a> → <a href="#">[システム]</a> → <a href="#">[システム時刻]</a> (233ページ) を参照してください。	無効

有効な共有サービス	現在、本製品が提供しているサービスを表示します。設定は、 <a href="#">[メニュー]</a> → <a href="#">[ネットワーク]</a> → <a href="#">[共有サービス設定]</a> (214ページ) を参照してください。		
	Microsoft ネットワークファイル共有	Windows パソコンがファイル共有に使用するサービスです。	有効
	アクセスログ記録	Windows ファイル共有アクセス時にログを記録します。	無効
	AppleShare ネットワークファイル共有	Macintosh パソコンがファイル共有に使用するサービスです。	有効
	FTP	FTP によるファイル転送サービスで利用する場合のサービスです。	無効
	プリントサーバ	プリンタを共有する場合に使用するサービスです。 プリンタを USB ポート 2 に接続すると自動的に有効になります。	無効
内蔵ボリュームの動作モード	現在の内蔵ボリュームがどのようなモードで動作しているのかを表示します。設定は、 <a href="#">[メニュー]</a> → <a href="#">[ディスク]</a> → <a href="#">[ボリューム設定]</a> (225ページ) を参照してください。		
	RAID0 (ストライピング)	ディスクの利用効率、システムパフォーマンスが最も高いモードです。 (データ保護機能はありません。)	RAID5 (分散パリティ)
	RAID5 (分散パリティ)	ディスクの利用効率、データ保護機能およびシステムパフォーマンスのバランスの良いモードです。	
	RAID1+0 (ミラーストライピング)	ディスクの利用効率は高くありませんが、データ保護機能およびシステムパフォーマンスが高いモードです。	
	Encrypted RAID5	暗号化分散パリティ	
	Encrypted RAID1+0	暗号化ミラーストライピング	
	Encrypted RAID0	暗号化ストライピング	
クイックコピー	USB ポート 1 に接続されたデジカメなどの USB 機器から共有へ一括コピーを実行するモードです。このモードに設定した場合、USB ポート 1 に接続された USB 機器はコピー元として認識され、 <a href="#">[COPY]</a> ボタンを長押しすることによりあらかじめ設定された共有へコピーを行います。クイックコピーモードを解除して一般共有ポートとして利用したり、クイックコピーのコピー先共有を変更したい場合には、 <a href="#">[メニュー]</a> → <a href="#">[ディスク]</a> → <a href="#">[ボリューム設定]</a> (225ページ) を参照してください。		
セルフバックアップ	セルフバックアップの設定状況を表示します。設定は、 <a href="#">[メニュー]</a> → <a href="#">[バックアップ]</a> → <a href="#">[セルフバックアップ]</a> (228ページ) を参照してください。		スケジュール無効
リモートバックアップ	リモートバックアップの設定状況を表示します。設定は、 <a href="#">[メニュー]</a> → <a href="#">[バックアップ]</a> → <a href="#">[リモートバックアップ]</a> (229ページ) を参照してください。		スケジュール無効
ディスク省電力	一定時間ディスクアクセスがない場合に内蔵ドライブ、外付けドライブを省電力モードにして消費電力を抑える機能を提供します。時間が表示されている場合は、最後のディスクアクセスからその時間経過すると消費電力を抑えるモードに入ります。次回ディスクアクセスが発生すると、自動的に通常モードに戻ります。 <b>外付けドライブにおいては対応する装置以外、省電力モードは利用できません。</b> 詳しくは弊社ホームページ ( <a href="http://www.iodata.jp/">http://www.iodata.jp/</a> ) をご参照ください。設定は、 <a href="#">[メニュー]</a> → <a href="#">[ディスク]</a> → <a href="#">[ディスク省電力]</a> (227ページ) を参照してください。		なし
ランプの明るさ	本製品前面の <a href="#">[STATUS]</a> ランプ、および、4台のカートリッジの <a href="#">[ACCESS]</a> ランプの明るさを表示します。明るさは「明」「中」「暗」の3段階から選択できます。設定は、 <a href="#">[メニュー]</a> → <a href="#">[システム]</a> → <a href="#">[ランプの明るさ]</a> (234ページ) を参照してください。		明
起動スケジュール	本製品を指定時刻に起動、終了する機能を利用しているかどうかを表示します。設定は、 <a href="#">[メニュー]</a> → <a href="#">[システム]</a> → <a href="#">[起動スケジュール]</a> (233ページ) を参照してください。		無効
筐体内温度	現在の装置内の温度を表示します。		—
メイン FAN 回転数	メイン FAN の現在の回転数を表示します。		—
UPS 接続状態	UPS 装置の接続状況を表示します。		—
UPS バッテリー充電容量	接続されているバッテリーの残容量を%表示します。		—
UPS 警告機能	UPS 監視の有効/無効を表示します。		無効



■ ネットワークの情報

LANDISKの名前	LANDISK
コンピュータの説明	HDL-GT series
ワークグループ名	WORKGROUP
WINSサーバアドレス	
DHCPクライアント	有効
IPアドレス	
サブネットマスク	
デフォルトゲートウェイ	
DNSドメイン名	
DNSサーバアドレス	
MACアドレス	00:A0:B0: [ ]
ジャンボフレーム	未使用(mtu:1500)

項目	内容	初期値
LANDISK の名前	本製品に設定している名前です。この名前は、Windows ネットワークに接続しているクライアントから本製品を指定する場合などに利用します。 設定は、[メニュー] → [ネットワーク] → [MS ネットワーク設定] (215ページ) を参照してください。	LANDISK

コンピュータの説明	本製品に設定している説明文です。Windows ネットワークのプロパティ内にある [コンピュータの説明] 同様に、ネットワークで本製品を詳細表示したときのコメントです。 設定は、[メニュー] → [ネットワーク] → [MS ネットワーク設定] (215ページ) を参照してください。	HDL-GTR series
ワークグループ名/ドメイン名/ドメイン名 (NetBIOS 名)	本製品に設定しているワークグループ名またはドメイン名です。 設定は、[メニュー] → [ネットワーク] → [MS ネットワーク設定] (215ページ) を参照してください。	WORKGROUP
ドメイン名 (フル DNS 名)	本製品に設定しているドメイン名です。 <b>※ドメイン設定時のみ表示されます。</b> ※Active Directory 設定は [メニュー] → [ネットワーク] → [MS ネットワーク設定] (215ページ) を参照してください。	なし
ドメインコントローラ名	本製品に設定しているドメインコントローラの名前です。 <b>※ドメイン設定時のみ表示されます。</b> 設定は、[メニュー] → [ネットワーク] → [MS ネットワーク設定] (215ページ) を参照してください。	なし
ドメインへの参加状況	ドメインサーバへログオンできたかどうかの状況です。ワークグループで運用時には表示しません。 <b>※ドメイン設定時のみ表示されます。</b> 設定は、[メニュー] → [ネットワーク] → [MS ネットワーク設定] (215ページ) を参照してください。	なし
WINS サーバアドレス	本製品に設定している WINS サーバアドレスです。この設定により、ルータで区切られたネットワークにおいても名前による Windows ネットワーク共有サービスが受けられます。通常、ご家庭でご利用になられる場合は設定の必要がありません。設定は、[メニュー] → [ネットワーク] → [MS ネットワーク設定] (215ページ) を参照してください。	空白
DHCP クライアント	本製品の IP アドレスを自動取得する DHCP 機能が有効か無効かを表示します。	有効
	有効 IP アドレスをルータなどの DHCP サーバから自動取得します。	
	無効 IP アドレスを手動設定したとおりに設定します。	
	有効かつ DHCP サーバから IP アドレスが取得できなかった場合は、以下の①と②の2つのアドレスを設定して起動しますので、管理用パソコンから上記アドレスのどちらかに接続して IP アドレスを固定に変更してください。 ①. 169.254.xxx.xxx のアドレス      ②. 192.168.0.200 のアドレス 設定は、[メニュー] → [ネットワーク] → [TCP/IP 設定] (217ページ) を参照してください。	
IP アドレス	本製品に設定している IP アドレスです。DHCP が有効の場合は、DHCP サーバから自動取得したアドレスが表示されます。(DHCP 取得失敗時) 192.168.0.200 および 169.254.xxx.xxx	DHCP サーバから自動取得したアドレス
サブネットマスク	本製品に設定しているサブネットマスクです。IP アドレスとの組み合わせにより、通信できるネットワークが決まります。DHCP 機能を有効にしている場合は、DHCP サーバから取得したサブネットマスク値が表示されます。(DHCP 取得失敗時) 255.255.255.0 (169.254.xxx.xxx のサブネットマスクは 255.255.0.0)	DHCP サーバから自動取得したマスク値
デフォルトゲートウェイ	本製品に設定しているデフォルトゲートウェイです。 通信相手と同じネットワーク内に存在していない場合、本製品は、このゲートウェイアドレス宛に通信を行い、中継を依頼します。 DHCP 機能を有効にしている場合、DHCP サーバから取得したゲートウェイアドレスが表示されます。	DHCP サーバから自動取得したアドレス
DNS ドメイン名	本製品に設定している DNS ドメイン名です。 DHCP 機能を有効にしている場合、DHCP サーバから取得したドメイン名を表示します。	DHCP サーバから自動取得したドメイン名
DNS サーバアドレス	本製品が名前解決に利用する DNS サーバアドレスです。この設定が正しくないとメール配信が正常に行えません。DHCP 機能を有効にしている場合、DHCP サーバから取得した DNS サーバアドレスが表示されます。	DHCP サーバから自動取得したアドレス
MAC アドレス	本製品の MAC アドレスです。このアドレスは出荷時点で本製品に書き込まれており、変更はできません。	00:A0:B0:xx:xx:xx
ジャンボフレーム	本製品が通信する際に送り出す 1 回分のデータの最大値を指定します。ネットワーク上のすべての製品がジャンボフレームに対応している場合のみご利用いただけます。 <b>ネットワーク上の全ての機器が同一の値でないと通信できません。設定値が正しいかどうかご確認ください。</b>	未使用 (1500byte)

▼eSATA ポート 2 と USB ポート 2 に FAT32 形式 HDD を接続している例



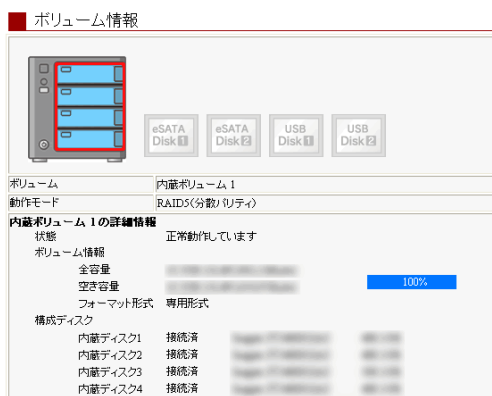
●表示色での各ディスク状態

色	状態
水色	接続済み、正常に動作中
グレー	接続済み、停止中
赤	接続済み、エラー発生
白	未接続

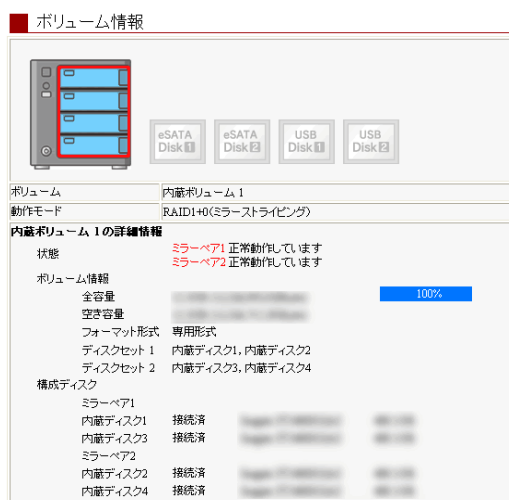
## 内蔵ハードディスク

[内蔵ハードディスク] をクリックすると詳細情報が表示されます。

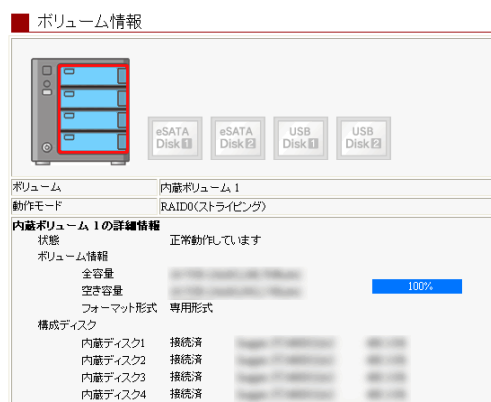
▼RAID5 (分散パリティ) での表示例



▼RAID1+0 (ミラーストライピング) での表示例



▼RAID0 (ストライピング) での表示例



<b>▼ボリューム</b>		
選択したボリュームの名前を表示します。		
内蔵ボリューム 1	本製品の内蔵ドライブによる RAID アレイです。	
<b>▼動作モード</b>		
ボリュームの動作モードを表示します。		
RAID5 (分散パリティ)	ディスクの利用効率、データ保護機能およびシステムパフォーマンスのバランスの良いモードです。	
RAID1+0 (ミラーストライピング)	ディスクの利用効率は高くありませんが、データ保護機能およびシステムパフォーマンスが高いモードです。	
RAID0 (ストライピング)	ディスクの利用効率、システムパフォーマンスが最も高いモードです。 (データ保護機能はありません。)	
Encrypted RAID5	暗号化分散パリティ	
Encrypted RAID1+0	暗号化ミラーストライピング	
Encrypted RAID0	暗号化ストライピング	
<b>▼内蔵ボリューム 1 の詳細情報</b>		
状態	ボリュームの動作状態を表示します。	
	正常動作しています	ボリュームは正常に動作しています。
	再構築を行っています (XX% complete)	新しいディスクが追加され、RAID の再構築を行っています。
	構成ディスクに問題が発生しています	RAID の構成に問題が発生しています。異常が発生しているディスクを新しいものに交換してください。
	停止	eSATA ボリューム 1 で単体動作中です。(eSATA 起動)
	崩壊	崩壊モードで起動した、または、動作中に RAID が崩壊しています。
	未使用	未フォーマットか、FAT/NTFS/専用形式以外のボリュームです。
	未接続	該当ポートにドライブが接続されていません。
ボリューム情報	このボリュームの容量について表示します。	
	全容量	ボリューム全体の容量を表示します。 (1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)
	空き容量	ボリュームの空き容量を表示します。%は空き容量の占める割合です。 (1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)
フォーマット形式	このボリュームのフォーマット形式を示します。	
	専用形式	本製品専用のフォーマットであることを示します。 [内蔵ボリューム 1] のみの形式です。
	FAT 形式	Windows でそのまま利用可能な FAT 形式でフォーマットされています。 このボリュームを取り外して Windows パソコンに接続すれば、そのまま読み書きが可能です。
	NTFS 形式	Windows で NTFS 形式としてフォーマットされています。 このボリュームは本製品では読み込み専用となります。
不明な形式	上記以外の形式です。	
構成ディスク	ボリュームを構成するディスクの一覧を次の形式で表示します。 (ディスク番号 ディスク状態 ディスク名 ディスク容量)	
	<b>▼ディスク番号</b>	
	内蔵ディスク 1	1 番上のカートリッジのドライブリストです。
	内蔵ディスク 2	上から 2 番目のカートリッジのドライブリストです
	内蔵ディスク 3	上から 3 番目のカートリッジのドライブリストです
	内蔵ディスク 4	1 番下のカートリッジのドライブリストです。
	<b>▼ディスク状態</b>	
	接続済	本製品で正常に認識されています。
	未接続	本製品で認識されていません。カートリッジの交換、またはケーブルの抜き差しが可能な状態です。
	待機中	本製品で認識されていますが、RAID に組み込めない状態です。 RAID を構成するスロットに FAT/NTFS 形式でフォーマットされたディスクで、かつデータが保存されているカートリッジを接続したと考えられます。RAID に組み込んで再構築を開始するには、メンテナンスを実行してください。 再構築を開始すると、ディスクに保存されているデータは消去されますので必要なデータはあらかじめバックアップしておいてください。
	<b>▼ディスク名</b>	
	ディスク名	ディスクのモデルナンバーを表示します。
	<b>▼ディスク容量</b>	
	ディスク容量	ディスクのディスク容量を表示します。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)

増設ハードディスク ([eSATA Disk1]、[eSATA Disk2]、[USB Disk1]、[USB Disk2])

▼eSATA ボリューム 2 での表示例



▼ボリューム	
選択したボリュームの名前を表示します。	
eSATA ボリューム 1	外付け eSATA ドライブの内、背面の [eSATA ポート 1] に接続されているドライブです。
eSATA ボリューム 2	外付け eSATA ドライブの内、背面の [eSATA ポート 2] に接続されているドライブです。
USB ボリューム 1	外付け USB ドライブの内、前面の [USB ポート 1] に接続されているドライブです。
USB ボリューム 2	外付け USB ドライブの内、背面の [USB ポート 2] に接続されているドライブです。
▼動作モード	
ボリュームの動作モードを表示します。	
共有ディスク (FAT/NTFS) モード	接続された FAT/NTFS 形式のディスクが、共有ディスクとして使用できることを示します。 ( [eSATA ボリューム 1] のみ)
ミラーリング	HDL-GTR シリーズ本体と eSATA ハードディスクでミラーリング機能が利用可能なことを示します。 ( [USB ボリューム 1] のみ)
クイックコピー	USB クイックコピー機能が利用可能なことを示します。

▼詳細情報		
状態	このボリュームの状態を表示します。	
	正常動作しています	ボリュームは正常に動作しています。eSATA ボリューム 1 をミラーリングに設定している場合は、内蔵ボリュームと同期が取れている状態を示しています。
	停止	eSATA ボリューム 1 がミラーリングモードで接続されていますが、同期は行われていない状態です。
	未使用	未フォーマットか、FAT/NTFS/専用形式以外のボリュームです。
	未接続	ディスクが接続されていないか、取り外せる状態にあります。
	再構築を行っています (XX% complete)	( [eSATA ボリューム 1] のみ) 内蔵ボリューム 1 とミラーリングのための再構築を行っています。
	eSATA ディスク 1 で単体動作中	内蔵ボリュームが停止状態にあり、eSATA ディスク 1 のみで動作している状態です。内蔵ボリュームを eSATA ディスク 1 の内容で再構築するには、eSATA ディスク 1 からミラーリング開始を行ってください。
	クイックコピー可能	[COPY] ボタンでクイックコピー機能が実行できます。
ボリューム情報	このボリュームの容量について表示します。	
	全容量	ボリューム全体の容量を表示します。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)
	空き容量	ボリュームの空き容量を表示します。%は空き容量の占める割合です。(1Kbyte=1000byte にて算出しています。)
フォーマット形式	このボリュームのフォーマット形式を表示します。	
	FAT 形式	Windows でそのまま利用可能な FAT 形式でフォーマットされています。 このボリュームを取り外して Windows パソコンに接続すれば、そのまま読み書きが可能です。
	NTFS 形式	Windows で NTFS 形式としてフォーマットされています。 このボリュームは本製品では読み込み専用となります。
	専用形式	( [eSATA ボリューム 1] のみ) ミラーリング時の形式です。
	不明な形式	上記以外の形式です。
構成ディスク	ボリュームを構成するディスクの一覧を次の形式で表示します。(ディスク番号 ディスク状態 ディスク名 ディスク容量)	
	▼ディスク番号	
	ディスク番号	[eSATA ディスク 1] [eSATA ディスク 2] [USB ディスク 1] [USB ディスク 2]
	▼ディスク状態	
	接続済	ディスクが接続されており、本製品で正常に認識されています。
	未接続	ディスクが接続されていないか、取り外し処理を行ったか、あるいは正常に認識されていない状態です。 ケーブルの抜き差しが可能な状態です。
	待機中	ディスクが接続されており、正常に認識されていますが、RAID に組み込めない状態です。 FAT/NTFS 形式でフォーマットされていて、かつデータが保存されているディスクを接続したと考えられます。 この状態の場合は、[ボリューム操作] 画面で「ミラーリングの開始」を実行してください。 「ミラーリングの開始」を実行すると、ディスクに保存されているデータは消去されますので必要なデータはあらかじめバックアップしておいてください。
	容量不足	ディスクが接続されており、正常に認識されていますが、RAID に組み込めない状態です。接続したディスクの容量がミラーリングするために必要な容量より小さい場合に表示されます。適切な容量のディスクと交換してください。
	故障	本製品で認識されていますが、接続したディスクの S.M.A.R.T.自己診断機能で故障と判断されていますので、RAID に組み込めない状態です。カートリッジを交換してください。
	エラー	本製品で認識されていますが、接続したディスクにエラーが多数発生しており、危険な状態のため、RAID に組み込めない状態です。別のディスクと交換してください。
	▼ディスク名	
	ディスク名	ディスクのモデルナンバーを表示します。
	▼ディスク容量	
	ディスク容量	ディスクのディスク容量を表示します。(1Kbyte = 1000byte にて算出しています。)

## ログ情報

### 表示イベント指定

表示するプログラム	<input checked="" type="checkbox"/> ディスク監視 <input checked="" type="checkbox"/> DHCPクライアント <input checked="" type="checkbox"/> WEB設定画面 <input checked="" type="checkbox"/> ログ記録
<input type="button" value="再表示"/> <input type="button" value="全消去"/>	

新しいログ <<           >> 古いログ

### ログ

日時	プログラム	内容
8月20日 10:52:06	ログ記録	開始
8月20日 10:52:08	ディスク監視	監視プログラム開始
8月20日 10:52:08	DHCPクライアント	DHCP成功: アドレス: 192.168.0.3, 更新間隔: 43200秒
8月20日 10:52:13	ディスク監視	/dev/hdd13: HDD発見
8月20日 10:52:13	ディスク監視	/dev/hdd13: HDD発見

ログを表示させるプログラムを指定することで表示内容を絞り込むことができます。ログが大量に表示されていて見づらい場合などにご利用ください。希望のプログラムのみをチェックし、再表示ボタンを押すことで絞り込み表示します。

表示イベント指定	表示するプログラム	記録されたログの種類のうち、表示するイベントを選択できます。 → [再表示] ボタンを押すとチェックをつけた項目のみが表示されます。
	[再表示] ボタン	[表示するプログラム] 設定に応じて、再度ログを表示します。
	[全消去] ボタン	すべてのログを消去します。
	[1]～[10] ボタン	表示するログの切り替えを行います。数値の小さいボタンほど新しいログを表示します。 [1]～[10] ボタンは本製品が保持しているログの量によって表示されない場合があります。
ログ	日時	ログを記録した日時を表示します。
	プログラム	イベント名を表示します。
	内容	ログ内容を表示します。 ログ内容の詳細については <a href="#">【ログ一覧】</a> (203ページ) をご覧ください。



- ・ ログ情報は、ログが 10 ページを超えた場合に削除されます。
- ・ 本製品をシャットダウンした場合、ログのページが切り替わります。

■ 共有サービスの設定

有効にするサービスの選択

- Microsoft ネットワーク ファイル共有
  - アクセスログ記録
- AppleShare ネットワーク ファイル共有
- FTP

OK

本製品で利用したいサービスを設定します。

Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows パソコンがファイル共有に使用するサービスです。 Windows ユーザからアクセスする場合にチェックします。	有効
アクセスログ記録	Windows ファイル共有へのアクセスをログ情報に記録します。	無効
AppleShare ネットワーク ファイル共有	Macintosh パソコンがファイル共有に使用するサービスです。 Mac ユーザからアクセスする場合にチェックします。	有効
FTP	FTP によるファイル転送サービスで利用する場合にチェックします。 他のファイル共有サービスに比べ高速に転送可能ですが、ドライブに割り当てることができません。また、日本語ファイルを利用するには UTF-8 に対応した FTP クライアントソフトが必要です。	無効

▼[ワークグループ] 選択時

■ MSネットワーク設定

■ 名称の設定

LANDISKの名前	LANDISK
コンピュータの説明	HDL-GTR series

■ ネットワーク参加方法の設定

参加方法の選択  ワークグループ  NTドメイン  Active Directory

ワークグループ WORKGROUP

WINSサーバアドレス

注意  
ドメインでご利用になる場合はワークグループに切替えないようにしてください。  
ドメインにログオンした際にドメイングループにて作成した共有は、ワークグループに切替えると  
使用不可になりますので、事前にデータを保存し共有を削除してください。  
また、異なるドメインにログオンした場合は以前のドメインユーザ、ドメイングループで作成した共有は使用  
できません。

OK | クリア

LANDISK の名前	ネットワーク上で表示される名前を入力します。 →ネットワーク上に同じ名前が存在しないよう設定します。
コンピュータの説明	Windows ネットワークから本製品を参照したときに表示されるコメントです。（入力しなくてもかまいません。）
参加方法の選択	本製品をワークグループモードで動作させるか、社内ネットワーク上のドメインに参加させるかを指定します。ご家庭でのご利用は一般に「ワークグループ」を選択してください。 [NT ドメイン]、[Active Directory]については下記をご覧ください。
	ワークグループ 本製品をワークグループモードに設定します。この場合、「ドメインコントローラの名前」項目は不要です。
ワークグループ	ワークグループ名を入力します。
WINS サーバアドレス	WINS サーバがネットワーク内にある場合は、その WINS サーバの IP アドレスを入力します。

▼[NT ドメイン] 選択時

■ MSネットワーク設定

■ 名称の設定

LANDISKの名前	LANDISK
コンピュータの説明	HDL-GTR series

■ ネットワーク参加方法の設定

参加方法の選択  ワークグループ  NTドメイン  Active Directory

ドメイン名 WORKGROUP

ドメインコントローラの名前

WINSサーバアドレス

注意  
ドメインでご利用になる場合はワークグループに切替えないようにしてください。  
ドメインにログオンした際にドメインユーザ、ドメイングループにて作成した共有は、ワークグループに切替えると  
使用不可になりますので、事前にデータを保存し共有を削除してください。  
また、異なるドメインにログオンした場合は以前のドメインユーザ、ドメイングループで作成した共有は使用  
できません。

OK | クリア

LANDISK の名前	ネットワーク上で表示される名前を入力します。 →ネットワーク上に同じ名前が存在しないよう設定します。
コンピュータの説明	Windows ネットワークから本製品を参照したときに表示されるコメントです。（入力しなくてもかまいません。）
参加方法の選択	本製品をワークグループモードで動作させるか、社内ネットワーク上のドメインに参加させるかを指定します。ご家庭でのご利用は一般に「ワークグループ」を選択してください。 [ワークグループ]については上記、[Active Directory]については下記をご覧ください。
	NT ドメイン 本製品を NT ドメインモードに設定します。 NT ドメイン名、NT ドメインコントローラ名を適切に設定してください。
ドメイン名	参加させるドメイン名を入力します。
ドメインコントローラの名前	ドメインを管理しているドメインコントローラ（PDC）名を入力します。ドメインモードでご利用の場合は、この項目と直前の「ドメイン名」が正しく入力されているかご確認ください。 （ドメインを選択した時のみ、設定してください。）
WINS サーバアドレス	WINS サーバがネットワーク内にある場合は、その WINS サーバの IP アドレスを入力します。

▼【Active Directory】 選択時

■ MSネットワーク設定

■ 名称の設定

LANDISKの名前: LANDISK  
 コンピュータの説明: HDL-GTR series

■ ネットワーク参加方法の設定

参加方法の選択:  ワークグループ  NTドメイン  Active Directory

ドメイン名 (NetBIOS 名): WORKGROUP  
 ドメイン名 (フル DNS 名):  
 ドメインコントローラの名前:  
 管理者ユーザー名:  
 管理者パスワード:  
 WINS サーバアドレス:

注  
 管理者ユーザー名は、Active DirectoryのAdministrator権限を持ったユーザー名を指定してください。  
 ドメイン名を使用する場合はワークグループに切り替えないように設定してください。  
 ドメインコントローラは、ネットワーク上のドメインコントローラに接続する必要があります。ワークグループに切替えると、接続が正常に行かなくなるので、接続エラー発生時は、接続先を確認してください。  
 また、異なるドメインに接続した場合は、接続先のドメインコントローラに接続する必要があります。

OK [?]

LANDISKの名前	ネットワーク上で表示される名前を入力します。 →ネットワーク上に同じ名前が存在しないよう設定します。
コンピュータの説明	Windows ネットワークから本製品を参照したときに表示されるコメントです。(入力しなくてもかまいません。)
参加方法の選択	本製品をワークグループモードで動作させるか、社内ネットワーク上のドメインに参加させるかを指定します。ご家庭でのご利用は一般に「ワークグループ」を選択してください。 [ワークグループ]、[NT ドメイン]については上記をご覧ください。
	Active Directory 本製品を Active Directory モードに設定します。 各ドメイン名とドメインコントローラの名前、管理者ユーザー名、管理者パスワードを適切に入力します。
ドメイン名 (NetBIOS 名)	Windows 2000 以前のドメイン名を入力します。
ドメイン名 (フル DNS 名)	ドメイン名を入力します。
ドメインコントローラの名前	ドメインコントローラの名前を入力します。
管理者ユーザー名	Administrator 権限を持ったユーザー名を入力します。
管理者パスワード	管理者ユーザー名で指定したユーザーのパスワードを入力します。
WINS サーバアドレス	WINS サーバがネットワーク内にある場合は、その WINS サーバの IP アドレスを入力します。



**TCP/IPの設定**

IPアドレスを自動取得する(DHCP)  
 次のIPアドレスを使う

IPアドレス: 192 168 0 10  
 サブネットマスク: 255 255 255 0  
 デフォルトゲートウェイ: 192 168 0 1  
 DNSドメイン名: Domain  
 DNSサーバアドレス: 192 168 0 1

**その他の設定**

ジャンボフレーム:  フレームサイズを選択 未使用(mtu:1500)  フレームサイズを設定 mtu = 1500 byte

注意  
 ジャンボフレームを設定する場合、通信経路上にあるハブや通信相手のLANアダプタなど、他のネットワーク機器もすべてジャンボフレームに対応している必要があります  
 ジャンボフレームサイズ設定値のmtu値は、フレームサイズにヘッダサイズを含まない値です

OK クリア

▼TCP/IP の設定	
IP アドレスを自動取得する (DHCP)	<p>本製品の IP アドレスを、ルータなどの DHCP サーバから自動取得する場合に選択します。                      →DHCP サーバからの自動取得に失敗した場合、本製品は「169.254.xxx.xxx」の自動 IP アドレスと、「192.168.0.200」の固定アドレスの2つが自動的に設定されますので、設定変更などの際にはこれらのアドレスで通信してください。                      このとき、[STATUS] ランプは赤く点滅し、ブザー音が鳴ります。自動取得の成功・失敗にかかわらず、[情報表示] → [ネットワーク情報] では [DHCP クライアント] : "有効"と表示されます。</p>
次の IP アドレスを使う	<p>本製品の IP アドレスを直接指定したい場合、こちらを選択し、以下の IP アドレス関連項目を設定します。</p>
	<p>IP アドレス: 本製品に設定する IP アドレスを入力します。</p>
	<p>サブネットマスク: 本製品に設定するサブネットマスクを入力します。</p>
	<p>デフォルトゲートウェイ: 本製品が接続されているネットワークのデフォルトゲートウェイを入力します。一般にインターネットと接続しているルータの IP アドレスを入力します。</p>
	<p>DNS ドメイン名: 本製品が所属しているネットワークの DNS ドメイン名を入力します。</p>
	<p>DNS サーバアドレス: 本製品が所属しているネットワークの DNS サーバアドレスを入力します。</p>
▼その他の設定	
ジャンボフレーム	<p>ネットワーク上のすべての装置が Gigabit 対応製品で、より高速な通信をしたい場合に設定します。                      ネットワーク上の機器すべてが同一のジャンボフレーム値を設定しなければなりません。異なった値が設定されていると通信できなくなります。ご不明の場合は設定値を変更しないようにしてください。</p>
	<p>フレームサイズを選択: ジャンボフレームのフレームサイズを選択します。以下から選択可能です。                      「未使用：1500bytes（出荷時設定）」                      「2KB：2034bytes」                      「3KB：3058bytes」                      「4KB：4074bytes」                      「7KB：7154bytes」                      「9KB：9000bytes」                      上記以外の値を設定したい場合は「フレームサイズを設定」を選択し、希望する値を入力してください。</p>
	<p>フレームサイズを設定: 使用したいフレームサイズが上記の選択肢にない場合、こちらを選択して直接フレームサイズを入力してください。                      設定範囲：1500～9676</p> <p>ここで入力するフレームサイズ値にはフレームヘッダサイズを含めないでください。</p>

## 共有フォルダ管理

### 新規共有フォルダの作成

[新規共有フォルダの追加](#) 共有フォルダを追加します

### 共有フォルダ一覧

内蔵ボリューム1の共有	操作	コメント	サービス
disk1	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GTR RAID volume	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a>

eSATA ボリューム1の共有	操作	コメント	サービス
esata1	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GTR eSATA1 disk	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a>

eSATA ボリューム2の共有	操作	コメント	サービス
esata2	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GTR eSATA2 disk	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a>

USB ボリューム2の共有	操作	コメント	サービス
usb2	<a href="#">詳細</a> <a href="#">変更</a> <a href="#">削除</a>	HDL-GTR USB2 disk	<a href="#">Win</a> <a href="#">Mac</a>

### ▼新規共有フォルダの作成

新規共有フォルダの追加	共有フォルダを追加します。 → <a href="#">【新規共有フォルダの追加】</a> (次ページ) 画面を表示します。	
<b>▼共有フォルダ一覧</b>		
共有フォルダ名	内蔵ボリューム1の共有	内蔵ボリューム1に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。
	eSATA ボリューム1の共有	eSATA ボリューム1に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。
	eSATA ボリューム2の共有	eSATA ボリューム2に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。
	USB ボリューム1の共有	USB ボリューム1に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。
	USB ボリューム2の共有	USB ボリューム2に現在作成されている共有フォルダ名を表示します。
操作	詳細	共有フォルダの詳細情報を表示します。
	変更	共有フォルダの設定を変更します。 → <a href="#">【共有フォルダの設定変更】</a> (220ページ) 画面を表示します。
	削除	共有フォルダを削除します。
コメント	コメントが表示されます。	
サービス	設定されている共有サービスが表示されます。	
	<a href="#">Win</a>	この共有は Windows ネットワークファイル共有サービスで利用可能です。
	<a href="#">Mac</a>	この共有は Macintosh ネットワークファイル共有サービスで利用可能です。
	<a href="#">FTP</a>	この共有は FTP ファイル転送サービスで利用可能です。



FAT/NTFS ハードディスクに、新規の共有を作成することはできません。(ドライブ全体がひとつの共有として認識されます。)

## [新規共有フォルダの追加] 画面での設定内容

### ■ 新規共有フォルダの追加

共有フォルダ名	<input type="text"/>
共有フォルダのコメント	LANDISK ※「共有のコメント」は、Windowsの共有のみ有効となります。
共有フォルダの作成先	内蔵ボリューム1 ※専用フォーマットされたディスクのみ選択できます。
アクセス権の選択	<input checked="" type="radio"/> 全てのユーザに許可 <input type="radio"/> 指定ユーザのみ許可 <input type="radio"/> 指定グループのみ許可 <input type="checkbox"/> このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く)
サービスの選択	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoftネットワークファイル共有 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShareネットワークファイル共有 <input type="checkbox"/> Anonymous FTPを許可 <input type="checkbox"/> User FTPを許可
ごみ箱機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効 ※「ごみ箱機能」は、Windowsの共有のみ利用可能です。
OK	

項目	設定する内容
共有フォルダ名	共有フォルダの名前を入力します。 この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク] や [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。
共有フォルダのコメント	Windows 用です。 ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。
共有フォルダの作成先	共有フォルダを作成するハードディスクを選択します。 <b>注意</b> FAT/NTFS フォーマット形式の増設ハードディスクに、新規に共有フォルダを作成することはできません。（ドライブ全体がひとつの共有として認識されます。）



アクセス権の選択	共有フォルダにアクセスする権限（アクセス権）を設定できます。	
	全てのユーザに許可	本製品にアクセスできるすべてのユーザがアクセスできる設定です。
	指定ユーザのみ許可	本製品にユーザ登録したユーザのうち、特定のユーザと admin のみがアクセスできる設定です。
	指定グループのみ許可	本製品にグループ登録したグループのうち、特定のグループと admin のみがアクセスできる設定です。
	このフォルダを読み取り専用にする（FTPは除く）	本製品にアクセスできるすべてのユーザから読み取りのみできるよう（書き込み禁止）にする設定です。ただし、FTP は書き込み可能です。
<b>注意</b> NTFS 増設ハードディスクの場合は、上記設定にかかわらず読み込みのみ可能です。書き込みできる設定にすることはできません。		
サービスの選択	この共有で利用するネットワークサービスを選択します。実際にこれらを有効にするためには「ネットワーク」→「共有サービス設定」（214ページ）でそれぞれのサービスを有効にしてください。	
	Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	AppleShare ネットワーク ファイル共有	Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	Anonymous FTP を許可	Anonymous（匿名）FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。上記【アクセス権の選択】設定が「全てのユーザに許可」となっている場合のみ、選択できます。 →同時に登録できる Anonymous FTP フォルダは1つのみとなります。Anonymous FTP 機能を利用してファイルを書き込むことはできません。（読み取りのみとなります。）
	User FTP を許可	User FTP は、ユーザ共有（単一のユーザのみがアクセスできる共有）の場合のみ指定できます。上記【アクセス権の選択】設定が「指定ユーザのみ許可」となっている場合のみ、選択できます。
<b>注意</b> NT ドメイン、Active Directory ログイン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。		
ごみ箱機能	Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。 作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、一旦【ごみ箱】フォルダに保管されます。 【ごみ箱】フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに【ごみ箱】フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に【ごみ箱】フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。 【ごみ箱】フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。 【【ごみ箱】フォルダからファイルを戻す】（66ページ）	

[共有フォルダの設定変更] 画面での設定内容

■ 共有フォルダの設定変更

変更する項目の選択	変更内容の設定
<input type="radio"/> 共有フォルダ名を変更	disk1
<input type="radio"/> コメントを変更	HDL-GT RAID volume
<input type="radio"/> アクセス権を変更	<input checked="" type="radio"/> 全てのユーザに許可 <input type="radio"/> 指定ユーザのみ許可 <input type="radio"/> 指定グループのみ許可 <input type="checkbox"/> このフォルダを読み取り専用にする(FTPは除く)
<input checked="" type="radio"/> サービスを変更	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoft ネットワーク ファイル共有 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShare ネットワーク ファイル共有 <input type="checkbox"/> Anonymous FTP を許可 <input type="checkbox"/> User FTP を許可
<input type="radio"/> ごみ箱機能を変更	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

項目	設定する内容
共有フォルダ名を変更	共有フォルダの名前を変更できます。この名前が、ネットワーク上（[マイネットワーク] や [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名前の下に表示されます。※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。
コメントを変更	Windows 用です。ここに入力したコメントが、ネットワーク上の共有フォルダのコメントとして表示されます。※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。

アクセス権を変更	共有フォルダにアクセスする権限（アクセス権）を変更できます。	
	全てのユーザに許可	本製品にアクセスできるすべてのユーザがアクセスできる設定です。
	指定ユーザのみ許可	本製品にユーザ登録したユーザのうち、特定のユーザのみがアクセスできる設定です。
	指定グループのみ許可	本製品にグループ登録したグループのうち、特定のグループのみがアクセスできる設定です。
	このフォルダを読み取り専用にする（FTPは除く）	本製品にアクセスできるすべてのユーザから読み取りのみできるよう（書き込み禁止）にする設定です。ただし、FTPは書き込み可能です。
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;">  <b>注意</b> NTFS 増設ハードディスクの場合は、上記設定にかかわらず、読み取り専用となります。書き込みできる設定にすることはできません。                 </div>		
サービスを変更	共有フォルダのサービスを変更できます。	
	Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	AppleShare ネットワーク ファイル共有	Macintosh からこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。
	Anonymous FTP を許可	Anonymous（匿名）FTP サービスを利用してこのフォルダにアクセスしたい場合にチェックします。上記「アクセス権の選択」設定が「全てのユーザに許可」となっている場合のみ、選択できます。 →同時に登録できる Anonymous FTP フォルダは1つのみとなります。Anonymous FTP 機能を利用してファイルを書き込むことはできません。（読み取りのみとなります。）
	User FTP を許可	User FTP は、ユーザ共有（単一のユーザのみがアクセスできる共有）の場合のみ指定できます。上記「アクセス権の選択」設定が「指定ユーザのみ許可」となっている場合のみ、選択できます。
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;">  <b>注意</b> NT ドメイン、Active Directory ログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。                 </div>		
ごみ箱機能	Windows（MS ネットワーク ファイル共有）でのみ利用できます。 作成する共有フォルダについて、ごみ箱機能を使用するかどうかを指定します。 ごみ箱機能を使用すると、その共有フォルダからファイルを削除しても、すぐにファイルがなくなるわけではなく、一旦「ごみ箱」フォルダに保管されます。 「ごみ箱」フォルダ内のファイルは自動的に消去されませんので、そのままにしておくと、ファイルを削除するたびに「ごみ箱」フォルダ内にファイルがたまり、ディスクの使用領域が減っていくことがあります。定期的に「ごみ箱」フォルダ内のファイルを削除されることをお勧めします。 「ごみ箱」フォルダの使い方については以下の個所を参照してください。 【ごみ箱】フォルダからファイルを戻す（66ページ）	

ユーザ管理

新規ユーザの作成

新規ユーザの追加	ユーザを追加します
新規ユーザの一括追加	複数ユーザを一括追加します

注意事項

LANDISKユーザ・NTFメインユーザが登録されていません。

新規ユーザの追加	新規ユーザを追加します。 →以下の【ユーザ追加】画面を表示します。
新規ユーザの一括追加	複数の新規ユーザを一括で追加します。 →以下の【ユーザの一括追加】画面を表示します。

新規ユーザの追加

ユーザ追加

新しいユーザ名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
確認パスワード	<input type="password"/>
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="クリア"/>	

ユーザー一覧

既存のユーザ	<input type="text"/>
--------	----------------------


▼ユーザ追加	
新しいユーザ名	新しく追加するユーザのユーザ名を入力します。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】(202ページ)を参照してください。
パスワード	ユーザのパスワードを入力します。
確認パスワード	
▼ユーザー一覧	
既存のユーザ	すでに登録されているユーザの一覧を表示します。

新規ユーザの一括追加

ユーザの一括追加

CSV ファイル名	<input type="text"/> <input type="button" value="参照"/>
各ユーザ専用の共有フォルダ	<input type="radio"/> 作成する <input checked="" type="radio"/> 作成しない
共有フォルダの作成先	内蔵ボリューム1
各ユーザの利用するサービス選択	<input checked="" type="checkbox"/> Microsoft ネットワーク ファイル共有 <input checked="" type="checkbox"/> AppleShare ネットワーク ファイル共有 <input type="checkbox"/> User FTP 許可
<input type="button" value="追加"/>	

CSV ファイル名	複数のユーザ情報が入力された CSV ファイル (カンマ区切り形式) の名前を入力します。 「参照」ボタンを押して一覧から選択することもできます。 ファイルの形式については、以下の【CSV ファイル形式】の個所を参照してください。
--------------	---

各ユーザ専用の共有フォルダ	ユーザごとに専用の共有フォルダを作成するかどうかを指定します。ここで作った共有フォルダはアクセス権が「指定ユーザのみ許可」となります。各ユーザ専用の共有フォルダを作成する場合、CSV ファイルに記述するユーザ名で共有フォルダを作成します。CSV ファイルに記述するユーザ名は共有フォルダ名で使用可能な文字の制限となります。	
共有フォルダの作成先	(共有フォルダを作成する場合) 共有フォルダを作成するボリュームを指定します。 ここで選択できるボリュームは専用フォーマットされたボリュームのみとなります。	
各ユーザの利用するサービス選択	各ユーザ専用の共有フォルダで利用可能なサービスを選択します。	
	Microsoft ネットワーク ファイル共有	Windows からファイル共有する場合に選択します。
	AppleShare ネットワーク ファイル共有	Macintosh からファイル共有する場合に選択します。
	User FTP を許可	FTP ファイル転送サービスを利用してファイルの読み書きを実行したい場合に選択します。
	 NT ドメイン、Active Directory ログオン機能を利用する場合は、[Microsoft ネットワーク ファイル共有]のみをチェックしてください。	
[追加] ボタン	上記設定に応じて、ユーザの追加および共有フォルダの作成を行います。	

OCSV ファイルのファイル形式

CSV ファイルは以下の形式のものとなります。

ユーザ名	パスワード	所属グループ名
user1	pass1	group1
user2	pass2	group1
user3	Pass3	group1

例えば右の例の場合、以下のような CSV ファイルとなります。

user1,pass1,group1  
 user2,pass2,group1  
 user3,pass3,group1

Excel などで作成される場合は、保存形式で「CSV 形式」を選択してください。

### ■ グループ管理

#### ■ 新規グループの作成

[新規グループの追加](#)

#### ■ 注意事項

・LANDISKグループ・NTFメイングループが登録されていません。

#### 新規グループの追加

新規グループを追加します。  
→以下の【[グループの追加](#)】画面を表示します。

## 新規グループの追加

### ■ グループの追加

新しいグループ名

追加するユーザ  user1  user2

### ■ 既存のグループ一覧

グループ名

#### ▼グループの追加

新しいグループ名  
新しく追加するグループのグループ名を入力します。  
※使用できる文字には制限があります。  
【[文字制限一覧](#)】（202ページ）を参照してください。

追加するユーザ  
グループに追加するユーザをチェックします。

#### ▼既存のグループ一覧

グループ名  
すでに登録されているグループの一覧を表示します。

## グループ作成後の画面

### ■ グループ管理

#### ■ 新規グループの作成

[新規グループの追加](#)

#### ■ グループ一覧

グループ名	操作	備考
group1	<a href="#">登録ユーザ変更</a> <a href="#">削除</a>	
group2	<a href="#">登録ユーザ変更</a> <a href="#">削除</a>	

#### ▼グループ一覧

グループ名  
すでに登録されているグループの一覧を表示します。

操作

登録ユーザ変更	登録ユーザを変更します。 →以下の【 <a href="#">登録ユーザの変更</a> 】画面を表示します。
削除	グループを削除します。

## 登録ユーザの変更

### ■ 登録ユーザの変更

変更するグループ名

登録ユーザの選択  user1  user2  user3

#### ▼登録ユーザの変更

変更するグループ名  
変更するグループ名が表示されます。

登録ユーザの選択  
現在登録されているユーザー一覧が表示されます。  
チェックされているユーザが現在そのグループに登録されているユーザです。  
チェックを付けるとそのユーザがグループに登録され、チェックを外すとそのユーザはグループに登録されません。

## ユーザ使用量管理

**■ 使用量制限**

使用量制限  使用する  使用しない  
 使用量制限機能を使用しない場合は、ユーザ、およびグループ使用量設定は無効になります。

**■ ユーザ使用量設定**

一括入力

ユーザ名	現在の使用量	現在の使用率	制限設定値
ゲスト	0MB	無制限	10 GB
user1	0MB	無制限	1 GB
user2	0MB	無制限	1.5 GB
user3	0MB	無制限	0 GB

「一括入力」ボタンで、すべてのユーザに同じ制限設定値を一括入力できます。  
 制限設定値を「0」に設定すると、設定値「無制限」として設定できます。  
 すべてのユーザが使用可能な全共有の使用量制限を行うには、ユーザ名「ゲスト」に対して設定を行います。

OK

▼使用量制限	
使用量制限	使用量制限機能を使用するかどうかを設定します。
▼ユーザ使用量設定	
ユーザ名	設定するユーザ名を表示します。
現在の使用量	ユーザが現在使用している容量を表示します。
現在の使用率	ユーザが使用可能な全容量に対する使用率を表示します。 無制限と表示されている場合は、使用量制限が設定されていないことを示します。
制限値設定	ユーザに対する制限設定値を表示します。 数値のみ、小数点第一位まで指定可能で、単位は GB (ギガバイト) になります。(例: 12.3)
[一括入力]ボタン	すべてのユーザに同じ設定値を一括で入力することができます。

## グループ使用量管理

**■ 使用量制限**

使用量制限  使用する  使用しない  
 使用量制限機能を使用しない場合は、ユーザ、およびグループ使用量設定は無効になります。

**■ グループ使用量設定**

一括入力

グループ名	現在の使用量	現在の使用率	制限設定値
group1	0MB	無制限	1 GB
group2	0MB	無制限	1.5 GB
group3	0MB	無制限	0 GB

「一括入力」ボタンで、すべてのグループに同じ制限設定値を一括入力できます。  
 制限設定値を「0」に設定すると、設定値「無制限」として設定できます。

OK

▼使用量制限	
使用量制限	使用量制限機能を使用するかどうかを設定します。
▼グループ使用量設定	
グループ名	設定するグループ名を表示します。
現在の使用量	グループが現在使用している容量を表示します。
現在の使用率	グループが使用可能な全容量に対する使用率を表示します。 無制限と表示されている場合は、使用量制限が設定されていないことを示します。
制限値設定	グループに対する制限設定値を表示します。 数値のみ、小数点第一位まで指定可能で、単位は GB (ギガバイト) になります。(例: 12.3)
[一括入力]ボタン	すべてのグループに同じ設定値を一括で入力することができます。

■ ボリューム操作

ボリューム情報	
内蔵 ボリューム1	動作モード RAID5(分散パリティ) 状態 正常動作しています 操作 <input type="button" value="フォーマット(専用)"/> <input type="button" value="実行"/> ● 詳細情報
eSATA ボリューム1	動作モード 共有ディスク(FAT/NTFS)モード 状態 未接続 操作 現在可能な操作はありません ● 詳細情報
eSATA ボリューム2	動作モード 共有ディスク(FAT/NTFS)モード 状態 未接続 操作 現在可能な操作はありません ● 詳細情報
USB ボリューム1	動作モード クリックエー 状態 未接続 操作 現在可能な操作はありません ● 詳細情報
USB ボリューム2	動作モード 共有ディスク(FAT/NTFS)モード 状態 未接続 操作 現在可能な操作はありません ● 詳細情報

[動作モード] [状態] [詳細情報]

[動作モード] [状態] [詳細情報] は、[情報表示] 画面の [ボリューム情報] と同じです。

以下の個所を参照してください。

[\[情報表示\] 画面の \[ボリューム情報\] \(210ページ\)](#)

[操作]

▼内蔵ボリューム 1

内蔵ボリューム 1 では、以下の操作が可能です。

フォーマット (専用)	このボリュームを専用フォーマット形式にてフォーマットします。専用フォーマット形式のボリュームには複数の共有フォルダを作成することができます。また、ファイルサイズの制限がありません。
-------------	--

チェックディスク	専用フォーマット形式のボリュームに論理的なエラーが発生していないか調査します。もしエラーがあった場合には、ファイル構造を修復します。 チェックディスクについては、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【[チェックディスク]でチェックする】 (75ページ)</a>
ディスクセット 1 の保管	RAID1+0 (ミラーストライピング) の構成状態において、ディスクセット 1 側を保管する場合に実行します。この機能を実行すると本体の電源が自動的に切れますので、その後に内蔵ディスク 1 および 2 を取り外して保管してください。 手順については、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【ディスクセットを保管する】 (130ページ)</a>
ディスクセット 2 の保管	RAID1+0 (ミラーストライピング) の構成状態において、ディスクセット 2 側を保管する場合に実行します。この機能を実行すると本体の電源が自動的に切れますので、その後に内蔵ディスク 3 および 4 を取り外して保管してください。手順については、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【ディスクセットを保管する】 (130ページ)</a>
eSATA ディスク 1 からミラーリング開始	保管されていたミラーディスクから内蔵ボリュームにすべてのデータをコピーし、ミラーリング状態を復旧します。 手順については、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【ミラーディスクから復旧する】 (126ページ)</a>
メンテナンス	RAID 構成が正常に認識できず、復旧不能な状態の場合にのみ表示されます。 <b>この状態から保存されていたファイル群を復旧することはできません。メンテナンスでは、失われた RAID 構成を破棄し、新たに4台による RAID ボリュームを作成しなおします。</b> 手順については、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】 (160ページ)</a>
▼eSATA ボリューム 1、eSATA ボリューム 2、USB ボリューム 1、USB ボリューム 2	
eSATA ボリューム 1 では、以下の操作が可能です。	
フォーマット (FAT32)	このボリュームを FAT32 形式にてフォーマットします。FAT32 形式は、Windows にて採用されているフォーマット形式の一種で、そのまま Windows パソコンに接続してデータの読み書きが可能です。FAT 形式のボリュームはドライブ全体がひとつの共有フォルダとなり、複数の共有フォルダを作成することはできません。また最大ファイルサイズは 4G-1 バイトとなります。
ディスクの取り外し	FAT または NTFS 形式のボリュームを取り外せる状態にします。 ディスクを取り外す時は、この「ディスクの取り外し」を実行した後外してください。
ミラーリング開始	(eSATA ボリューム 1 のみ) eSATA ポート 1 に待機中のハードディスクを接続している場合に表示されます。
ミラーディスクの保管	(eSATA ボリューム 1 のみ) ミラーリング構成している eSATA ディスクを保管できる状態にします。この機能を実行すると本体の電源が自動的に切れますので、その後に eSATA ディスクを取り外して保管してください。 手順については、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【ミラーディスクを保管する】 (125ページ)</a>



ボリューム設定



変更

ボリュームの選択	動作モードの選択	
内蔵ボリューム	内蔵ボリュームの動作モードを選択します。	
	RAID0 (ストライピング)	内蔵ディスク1～4でRAID0(ストライピング)を構成し、1つのボリュームとして使用できます。 ディスクの使用効率とシステムパフォーマンスが最も高いモードですが、データの保護機能はありません。
	RAID5 (分散パリティ)	内蔵ディスク1～4でRAID5(分散パリティ)を構成し、1つのボリュームとして使用できます。 ディスクの使用効率とシステムパフォーマンス、およびデータの保護機能のバランスのよいモードです。
	RAID1+0 (ミラーストライピング)	ディスクの利用効率は低いですが、データ保護機能が最も高いモードです。 内蔵ディスク1、3および内蔵ディスク2、4で2つのミラーリングペアを構成し、2つのミラーリングペアをさらにストライピングすることにより、1つのボリュームとして使用できます。 また、ディスクセットの保管機能により、内蔵ディスク1、2(上2つ)または内蔵ディスク3、4(下2つ)をディスクセットとして取り外し、内蔵ボリューム、及びシステム全体のバックアップとして保管することができます。 トラブル発生時は、保管したディスクセットを接続してシステムを起動すると、ディスクセットを保管した時点のシステムの状態(内蔵ボリュームの共有データ、登録ユーザ/グループ情報、その他各種設定)まで戻ることができます。
	Encrypted RAID5	暗号化分散パリティ
	Encrypted RAID1+0	暗号化ミラーストライピング
	Encrypted RAID0	暗号化ストライピング
eSATAボリューム1	eSATAボリューム1の動作モードを選択します。	
	共有ディスク (FAT/NTFS)	FAT/NTFS形式のeSATAハードディスクを接続し、共有できるモードです。
	ミラーリング	内蔵ボリューム1とeSATAハードディスクでミラーリングができるモードです。
eSATAボリューム2	eSATAボリューム2の動作モードを表示します。	
	共有ディスク (FAT/NTFS)	FAT/NTFS形式のeSATAハードディスクを接続し、共有できるモードです。
USBボリューム1	USBボリューム1の動作モードを選択します。	
	共有ディスク (FAT/NTFS)	FAT/NTFS形式のUSBハードディスクを接続し、共有できるモードです。
	クイックコピー	前面の[COPY]ボタンを使ってクイックコピーができるモードです。
USBボリューム2	USBボリューム2の動作モードを表示します。	
	共有ディスク (FAT/NTFS)	FAT/NTFS形式のUSBハードディスクを接続し、共有できるモードです。

[メニュー] → [ディスク] → [アクティブリペア]

アクティブリペアとは、ミラーリングや分散パリティを行っている RAID のディスクの一部に不良セクタが発見された場合、他の正常なディスクからデータを読み込んで、異常のあるディスクに書き込むことによって、ディスク不良によるデータ破損を防止する機能です。

ファームウェアバージョン 1.23 以降より、本製品はアクティブリペアのスケジュール実行を有効に設定しており、毎週日曜日午前 2 時 00 分よりアクティブリペアが自動的に開始されます。

■ アクティブリペア設定

■ アクティブリペア

現在の状態	アクティブリペアは実行していません
最終実行時刻	
アクティブリペア機能	開始 停止
<small>アクティブリペア機能を開始すると、内蔵ディスクおよび eSATA ディスク 1 の不良セクタの検出、および自動修復を行います。                  アクティブリペア機能で不良セクタが検出された場合、必要なデータのバックアップを行うことを推奨します。また、自動修復に失敗した場合でも、フォーマットを行うとエラーの回復を試みることができます。  <a href="#">ディスクエラーのメール通知</a>を設定すると、アクティブリペアの開始/終了時にメール通知を行います。</small>	

■ アクティブリペアのスケジュール実行

スケジュール実行機能	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない 曜日指定: <input checked="" type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 時刻指定: 2 時 0 分
<small>スケジュール実行機能を設定しておく、指定した時間にアクティブリペアを実行します。ディスク故障の早期発見に役立ちます。</small>	

OK

アクティブリペア		
現在の状態	現在のアクティブリペアの実行状態または結果を表示します。	
	表示	意味
	アクティブリペアは実行していません	本製品を起動後、一度もアクティブリペアを実行していません。
	アクティブリペア実行中	アクティブリペアを実行中です。
	アクティブリペアが中断されました	[停止] ボタンを押して、中断した状態です。
	エラーは発見されませんでした	エラーはありません。ディスクは正常です。
	アクティブリペアにより修復されました	エラーがありましたが修復完了しました。ディスクは正常です。
	修復不能なエラーが発見されました	エラーがあり、修復できなかった状態です。カートリッジを交換してください。 (詳細はシステムログを参照してください。)
不明な状態です	ディスク状態を取得できない状態です。 本製品の再起動が必要です。	
最終実行時刻	最後にアクティブリペアを実行した時刻が表示されます。	
アクティブリペア機能	アクティブリペアの実行を制御します。	
	開始	アクティブリペアを実行します。
	停止	実行中のアクティブリペアを停止します。
アクティブリペアのスケジュール実行		
スケジュール機能	設定した日時にアクティブリペアを自動的に実行したい場合は [使用する] をチェックし、曜日、時刻を指定します。	
	曜日指定:	アクティブリペアする曜日を指定します。 ※複数の指定が可能です。
	時刻指定:	アクティブリペアする時刻を指定します。 24 時間制で指定します。 例) 午後 9 時ちょうどの場合は、[21]時[0]分

[メニュー] → [ディスク] → [ディスク省電力]

■ ディスク省電力開始時間設定

時間選択	なし
------	----

本装置に接続した内蔵、eSATAおよびUSBディスクにアクセスがなかった場合、ディスクの省電力モード(スピンドルダウン)を開始するまでの時間を選択します。

■ ボリュームごとの省電力設定

内蔵 ボリューム	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
eSATA ボリューム1	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
eSATA ボリューム2	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
USB ボリューム1	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
USB ボリューム2	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効

各ボリュームを構成するディスクに対して省電力設定を有効するかどうかを設定します。  
上記の設定を有効に設定しても、接続するディスクによっては正常に省電力設定が機能しない場合があります。

OK

ディスクの省電力設定	
時間選択	一定時間、本製品や増設ハードディスクにアクセスがない場合にハードディスクの動作を停止させる機能です。この停止までの時間を変更できます。(初期値は「なし」です。) ※設定時間内にハードディスクにアクセスしなくても本製品のシステムがハードディスクにアクセスした場合は、ハードディスクおよび冷却ファンの動作は停止しません。
ボリュームごとの省電力設定	
内蔵ボリューム	有効：省電力機能を有効にします。
eSATA ボリューム1	無効：省電力機能を無効にします。 ※各ボリュームを構成するハードディスクに対して設定されます。
eSATA ボリューム2	※eSATA または USB 接続のディスクが正常に認識されない場合は、省電力設定を無効に設定すると認識できる場合があります。
USB ボリューム2	
USB ボリューム2	

[メニュー] → [ディスク] → [ロックキー管理]

■ ロックキー管理

暗号化RAIDモード使用時に必要なロックキーの初期化、またはスペアの作成を行います。

- USB1ポートに接続したUSBディスクをロックキーとして初期化する
- USB1ポートに接続したロックキーのスペアを作成する

処理を選択してください

OK

ロックキー管理	
USB1ポートに接続したUSBディスクをロックキーとして初期化する	USBメモリーをHDL-GTRシリーズの暗号鍵解除用のロックキーとして使用するための初期化を行います。暗号化ボリューム機能を利用する時やスペアキーを作成する時など、USBメモリーをロックキーとして使用する前に必ず実行してください。 一旦ロックキーとして初期化すると、データ保存など通常の用途では利用できなくなりますのでご注意ください。
USB1ポートに接続したロックキーのスペアを作成する	ロックキーを複数の人が持ちたい場合や、運用のためのロックキーを作成する場合など、この画面からロックキーを複製することが可能です。

■ セルフバックアップの設定

バックアップ元フォルダ指定	0個のフォルダ指定済 <input type="button" value="選択"/>
バックアップ先共有指定	保存先が未指定です <input type="button" value="選択"/>
バックアップ方式	<input type="radio"/> 毎回上書き(backupフォルダ) <input checked="" type="radio"/> 履歴(日付時刻フォルダ) <input type="button" value="全て"/> <input type="button" value="残す"/>
バックアップオプション	<input type="checkbox"/> 設定と同時にバックアップを開始する <input type="checkbox"/> バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする
スケジュールバックアップ機能	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 曜日指定: <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 時刻指定: <input type="text" value="0"/> 時 <input type="text" value="0"/> 分
バックアップログメール送信機能	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 送信先メールアドレス <input type="text"/>
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="クリア"/>	

バックアップ元フォルダ指定	バックアップ元のフォルダを指定します。 [選択]ボタンでバックアップ元のフォルダを選択します。	
バックアップ先共有指定	バックアップ先の共有フォルダを指定します。 [選択]ボタンでバックアップ先の共有フォルダを選択します。 ※NTFS形式のハードディスクは指定できません。	
バックアップ方式	バックアップの方式を選択します。	
	毎回上書き:	バックアップのたびに以前のバックアップデータに上書きします。
	履歴:	指定した回数分のバックアップ履歴を残します。 指定回数を超えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。
※バックアップを実行すると、本製品は [バックアップ先共有指定] で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。 その際、[毎回上書き] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [backup] フォルダを作成し、さらにその下に [backup] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。 [履歴] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [backup] フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した [日付時刻] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。		
バックアップオプション	設定と同時にバックアップを開始する:	設定した日時にバックアップを自動的に実行したい場合にチェックします。
	バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする:	バックアップ終了後、本製品を自動的にシャットダウンする場合にチェックします。
スケジュールバックアップ機能	設定した日時にバックアップを自動的に実行したい場合は [使用する] をチェックし、曜日、時刻を指定します。	
	曜日指定:	バックアップする曜日を指定します。 ※複数の指定が可能です。
	時刻指定:	バックアップする時刻を指定します。 24時間制で指定します。 例) 午後9時ちょうどの場合は、[21]時[0]分
バックアップログメール送信機能	バックアップログをメール送信する場合は [使用する] にチェックし、送信先メールアドレスを入力します。 バックアップの開始時刻、終了時刻、エラー発生などのログを指定のメールアドレスに送信します。	
	送信先メールアドレス:	バックアップメールの送信先アドレスを指定します。 送信メールサーバや POP before SMTP など、メール送信時の詳細設定については【メール基本設定】(230ページ)をご参照ください。

■ リモートバックアップの設定

バックアップ元共有指定	0個の共有名を選択済み <input type="button" value="詳細"/>
バックアップ先共有指定	保存先が未指定です <input type="button" value="選択"/>
バックアップ方式	<input type="radio"/> 毎回上書き(backupフォルダ) <input checked="" type="radio"/> 履歴(日付時刻フォルダ) <input type="button" value="全て"/> 残す
バックアップオプション	<input type="checkbox"/> 設定と同時にバックアップを開始する <input type="checkbox"/> バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする
スケジュールバックアップ機能	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 曜日指定: <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 時刻指定: <input type="text" value="0"/> 時 <input type="text" value="0"/> 分
バックアップログメール送信機能	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 送信先メールアドレス <input type="text"/>
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="クリア"/>	

バックアップ元共有指定

[詳細] ボタンで、バックアップ元共有 (バックアップ元ホスト名、共有名、ユーザ名、パスワード) を指定します。

バックアップ元ホスト名

最大 10 個まで指定できます。  
 同一ネットワーク内に他の HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GTR シリーズが接続されている場合は、[LANDISK 検索] ボタンで接続されている HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GTR シリーズを一覧から選択できます。  
 同一ネットワーク内の上記以外の LANDISK の場合、バックアップ元の LANDISK の名前か、IP アドレスを入力します。Windows XP/2000 パソコンをリモートバックアップ元にする場合は、パソコンの [コンピュータ名] か、IP アドレスを入力します。

※Windows 98/Me をバックアップ元に設定する場合は、IP アドレスではなく「コンピュータの名前」を入力してください。

バックアップ元共有指定	バックアップ元共有名:	バックアップ元共有フォルダを指定します。
	バックアップ元ユーザ名:	バックアップ元共有フォルダにアクセス権を設定してあるユーザ名を入力します。アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、ユーザ名は「Administrator」など、任意のものを使用できます。
	バックアップ元パスワード:	バックアップ元共有フォルダにアクセス権を設定してあるユーザのパスワードを入力します。アクセス権を設定していない共有フォルダをバックアップ元に設定する場合は、パスワードは上記ユーザのパスワードを設定してください。
バックアップ先共有指定	バックアップ先の共有フォルダを指定します。 [選択]ボタンでバックアップ先の共有フォルダを選択します。 ※NTFS 形式のハードディスクは指定できません。	
バックアップ方式	バックアップの方式を選択します。	
	毎回上書き:	バックアップのたびに以前のバックアップデータに上書きします。
	履歴:	指定した回数分のバックアップ履歴を残します。 指定回数を超えた場合、一番古い履歴データを削除し、新しい履歴データを追加します。 ※バックアップを実行すると、本製品は [バックアップ先共有指定] で指定した共有フォルダ下にデータをバックアップします。 その際、[毎回上書き] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [netbackup] フォルダを作成し、さらにその下に [backup] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。 [履歴] を指定した場合は、指定した共有フォルダ下に自動で [netbackup] フォルダを作成し、さらにその下に自動でバックアップを開始した [日付時刻] フォルダを作成し、そこにデータをバックアップします。
バックアップオプション	設定と同時にバックアップを開始する:	設定した日時にバックアップを自動的に実行したい場合にチェックします。
	バックアップ終了後、自動的にシャットダウンする:	バックアップ終了後、本製品を自動的にシャットダウンする場合にチェックします。
スケジュールバックアップ機能	設定した日時にバックアップを自動的に実行したい場合は [使用する] をチェックし、曜日、時刻を指定します。	
	曜日指定:	バックアップする曜日を指定します。 ※複数の指定が可能です。
	時刻指定:	バックアップする時刻を指定します。 24 時間制で指定します。 例) 午後 9 時ちょうどの場合は、[21]時[0]分
バックアップログメール送信機能	バックアップログをメール送信する場合は [使用する] にチェックし、送信先メールアドレスを入力します。バックアップの開始時刻、終了時刻、エラー発生などのログを指定のメールアドレスに送信します。	
	送信先メールアドレス:	バックアップメールの送信先アドレスを指定します。
	送信メールサーバや POP before SMTP など、メール送信時の詳細設定については【メール基本設定】(230 ページ)をご参照ください。	

## メール通知

### メール基本設定

メール通知機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
SMTP サーバ	<input type="text"/>
SMTP ポート番号	<input type="text" value="25"/>
差出人メールアドレス	<input type="text"/>

「メール通知機能」の設定は、全てのメール通知機能に対するスイッチとなり、「無効」を選択した場合、それぞれの画面でメール通知設定を行ってもメールは送信されません。  
「メールエンコード」は、メールの本文が文字化けする場合は、設定を変更してみてください。  
「差出人メールアドレス」は、SMTP サーバで使用可能なメールアドレスを入力して下さい。

### メール送信時認証設定

認証方式	<input type="text" value="POP before SMTP"/>
POP サーバ	<input type="text"/>
ユーザ名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>

SMTP サーバとの接続で POP before SMTP 認証を行っている場合に設定します。  
わからない場合は、「無効」を選択して下さい。

### メール通知テスト

送信先メールアドレス	<input type="text"/>
メールエンコード	<input type="radio"/> ISO-2022-JP <input checked="" type="radio"/> UTF-8

上記の設定でメールが届くかどうか、テストすることができます。  
ここで入力するメールアドレスは、メール通知テストでのみ使用されます。  
実際の宛先は、各機能で別の宛先を設定することができます。

メール基本設定	
メール通知機能	ログ情報やバックアップ完了通知などをメールで送信するかどうかを設定します。
SMTP サーバ	メール送信に利用する SMTP サーバを設定します。プロバイダや会社のメールサーバなど、送りたいメールアドレスに合致するサーバ名を入力してください。
SMTP ポート番号	メール送信に利用する TCP ポート番号を指定します。(初期値: 25) ご利用のプロバイダがセキュリティ上の理由で 25 番ポートでのメール送信を遮断している場合は、適切な番号に変更してください。
差出人メールアドレス	送信するメールアドレスの差出人を設定することができます。送信メールサーバが差出人チェックを実行している場合や、どこから送られてきているのかを明確にしたい場合などに設定します。

メール送信時認証設定		メール送信時の認証方式を選択できます。 指定する SMTP サーバがサポートしている認証方式を設定してください。	
認証方式	無効	メール送信時に認証は行いません。	
	POP before SMTP	POP サーバ	POP サーバ名を入力します。
		ユーザ名	メール受信に使用するユーザ名を入力します。
		パスワード	メール受信に使用するパスワードを入力します。
	SMTP AUTH (PLAIN)	メール送信時に SMTP サーバと SMTP AUTH 認証(PLAIN 方式)を行います。	
		ユーザ名	メール送信に使用するユーザ名を入力します。
	SMTP AUTH (LOGIN)	メール送信時に SMTP サーバと SMTP AUTH 認証(LOGIN 方式)を行います。	
		ユーザ名	メール送信に使用するユーザ名を入力します。
	SMTP AUTH (CRAM-MD5)	メール送信時に SMTP サーバと SMTP AUTH 認証(CRAM-MD5 方式)を行います。	
		パスワード	メール送信に使用するパスワードを入力します。
[設定保存] ボタン	上記の設定情報をシステム内に記憶します。		
メール通知テスト			
送信先メールアドレス	上記の設定情報が正しく機能するか、実際にメールを送信してテストすることができます。 テストメールの送信先アドレスを設定します。		
メールエンコード	メール本文のエンコード方式を選択します。		
[テストメール送信] ボタン	テストメールを送信します。		

## メール通知

**注意**  
「メール基本設定」の「メール通知機能」が「無効」に設定されています。  
「メール通知機能」を使用するには、「メール通知機能」を「有効」に設定してください。

### メール通知設定

内容	メール通知	エンコード	送信先メールアドレス
セルフバックアップログ	<input type="checkbox"/> 有効	<input type="radio"/> ISO-2022-JP <input checked="" type="radio"/> UTF-8	<input type="text"/>
リモートバックアップログ	<input type="checkbox"/> 有効	<input type="radio"/> ISO-2022-JP <input checked="" type="radio"/> UTF-8	<input type="text"/>
システムログ	<input type="checkbox"/> 有効	<input type="radio"/> ISO-2022-JP <input checked="" type="radio"/> UTF-8	<input type="text"/>
システム起動終了通知	<input type="checkbox"/> 有効	<input type="radio"/> ISO-2022-JP <input checked="" type="radio"/> UTF-8	<input type="text"/>
システム温度エラー通知	<input type="checkbox"/> 有効	<input type="radio"/> ISO-2022-JP <input checked="" type="radio"/> UTF-8	<input type="text"/>
ディスクエラー通知	<input type="checkbox"/> 有効	<input type="radio"/> ISO-2022-JP <input checked="" type="radio"/> UTF-8	<input type="text"/>

OK

内容	セルフバックアップログ	セルフバックアップの開始、終了、エラー発生などのログを指定のメールアドレスに送信します。
	リモートバックアップログ	リモートバックアップの開始、終了、エラー発生などのログを指定のメールアドレスに送信します。
	システムログ	システムで発生したイベントなどを記録した「システムログ」をメールで送信することができます。 （初期値は無効） 本製品ではシステムログのサイズをチェックし、一定の大きさを超えた場合にメールでシステムログを送信します。また、シャットダウン時にもシステムログを送信します。
	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p><b>注意</b> ログ情報は、以下のような状況のときに消去されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ログのサイズが一定のサイズを超えた場合</li> <li>・本製品をシャットダウンした場合</li> <li>・「システムログのメール送信」を[有効]にしている、ログメールが送信された後</li> </ul> <p>※システムログをメール送信する設定については、<a href="#">【システムログをメール送信する】</a>（151ページ）をご覧ください。</p> </div>	
	システム起動終了通知	システムの起動、または終了の通知メールを指定のメールアドレスに送信します。
システム温度エラー通知	装置 FAN が停止した場合や、装置温度が異常に高温になった場合にメール送信されます。 システム温度エラー時（異常温度、FAN 停止）： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブザー：「ピーピーピー」となり続けます。ボタンで止めることができます。</li> <li>・[STATUS] ランプは赤く点滅します。</li> </ul> 通知時の動作： <ul style="list-style-type: none"> <li>・FAN 停止：ボタンでクリアされても、5分後再通知機能あり</li> <li>・温度エラー：5分後にシャットダウン</li> </ul>	
<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p><b>注意</b> システム温度エラー時は、メール送信後、5分後に自動的にシャットダウンします。 装置を保護するためです。（FAN 停止時はシャットダウンしません。）</p> </div>		
ディスクエラー通知	以下のディスクエラーが発生した場合、[送信先メールアドレス]で指定したメールアドレスに通知することができます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・内蔵ハードディスク、または、ミラーリングとしたディスク（内蔵ハードディスク+eSATAハードディスク）の読み書きでエラーが発生した場合</li> <li>・リビルドに失敗した場合</li> <li>・[アクティブリペア]の開始、終了時</li> </ul> 本項目を有効にすると「使用量通知設定」の「メール通知」も有効となります。	
エンコード	メール本文のエンコード方式を選択します。	
メール通知	各メール通知設定を有効にする場合にチェックします。	
送信先メールアドレス	上記ログや通知情報を送信するメールアドレスを指定します。	

## ■ 使用量通知設定

**■ 使用量通知**

メール通知	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 送信先メールアドレス <input type="text"/>
空き容量警告機能	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 空き容量が <input type="text" value="1"/> %以下で警告メール送信
使用量レポート機能	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない 曜日指定: <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 時刻指定: <input type="text" value="0"/> 時 <input type="text" value="0"/> 分

空き容量警告機能は、内蔵ボリューム1の空き容量が指定値以下になった事を検出すると警告メールを送信します。  
 使用量制限機能が有効な場合は、ユーザ、グループ別の使用量制限値の空き容量が20%または10%以下になった事を検出すると警告メールを送信します。  
 使用量レポート機能は、指定した曜日時刻に使用量のレポートメールを送信します。  
 使用量制限機能が有効な場合は、ユーザ、グループ別の使用量レポートします。

OK

メール通知	使用量メール通知を使用する場合に設定します。 本項目を有効にすると「メール通知設定」の「ディスクエラー通知」も有効となります。	
	送信先メールアドレス	メール通知の送信先アドレスを指定します。
空き容量警告機能	内蔵ボリューム1の空き容量が指定値以下になると警告メールを送信します。	
	空き容量	メールを送信する空き容量の割合を数値で入力します。
使用量レポート機能	指定した曜日時刻に各ボリュームの使用量レポートメールを送信します。	
	曜日指定	使用量レポートを送信する曜日を指定します。
	時刻指定	使用量レポートを送信する時刻を指定します。



[メニュー] → [システム] → [システム時刻]

**システム時刻の設定**

手動設定  
 2006 年 8 月 10 日 16 時 16 分00秒

タイムサーバ使用  
 タイムサーバ名またはIPアドレス  
 ntp.jst.nfeed.ad.jp  
 同期のタイミング  
 システム起動時  
 毎日指定時刻 12 時 34 分

本製品のシステム時刻を設定します。  
必ず現在時刻を設定してください。

手動設定	手動で時刻を設定する場合に選択します。本製品に設定する時刻を入力できます。
	[PCの時刻を設定] ボタン パソコンと同じ時刻を設定します。

タイムサーバ使用	タイムサーバを使用する場合に選択します。タイムサーバの設定を実行すると、そのタイミングで一旦タイムサーバ時刻を本製品に設定します。	
	タイムサーバ名または IP アドレス	
	タイムサーバ名または IP アドレス	タイムサーバ名かタイムサーバの IP アドレスを入力します。通常は初期設定のタイムサーバをお使いください。
	同期のタイミング	
	どんな時に時刻同期を行なうかを設定します。どちらかにチェックを入れてください。(システム起動時/毎日指定時刻を両方同時に選択することもできます。)	
	システム起動時	本製品起動時にタイムサーバとの時刻同期を行ないます。
	毎日指定時刻	指定した時間(24時間表記で入力します)にタイムサーバとの時刻同期を行ないます。本製品を24時間稼働させる場合はこちらを選択してください。

[メニュー] → [システム] → [起動スケジュール]

**起動スケジュール**

**起動スケジュール機能**  
 起動スケジュール機能  有効  無効  
「起動スケジュール機能」の設定で「無効」を選択した場合、「起動スケジュール表」で設定を行っても起動スケジュール機能は動きません。

**起動スケジュール表の設定**  
 設定方法の選択  
 毎日指定時刻に起動・終了  
 平日の指定時刻に起動・終了  
 曜日個別の指定時刻に起動・終了

曜日	起動設定	起動時刻指定	終了設定	終了時刻指定
日曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
月曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
火曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
水曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
木曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
金曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0
土曜日	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0	<input type="checkbox"/> 有効	0 : 0

起動スケジュールを設定すると、指定した時刻に本製品を自動的に起動および終了させる(シャットダウン)ことができます。

**注意**

- 起動スケジュール設定を使用する場合は、電源コンセントに常に接続した状態(電源を切った場合は [POWER] ランプが赤点灯の状態:スタンバイ状態)にしておいてください。電源コンセントから電源ケーブルを取り外した状態では、起動スケジュール機能は動作しません。
- 起動スケジュールによる終了(シャットダウン)に関して、指定した終了時間にアクティブリペア、バックアップ、リビルドが行われている場合、処理が完了するまで終了しません。また、処理中に指定した起動時刻をすぎた場合も終了しません。

起動スケジュール機能	有効にすると、以下の起動スケジュール表に従って、本製品の電源の ON/OFF を行います。無効にした場合は、以下のスケジュール表のすべての設定が無効になります。
------------	--

起動スケジュール表の設定	起動方法の選択	
	毎日指定時刻に起動・終了	毎日同じ時刻に起動/終了します。
	平日の指定時刻に起動・終了	平日のみ設定時刻に起動/終了します。
	曜日個別の指定時刻に起動・終了	すべての曜日について異なる設定を行えます。
	曜日・起動設定・起動時刻設定・終了設定・終了時刻設定	
	起動設定	有効にチェックした場合、指定した時刻に起動します。
	起動時刻指定	起動時刻を指定します。 24時間制で指定します。 例) 午前8時ちょうどの場合は、[8]時[0]分
終了指定	有効にチェックした場合、指定した時刻に終了します。	
終了時刻指定	終了時刻を指定します。 24時間制で指定します。 例) 午後10時ちょうどの場合は、[22]時[0]分	

[メニュー] → [システム] → [ランプの明るさ]

■ ランプの明るさの設定

ランプの明るさ	<input checked="" type="radio"/> 明 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 暗
LANDISKのランプ(LED)の明るさを3段階で調節することができます。	
OK	

前面ランプの明るさを設定します。

(STATUS、各HDDのACCESSランプの明るさが変わります。)

明	最も明るい設定です。(初期値)
中	若干明るさを抑えた設定です。
暗	最も暗い設定です。暗い部屋でご利用になられる場合などにご指定ください。

[メニュー] → [システム] → [プリントバッファクリア]

■ プrintバッファクリア

プリントサーバのバッファをクリアします。

現在のプリントバッファをクリアしてもよろしいですか？

OK

[OK] ボタンをクリックすると、本製品のプリントサーバ機能のバッファをクリアします。

現在出力中の印刷データもクリアされます。プリンタに紙が残る場合には、プリンタの操作ボタンなどで排紙してください。(詳しくはプリンタの取扱説明書をご参照ください。)

※プリントサーバ機能が有効の場合のみ機能します。

[メニュー] → [システム] → [UPS 設定]

■ UPS設定

■ UPS状態

UPS接続状態	未接続
UPS/バッテリー充電容量	取得できません

■ UPS警告

UPS警告機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
UPS警告機能を有効に設定すると、UPSの接続が確認できない、または停電状態を検出すると、ブザー音とSTATUSランプ(赤点滅)でお知らせします	

■ シャットダウン条件

停電後の経過時間	10分後にシャットダウン
UPS/バッテリー充電容量	10%以下でシャットダウン
UPS接続中に停電状態を検出すると、上記のシャットダウン条件のいずれかに一致した時点でシャットダウン処理を開始します	

OK

UPS 状態

UPS 接続状態	UPS 装置の接続状態を表示します。
UPS バッテリー 充電容量	UPS 装置のバッテリー状況を表示します。

UPS 警告

UPS 警告機能	有効に設定すると、UPSの接続が確認できない、または、停電状態を検出すると、ブザー音とSTATUSランプ(赤点滅)でお知らせします。
----------	--

シャットダウン条件

本設定は、本製品に対応したUPS装置をUSB接続したときのみ有効です。

停電後の経過時間	停電を検出後、指定時間が経過すると、本装置のシャットダウンを開始します。
UPS バッテリー 充電時間	UPS装置のバッテリー充電容量が指定の充電容量以下になったことを検出したとき、本装置のシャットダウンを開始します。

[メニュー] → [システム] → [シャットダウン]

■ シャットダウン

システムの「シャットダウン」または「再起動」を行います

処理を選択してください

今すぐシステムシャットダウンを実行する  
 今すぐシステム再起動を実行する

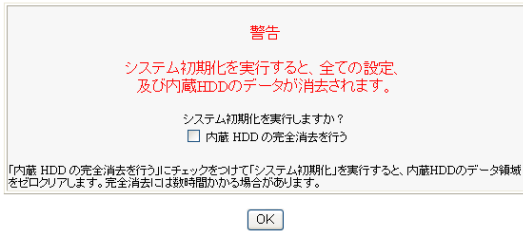
OK

システムのシャットダウンまたは、再起動を行います。

今すぐシステムシャットダウンを実行する	本製品をシャットダウンします。 シャットダウン処理ではシステムの電源を安全に切断できるよう、設定情報や管理情報の更新作業の他、一時記憶されているデータファイルの保存作業を行います。POWERランプが待機状態(赤点灯)となるまでそのままお待ちください。[POWER]ランプが待機状態(赤点灯)となることを確認するまでは電源ケーブルを抜かないでください。
今すぐシステム再起動を実行する	本製品を再起動します。

[メニュー] → [システム] → [システム初期化]

■ システムの初期化



[OK] ボタンをクリックすると、すべての項目を本製品の出荷時設定値に戻し、内蔵ハードディスクもフォーマットします。ハードディスク内に必要なデータがある場合は、必ずシステム初期化前に、データをバックアップしてください。出荷時設定については、【出荷時設定一覧】(200ページ)をご覧ください。

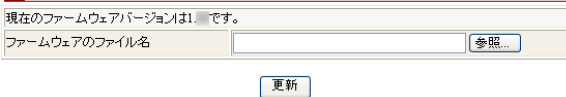
内蔵HDDの完全消去を行う：	チェックすると、出荷時設定へ戻すと同時に内蔵ハードディスクのデータ領域を0(ゼロ)クリアします。
----------------	--

**注意** [内蔵HDDの完全消去を行う]をチェックした場合、内蔵ハードディスクをフォーマットした後、全てのデータ領域に0(ゼロ)を書き込みます。本製品を廃棄や譲渡される場合にチェックしてください。(本処理には、目安として、1Gバイトあたり約1分ほど要します。)

[メニュー] → [システム] → [ファームウェア更新]

ファームウェアの更新(アップデート)手順については、以下の個所を参照してください。  
【ファームウェアを更新する】(148ページ)

■ ファームウェアの更新



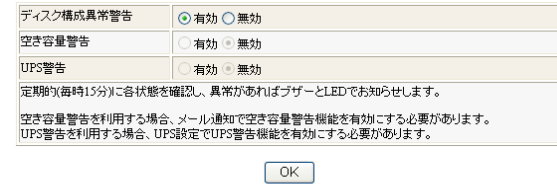
ファームウェアのファイル名	[参照]ボタンをクリックして、ファームウェアのファイル名(update.tgz)を選択し、[更新]ボタンをクリックします。ファームウェアのアップデートは画面にしたがって正しく行ってください。また、あわせてダウンロードしたアップデートプログラム内のREADME.TXTファイルもご覧ください。
---------------	---

[メニュー] → [システム] → [定期警告]

定期警告機能では、定期的(毎時15分)に以下3項目の状態をチェックし、異常を検出した場合、警告ブザーとSTATUSランプにて警告します。また、COPYボタンを押すと、警告は停止しますが、次回チェック時に再度異常を検出した場合、再度警告します。

■ 定期警告

■ 定期警告音設定

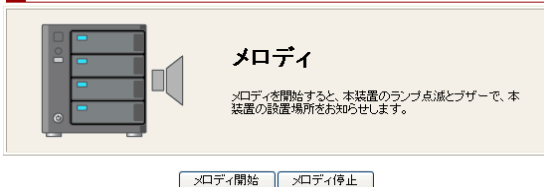


ディスク構成異常警告	RAID ディスク構成に異常がある場合、警告します。
空き容量警告	空き容量が、空き容量警告機能の指定値を下回った場合、警告します。また、使用量制限機能が有効な場合は、ユーザーグループ別の使用量制限値の空き容量が20%または10%以下になった場合にも警告します。
UPS 警告	UPSの接続が確認できない、または停電状態を検出すると警告します。

[メニュー] → [メロディ]

メロディ機能では、ランプとブザー音で本製品の設置場所や現在設定画面を開いている本製品を確認することができます。ネットワーク内に複数台の本製品を設置した場合などにご利用ください。

■ メロディ機能



メロディ開始	[STATUS] ランプと各内蔵HDDの[ACCESS]ランプが点滅し、ブザー音が鳴ります。
メロディ停止	ブザー音を停止し、[STATUS] ランプと各内蔵HDDの[ACCESS] ランプは現在の状態表示に戻ります。

[メニュー]→ [管理者パスワード変更]

■ 管理者パスワード設定

現在のパスワード	<input type="password"/>
新パスワード	<input type="password"/>
確認パスワード	<input type="password"/>

現在のパスワード	管理者の現在のパスワードを入力します。
新パスワード	管理者の新しいパスワードを入力します。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】 (202ページ) を参照してください。
確認パスワード	管理者の確認パスワードを入力します。



● 管理者はアクセス制限を設定した共有フォルダを含め、すべての共有フォルダにアクセスできます。  
(Windows パソコンからアクセスする場合のみ)

※Macintosh パソコンからすべての共有フォルダにアクセスすることはできません。

管理者がネットワークにログオンする際には、ユーザ名「admin」、パスワードを上記で設定したパスワードでログオンすれば、すべての共有フォルダにアクセスできます。

(ユーザ用設定ページ)

[メニュー]→ [ユーザパスワード変更]

■ ユーザパスワード変更

■ パスワード変更

ユーザ名	<input type="text"/>
現在のパスワード	<input type="password"/>
新パスワード	<input type="password"/>
確認パスワード	<input type="password"/>

ユーザ名	パスワードを変更するユーザ名を入力します。
現在のパスワード	ユーザの現在のパスワードを入力します。
新パスワード	ユーザの新しいパスワードを入力します。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】 (202ページ) を参照してください。
確認パスワード	ユーザの確認パスワードを入力します。

**困ったときには**

本製品を使用していてトラブルがあった場合をご覧ください。

## ●トラブルの状態と対処

以下のトラブルの状態をクリックしてください。

**弊社ホームページの[製品 Q&A]もご覧ください**

⇒<http://www.iodata.jp/support/>

製品名の頭文字『H』をクリック → HDL-GTR シリーズの製品 Q&A をクリックしてください。

サポート Web ページには、最新の情報や過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

## ◆本製品起動時のトラブル

本製品の電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと3回鳴った	242
eSATA ハードディスクを [eSATA ポート1] に接続して電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーが鳴り続けている	242
どうしても起動停止状態となるため、本製品を起動できない	242
使用中に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている	242
起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている	243
起動時、または起動中に [ACCESS] ランプが消灯しているカートリッジがある	245

## ◆セットアップ時のトラブル（ネットワークへの導入時）

Mac と Windows が混在している環境の場合どのパソコンで設定したらよいですか？	246
現在のネットワーク環境に DHCP サーバーがあるかわからない	246
(Windows) [Magical Finder]で本製品が検索されない	249
DHCP サーバーがあるのに、STATUS ランプが赤く点滅している	250
[ミラーディスクの保管] を行った eSATA ハードディスクから起動できない	250
(Mac OS) パソコンに直接接続した後、本製品の設定画面が表示されない	251
パソコンと LANDISK 本体を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している	253
[LANDISK の名前]を変更したい	253
ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない	254
ファイアウォールソフトで、LANDISK に対してアクセスを許可させたい場合、どのポート番号で設定すればよいかわからない	254
パソコンの IP アドレスがわからない	254

## ◆本製品へアクセス時のトラブル

「LANDISK」のアイコンを開いたり、共有フォルダを開こうとすると、「アクセス権限が無い」とエラーが表示されたり、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示される	258
Mac OS(バージョン問わず)から書き込んだファイルを Windows から削除すると、本製品の共有へ Mac OS からファイル保存ができなくなる	258
(Mac OS 9) フォルダ名やファイル名が文字化けする、あるいは開けない	258
LANDISK にアクセスできないパソコンがある (他のパソコンからは既に LANDISK にアクセスできている場合)	259
本製品にネットワーク経由で接続するパソコンの台数に制限はありますか？	259

### ●Windows

[コンピュータの検索]で[Landisk]が見つからない	261
Windows 上から本製品を参照した場合に、見覚えのないフォルダやファイルがある	262
Windows Vista®/XP/2000 のパソコンからユーザー権限共有フォルダにログオンしようとする、エラーメッセージが出てきてログオンができない	263
[Magical Finder]で本製品が検索されない	263
LANDISK の検索を行うと「プリンタと FAX」（「プリンタ」）のアイコンが出ますが削除はできますか？	263

### ●Macintosh

[Landisk]が見つからない、もしくは、接続できない	264
フォルダ名やファイル名が文字化けする、あるいは開けない	264

## ◆設定画面に関するトラブル

(Windows) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない	265
(Mac OS) ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない	266
設定画面で一部表示されない項目がある	268
空き容量が実際より少ない気がする	268
設定画面で文字が入力できない	268
設定画面上から入力できる文字制限について	268
パスワード認証に失敗し設定画面を表示できない	269
設定画面にログオンするためのパスワードがわからない	269
以下のメッセージが表示された 「現在システムは処理中です。 しばらく待ってから操作してください。」	269
設定画面上のハードディスク使用領域が、ドライブのプロパティと異なる	269
設定画面の動作が遅い	269

## ◆本製品の IP アドレスについて

本製品に設定した IP アドレスを忘れた 本製品に設定されている IP アドレスを調べたい	270
--	-----

## ◆ファイルの保存について

本製品に保存したファイルに、「読み込みのみ」「読み書き可能」のような属性設定ができない	271
ファイル名やフォルダ名の制限について	271
(Windows Me/98 のみ) 4GB サイズまたは 2GB サイズのファイルをコピーしようとする、Windows がハングアップする	271
ファイルを削除するとごみ箱に一旦入りますか？	271
共有フォルダにファイルをコピーする際のサイズの制限はありますか？	271

## ◆ランプやブザーについて

起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」となり続けている	272
使用中、または、起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」となり続けている	272
STATUS ランプが赤く点滅している	272
パソコンと LANDISK 本体を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している	273
ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない	273
ランプの動作について知りたい	273

## ◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル

カートリッジの取り外し(スライドスイッチを [UNLOCK] した)のに、UNLOCK したカートリッジの ACCESS ランプが青点灯している	274
カートリッジの取り付け (スライドスイッチを [LOCK] した) 後に、すべての ACCESS ランプが速く青点滅を開始している	274
カートリッジの取り付け (スライドスイッチを [LOCK] した) 後に、LOCK したカートリッジの ACCESS ランプが赤く点灯している	274
カートリッジの取り付け (スライドスイッチを [LOCK] した) 後に、LOCK したカートリッジの ACCESS ランプが赤く点滅している	275

## ◆eSATA ハードディスクとミラーリング使用時のトラブル

電源を入れると、STATUS ランプが点滅し、ブザーが鳴り続けている	277
eSATA ハードディスクを接続しているのに、設定画面上では [停止] と表示される	277
e S A T A ハードディスクを [eSATA ポート 1] に接続すると、STATUS ランプが赤く点滅し、ブザーが「ピーピーピー」と鳴った	277

## ◆プリントサーバ機能使用時のトラブル

プリントサーバ機能を使用する際、プリンタドライバのインストールがうまくできない	278
印刷時にエラー画面が表示される	279
インク残量を確認するユーティリティソフトが使えない	
プリントサーバ機能を利用して印刷を行ったところ、正常に印刷ができない	279

## ◆バックアップ機能について

バックアップ後にデータを参照したい	281
バックアップにかかる時間について	281
スケジュール設定でバックアップした場合、更新されたデータのみバックアップされますか？	281
バックアップ設定でバックアップログメールが送信されない	281
バックアップログでエラーのログが表示された	282
バックアップを実行すると、ブザーが鳴り、エラーとなる	
バックアップデータを見せないようにできますか？	282



## ◆内蔵および増設ハードディスクについて

[USB ポート 1]に増設ハードディスクを接続しても利用できない	283
増設ハードディスクを接続するとブザーが「ピーピーピー」と3回鳴り、STATUS ランプが赤く点滅したままとなる	283
eSATA ハードディスクを [eSATA ポート] に接続しても認識されない	283
増設ハードディスクのパソコンでのフォーマット方法について	283
ハードディスクの不良でカートリッジ交換が必要な場合は？	284
本製品に接続可能なハードディスクについて	284
デフラグ機能はありますか？	284
省電力機能が動かない	284

## ◆タイムサーバ機能使用時のトラブル

タイムサーバとの同期が行われない	285
------------------	-----

## ◆NT ドメイン・ActiveDirectory 使用時のトラブル

NT ドメインへの参加ができない	286
ドメインモードに切り替えると共有にアクセスできなくなった	286
ドメインモードにおいて共有作成・変更時に AppleShare ネットワークファイル共有サービスや FTP サービスを選択できない	286
Active Directory への参加ができない	286

## ◆FTP サーバ使用時のトラブル

FTP サーバ機能を使用すると、フォルダやファイル名が文字化けしてしまう	287
--------------------------------------	-----

## ◆メール送信でのトラブル

メール送信テストでエラーとなる	288
-----------------	-----

## ◆パソコンのネットワーク設定について

パソコンの IP アドレスがわからない	289
Windows パソコンの [ワークグループ名] がわからない	289
(Windows) ネットワークドライブの割り当て方法がわからない	290
パソコンに固定の IP アドレスを設定するには	292
(Windows Vista®/XP/2000) [ローカルエリア接続]アイコンに×マークが付いている	295

## ◆本製品起動時のトラブル

### 本製品の電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーがピーピーピーと3回鳴った

原因	DHCP サーバーから本製品の IP アドレスを取得できていない。 ※本製品の IP アドレスの設定が、自動取得(出荷時設定)に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、STATUS ランプが点滅します。
対処	接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。 ※DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、固定の IP アドレス：192.168.0.200 に設定されます。

原因	DHCP サーバーのない環境で使用している、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。
対処	本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。 ・ Windows の場合 【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】(19ページ) ・ Macintosh の場合 【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】(30ページ)

原因	本製品が取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続された。
対処	本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、接続に失敗したことを STATUS ランプの赤点滅で表示します。この場合は該当する USB 機器を本製品から取り外してください。しばらくすると緑点灯に変わります。

原因	内蔵ボリュームにエラーが発生した。
対処	【ボリューム情報】画面で、内蔵ボリュームの状態を確認してください。

### eSATA ハードディスクを [eSATA ポート 1] に接続して電源を入れると、STATUS ランプが赤点滅し、ブザーが鳴り続けている

原因	eSATA ハードディスクが [ミラーディスクの保管] を行ったハードディスクです。 本製品では、内蔵ハードディスクを取り付けたまま、[ミラーディスクの保管] を行った eSATA ハードディスクを接続して、内蔵および eSATA 両方のシステムを同時に起動させることはできません。
対処	【電源】ボタンを「ピッ」と音がするまで押して、本製品の電源を切ります。 ・内蔵ハードディスクから起動したい場合は、eSATA ミラーディスクを取り外した状態で本製品の電源を入れてください。 ・eSATA ミラーディスクからシステムを起動する場合は、以下の個所を参照してください。 【ミラーディスクから復旧する】(126ページ) ・eSATA ミラーディスクをフォーマットし直して、通常の FAT や NTFS 形式のハードディスクに戻す場合は、eSATA ミラーディスクをパソコンに直接接続してフォーマットするか、あるいは、本製品のみで起動後、起動後に eSATA ミラーディスクを接続し、eSATA ミラーディスクを [ボリューム操作] 画面で FAT32 にフォーマットしてください。

### どうしても起動停止状態となるため、本製品を起動できない

対処	起動停止状態の対処については、次ページを参照してください。  どうしても起動できなくなった場合は、以下の個所を参照してください。 【強制的に RAID を再構成する】(161ページ)
----	--

### 使用中に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」と鳴り続けている

原因	RAID 崩壊の状態です。
対処	前面の [COPY] ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、RAID の再構成を行ってください。 詳細は、以下の個所を参照してください。 【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】(160ページ)

## 起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている

原因	起動を停止している状態です。
対処	前面の [COPY] ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、以下の【起動停止状態を確認する】を参照してください。

### 起動停止状態を確認する

本製品起動時に、[STATUS] ランプが赤点滅、[ACCESS] ランプが赤点灯し、ブザーが「ピー」と鳴り続けている場合は、本製品が何らかの理由で起動停止している状態です。以下の手順で起動停止状態を確認し、原因・対処をご確認ください。

#### STEP1 設定用パソコンのIPアドレスを一時的に変更する

本製品起動途中の場合、本製品は、「192.168.0.200」固定のIPアドレスで起動しています。

この時、パソコンから停止画面を開くには、パソコン側も一時的に「192.168.0」と同じセグメントで「192.168.0.200」以外に設定する必要があります。

※ネットワーク内にDHCPサーバのあり、なしにかかわらず、本製品は「192.168.0.200」の固定のIPアドレスで起動しています。

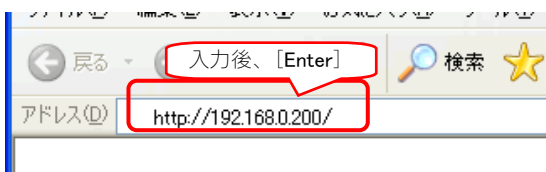
- 1 パソコンの [IP アドレス] [サブネットマスク] を一時的に以下の値に変更します。  
 [IP アドレス] . . . 192.168.0.xxx  
 (xxx には 200 を除く 1~254 のいずれかの値)  
 [サブネットマスク] . . . 255.255.255.0

**?** パソコンのIPアドレスの設定方法がわからない  
 ⇒以下の個所を参照してください。  
 【パソコンに固定のIPアドレスを設定するには】  
 (292ページ)

**注意** ●後で元の設定に戻しますので、必ず現在の  
 [IP アドレス] [サブネットマスク] [デフォルトゲートウェイ] [(ルータ) アドレス] などはメモしておいてください。

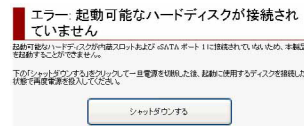
#### STEP2 停止画面を開く

- 1 Web ブラウザを起動して下記を入力し、[Enter]キーを押します。  
 http://192.168.0.200/



- 2 停止画面が表示されます。  
 停止画面の内容に応じて各対処を行ってください。

#### ▼「起動可能なハードディスクが接続されていません」と表示されている



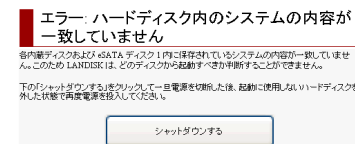
##### ディスク情報

■ 内蔵ディスク1

**原因** 本製品の各スロット、および eSATA ポート 1 に接続されているディスクで、システムを起動できるディスクが見つからないため、システムが起動できない状態になります。

**対処** 内蔵ハードディスクから起動する場合は、各スロットのカートリッジのスライドスイッチが [LOCK] 状態となっているかご確認ください。  
 「ミラーディスクの保管」を行った eSATA ハードディスクから起動する場合は、「[ミラーディスクの保管]」を行ったディスクの確認、[eSATA ポート 1] の接続、および電源を確認してください。

#### ▼「ハードディスク内のシステムの内容が一致していません」と表示されている



##### ディスク情報

■ 内蔵ディスク1

**原因** 本製品のスロット、および eSATA ポート 1 に接続されているディスクで、システムの最終更新時刻が異なるディスクが接続されていると、起動するシステムを特定できないため、システムが起動できない状態になります。

**対処** 1.各カートリッジまたは SATA ポート 1 に接続されているディスクの最終更新時刻を確認し、最終更新時刻が異なるカートリッジを確認します。  
 2.一旦本製品をシャットダウンし、最終更新時刻が異なっていたカートリッジを取り外した状態で起動します。  
 3.本製品起動後、取り外していた HDD カートリッジを挿入し、スライドスイッチを LOCK ヘスライドさせて固定し、再構築されるかどうかご確認ください。

(次ページへ続く)

(前ページからの続き)

▼ 「RAID 構成に必要なディスクの数が不足しています」と表示されている

**エラー: RAID 構成に必要なディスクの数が不足しています**  
設定されている RAID モードに必要な数のディスクが接続されていません。このため LANDISK は起動することができません。  
下の「シャットダウンする」をクリックして一旦電源を切断了後、正しいディスクを接続した状態で再度電源を投入してください。

シャットダウンする

**ディスク情報**

■ 内蔵ディスク 1

原因	本製品の内蔵ボリュームを構成するために最低必要なディスクの台数が不足しています。
対処	いったんシャットダウンし、各スロットのカートリッジの取り付けの確認、および eSATA ディスクの接続を確認してください。

▼ 「内蔵ディスクの接続スロットが違います」と表示されている

**エラー: 内蔵ディスクの接続スロットが違います**  
内蔵ディスクの接続スロットが違います。このため LANDISK は起動することができません。  
下の「シャットダウンする」をクリックして一旦電源を切断了後、正しいディスクを接続した状態で再度電源を投入してください。

シャットダウンする

**ディスク情報**

■ 内蔵ディスク 1

原因	RAID1+0 または Encrypted RAID1+0 設定時、ディスクセットはスロット 1, 2 または 3, 4 に接続されている必要があります。 ディスクセットが、スロット 2, スロット 3 に入っている場合など、正しい位置に接続されていない場合の状態になります。
対処	いったんシャットダウンし、ディスクセット単位でスロット 1, 2 またはスロット 3, 4 に接続してください。

▼ 「RAID 崩壊モード」と表示されている

**RAID 崩壊モード**  
内蔵ディスクが不良となった場合の RAID 崩壊モードです。  
**本モードで起動すると、共有フォルダのデータは失われます。**  
RAID 崩壊モードを使用しない場合は、下の「シャットダウンする」をクリックして一旦電源を切断了後、正しいディスクを接続した状態で再度電源を投入してください。  
RAID 崩壊モードで起動する場合は、下の「RAID 崩壊モードで起動する」をクリックしてください。ただし、共有フォルダのデータは失われます。

シャットダウンする

RAID 崩壊モードで起動する

**ディスク情報**

■ 内蔵ディスク 1

原因	内蔵システムディスク 1 台のみで起動した状態です。
対処	いったんシャットダウンし、スロットすべてのカートリッジのスライドスイッチが [LOCK] となっているかご確認ください。 なお、[RAID 崩壊モードで起動する] ボタンについては、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【強制的に RAID を再構成する】(161ページ)</a>

## 起動時、または起動中に [ACCESS] ランプが消灯しているカートリッジがある

原因	<p>カートリッジのスライドスイッチが「LOCK」されていない。          ※ 「LOCK」したつもりでも「LOCK」されていない場合があります。          スライドスイッチが確実に「LOCK」の位置になっていることを確認してください。</p>
対処	<p>本製品の電源を入れたまま、スライドスイッチを「LOCK」してください。          [ACCESS] ランプが青く点灯、または、青く点滅を開始します。</p> <p>[LOCK] した後、そのカートリッジの [ACCESS] ランプが赤く点灯、または、赤く点滅した場合には、以下の個所を参照してください。  <a href="#">【◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル】 (274ページ)</a></p>

原因	<p>RAID に組み込まれていないカートリッジ※を接続した状態でシステム起動した。          この場合、電源投入時は接続したカートリッジの[ACCESS]ランプは青点灯していますが、システム起動中に該当のカートリッジがの[ACCESS]ランプが消灯します。</p> <p>※RAID に組み込まれていないカートリッジとは…          FAT/NTFS フォーマットされたカートリッジ          未フォーマットのカートリッジ          新しいカートリッジ          取り外し処理を行ったカートリッジ</p>
対処	<p>本製品が起動している状態で、いったんそのカートリッジの取り外し操作（スライドスイッチを「UNLOCK」）を行った後、再度取り付け操作（スライドスイッチ「LOCK」）を行う必要があります。</p> <p>「LOCK」したあと、そのカートリッジの[ACCESS]ランプが赤点灯、または赤点滅した場合は、次のページ確認してください。  <a href="#">【◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル】 (274ページ)</a></p> <p>また、あわせて本製品の設定画面を開き、ログ情報を確認してください。</p>

# ◆セットアップ時のトラブル（ネットワークへの導入時）

## Mac と Windows が混在している環境の場合どのパソコンで設定したらよいですか？

対処	<p>本製品は、本製品と同一ネットワーク内の1台のパソコンからすべての設定を行うことができます。</p> <p>ご利用環境に、Windows と Mac OS のどちらもある場合は、一方のパソコンからすべての設定を行うことができますが、Windows パソコンから設定することをお勧めします。</p> <p>Windows 環境では、添付ソフト「Magical Finder」を使用できますので、本製品の IP アドレスの情報を知らなくても、本製品の設定画面を開いたり、また、直接「Magical Finder」で本製品の IP アドレスの設定等を簡単に行うことができます。</p>
----	---

## 現在のネットワーク環境に DHCP サーバーがあるかわからない

対処	<p>ご使用のネットワーク環境に、「ブロードバンドルーター」「ルーター機能付きの ADSL モデム」「Windows NT 系のサーバー」などがある場合は、これらの DHCP サーバー機能を使用している可能性があります。</p> <p>以下の【方法1】あるいは【方法2】などの手順で確認できます。</p> <p>方法1：パソコンの IP アドレスの設定で確認する（以下参照）</p> <p>方法2：Windows 標準添付のツールを使って確認する（Windows のみ）（次ページ）</p>
----	---

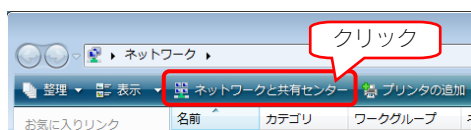
### 方法1：パソコンの IP アドレスの設定で確認する

すでにネットワーク内にあるインターネットなどに正常にアクセスできるパソコンの IP アドレスの設定で確認できます。（IP アドレスの設定が「DHCP サーバーから取得する」設定になっていて正常に LAN 内で使用できている場合は、ネットワーク内に DHCP サーバーがあります。）

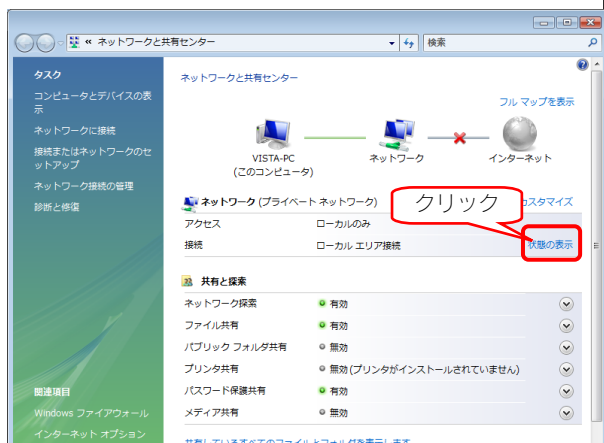
#### ●Windows Vista®の場合

**1** [スタート] → [ネットワーク] をクリックします。

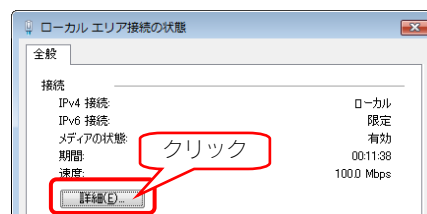
**2** [ネットワークと共有センター] をクリックします。



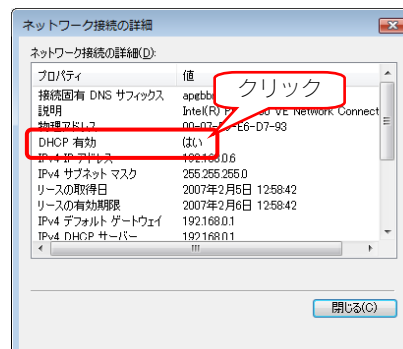
**3** [状態の表示] をクリックします。



**4** [詳細] をクリックします。



**5** [DHCP 有効] 欄に [はい] と表示されていれば、DHCP サーバーがあります。

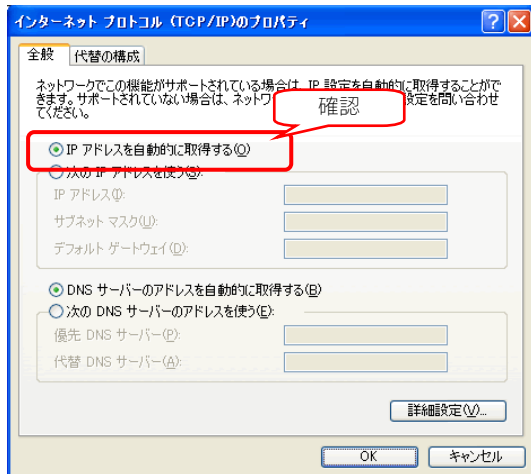


## ●Windows Vista®以外の OS の場合

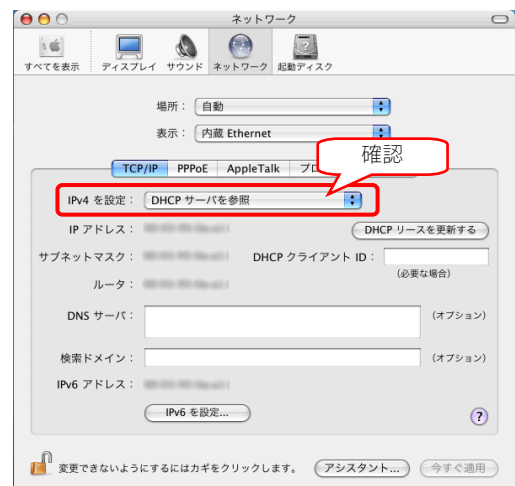
**1** パソコンの IP アドレスを確認できる画面を開きます。

**2** パソコンの IP アドレスの設定が、[IP アドレスを自動的に取得 (する)] や [DHCP サーバを参照] となっている場合は、ネットワーク内に DHCP サーバがあると考えられます。

### ▼Windows XP で DHCP サーバを使用している場合



### ▼Mac OS X で DHCP サーバを使用している場合



## 方法2：Windows 標準添付のツールを使って確認する（Windows のみ）

Windows 標準添付のツールで DHCP サーバーを利用しているかを確認できます。

### ●Windows Vista®の場合

**1** [スタート] → [(すべての) プログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。

**2** IPCONFIG - ALL  
(G と-の間にスペースが入ります)  
と入力して [Enter] キーを押します。

**3** DHCP 有効の欄に「はい」と表示されている場合は、DHCP サーバーがあります。

```

Tunnel adapter ローカル エリア接続*:
接続固有の DNS サフィックス . . . . .
説明
物理アドレス
DHCP 有効
IP アドレス
リンクローカル IPv6 アドレス
デフォルト ゲートウェイ
DNS サーバー
NetBIOS over TCP/IP
    
```

確認

### ●Windows XP/2000 の場合

**1** [スタート] → [(すべての) プログラム] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。

**2** IPCONFIG - ALL  
(G と-の間にスペースが入ります)  
と入力して [Enter] キーを押します。

**3** [DHCP Server] 欄にアドレス (DHCP サーバーのアドレス) が表示されていれば、DHCP サーバーがあります。

```

C:\>IPCONFIG -ALL

Windows IP Configuration

Host Name . . . . .
Primary Dns Suffix . . . . .
Node Type . . . . .
IP Routing Enabled. . . . .
WINS Proxy Enabled. . . . .

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

Connection-specific DNS Suffix . . . . .
Description . . . . .

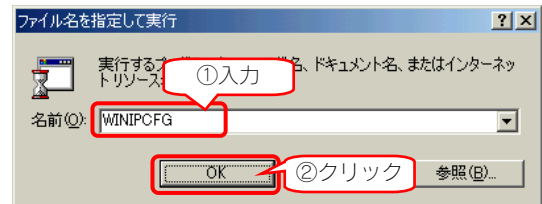
Physical Address. . . . .
Dhcp Enabled. . . . .
Autoconfiguration Enabled . . . . .
IP Address. . . . .
Subnet Mask . . . . .
Default Gateway . . . . .
DHCP Server . . . . .
DNS Servers . . . . .
Lease Obtained. . . . .
Lease Expires . . . . .
    
```

確認

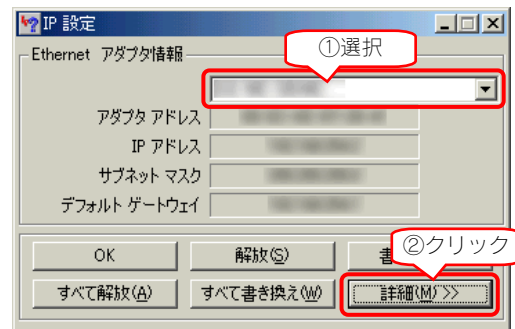
### ●Windows Me/98 の場合

**1** [スタート] → [ファイル名を指定して実行] を開きます。

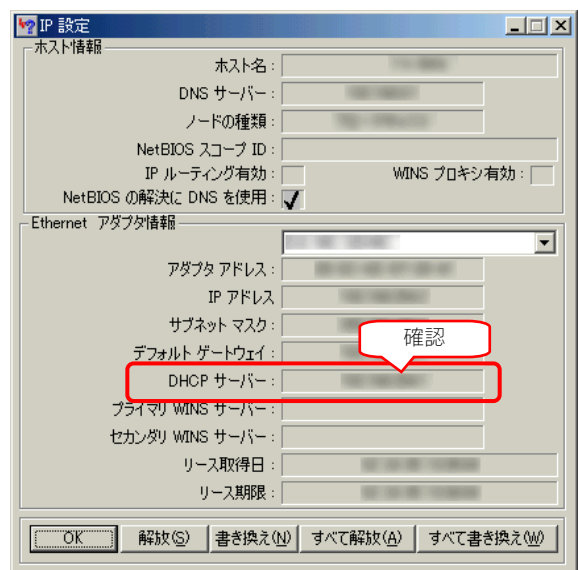
**2** [名前] 欄に [WINIPCFG] と入力して [OK] ボタンをクリックします。



**3** ご使用の LAN アダプター名を選択し、[詳細] ボタンをクリックします。



**4** [DHCP Server] 欄に IP アドレスが表示されていれば、DHCP サーバーがあります。





(Windows)  
[Magical Finder]で本製品が検索されない

原因	接続が正しく行われていない。
対処	<p>本製品の電源が入っているか（ [POWER] ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルがLAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。</p> <p><b>【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】（254ページ）</b></p> <p>本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側のLAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。</p>

原因	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。
対処	<p>セキュリティ関連のソフトウェア（ファイヤーウォールソフト）の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しください。</p> <p>また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、「MagicalFinder」をファイヤーウォールソフトの除外設定を行うと、ファイヤーウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。（詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください）。</p>
<p style="text-align: center;">＜参考：WindowsXP ServicePack2 のWindows ファイヤーウォール機能の除外設定＞</p>	
①	<p>あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。</p> <p>1)添付のCD-ROM をパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。</p> <p>2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。</p>
②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。
③	一番下の「Windows ファイヤーウォール」をクリックします。
④	「例外」タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。
⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。
<p>以上で WindowsXPSP2 のファイヤーウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。</p> <p>[スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finder が起動し、本製品が検索されます。</p> <p>設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。</p>	

原因	本製品が再起動中である。
対処	<p>本製品が起動するまで（ [STATUS] ランプが緑色に点灯※するまで）お待ちください。</p> <p>※DHCP サーバーの無いネットワークにはじめて接続した場合は、赤く点滅します。</p>

## DHCP サーバーがあるのに、STATUS ランプが赤く点滅している

原因	正しく接続されていない。
対処	いったん本製品の電源ボタンを押して電源を切り、LAN ケーブルが正しく接続されていることを確認してから、再度電源を入れてください。
原因	DHCP サーバーから本製品の IP アドレスが取得できていない。 ※本製品の DHCP クライアント設定が on(出荷時設定)に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、STATUS ランプが赤く点滅します。
対処	接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。 ※DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、固定の IP アドレス： <b>192.168.0.200</b> に設定されます。
原因	DHCP サーバーがない環境で使用している、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。
対処	本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。 <a href="#">【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】 (19ページ)</a> <a href="#">【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】 (30ページ)</a>
原因	本製品が取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続された。
対処	本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、接続に失敗したことを STATUS ランプの赤点滅で表示します。この場合は該当する USB 機器を本製品から取り外してください。しばらくすると緑点灯に変わります。
原因	内蔵ボリュームにエラーが発生した。
対処	[ボリューム情報] 画面で、内蔵ボリュームの状態を確認してください。

## [ミラーディスクの保管] を行った eSATA ハードディスクから起動できない

原因	eSATA ハードディスクの電源が入っていない。
対処	eSATA ハードディスクの電源ケーブルをご確認ください。
原因	[eSATA ポート 1] に接続されていない。
対処	eSATA ハードディスクが起動するには、[eSATA ポート 1] に接続する必要があります。
原因	[ミラーディスクの保管] を行った eSATA ハードディスクでない。
対処	[ミラーディスクの保管] を行った eSATA ハードディスクかをご確認ください。
原因	内蔵ハードディスク (カートリッジ) が取り付けられたままとっている。
対処	内蔵ハードディスクがある場合に、[ミラーディスクの保管] を行った eSATA ハードディスクから起動することはできません。 本製品の電源を切った後、カートリッジをすべて取り外してください。

(Mac OS)

パソコンに直接接続した後、本製品の設定画面が表示されない

原因	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[POWER] ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】（254ページ） 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。

原因	本製品の IP アドレスとパソコンの IP アドレスの設定があていない。						
対処	パソコンと本製品を直接接続して設定画面を開くには、以下の設定にする必要があります。 <table border="1" data-bbox="323 607 1445 1373"><tr><td>①</td><td>本製品の STATUS ランプを確認してください。 ・赤く点滅している場合 本製品の IP アドレスは 192.168.0.200 に設定されています。 パソコンの IP アドレスを 192.168.0.xxx に設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。 ・緑色に点灯している場合 本製品の IP アドレスは、設定画面で設定した値に設定されています。 本製品に設定した IP アドレスにあわせてパソコンの IP アドレスを設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。 本製品の IP アドレスが分からない場合は、以下の個所を参照してください。 【本製品に設定した IP アドレスを忘れた】（252ページ）</td></tr><tr><td>②</td><td>パソコンの IP アドレスを設定します。 本製品の IP アドレスと同じセグメントのアドレスに設定します。 例) 本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合・・・パソコンの IP アドレスは 192.168.0.123 など設定します。 パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、以下の個所を参照してください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】（273ページ）</td></tr><tr><td>③</td><td>IP アドレスを設定できたら、Internet Explorer を起動し、アドレス欄に以下を入力して開きます。 http://192.168.0.200/ ※本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合 本製品の IP アドレスを変更されている場合は、変更した IP アドレスを入力してください。</td></tr></table>	①	本製品の STATUS ランプを確認してください。 ・赤く点滅している場合 本製品の IP アドレスは 192.168.0.200 に設定されています。 パソコンの IP アドレスを 192.168.0.xxx に設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。 ・緑色に点灯している場合 本製品の IP アドレスは、設定画面で設定した値に設定されています。 本製品に設定した IP アドレスにあわせてパソコンの IP アドレスを設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。 本製品の IP アドレスが分からない場合は、以下の個所を参照してください。 【本製品に設定した IP アドレスを忘れた】（252ページ）	②	パソコンの IP アドレスを設定します。 本製品の IP アドレスと同じセグメントのアドレスに設定します。 例) 本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合・・・パソコンの IP アドレスは 192.168.0.123 など設定します。 パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、以下の個所を参照してください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】（273ページ）	③	IP アドレスを設定できたら、Internet Explorer を起動し、アドレス欄に以下を入力して開きます。 http://192.168.0.200/ ※本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合 本製品の IP アドレスを変更されている場合は、変更した IP アドレスを入力してください。
①	本製品の STATUS ランプを確認してください。 ・赤く点滅している場合 本製品の IP アドレスは 192.168.0.200 に設定されています。 パソコンの IP アドレスを 192.168.0.xxx に設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。 ・緑色に点灯している場合 本製品の IP アドレスは、設定画面で設定した値に設定されています。 本製品に設定した IP アドレスにあわせてパソコンの IP アドレスを設定します。 設定方法は、次の②の手順をご覧ください。 本製品の IP アドレスが分からない場合は、以下の個所を参照してください。 【本製品に設定した IP アドレスを忘れた】（252ページ）						
②	パソコンの IP アドレスを設定します。 本製品の IP アドレスと同じセグメントのアドレスに設定します。 例) 本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合・・・パソコンの IP アドレスは 192.168.0.123 など設定します。 パソコンの IP アドレスの設定方法がわからない場合は、以下の個所を参照してください。 【パソコンに固定の IP アドレスを設定するには】（273ページ）						
③	IP アドレスを設定できたら、Internet Explorer を起動し、アドレス欄に以下を入力して開きます。 http://192.168.0.200/ ※本製品の IP アドレスが 192.168.0.200 の場合 本製品の IP アドレスを変更されている場合は、変更した IP アドレスを入力してください。						

原因	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。
対処	セキュリティ関連のソフトウェアのファイアウォール機能により制限されている場合があります。 ファイアウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイアウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。 なお、ファイアウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問合せください。

原因	以前に設定した本製品の IP アドレスが間違っている、あるいは、正しく設定していなかった。
対処	RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定（192.168.0.200）に戻してください。 【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】（156ページ）参照  出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。 【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（30ページ）

原因	Web ブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	ブラウザがプロキシサーバを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。ブラウザの設定でプロキシサーバを使わない設定にしてください。

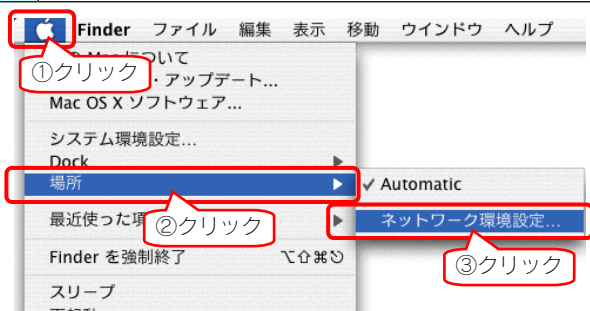
**注意** 本製品の設定終了後は、プロキシ設定を元に戻してください。

以下の個所を参照してください。

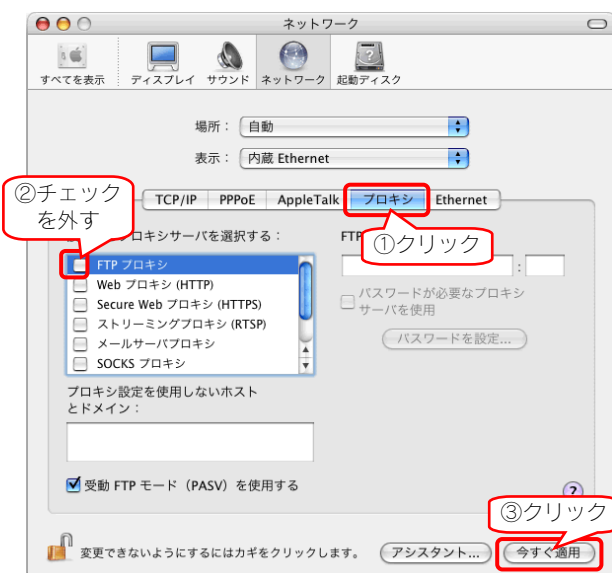
## Mac OS でプロキシサーバ設定を無効にする設定

### ●Mac OS X の場合

- 1 [アップルメニュー]→[場所] (または [ネットワーク環境]) →[ネットワーク環境設定...]を選択します。



- 2 [プロキシ]タブをクリックし、以下の設定を行います。

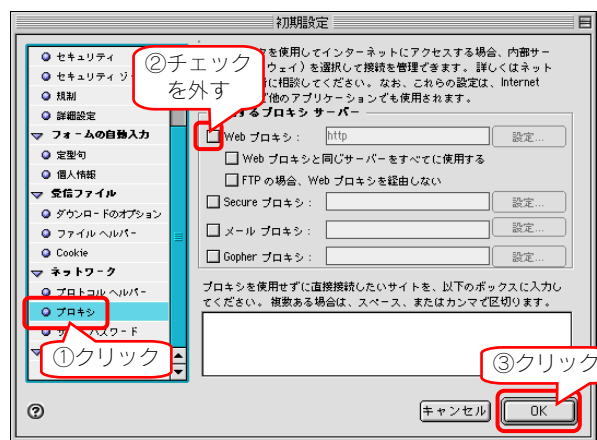


- 3 設定後、左上の(×)をクリックして画面を閉じます。

以上で設定は完了です。

### ●Mac OS (Classic) の場合

- 1 Internet Explorer を起動します。
- 2 [編集] → [初期設定...] を選択します。
- 3 [ネットワーク] の [プロキシ] を選択します。
- 4 以下の設定を行います。



以上で設定は完了です。

## パソコンと LANDISK 本体を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している

原因	はじめて本製品をパソコンに接続した。
対処	パソコンにはじめて直接接続した場合、STATUS ランプが赤く点滅します。 設定画面で、本製品の IP アドレスを固定に設定し、電源ボタンで一度本製品の電源を切り(シャットダウン)後、再度本製品の電源を入れれば、STATUS ランプが緑色に点灯します。

## [LANDISK の名前]を変更したい

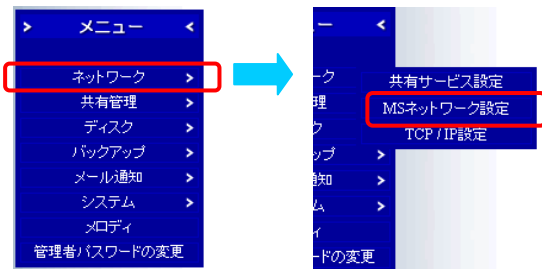
対処	以下の個所を参照してください。
----	-----------------

## [LANDISK の名前]の変更手順

- 1** 本製品の設定画面の[メニュー]をクリックします。



- 2** [メニュー]の[ネットワーク] → [MS ネットワーク設定]を順にクリックします。



- 3** [LANDISK の名前] の項目で、[LANDISK の名前] を変更できます。

**MS ネットワーク設定**

①変更

■ 名称の設定

LANDISK の名前	LANDISK
コンピュータの説明	HDL-GTR series

■ ネットワーク参加方法の設定

参加方法の選択	<input checked="" type="radio"/> ワークグループ <input type="radio"/> NTF-メイン <input type="radio"/> Active Directory
ワークグループ	WORKGROUP
WINS サーバアドレス	

注意  
ドメインでご利用になる場合はワークグループに切替えないようにしてください。  
ドメインがオフラインの場合、ドメイングループを作成した共有は、ワークグループに切替えると使用不可になりますので、事前にドメイングループを作成した共有は使用できません。  
また、異なるドメインにログインしたドメイングループで作成した共有は使用できません。

②クリック

OK クリア

- 4** 設定された内容を確認後、Web ブラウザを閉じてください。

### 結果

#### ■ 名称の設定

LANDISK の名前	LANDISK
コンピュータの説明	HDL-GTR series

#### ■ ネットワーク参加方法の設定

参加方法の選択	ワークグループ
ワークグループ名	WORKGROUP
WINS サーバアドレス	

これで設定は完了です。

LANDISK の名前	ネットワーク上（[マイネットワーク] あるいは [ネットワークコンピュータ] など）に表示される本製品の名称です。  ※変更する場合は、必ずメモしてください。 ※使用できる文字には制限があります。 【文字制限一覧】（202ページ）を参照してください。
-------------	---

## ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない

原因	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[POWER] ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。
原因	接続先のネットワーク機器の電源が入っていない。
対処	本製品接続先のネットワーク機器（ルーターやハブなど）の電源が入っているかご確認ください。

## ファイアウォールソフトで、LANDISK に対してアクセスを許可させたい場合、どのポート番号で設定すればよいかわからない

対処	137～139 番、445 番のポートに対してアクセスを許可する設定を行ってください。 詳しい設定方法については、アプリケーションメーカーにご確認ください。
----	---

## パソコンの IP アドレスがわからない

対処	パソコンの IP アドレスは以下の方法で確認することができます。  ・ Windows の場合 添付ユーティリティ「Magical Finder」で確認することができます。以下の個所を参照してください。 <a href="#">【Windows パソコンの IP アドレスの確認】(次ページ)参照</a>  ・ Mac OS X の場合 OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。以下の個所を参照してください。 <a href="#">【Mac OS X パソコンの IP アドレスの確認】(256ページ)参照</a>  ・ Mac OS 8.1～9.2.2 の場合 OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。以下の個所を参照してください。 <a href="#">【Mac OS 8.1～9.2.2 パソコンの IP アドレスの確認】(257ページ)参照</a>
----	--

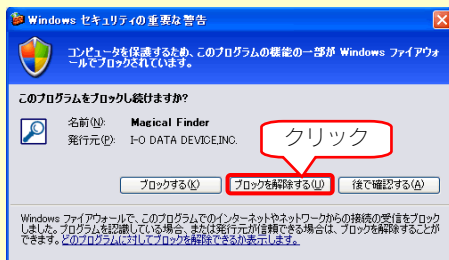
## Windows パソコンの IP アドレスの確認

Windows パソコンの IP アドレスは、添付ユーティリティ「Magical Finder」で確認することができます。

- 1** 添付 CD-ROM をセットし、起動してきたサポートソフトウェアのメニューの「Magical Finder 起動」をクリックすれば、「Magical Finder」が起動します。



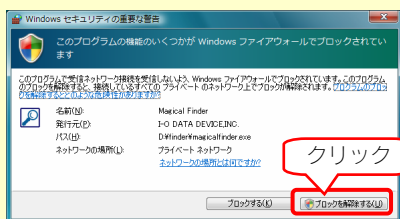
- Windows XP SP2 をお使いで以下の画面が表示された場合は、「ブロックを解除する」をクリックしてください。



- Windows Vista®をお使いで、CD-ROM を挿入すると、以下の画面が表示された場合、「Autorun.exe の実行」をクリックしてください。



- Windows Vista®をお使いで、以下の画面が表示された場合、「ブロックを解除する」をクリックしてください。



サポートソフトウェアが表示されていない場合

① [マイコンピュータ] を開きます。

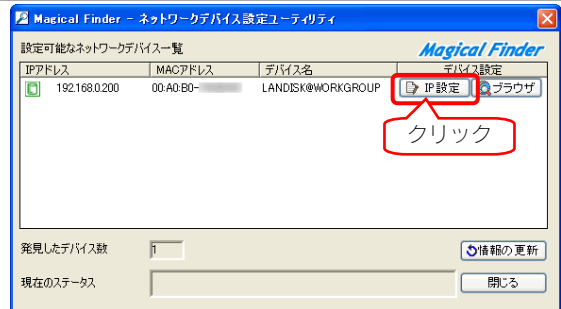
※Windows Vista®では[スタート]→[コンピュータ]をクリックします。

②HDL-GTRxxx ※アイコンをダブルクリックします。

※xxx にはサポートソフトのバージョンが表示されます。

(サポートソフトウェアが表示されない場合は、さらに [Autorun.exe] アイコンをダブルクリックしてください。)

- 2** 自動で本製品が検索されますので、[IP 設定] ボタンをクリックします。  
※本製品の電源が ON になってから、検索されるまでに約 1 ~ 2 分かかる場合があります。



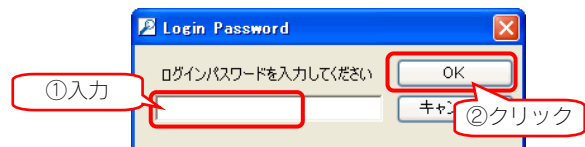
本製品が検索されない！

対処 1 : 30 秒ほど待ってから [情報の更新] ボタンをクリックしてください。

対処 2 : 以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の 249 ページ

- 3** 管理者パスワードを入力後（出荷時はパスワードは設定されていません）、[OK] ボタンをクリックします。

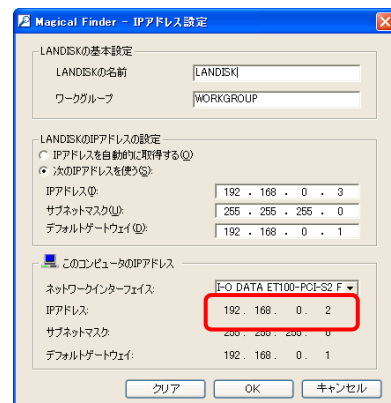


「パスワードが間違っています。」と表示された！

対処 : [OK] ボタンをクリック後、以下の個所を参照してください。

【困ったときには】の 269 ページ

- 4** 表示された [IP アドレス設定] 画面の [このコンピュータの IP アドレス] で確認できます。

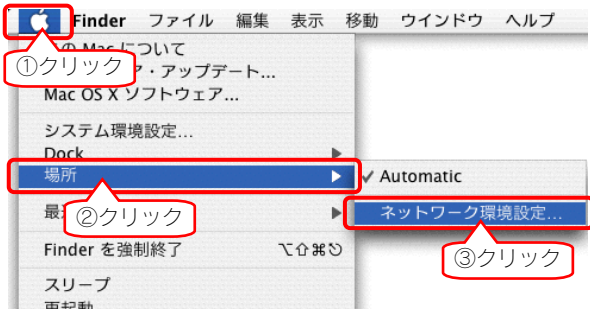


以上で確認は終了です。

## Mac OS XパソコンのIPアドレスの確認

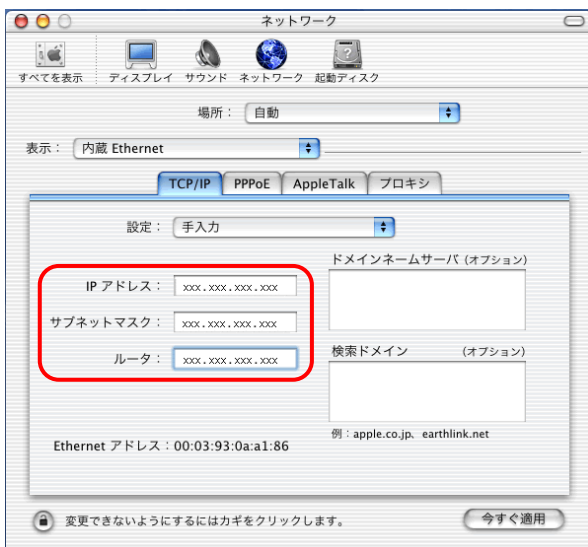
Mac OS XパソコンのIPアドレスは、OS標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。

- 1** [アップルメニュー]→[場所] (または [ネットワーク環境])  
→[ネットワーク環境設定...]を選択します。



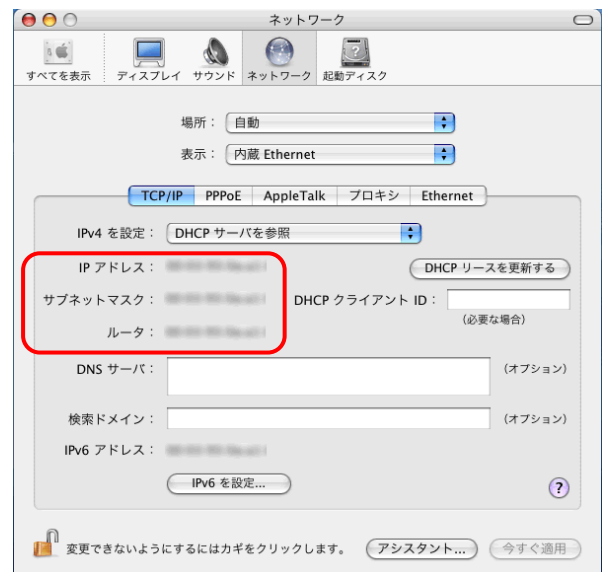
- 2** 「ネットワーク」画面が表示されます。  
[表示:]から[内蔵 Ethernet]または[Ethernet]を選択します。  
表示された画面の [TCP/IP] タブで現在の IP アドレスの設定を確認できます。  
ただし、固定の IP アドレスで使用している場合と、DHCP  
サーバを利用している場合では設定が異なります。

### ▼IP アドレスを固定で使用している場合



表示されている [IP アドレス] [サブネットマスク] がパソコンに  
設定されている値です。

### ▼DHCP サーバを使用している場合



表示されている [IP アドレス] [サブネットマスク] がパソコン  
に設定されている値です。

DHCP サーバご利用は、通常、[IPv4 を設定] (または[設  
定])で [DHCP サーバを参照]を選択します。

表示されている [IP アドレス] [サブネットマスク] は、パソ  
コンが DHCP サーバより取得した (DHCP サーバから割り  
当てられた) 値です。



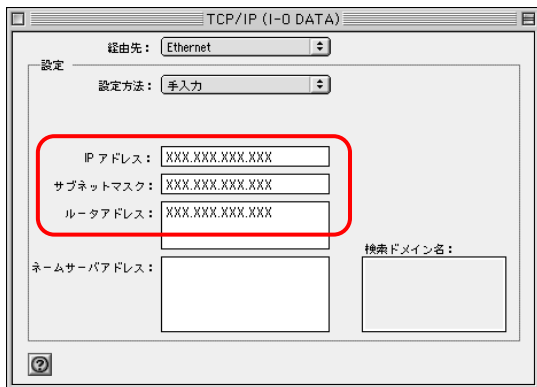
## Mac OS 8.1～9.2.2 パソコンの IP アドレスの確認

Mac OS 8.1～9.2.2 パソコンの IP アドレスは、OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。

**1** [アップルメニュー] → [コントロールパネル] 内の [TCP/IP] をクリックします。

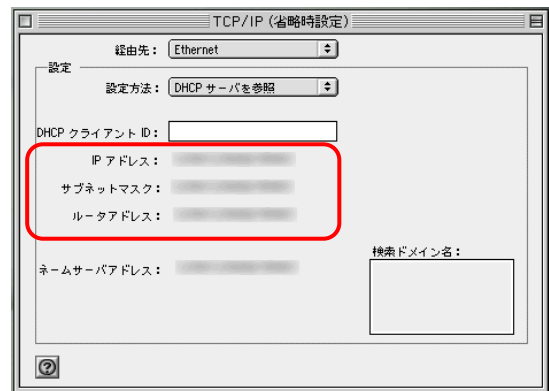
**2** [TCP/IP] 画面が表示されます。  
[経由先]から[Ethernet]または[内蔵 Ethernet]を選択します。  
表示された画面で現在の IP アドレスの設定を確認できます。  
ただし、固定の IP アドレスで使用している場合と、DHCP サーバを利用している場合では設定が異なります。

### ▼IP アドレスを固定で使用している場合



表示されている [IP アドレス] [サブネットマスク] がパソコンに設定されている値です。

### ▼DHCP サーバを使用している場合



表示されている [IP アドレス] [サブネットマスク] がパソコンに設定されている値です。

DHCP サーバご利用は、通常、[IPv4 を設定] (または[設定]) で [DHCP サーバを参照] を選択します。

表示されている [IP アドレス] [サブネットマスク] は、パソコンが DHCP サーバより取得した (DHCP サーバから割り当てられた) 値です。

## ◆本製品へアクセス時のトラブル

「LANDISK」のアイコンを開いたり、共有フォルダを開こうとすると、「アクセス権限が無い」とエラーが表示されたり、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示される

原因	共有フォルダにアクセス権限の設定を行って、本製品に登録したユーザ名、パスワードと、パソコンからログオンしたユーザ名とパスワードが一致していない。
対処	<p>ネットワークログイン時に入力する [ユーザ名]、[パスワード] と本製品に登録したユーザの [ユーザ名]、[パスワード] が一致するように、本製品とパソコンの設定をご確認ください。</p> <p>パソコンの設定については、次を確認してください。</p> <p>▼Windows Vista®/XP/2000 の場合 OS 側にユーザ登録しなおします。 ユーザ登録されていない場合には、本製品に登録した [ユーザ名] [パスワード] と同じユーザアカウントを作成してください。</p> <p>▼Windows Me/98 の場合 Windows 起動時の [ネットワークパスワードの入力] 画面で、本製品に登録したユーザ名、パスワードを入力してください。</p> <p>▼Mac OS X の場合 [移動] → [サーバへ接続...] で本製品の IP アドレスを設定後、[接続] ボタンをクリックした際に表示される画面で、[登録ユーザ] を選択し、[名前] と [パスワード] に本製品に登録した [ユーザ名] と [パスワード] を入力してください。</p> <p>▼Mac OS 8.1~9.2.2 の場合 [アップルメニュー] → [セレクト] → [AppleShare] → [landisk] を選択し、[接続] ボタンをクリックした際に表示される画面で、[登録利用者] を選択し、[名前] と [パスワード] に本製品に登録した [ユーザ名] と [パスワード] を入力してください。</p>

Mac OS(バージョン問わず)から書き込んだファイルを Windows から削除すると、本製品の共有へ Mac OS からファイル保存ができなくなる

原因	本製品のシステムに採用されている Windows サービスと Macintosh サービス間のファイル保存情報に不整合が生じるため。
対処	Mac OS のデスクトップ上にマウントした共有を一度、ゴミ箱へ捨て再度、Finder(Mac OS X)、またはネットワークブラウザ(Mac OS)から本製品の共有へアクセスしてください。

(Mac OS 9)  
フォルダ名やファイル名が文字化けする、あるいは開けない

原因	Mac OS 9 で正しく表示できないファイル (フォルダ) 名を使用している。 【文字制限一覧】 (202ページ) 参照
対処	Mac OS 9 以外の OS で、一般的な文字のファイル (フォルダ) 名に変更すると表示できます。

## LANDISK にアクセスできないパソコンがある (他のパソコンからは既に LANDISK にアクセスできている場合)

<p>対処</p>	<p>既に別のパソコンが LANDISK にアクセスできている場合、LANDISK 自体の動作、設定には問題がないため、LANDISK 自体の設定変更を行う必要はありません。 LANDISK に接続できないパソコンで以下の点をご確認ください。</p> <p>▼Windows の場合</p> <p>「コンピュータの検索」にて LANDISK の名前ではなく、本製品に設定されている IP アドレスで検索を行ってみてください。</p> <p>●IP アドレスの検索で見つかる場合</p> <p>TCP/IP で正しく通信できていますので、IP アドレス設定は正常です。 また、検索の結果表示された共有フォルダへのアクセスをお試しください。</p> <p>●IP アドレスの検索で見つからない場合</p> <p>検索した IP アドレスが LANDISK に設定されたものではない、または IP アドレスが正しく設定されていない可能性があります。以下の点をご確認ください。</p> <p>&lt;本製品の IP アドレスに PING を実行する&gt;</p> <p>①MS-DOS プロンプト (コマンドプロンプト) を起動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Windows 98 の場合 「スタート」 - 「プログラム」 - 「MS-DOS プロンプト」 を起動します。</li> <li>・ Windows Me の場合 「スタート」 - 「プログラム」 - 「アクセサリ」 - 「MS-DOS プロンプト」</li> <li>・ Windows Vista®/XP/2000 の場合 「スタート」 - 「プログラム (すべてのプログラム)」 - 「アクセサリ」 - 「コマンドプロンプト」 を起動します。</li> </ul> <p>②「ping」と入力し、スペースを 1 文字あけてから、本製品の IP アドレスを入力し Enter キーを押します。 入力例) C:\xxxx&gt;ping 192.168.0.200 [Enter]</p> <p>③応答メッセージが表示されますので、メッセージ内容によりそれぞれの対処をご確認ください。</p> <p>&lt;「Reply from . . .」と応答があった場合&gt;</p> <p>OS のファイル共有サービスが正しく動作していない可能性があります。 お使いの LAN アダプターのドライバーを再インストールしてどうかお試しください。 また、Windows Me/98 の場合は、ネットワーク構成の再インストールもお試しください。 <a href="#">【Windows Me/98 のネットワーク構成を入れ直す】 (次ページ)</a></p> <p>&lt;「Request time out」と応答があった場合&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本製品の IP アドレスが、パソコンの IP アドレスと同じセグメントの IP アドレスになっているかを確認してください。 Windows パソコンの場合、[MagicalFinder] より確認することができます。 <a href="#">【本製品に設定されている IP アドレスを調べたい】 (270ページ)</a></li> <li>・ファイヤーウォールソフトがインストールされている場合には、一時的に機能を無効にしてみてください。</li> </ul> <p>▼Macintosh の場合</p> <p><a href="#">【[Landisk]が見つからない、もしくは、接続できない】 (264ページ)</a> の対処をご確認ください。</p>
-----------	--

## 本製品にネットワーク経由で接続するパソコンの台数に制限はありますか？

<p>対処</p>	<p>本製品にネットワーク経由で接続可能な端末数について、Windows では制限は設けておりませんが、同時接続台数が増加するとパフォーマンスが低下します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Windows パソコンの場合：推奨する同時接続台数は 16 台まで (ネットワークドライブの割り当ても同様です。)</li> <li>・ Mac OS パソコンの場合：推奨する同時接続台数は 8 台まで (最大 16 台まで)</li> </ul>
-----------	---

## Windows Me/98 のネットワーク構成を入れ直す

ネットワークの構成を以下の手順で設定し直した後、ネットワーク参照をご確認ください。

**1** [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] → [ネットワーク] を開きます。

**2** [ネットワーク] 画面に表示される内容を次の種類順に削除してください。



削除する順番が異なると、ネットワークがうまく構成し直せなくなる場合がありますので、必ず次の順で削除してください。

**①** サービスをすべて削除します。  
[Microsoft ネットワーク共有サービス] など [xxxx 共有サービス] という名称のものが該当します。  
サービスの削除後は、[ネットワーク] 画面で [OK] ボタンをクリックし、画面を閉じます。その後、Windows の再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

**②** クライアントをすべて削除します。  
[Microsoft ネットワーククライアント]、[Microsoft ファミリログオン] など [xxxx クライアント] という名称のものが該当します。  
[コントロールパネル] → [ネットワーク] を開いて、クライアントをすべて削除します。サービスの削除後は、[ネットワーク] 画面で [OK] ボタンをクリックし、画面を閉じます。  
その後、Windows の再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

**③** プロトコルをすべて削除します。  
[TCP/IP (TCP/IP->xxxx)]、[NetBEUI (NetBEUI->xxxx)]、[IPX/SPX (IPX/SPX->xxxx)] という名称のものが該当します。  
プロトコルの削除後は、[ネットワーク] 画面で [OK] ボタンをクリックし、画面を閉じます。  
その後、Windows の再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

**3** [コントロールパネル] → [ネットワーク] を開くと、アダプタ関連が残ります。  
その状態になりましたら、お客様が接続するネットワーク環境に必要なものを以下の順に追加を行います。

**①** クライアントとプロトコルを追加します。  
※クライアントを追加すると、プロトコルも一緒に追加されます。  
追加する方法は、以下の通りです。

- 1) [追加] ボタンをクリックします。
- 2) [クライアント]をクリック後、[追加]ボタンをクリックします。
- 3) [製造元] で [Microsoft] を選択し、[クライアント]で必要なプロトコルの名称（[Microsoft ネットワーククライアント] など）をクリックし選択します。
- 4) [OK] ボタンをクリックします。
- 5) クライアントとプロトコルが追加されたことを確認します。

**②** サービスを追加します。  
追加する方法は、以下の通りです。

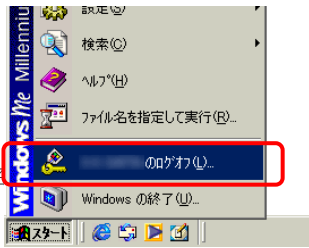
- 1) [追加] ボタンをクリックします。
- 2) [サービス]をクリック後、[追加]ボタンをクリックします。
- 3) [製造元] で [Microsoft] を選択し、[サービス]で必要なサービスの名称（[Microsoft ネットワーク共有サービス] など）をクリックし選択します。
- 4) [OK] ボタンをクリックします。
- 5) サービスが追加されたことを確認します。

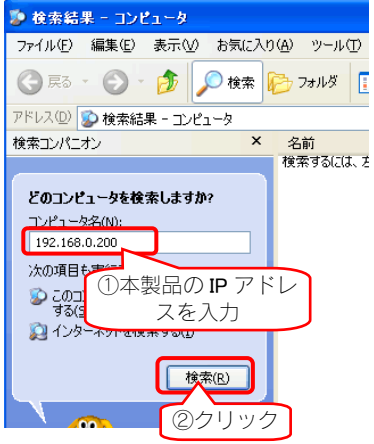
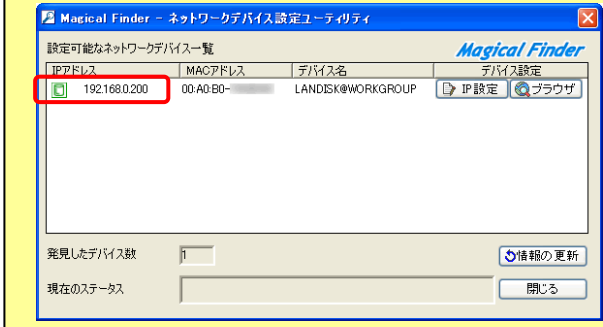
**4** [優先的にログオンする] は、上記にて追加し直したクライアントを選択してください。

**5** 以上の設定を行って再起動した際、ネットワークへのログオン画面が表示されると思います。ここでは、キャンセルせずに必ず [OK] ボタンをクリックしてください。（パスワードは未入力でも可）

# ◆本製品へアクセス時のトラブル (Windows)

## [コンピュータの検索]で[Landisk]が見つからない

原因	共有サービスが有効になっていない。
対処	設定画面の[メニュー]→[ネットワーク]→[共有サービス設定] (214ページ) で、「Microsoft ネットワークファイル共有」にチェックが入っていることを確認してください。 また、[メニュー]→[共有管理]→[共有フォルダ管理] (218ページ) より、アクセスしたい共有フォルダの「Microsoft ネットワークファイル共有」が有効になっていることもご確認ください。
原因	ネットワークの参照に時間がかかっている。
対処	[表示]メニュー→[最新の情報に更新]をクリックしてください。
原因	本製品がネットワークに正しく接続されていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[POWER]ランプが点灯しているか）、接続ケーブルがLANに接続されているか（背面の[ACT/LINK]ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 (本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側のLANポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)
原因	ファイアウォール系のソフトウェアを使用している。
対処	ファイアウォール系のソフトウェアで、本製品のコンピュータ名（初期値は「Landisk」）や本製品のIPアドレス（初期値は「192.168.0.200」）を使用できるように設定してください。 詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
原因	本製品のIPアドレスを変更後、検索しようとしている。
対処	パソコンを一度再起動する必要があります。 Windowsが以前の情報を保持しているため、再起動で保持している情報を一度クリアする必要があるからです。
原因	(Windows Me) ユーザ名が正しくない。
対処	以前にログオンしたことがあるユーザ名で、パスワードを追加する、あるいは、パスワードを変更してログオンするなどした場合は、ネットワークに正しくログオンできません。(Windows Meは以前のログオンユーザ情報を記憶しています。) 正しいユーザ名、パスワードでログオンしていない場合、Windows Meでは本製品が検索できません。 一度ログオフ（[スタート]メニュー→[x x x x x xのログオフ]をクリック）してから、以前に正しくログオンできていたユーザ名、パスワードでログオンするか、別のユーザ名でログオンしてください。
原因	(Windows Me/98) ネットワークにログオンしていない。
対処	ネットワークにログオンしていないと本製品を検索できません。 [スタート]メニューをクリックし、「x x x x x xのログオフ」 (x x x x x xにはログオン時のユーザ名が表示されます。) と表示されるかご確認ください。 ログオンしていない場合は、[ログオフ]のみ表示されます。 ログオンしていない場合は、[ログオフ]をクリックし、正しい[ユーザー名] [パスワード]でログオンしてください。
	
原因	Windowsのネットワーク機能が不安定なため、ネットワーク参照が正しく行えない。
対処	▼Windows Me/98で見つからない場合 → [Windows Me/98のネットワーク構成を入れ直す] (前ページ)をご覧ください。  ▼Windows XP/2000で見つからない場合 → ・設定画面が開けることをご確認ください。 ・LANアダプタが正常に認識されていることをご確認ください。(詳しくは、各LANアダプタの取扱説明書をご覧ください。)

原因	パソコン側の名前解決がうまくいっておらず、[LANDISK](コンピュータ名)の文字での検索では検索されない。
対処	<p>本製品に設定されている IP アドレス（出荷時は、192.168.0.200）を入力して検索してみてください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffff00;"> <p>※本製品の IP アドレスは、「Magical Finder」で確認することができます。 表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。</p>  </div> </div>

原因	お使いのネットワークの IP アドレスのセグメントが本製品の IP アドレスと異なっている。
対処	<p>▼ブロードバンドルーターなどの DHCP サーバをお使いの環境の場合 →一旦本製品の電源を入れ直していただき、再度検索できるかどうかお試しください。</p> <p>▼DHCP サーバがない場合 →本製品の IP アドレスをお使いのネットワークに合った IP アドレスに変更してください。</p>

原因	すでに LANDISK <sup>※1</sup> を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の [LANDISK の名前] を変更していない。
対処	<p>※1 HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GTR、HDL-AV の各シリーズ</p> <p>本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LANDISK と併用する場合など、LANDISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の [LANDISK の名前] を、すでに導入済みの LANDISK と重複しない名前に変更する必要があります。設定方法は、以下の個所を参照してください。  <a href="#">【LANDISK の名前を変更したい】 (253ページ)</a></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffff00; margin-top: 10px;"> <p>※本製品の出荷時の [LANDISK の名前] は、LANDISK 共通の "LANDISK" となっています。 ネットワーク導入時に、他の LANDISK の [LANDISK の名前] を出荷時設定の "LANDISK" のまま変更していない場合は、本製品の [LANDISK の名前] を変更する必要があります。</p> </div>

原因	本製品とお使いのパソコンのワークグループ名が異なる。
対処	<p>本製品とパソコンのワークグループ名を一致するように設定してください。</p> <p>・本製品のワークグループ名・・・設定画面の「メニュー」→ [ネットワーク] → [MS ネットワーク設定] (215ページ) 参照          ・パソコンのワークグループ名・・・ <a href="#">【Windows パソコンの [ワークグループ名] がわからない】 (289ページ)</a> 参照</p>

## Windows 上から本製品を参照した場合に、見覚えのないフォルダやファイルがある

原因	Mac OS で、フォルダを作成したりファイルをコピーした。
対処	<p>Mac OS で、フォルダを作成したりファイルをコピーした際は、作成したファイル（フォルダ）の他に、別のファイル（フォルダ）が作成されます。（例：「.AppleDouble、.AppleDB」など、Windows 上から見ると、見覚えの無いファイル、フォルダになります。） このファイル（フォルダ）には、Mac OS ユーザ用の必要な情報が書き込まれていますので、削除しないでください。</p>
原因	アプリケーションが作業中に作成・削除した。
対処	<p>アプリケーションによっては、作業ファイルを作成・削除するものがあります。 そのため、【ごみ箱】フォルダにファイルやフォルダがある場合があります。</p>

## Windows Vista®/XP/2000 のパソコンからユーザー権限共有フォルダにログオンしようとすると、エラーメッセージが出てきてログオンができない

原因	LANDISKに登録したユーザ名・パスワードと、Windowsパソコンに登録したユーザ名とパスワードが一致していない可能性があります。
対処	LANDISKに登録したユーザー名・パスワードを、Windowsパソコンでも作成し、OSログイン時にそのユーザー名・パスワードを使ってログインしてください。

## [Magical Finder]で本製品が検索されない

原因	接続が正しく行われていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[POWER]ランプが点灯しているか）、接続ケーブルがLANに接続されているか（背面の[ACT/LINK]ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 (本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側のLANポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)

原因	検索に時間がかかっている。
対処	30秒ほど待ってから、[情報の更新]ボタンをクリックしてください。

原因	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。												
対処	<p>セキュリティ関連のソフトウェア（ファイヤーウォールソフト）の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しください。</p> <p>また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、「MagicalFinder」をファイヤーウォールソフトの除外設定を行うと、ファイヤーウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。 (詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください)。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">&lt;参考：WindowsXP ServicePack2 の Windows ファイヤーウォール機能の除外設定&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center;">①</td> <td>あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のCD-ROMをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">③</td> <td>一番下の「Windows ファイヤーウォール」をクリックします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">④</td> <td>[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td>一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑥</td> <td>「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。</td> </tr> </table> </div> <p>以上で WindowsXPSP2 のファイヤーウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。 [スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finder が起動し、本製品が検索されます。 設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。</p>	①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のCD-ROMをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。	②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。	③	一番下の「Windows ファイヤーウォール」をクリックします。	④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。	⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。	⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。
①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のCD-ROMをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。												
②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。												
③	一番下の「Windows ファイヤーウォール」をクリックします。												
④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。												
⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。												
⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。												

原因	本製品が再起動中である。
対処	本製品が起動するまで（[STATUS]ランプが緑色に点灯※するまで）お待ちください。 ※DHCPサーバの無いネットワークにはじめて接続した場合は、点滅します。

## LANDISK の検索を行うと「プリンタと FAX」（「プリンタ」）のアイコンが出ますが削除はできますか？

対処	削除することはできません。
----	---------------

# ◆本製品へアクセス時のトラブル (Macintosh)

## [Landisk]が見つからない、もしくは、接続できない

原因	本製品がネットワークへ正しく接続されていない。
対処	本製品の電源が入っているか（[POWER] ランプが点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。 (本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。)

原因	ファイアウォール系のソフトウェアを使用している。
対処	ファイアウォール系のソフトウェアで、本製品のコンピュータ名（初期値は「Landisk」）や本製品の IP アドレス（初期値は「192.168.0.200」）を使用できるように設定してください。 詳しくは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

原因	すでに LANDISK※ <sup>1</sup> を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の [LANDISK の名前] を変更していない。
対処	※ <sup>1</sup> HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GTR、HDL-AV の各シリーズ 本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LANDISK と併用する場合など、LANDISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の [LANDISK の名前] を、すでに導入済みの LANDISK と重複しない名前に変更する必要があります。 設定方法は、以下の個所を参照してください。 【[LANDISK の名前]を変更したい】 (253ページ)

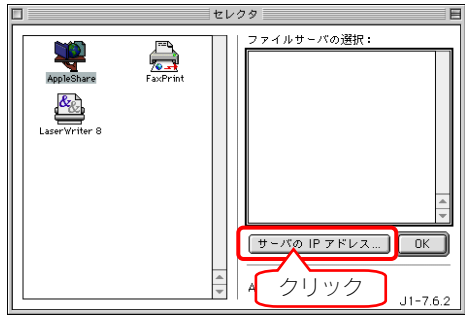
※本製品の出荷時の [LANDISK の名前] は、LANDISK 共通の "LANDISK" となっています。  
ネットワーク導入時に、他の LANDISK の [LANDISK の名前] を出荷時設定の "LANDISK" のまま変更していない場合は、本製品の [LANDISK の名前] を変更する必要があります。

### Mac OS X のみ

原因	LANDISK の名前で検索できない。
対処	[サーバへ接続] 画面で、本製品の IP アドレスを使用して接続してください。 入力する IP アドレスは、本製品に設定されている IP アドレスを入力します。 DHCP サーバが割り当てた IP アドレスが分からない場合、【本製品の IP アドレスを調べたい】 (270ページ) をご覧ください。 ●IP アドレスを指定して接続する場合：      afp://192.168.0.200/

### Mac OS 8.1~9.2.2 のみ

対処	セレクトで[サーバの IP アドレス]ボタンをクリックし、本製品の IP アドレスを入力して検索できるかお試しください。
----	--



## フォルダ名やファイル名が文字化けする、あるいは開けない

原因	Mac OS 9 で正しく表示できないファイル（フォルダ）名を使用している。 【文字制限一覧】 (202ページ) 参照
対処	Mac OS 9 以外の OS で、一般的な文字のファイル（フォルダ）名に変更すると表示できます。



## ◆設定画面に関するトラブル

(Windows)  
ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない

対処1	添付のCD-ROM内の「MagicalFinder」を起動し、本製品を検索してみてください。 詳しくは【設定画面の開き方】(37ページ)をご覧ください。														
対処2	<p>セキュリティ関連のソフトウェア(ファイヤーウォールソフト)の動作を一時的に停止していただき、本製品が検索されるかどうかをお試しください。</p> <p>また、一時的に停止した場合に検索されるようになった場合には、「MagicalFinder」をファイヤーウォールソフトの除外設定を行うと、ファイヤーウォールソフトを動作させたまま、本製品を検索することが可能となります。 (詳しいソフトウェアの操作方法については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください)。</p> <table border="1"><tr><td colspan="2">＜参考：WindowsXP ServicePack2 のWindows ファイヤーウォール機能の除外設定＞</td></tr><tr><td>①</td><td>あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のCD-ROMをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。</td></tr><tr><td>②</td><td>[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。</td></tr><tr><td>③</td><td>一番下の「Windows ファイヤーウォール」をクリックします。</td></tr><tr><td>④</td><td>[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。</td></tr><tr><td>⑤</td><td>一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。</td></tr><tr><td>⑥</td><td>「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。</td></tr></table> <p>以上で WindowsXPSP2 のファイヤーウォール機能を有効にした状態で、本製品の動作は制限されず検索が行えます。 [スタート]→[すべてのプログラム]→[I-O DATA]-[Magical Finder]をクリックすると、Magical Finder が起動し、本製品が検索されます。 設定変更や設定画面を開く際にご利用ください。</p>	＜参考：WindowsXP ServicePack2 のWindows ファイヤーウォール機能の除外設定＞		①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のCD-ROMをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。	②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。	③	一番下の「Windows ファイヤーウォール」をクリックします。	④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。	⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。	⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。
＜参考：WindowsXP ServicePack2 のWindows ファイヤーウォール機能の除外設定＞															
①	あらかじめ「MagicalFinder」をパソコンにインストールします。 1)添付のCD-ROMをパソコンにセットすると、自動的にメニューが表示されます。 2)「サポートソフトインストール」→「MagicalFinder」をクリックし、画面の指示に従いインストールを行ってください。														
②	[スタート] → [コントロールパネル] → [セキュリティセンター] を開きます。														
③	一番下の「Windows ファイヤーウォール」をクリックします。														
④	[例外] タブをクリックし、[プログラムの追加] ボタンをクリックします。														
⑤	一覧から「MagicalFinder」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。														
⑥	「プログラムおよびサービス」の一覧に「Magical Finder」が追加されることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。														

(Mac OS)  
ネットワークに導入後、本製品の設定画面が表示されない

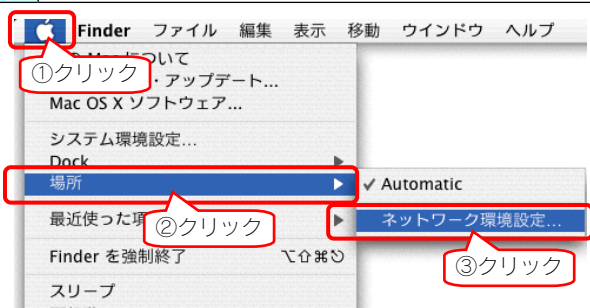
原因	接続が正しく行われていない。
対処	<p>本製品の電源が入っているか（[POWER] ランプが緑色に点灯しているか）、接続ケーブルが LAN に接続されているか（背面の [ACT/LINK] ランプが点灯または点滅しているか）確認してください。</p> <p><a href="#">【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】（254ページ）</a></p> <p>本製品を接続したブロードバンドルーターやハブあるいはパソコン側の LAN ポートのランプが点灯または点滅していることも確認してください。</p>
原因	セキュリティ関連のソフトウェアが制限している。
対処	<p>セキュリティ関連のソフトウェアのファイアウォール機能により制限されている場合があります。</p> <p>ファイアウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイアウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。</p> <p>なお、ファイアウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問合せください。</p>
原因	（本製品に固定の IP アドレスを設定した場合） 本製品と設定用パソコンの IP アドレスのセグメント値が合っていない。
対処	<p>お使いのパソコンの IP アドレスが例えば「192.168.1.xxx」に設定されている環境で、本製品の IP アドレスが「192.168.0.200」に設定されているなど、セグメント値が合っていないことが考えられます。（以下の図参照）</p> <p>本製品の IP アドレスの設定を、お使いのネットワーク環境にあわせて設定し直してください。</p> <p><a href="#">【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（19ページ）</a></p> <p><a href="#">【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（30ページ）</a></p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>IP アドレス： ピリオドで区切られた4つの数字</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-bottom: 5px;">XXX</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-bottom: 5px;">. XXX</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-bottom: 5px;">. XXX</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-bottom: 5px;">. XXX</div> <p>セグメント (はじめの3つの数字) パソコンと同じ値にする</p> </div> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; border: 1px solid black;"> <p>この値のみ、パソコンやネットワーク機器で使用していない値にする</p> </div> </div> </div>
原因	本製品が DHCP クライアントに設定されているため、IP アドレスがわからない。
対処	<a href="#">【本製品の IP アドレスを調べたい】（270ページ）</a> を参照してください。
原因	設定画面を開こうとしているパソコンの IP アドレス設定が間違っている。
対処	<p>設定画面を開こうとしている以外のパソコンで、設定画面が開けなにかお試しください。</p> <p>開ける場合は、開けなかったパソコン側の IP アドレスの設定が本製品にアクセスできる設定になっていない可能性があります。</p> <p>本製品を設定時にパソコンの IP アドレスやサブネットマスクを一時的に変更していた場合などは、本製品設定前の IP アドレスやサブネットマスクに戻してください。</p>
原因	<p>すでに LANDISK<sup>*1</sup> を使用しているネットワーク内へ本製品を導入する際に、本製品の [LANDISK の名前] を変更していない。</p> <p><sup>*1</sup> HDL、HDL-W、HDL-F、HDL-G、HDL-GW、HDL-GZ、HDL-GX、HDL-GXR、HDL-GT、HDL-GTR、HDL-AV の各シリーズ</p>
対処	<p>本製品を複数台使用する場合や他の弊社製 LANDISK と併用する場合など、LANDISK を複数台使用する場合は、導入する本製品の [LANDISK の名前] を、すでに導入済みの LANDISK と重複しない名前に変更する必要があります。</p> <p>設定方法は、<a href="#">【LANDISK の名前を変更したい】（253ページ）</a> の個所を参照してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>※本製品の出荷時の [LANDISK の名前] は、LANDISK 共通の"LANDISK" となっています。</p> <p>ネットワーク導入時に、他の LANDISK の [LANDISK の名前] を出荷時設定の"LANDISK" のまま変更していない場合は、本製品の [LANDISK の名前] を変更する必要があります。</p> </div>
原因	以前に設定した本製品の IP アドレスが間違っている、あるいは、正しく設定していなかった。
対処	<p>RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定（192.168.0.200）に戻してください。</p> <p><a href="#">【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】（156ページ）参照</a></p> <p>出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。</p> <p><a href="#">【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】（30ページ）</a></p>

原因	Web ブラウザが、プロキシ経由でインターネット接続するようになっている。
対処	<p>ブラウザがプロキシサーバを使用する設定になっている場合、本製品の設定画面を呼び出す事ができません。ブラウザの設定でプロキシサーバを使わない設定にしてください。</p> <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><b>注意</b> 本製品の設定終了後は、プロキシ設定を元に戻してください。</p> </div> <p>以下の個所を参照してください。</p>

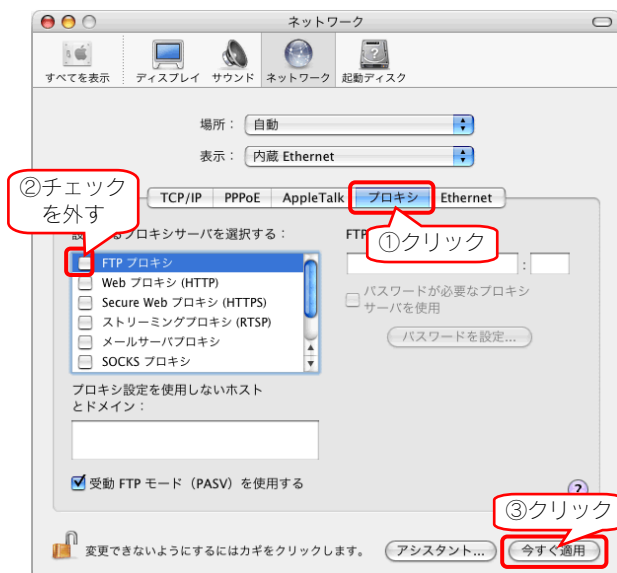
## Mac OS でプロキシサーバ設定を無効にする設定

### ●Mac OS X の場合

[アップルメニュー]→[場所] (または [ネットワーク環境]) →[ネットワーク環境設定...]を選択します。



**2** [プロキシ]タブをクリックし、以下の設定を行います。



**3** 設定後、左上の(×)をクリックして画面を閉じます。

以上で設定は完了です。

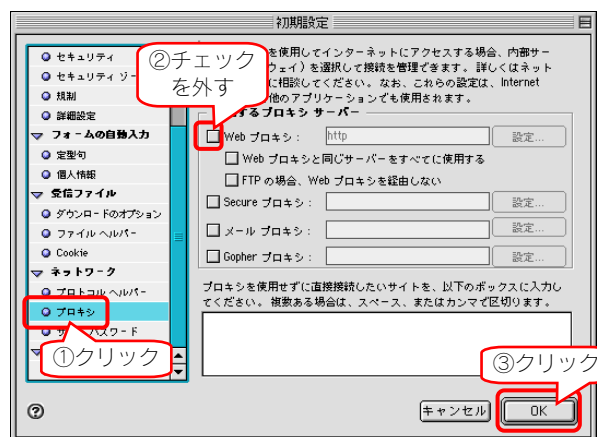
### ●Mac OS (Classic) の場合

**1** Internet Explorer を起動します。

**2** [編集] → [初期設定...] を選択します。

**3** [ネットワーク] の [プロキシ] を選択します。

**4** 以下の設定を行います。



以上で設定は完了です。

## 設定画面で一部表示されない項目がある

原因	セキュリティ関連のソフトウェアの影響により表示されない。
対処	セキュリティ関連のソフトウェアのファイアウォール機能により制限されている場合があります。 ファイアウォール機能を本製品設定時のみ解除していただくか、本製品のソフトウェアはファイアウォールの制限を受けないように設定を変更してお試しください。 なお、ファイアウォール機能に関する設定については、セキュリティ関連のソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

原因	ブラウザのセキュリティレベルが高く設定されている。
対処	本製品の設定時のみセキュリティレベルを「中」に設定してください。 設定後は、元の「高」設定に戻してください。  ■Internet Explorer6 をご利用の場合 【Windows の場合】 ①デスクトップにある「Internet Explorer」のアイコンを右クリックし、メニューの中の[プロパティ]をクリックし、 [インターネットオプション]もしくは[インターネットのプロパティ]を開いてください。 ②[セキュリティ]タブをクリックし、[このゾーンのセキュリティレベル]を「中」に合わせます。 ③「OK」ボタンをクリックします。  以上で終了です。  【Mac OS X の場合】 ①.「編集」→「初期設定」をクリックします。 ②「セキュリティゾーン」をクリックします。 ③「セキュリティゾーン」で「中」にチェックをします。 ④「OK」ボタンをクリックします。  以上で終了です。

## 空き容量が実際より少ない気がする

原因	【ごみ箱】フォルダのファイルが多数ある。
対処	各共有の【ごみ箱】フォルダを空にしてください。

## 設定画面で文字が入力できない

原因	入力個所をクリックしていない。
対処	一度入力したい個所をクリックしてから入力してください。

原因	入力できない文字を入力しようとしている。
対処	入力できる文字かを確認してから入力してください。 本製品の設定画面上で入力できる文字には制限があります。 <a href="#">【文字制限一覧】</a> （202ページ）をご覧ください。

## 設定画面上から入力できる文字制限について

対処	<a href="#">【文字制限一覧】</a> （202ページ）をご覧ください。
----	---

## パスワード認証に失敗し設定画面を表示できない

原因	パスワードが間違っています。
対処	出荷時設定では、「パスワード：(なし)」に設定されています。 出荷時設定の場合は、パスワード入力欄には何も入力せずに [OK] ボタンをクリックすれば設定画面が表示されます。 設定画面の [管理者パスワードの変更] でパスワードを設定した場合は、そのパスワードをパスワード入力欄に入力する必要があります。 再度パスワードをご確認いただき入力なおしてみてください。 パスワードを忘れてしまった場合は、【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】(156ページ)参照をご覧ください。出荷時状態に戻してください。

原因	空白(スペース)のみのパスワードになっています。
対処	パスワード無しに設定したつもりで、空白(スペース)で設定されていることがありますので、空白(スペース)を入力してみてください。ログオンできない場合は、上の原因をご覧ください。

## 設定画面にログオンするためのパスワードがわからない

対処	出荷時設定では、「パスワード：(なし)」に設定されています。 出荷時設定の場合は、パスワード入力欄には何も入力せずに [OK] ボタンをクリックすれば設定画面が表示されます。 設定画面の [管理者パスワードの変更] でパスワードを設定した場合は、そのパスワードをパスワード入力欄に入力する必要があります。 再度パスワードをご確認いただき入力なおしてみてください。 パスワードを忘れてしまった場合は、【IP アドレス、管理者パスワードのみを出荷時設定に戻す】(156ページ)参照をご覧ください。出荷時状態に戻してください。
----	--

## 以下のメッセージが表示された

「現在システムは処理中です。  
しばらく待ってから操作してください。」

原因	設定処理実行中に他の設定をしようとした。
対処	他の設定処理が実行中でないかご確認ください。 設定処理の途中で別の設定を行おうとすると上記メッセージが表示されることがあります。

原因	ファームウェアが正常に動作していない。
対処	①いったん、本製品の電源を入れ直して、同様の操作をしてみてください。 ②本製品の初期化を行ってください。詳しくは、【出荷時設定に戻す】(154ページ)をご覧ください。

## 設定画面上のハードディスク使用領域が、ドライブのプロパティと異なる

対処	本製品が使用するファームウェアの制限で、ハードディスクに問題はありません。
----	---------------------------------------

## 設定画面の動作が遅い

原因	バックアップ中、アクティブリペア中など、本製品の処理動作中である。
対処	以下の動作中は、本製品の操作・動作が遅くなる場合があります。 処理が終了するまでお待ちください。 ・バックアップ中    ・アクティブリペア中    ・RAID リビルド中    ・ファイル共有サービス転送中/再生中 ・スピンアップ中

## ◆本製品の IP アドレスについて

本製品に設定した IP アドレスを忘れた  
本製品に設定されている IP アドレスを調べたい



DHCP サーバのあるネットワークで確認する場合は、毎回以下の手順を行うことをおすすめします。  
DHCP サーバは常に固定の IP アドレスを割り当てるわけではありません。  
下記手順で一旦確認できた IP アドレスも、本製品の電源を入れなおした後や DHCP サーバを再起動した場合などには、本製品やパソコンに割り当てられた IP アドレスが変更されている場合もあります。

対処 1	<p>(ネットワーク内に Windows パソコンがある場合のみ)</p> <p>添付ユーティリティ [Magical Fider] で調べる [Magical Finder] を起動してください。 表示されている [IP アドレス] が本製品の IP アドレスです。</p>	
対処 2	<p>(DHCP サーバのあるネットワークの場合)</p> <p>DHCP サーバ内の情報から確認する ご使用のプロードバンドルーターなどの DHCP サーバが、本製品に割り当てた IP アドレスの情報を記録している場合があります。詳しくは、DHCP サーバとなっている機器の取扱説明書などをご覧ください。</p>	
対処 3	<p>ネットワーク内に DHCP サーバがなく、かつ、Mac OS パソコンしかない場合は、確認する方法はありません。 本製品から LAN ケーブルを取り外した後、RESET ボタンで、本製品の IP アドレスを出荷時設定 (192.168.0.200) に戻してください。 【出荷時設定に戻す】 (154ページ) 参照</p> <p>出荷時設定に戻した後、再度、最初から本製品の IP アドレスの設定をやり直してください。</p>	

## ◆ファイルの保存について

本製品に保存したファイルに、「読み込みのみ」「読み書き可能」のような属性設定ができない

対処	製品の仕様上、ファイルごとのセキュリティ設定はできません。
----	-------------------------------

### ファイル名やフォルダ名の制限について

対処	本製品に保存できるファイルやフォルダ名は、文字制限があります。 以下の個所を参照してください。 【文字制限一覧】 (202ページ)
----	---

(Windows Me/98 のみ)  
4GB サイズまたは 2GB サイズのファイルをコピーしようとする Windows がハングアップする

原因	Windows Me では 4GB サイズ以上のファイル、Windows 98 は 2GB サイズ以上のファイルは、ネットワーク経由では扱えません。(OS の仕様です。)
対処	クライアント OS を Windows XP/2000 にするか、それぞれのサイズより 1MB 程度小さいサイズのファイルにしてご使用ください。

### ファイルを削除するとごみ箱に一旦入りますか？

対処	本製品の「ごみ箱機能」を有効(初期値は無効)に設定した場合は、該当フォルダの中に「ごみ箱」フォルダに一旦削除したファイルが入ります。 ごみ箱機能を無効にして削除した場合は、そのまま削除されます。 [参考] 【[ごみ箱]フォルダからファイルを戻す】(66ページ)
----	--

### 共有フォルダにファイルをコピーする際のサイズの制限はありますか？

対処	OS によりファイルサイズの制限があります。 以下の個所を参照してください。 【各 OS で使用できるファイルサイズについて】(198ページ)
----	---

## ◆ランプやブザーについて

### 起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」となり続けている

原因	本製品が起動停止の状態です。
対処	前面の [COPY] ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、起動停止画面を開いて画面の表示に応じた対処を行ってください。 詳細は、以下の個所を参照してください。 【起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーピーピー」と鳴り続けている】 (243ページ)

### 使用中、または、起動時に [ACCESS] ランプがすべて赤く点灯し、「ピーポーピーポーピーポー」となり続けている

原因	RAID 崩壊の状態です。
対処	前面の [COPY] ボタンを押して一旦ブザーを止めた後、RAID の再構成を行ってください。 詳細は、以下の個所を参照してください。 【RAID 崩壊モードから RAID を再構成する】 (160ページ)

### STATUS ランプが赤く点滅している

原因	正しく接続されていない。
対処	一旦本製品の電源ボタンを押して電源を切り、LAN ケーブルが正しく接続されていることを確認してから、再度電源を入れてください。

原因	DHCP サーバーから本製品の IP アドレスが取得できていない。 ※本製品の DHCP クライアント設定が on(出荷時設定)に設定されている場合で、接続したネットワークに DHCP サーバーが見つからない場合は、STATUS ランプが赤く点滅します。
対処	接続したネットワーク内の DHCP サーバーが正常に起動していることをご確認ください。 ※DHCP サーバーから正常に IP アドレスなどの割り当てが受けられない場合、本製品は自動的に、固定の IP アドレス：192.168.0.200 に設定されます。

原因	DHCP サーバーがない環境で使用している、あるいは、DHCP サーバーと本製品の組み合わせにより IP アドレスが割り当てられない。
対処	本製品の IP アドレスを手動で固定の IP アドレスに設定してください。 【Windows で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】 (19ページ) 【Mac OS で本製品に固定の IP アドレスを設定する場合】 (30ページ)

原因	(クイックコピーで EasyDisk やデジカメ接続時) FAT または NTFS 形式以外のデジカメや EasyDisk を接続した。
対処	クイックコピーで利用できるデジカメや EasyDisk については、以下の個所を参照してください。 【クイックコピーで利用できるデジカメや EasyDisk】 (98ページ)

原因	(クイックコピーでデータコピー時) コピー先が正しく接続されていない。
対処	コピー先に増設ハードディスクを設定している場合に、増設ハードディスクが接続されていない場合などは、接続してください。 コピー先の設定については、以下の個所を参照してください。 【コピー先を変更する】 (103ページ)

原因	本製品が取り扱えない USB 機器が USB ポートに接続された。
対処	本製品で取り扱えない USB 機器あるいはフォーマット形式の装置が USB ポートに接続された場合、接続に失敗したことを STATUS ランプの赤点滅で表示します。この場合は該当する USB 機器を本製品から取り外してください。しばらくして緑点灯に変わります。



## パソコンと LANDISK 本体を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している

対処	以下の個所を参照してください。 <a href="#">【パソコンと LANDISK 本体を直接接続すると、STATUS ランプが赤く点滅している】</a> (253ページ)
----	--

## ACT/LINK ランプが点灯または点滅していない

対処	以下の個所を参照してください。 <a href="#">【ACT/LINK ランプが点灯あるいは点滅していない】</a> (254ページ)
----	--

## ランプの動作について知りたい

対処	添付の冊子【必ずお読みください】の【各部の名称・機能】をご覧になるか、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【各部の名称・機能】</a> (193ページ) <a href="#">【ランプ表示別の対応】</a> (164ページ)
----	---

## ◆カートリッジ取り付け・取り外し時のトラブル

カートリッジの取り外し（スライドスイッチを [UNLOCK] した）のに、UNLOCK したカートリッジの ACCESS ランプが青点灯している

原因	カートリッジを取り外せない状態です。
対処	本製品が再構築中など、システムで使用中のため取り外すことはできません。 無理に取り外すと、データの損失や RAID 崩壊、ハードディスクの故障、システムの故障の原因となります。 スライドスイッチを [LOCK] に戻してください。  取り外したい場合は、再構築が終了するまで待つ、など取り外せる状態になってから取り外してください。 ただし、RAID0（ストライピング）で使用中など、取り外せない場合もあります。

カートリッジの取り付け（スライドスイッチを [LOCK] した）後に、すべての ACCESS ランプが速く青点滅を開始している

原因	RAID を再構築している状態です。
対処	RAID 使用中に、カートリッジを交換、あるいは、再度取り直した場合、RAID 再構築を開始します。 本製品では、RAID 再構築中でも通常通りの使用が可能ですので、そのままお使いください。 ただし、RAID 再構築中は、操作および処理が遅くなる場合があります。 また、RAID 再構築中に [電源] ボタンを押すなどシャットダウンを行った場合は、再起動後に、再度最初から RAID 再構築を開始しますのでご注意ください。 RAID の再構築の状態は、[ボリューム情報] 画面で確認することができます。 <a href="#">【ボリューム情報】（210ページ）</a>

カートリッジの取り付け（スライドスイッチを [LOCK] した）後に、LOCK したカートリッジの ACCESS ランプが赤く点灯している

原因	FAT/NTFS 形式でデータのあるカートリッジ、あるいは、取り付けることができないカートリッジです。
対処	[ボリューム情報] 画面で [内蔵ボリューム1] の <a href="#">【構成ディスク】</a> の状態をご確認ください。 <a href="#">【ボリューム情報】（210ページ）</a>  ・取り付けたカートリッジの状態が、 <a href="#">【故障】</a> と表示されている場合 何らかの原因で故障したカートリッジです。 そのカートリッジを使用することはできません。正常なカートリッジに交換してください。  ・取り付けたカートリッジの状態が、 <a href="#">【待機中】</a> と表示されている場合 以前に FAT/NTFS 形式でフォーマットした、あるいは、フォーマットされていたカートリッジでデータがある場合は、データ保護のため、そのままでは使用できないようになっています。 必要なデータがある場合は、[UNLOCK] にした後、以前にご利用になっていた環境でデータをバックアップしてください。 バックアップ後、あるいは、バックアップが不要な場合は、[メンテナンス] 操作で本製品の RAID に再度組み込むことができます。 詳細は、以下の個所を参照してください。 <a href="#">【FAT/NTFS カートリッジを RAID に組み込む】（276ページ）</a>

カートリッジの取り付け（スライドスイッチを [LOCK] した）後に、LOCK したカートリッジの ACCESS ランプが赤く点滅している

原因	RAID に組み込むために必要なディスク容量が足りないカートリッジを接続した。
対処	システムは RAID を構成するディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つカートリッジと交換してください。
原因	ディスクエラー発生過多のカートリッジを接続した。
対処	本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生したディスクは RAID を構成するディスクとして使用しないようにしています。新しいカートリッジを準備し、交換してください。
原因	SMART チェックエラー発生のカートリッジを接続した。
対処	本装置はディスクを接続されたとき、ディスク自身の故障診断機能（SMART）を利用してディスクが壊れていないか確認します。 SMART 情報により故障と判定されるディスクは、使用しないようにしています。 新しいカートリッジを準備し、交換してください。

## FAT/NTFS カートリッジを RAID に組み込む

FAT/NTFS 形式でフォーマットした、あるいは、フォーマットされていたカートリッジで、以前にデータをコピーするなど、ディスク内にデータがある場合は、データ保護のため、本製品はそのままでは RAID に組み込めないよう（待機中）になっています。組み込む場合は、以下の [メンテナンス] 操作を行ってください。

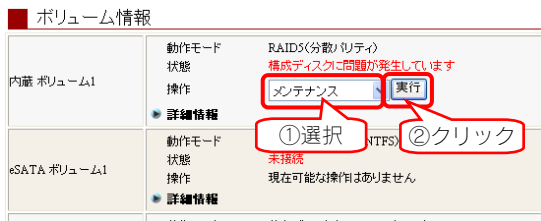
※FAT/NTFS 形式でフォーマットした、あるいは、フォーマットされていたカートリッジで、データが無い場合はそのまま組み込まれ、再構築を開始します。以下の手順を行う必要はありません。  
 ※組み込もうとしているカートリッジ内のデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、[UNLOCK] にした後、以前にご利用になっていた環境でデータをバックアップしてください。

### ▼ [ボリューム情報] 画面での確認



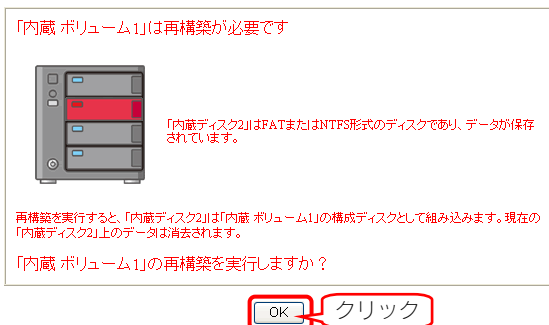
**1** 本製品の設定画面を開きます。  
開き方については、以下の個所を参照してください。  
【設定画面の開き方】(37ページ)

**2** [内蔵ボリューム1]の [操作] 欄で [メンテナンス] を選択後、[実行] ボタンをクリックします。



**3** [OK] ボタンをクリックします。

### ■ 内蔵 ボリューム1のメンテナンス



**4** [OK] ボタンをクリックします。



**5** 数分後、以下の画面となります。

### ■ 結果

再構築を開始しました

以上で終了です。  
終了後、RAID 再構築を開始します。  
この手順で RAID を再構築しても、既存の RAID ボリュームのデータはそのまま残ります。

## ◆eSATA ハードディスクとミラーリング使用時のトラブル

### 電源を入れると、STATUS ランプが点滅し、ブザーが鳴り続けている

原因	eSATA ハードディスクが [ミラーディスクの保管] を行ったハードディスクです。 本製品では、内蔵ハードディスクを取り付けたまま、[ミラーディスクの保管] を行った eSATA ハードディスクを接続して、内蔵および eSATA 両方のシステムを同時に起動させることはできません。
対処	[電源] ボタンを「ピッ」と音がするまで押して、本製品の電源を切ります。  ・内蔵ハードディスクから起動したい場合は、eSATA ミラーディスクを取り外した状態で本製品の電源を入れてください。 ・eSATA ミラーディスクからシステムを起動する場合は、以下の個所を参照してください。 【ミラーディスクから復旧する】 (126ページ) ・eSATA ミラーディスクをフォーマットし直して、通常の FAT や NTFS 形式のハードディスクに戻す場合は、eSATA ミラーディスクをパソコンに直接接続してフォーマットするか、あるいは、本製品のみで起動後、起動後に eSATA ミラーディスクを接続し、eSATA ミラーディスクを [ボリューム操作] 画面で FAT32 にフォーマットしてください。

### eSATA ハードディスクを接続しているのに、設定画面上では [停止] と表示される

原因	eSATA ハードディスクの電源が入っていない。
対処	eSATA ハードディスクの電源ケーブル等を確認し、電源を入れてください。
原因	[ミラーリングモード] の状態のまま、FAT/NTFS 形式の eSATA ハードディスクを接続して本製品の電源を入れた。
対処	[ミラーリングモード] の状態のまま、FAT/NTFS 形式の eSATA ハードディスクを接続したまま起動した場合は、[停止] 状態となります。 一旦 eSATA ハードディスクの eSATA ケーブルを抜いた後、再度接続してください。 ミラーリングを開始します。 接続後、ブザーが鳴り、STATUS ランプが赤点滅した場合は、eSATA ハードディスク内にデータがあることが考えられます。 本紙下の [原因] [対処] の個所へお進みください。

### eSATA ハードディスクを [eSATA ポート 1] に接続すると、STATUS ランプが赤く点滅し、ブザーが「ピーピーピー」と鳴った

原因	FAT/NTFS 形式でデータが入っている eSATA ハードディスクを接続した。
対処	[eSATA ポート 1] の動作モード設定が [ミラーリングモード] 中の場合、通常、FAT/NTFS 形式以外、あるいは、FAT/NTFS 形式でデータが入っていない eSATA ハードディスクを接続すると自動的に HDL-GTR シリーズとミラーリングを開始します。 ただし、FAT/NTFS 形式でデータが入っている eSATA ハードディスクの場合、システムは自動でデータを上書きしないようになっています。 この eSATA ディスクでミラーリングを開始するには、WEB 操作画面より [ディスク] → [ボリューム操作] 画面で、[eSATA ボリューム 1] のミラーリング開始を実行してください。
原因	ミラーリングに必要なディスク容量が足りない eSATA ディスクを接続した。
対処	システムはミラーリング構成する eSATA ディスクとして使用できないため、適切なディスク容量を持つ eSATA ディスクに交換する必要があります。 必要な容量については、以下の個所を参照してください。 【ミラーリングに使用できる増設ハードディスク】 (122ページ)
原因	ディスクエラー発生過多の eSATA ハードディスクを接続した。
対処	本製品はディスクにエラーが発生した回数を記録しており、エラーが多数発生した eSATA ハードディスクは RAID を構成する eSATA ハードディスクとして使用しないようになっています。 新しい eSATA ハードディスクを準備し、交換してください。

# ◆プリントサーバ機能使用時のトラブル

## プリントサーバ機能を使用する際、プリンタドライバのインストールがうまくできない

対処	<p>以下の手順にしたがってください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●Windows XP の場合<ul style="list-style-type: none"><li>①[スタート]→[コントロールパネル]→([プリンタとその他のハードウェア]) →[プリンタと FAX]をクリックします。</li><li>②画面左側の「プリンタのインストール」をクリックします。</li><li>③[プリンタの追加ウィザード開始]画面が表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>④[ネットワークプリンタ、またはほかのコンピュータに接続されているプリンタ]にチェックをして、[次へ]をクリックします。</li><li>⑤[共有プリンタ]内に[LANDISK の名前]が表示されましたら、ダブルクリックし、更にその下に表示される[USB-printer]をクリックして、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>⑥[プリンタの接続 xxxx 上のプリンタに接続しようとしています。お使いのコンピュータに ~]というメッセージが出たら、[はい]ボタンをクリックします。</li><li>⑦[プリンタの接続 プリンタのサーバーに正しいプリンタドライバがインストールされていません。 ~]というメッセージがでたら、[OK]ボタンをクリックします。</li><li>⑧プリンタの製造元、機種名を選択して、[OK]ボタンをクリックします。</li><li>⑨[このプリンタを通常のプリンタとして使いますか?]で通常のプリンタとして使用する場合は、[はい]にチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>⑩[プリンタの追加ウィザードの完了]画面にて、[完了]ボタンをクリックします。</li></ul>以上で設定は終了です。</li><li>●Windows 2000 の場合<ul style="list-style-type: none"><li>①[スタート]→[設定]→[プリンタ]→[プリンタの追加]アイコンをクリックします。</li><li>②[プリンタの追加ウィザードの開始]画面が表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>③[ネットワークプリンタ]にチェックをして、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>④[プリンタ名を入力するか[次へ]]をクリックして、[プリンタを参照します]にチェックした状態で、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>⑤[共有プリンタ]内に[LANDISK の名前]が表示されましたら、ダブルクリックをして、更にその下に表示される[USB-printer]をクリックして、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>⑥[プリンタの接続 プリンタが接続されているサーバーに正しいプリンタドライバがインストールされていません。 ~]というメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。</li><li>⑦プリンタの製造元、機種名を選択して、[OK]ボタンをクリックします。</li><li>⑧[Windows アプリケーションで、このプリンタを通常のプリンタとして使いますか?]で通常のプリンタとして使用する場合は、[はい]にチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>⑨[プリンタの追加ウィザードが完了しています]で、[完了]ボタンをクリックします。</li></ul>以上で設定は終了です。</li><li>●Windows Me/98 の場合<ul style="list-style-type: none"><li>①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]-[プリンタ]をクリックします。</li><li>②[プリンタの追加]アイコンをダブルクリックします。</li><li>③ウィザード画面が表示されますので、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>④[ネットワークプリンタ]にチェックを付けて、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>⑤[ネットワークパスまたはキューの名前]にて、[参照]ボタンをクリックします。</li><li>⑥[ネットワーク全体]-[LANDISK のワークグループ名]-[LANDISK の名前]をクリックし、[USB-printer]をクリックし、[OK] をクリックします。</li><li>⑦[MS-DOS アプリケーションから印刷しますか?]にて、[いいえ]にチェックを付けて、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>⑧プリンタの製造元、機種名を選択して、[OK]ボタンをクリックします。</li><li>⑨プリンタの名前を変更する場合は変更します。</li><li>⑩[Windows ベースのプログラムで、このプリンタを通常のプリンタとして使いますか?]で、通常のプリンタとして使う場合は[はい]にチェックをして、[次へ]ボタンをクリックします。</li><li>⑪[印字テストを行いますか?]という画面にて、印字テストを行う場合は[はい]を選択して、[完了]ボタンをクリックします。</li></ul>以上で設定は終了です。</li></ul>
----	---

## 印刷時にエラー画面が表示される インク残量を確認するユーティリティソフトが使えない

原因	双方向機能が有効になっている。
対処	本製品のプリントサーバー機能は双方向通信に対応しておりません。 そのため、インク残量等を確認するユーティリティソフトにも対応ができませんので、ユーティリティソフトをアンインストールしてください。

## プリントサーバ機能を利用して印刷を行ったところ、正常に印刷ができない

原因	プリンタメーカーより提供されている、ユーティリティソフトをインストールしている。
対処	本製品ではプリンタの双方向通信には対応していません。 プリンタメーカーから提供されてるインク残量の確認が行えるようなユーティリティソフトがインストールされている場合には、アンインストールしてください。

原因	動作確認済み以外のプリンタを使用している。
対処	お使いのプリンタが動作確認済みのプリンタかどうかご確認ください。 動作確認済みプリンタについては、 <a href="http://www.iodata.jp/">弊社ホームページ (http://www.iodata.jp/)</a> の製品情報をご覧ください。

原因	印刷先のポートの設定が正しくない。
対処	以下の手順でポートの設定が LANDISK 経由の設定されているかご確認ください。  <ul style="list-style-type: none"> <li>●Windows Vista®の場合           <ol style="list-style-type: none"> <li>①[スタート]→[コントロールパネル]→[ハードウェアとサウンド] →[プリンタ]をクリックします。</li> <li>②登録したプリンタを選択後、右クリックし、メニューより[プロパティ]をクリックします。</li> <li>③[ポート]タブをクリックし、現在チェックが付いているポート名が「\\LANDISKの名前\USB_printer」と表示されているか確認してください。                &lt;例&gt;LANDISKの名前が、" LANDISK" の場合は「\\landisk\USB_printer」となります。</li> </ol> </li> <li>●Windows XP の場合           <ol style="list-style-type: none"> <li>①[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プリンタ]を開きます。</li> <li>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。</li> <li>③[ポート]タブをクリックし、現在、チェックが付いているポート名が「\\LANDISKの名前\USB-printer」と表示されているか確認してください。                &lt;例&gt;LANDISK の名前が、'LANDISK'の場合は「\\landisk\USB-printer」となります。</li> </ol> </li> <li>●Windows 2000 の場合           <ol style="list-style-type: none"> <li>①[スタート]→[コントロールパネル]→ ([プリンタとその他のハードウェア]) →[プリンタと FAX]をクリックします。</li> <li>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。</li> <li>③[ポート]タブをクリックし、現在、チェックが付いているポート名が「\\LANDISKの名前\USB-printer」と表示されているか確認してください。                &lt;例&gt;LANDISK の名前が、'LANDISK'の場合は「\\landisk\USB-printer」となります。</li> </ol> </li> <li>●Windows Me/98 の場合           <ol style="list-style-type: none"> <li>①[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プリンタ]をクリックします。</li> <li>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。</li> <li>③[詳細]タブをクリックし、「印刷先のポート」が「\\LANDISKの名前\USB-printer」と表示されているか確認してください。                &lt;例&gt;LANDISK の名前が、'LANDISK'の場合は「\\landisk\USB-printer」となります。</li> </ol> </li> </ul>

原因	プリンタの設定で双方向通信が有効になっている。
対処	<p>以下の手順で、双方向通信が無効に設定されているかどうかご確認ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Windows Vista®の場合       <ol style="list-style-type: none"> <li>①[スタート]→[コントロールパネル]→[ハードウェアとサウンド] →[プリンタ]をクリックします。</li> <li>②登録したプリンタを選択後、右クリックし、メニューより[プロパティ]をクリックします。</li> <li>③「ポート」タブをクリックし、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し[OK] ボタンをクリックして画面を閉じます。</li> </ol> <p>以上で確認および設定は終了です。</p> </li> <li>●Windows XP の場合       <ol style="list-style-type: none"> <li>①[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プリンタ]を開きます。</li> <li>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。</li> <li>③[ポート]タブをクリックし、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し、{OK} ボタンをクリックして画面を閉じます。</li> </ol> <p>以上で確認および設定は終了です。</p> </li> <li>●Windows 2000 の場合       <ol style="list-style-type: none"> <li>①[スタート]→[コントロールパネル]→ ([プリンタとその他のハードウェア]) →[プリンタとFAX]をクリックします。</li> <li>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。</li> <li>③[ポート]タブをクリックして、「双方向サポートを有効にする」にチェックが入っている場合には、チェックを外し、{OK} ボタンをクリックして画面を閉じます。</li> </ol> <p>以上で確認および設定は終了です。</p> </li> <li>●Windows Me/98 の場合       <ol style="list-style-type: none"> <li>①[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[プリンタ]をクリックします。</li> <li>②登録したプリンタのアイコンを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。</li> <li>③[詳細]タブをクリックし、{スプールの設定} ボタンをクリックします。</li> <li>④「このプリンタで双方向通信機能をサポートしない」 にチェックをします。</li> </ol> <p>以上で確認および設定は終了です。</p> </li> </ul>



## ◆バックアップ機能について

### バックアップ後にデータを参照したい

対処	以下の個所を参照してください。 ●セルフバックアップのデータを参照したい場合 → <a href="#">【セルフバックアップしたデータを確認する】</a> （108ページ） ●リモートバックアップのデータを参照したい場合 → <a href="#">【リモートバックアップしたデータを確認する】</a> （117ページ）
----	---

### バックアップにかかる時間について

対処	セルフバックアップの場合、目安として 1G バイトあたり約 200 秒かかります。 リモートバックアップの場合はネットワークの負荷状況などにより変動しますが、さらに多くの時間を要します。
----	--

### スケジュール設定でバックアップした場合、更新されたデータのみバックアップされますか？

対処	すべてのデータが上書きで保存されます。
----	---------------------

### バックアップ設定でバックアップログメールが送信されない

原因	[TCP/IP 設定] で正しく設定されていない。
対処	<p>[メニュー]- [ネットワーク設定] - [TCP/IP 設定] で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバアドレス」を設定してください。</p> <p>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。</p> <p>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「TCP/IP 設定」画面に入力してタイムサーバとの同期とログメールの送信ができるかどうかご確認ください。</p> <p>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバの確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Windows Vista®の場合             <ol style="list-style-type: none"> <li>①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ] →[コマンドプロンプト]をクリックします。</li> <li>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。</li> <li>③[デフォルトゲートウェイ]と「DNS サーバ」の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> <li>●Windows XP/2000 の場合             <ol style="list-style-type: none"> <li>① [スタート] → [ (すべての) プログラム ] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。</li> <li>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。</li> <li>③[Defalt Gateway]と[DNS Servers]の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> <li>●Windows Me/98 の場合             <ol style="list-style-type: none"> <li>① [スタート] → [ファイル名を指定して実行] を開きます。</li> <li>②[名前]欄に[WINIPCFG]と入力して Enter キーを押します。</li> <li>③[DNS サーバ]と[デフォルトゲートウェイ]の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> <li>●Mac OS X の場合             <ol style="list-style-type: none"> <li>① [アップルメニュー] → [場所] (または [ネットワーク環境]) → 「ネットワーク環境設定」を開きます。</li> <li>② 「TCP/IP」画面で「ルータ」と「DNS サーバ (ドメインネームサーバ)」の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> <li>●Mac OS 9 の場合             <ol style="list-style-type: none"> <li>① [アップルメニュー] → [コントロールパネル] → [TCP/IP] を開きます。</li> <li>②表示されている「ルータアドレス」と「ネームサーバアドレス」の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> </ul>

原因	メール送信先のサーバ (プロバイダ) が「POP Before SMTP」を使用している。 ※ 「POP Before SMTP」を使用しているかどうかはプロバイダやメール送信サーバの管理者にご確認ください。
対処	[メニュー]- [メール通知] - [メール基本設定] で、「POP before SMTP 設定」を「有効」に設定し、使用するメールアドレスの POP サーバ等の設定を行ってください。

原因	メール通知の「メール基本設定」で、[メール通知機能] を「有効」にしていない。
対処	メール通知を「有効」に設定し、「SMTP サーバ」などを設定してください。

## バックアップログでエラーのログが表示された バックアップを実行すると、ブザーが鳴り、エラーとなる

対処1	バックアップ元を「フォルダ」で指定している場合や、バックアップ先に増設ハードディスクを指定している場合、そのフォルダや増設ハードディスクが存在しているかどうか、正しく認識されているかどうか、ご確認ください。
対処2	バックアップ先のドライブ容量に空きがない可能性があります。 バックアップ先のドライブ容量に空きを作成してから、再度お試しください。
対処3	Mac OS 9 では正しく表示できないファイル（フォルダ）名があります。 【文字制限一覧】（202ページ）参照 それらの文字が使用されていないかご確認ください。 Mac OS 9 以外の OS で、一般的な文字のファイル（フォルダ）名に変更すると表示できます。
対処4	内蔵ハードディスクを設定画面内の「チェックディスク」を実施したり、FAT/NTFS 形式の増設ハードディスクは、パソコンと接続して「スキャンディスク」を実施してみてください。
対処5	バックアップ先共有が存在するドライブがFATの場合、使用可能なファイルの最大サイズは4GBとなります。 バックアップ元側に、制限を超えるサイズのファイルが存在する場合はバックアップできないため、対象から外してください。
対処6	<b>（リモートバックアップの場合）</b> 原因を調べるために、まずは少ない容量の共有で試してください。 リモートバックアップ元ホストの共有へ、指定したユーザとパスワードで Windows からアクセスできるか試してみてください。 アクセスできない場合は共有のアクセス権設定やユーザ設定を確認して、Windows からアクセス可能となるか確認します。 その後、リモートバックアップの設定を再確認して試してください。

## バックアップデータを見せないようにできますか？

対処	<p>見せないようにはできません。</p> <p>ただし、セキュリティ上、他の人からアクセスができないようにされたい場合は、バックアップ先としている共有フォルダ（あるいは増設ハードディスク）を、バックアップデータにアクセスできるユーザ（管理者などバックアップデータを参照できるユーザ）専用を設定することで、アクセス権が無いユーザーからアクセスできないようにすることができます。</p> <p>&lt;参考：バックアップ先をユーザ専用を設定する手順&gt;</p> <p>①バックアップデータにアクセスできるユーザ（管理者などバックアップデータを参照できるユーザ）専用の共有フォルダを事前に作成します。 【共有フォルダを作成する】（60ページ）</p> <p>②バックアップ設定で、バックアップ先を上記手順で作成した共有フォルダに設定します。 【バックアップする】（96ページ）</p> <p>これで、バックアップ先は特定ユーザのみがアクセスできるようになります。 すでにバックアップしたデータがある場合は、アクセス権のあるユーザでネットワークにログオン後、この共有フォルダにデータを移してください。</p> <p>※バックアップ先としたユーザ専用の共有フォルダの参照方法については以下の個所を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・セルフバックアップの場合 → 【セルフバックアップしたデータを確認する】（108ページ）</li><li>・リモートバックアップの場合 → 【リモートバックアップしたデータを確認する】（117ページ）</li></ul> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"><p><b>注意</b></p><ul style="list-style-type: none"><li>● ユーザ専用などのアクセス権を設定できるのは、設定画面で作成する共有フォルダのみです。共有フォルダ下に、ネットワーク上などから作成するフォルダにアクセス権を設定することはできません。</li><li>● 増設ハードディスク（USB ハードディスクまたは eSATA ハードディスク）にアクセス権を設定した場合、その増設ハードディスク全体がユーザ専用となります。</li></ul></div>
----	---

## ◆内蔵および増設ハードディスクについて

### [USB ポート 1]に増設ハードディスクを接続しても利用できない

対処	本製品の出荷時設定では、前面の[USB ポート 1]は、クイックコピー用に設定されているため、そのままの状態では利用できません。 【USB ポート 1 (前面)の設定について】 (81ページ) をご覧になり、USB ポート 1 を増設用に変更してください。
----	---

### 増設ハードディスクを接続するとブザーが「ピーピーピー」と3回鳴り、STATUS ランプが赤く点滅したままとなる

原因	FAT/NTFS 以外のフォーマット形式の増設ハードディスクを接続した。 FAT/NTFS 以外のフォーマット形式としては以下のような場合があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ Macintosh で使用していたハードディスク</li><li>・ 未フォーマット状態のハードディスク</li><li>・ 以前に [ミラーディスクの保管] を行った eSATA ハードディスク</li><li>・ HDL-GTR シリーズ以外の LANDISK で専用フォーマットにした増設ハードディスク</li></ul>
対処	一旦ケーブルを抜いて F A T / N T F S 形式にパソコンなどでフォーマットしてから再度接続する必要があります。 または、接続したまま WEB 設定画面「フォーマット (FAT32)」を実行することで、FAT32 形式にフォーマットすることもできます。 フォーマット方法については、以下の個所を参照してください。 【増設ハードディスクを FAT32 フォーマットする】 (87ページ)

### eSATA ハードディスクを [eSATA ポート] に接続しても認識されない

原因	eSATA ハードディスクのケーブルを USB ケーブルから eSATA ケーブルに切り替えて接続した。
対処	パソコンや本製品の USB ポートでご利用になっていた eSATA ハードディスクの USB ケーブルを eSATA ケーブルに切り替える場合は、切り替える前に一度 eSATA ハードディスクの電源ケーブルの抜き差しを行ってください。 電源ケーブルの抜き差しを行わずに eSATA ケーブルに切り替えて本製品の [eSATA ポート] に接続しても、本製品に認識されない場合があります。

### 増設ハードディスクのパソコンでのフォーマット方法について

対処	FAT32 や NTFS 形式のハードディスクはそのまま Windows パソコンではご利用になれます。 再度フォーマットする場合などのフォーマット方法の詳細については、お使いの増設ハードディスクの取扱説明書を参照してください。 ※フォーマットするとデータはすべて消去されます。 ※LANDISK をパソコンに直接接続して、FAT32 や NTFS 形式にフォーマットすることはできません。  なお、弊社ホームページ ( <a href="http://www.iodata.jp/">http://www.iodata.jp/</a> ) で「DiskRefresherLE を使用した FAT32 へのフォーマット手順」と「NTFS へのフォーマット手順」をご案内しています。 ※インターネット接続ができない場合は、お使いのハードディスクに付属の取扱説明書をお読みください。
----	---

## ハードディスクの不良でカートリッジ交換が必要な場合は？

対処	以下の場合が考えられます。 各カートリッジの状態については、[ボリューム情報] 画面の [構成ディスク] でご確認ください。 [ボリューム情報] 画面 (210ページ)  ① [S.M.A.R.T 自己診断機能] で異常と判断されたハードディスク この場合、[ボリューム情報] 画面の [構成ディスク] には、[故障] と表示されています。 ② アクティブリペアで修復不能の場合と判断されたハードディスク ③ エラーが多数発生しているハードディスク この場合、[ボリューム情報] 画面の [構成ディスク] には、[エラー] と表示されています。
----	--

## 本製品に接続可能なハードディスクについて

対処	以下の個所を参照してください。  ● USB 機器を増設する場合 → <a href="#">【増設できる USB 機器】</a> (195ページ) ● eSATA 機器を増設する場合 → <a href="#">【増設できる eSATA 機器】</a> (196ページ)
----	---

## デフラグ機能はありますか？

対処	本製品にデフラグ機能はありませんが、本製品に採用しているファイルシステムの仕様により、フラグメンテーション (断片化) が起こりにくい仕様となっています。
----	---

## 省電力機能が働かない

原因	省電力に対応していない増設ハードディスクである。
対処	増設ハードディスクによっては、省電力に対応していないハードディスクがあります。 対応状況については、弊社ホームページ ( <a href="http://www.iodata.jp/">http://www.iodata.jp/</a> )にてご確認ください。
原因	本製品のシステムがアクセスしている。
対処	本製品のシステムが必要なファイルにアクセスする場合があります。

# ◆タイムサーバ機能使用時のトラブル

## タイムサーバとの同期が行われない

原因	[TCP/IP 設定] で正しく設定されていない。
対処	<p>設定画面の[メニュー]→[ネットワーク] - [TCP/IP 設定] で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバアドレス」を設定してください。</p> <p>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。</p> <p>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「TCP/IP の設定」画面に入力してタイムサーバとの同期とログメールの送信ができるかどうかご確認ください。</p> <p>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバの確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●Windows Vista®の場合<ul style="list-style-type: none"><li>①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ] →[コマンドプロンプト]をクリックします。</li><li>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。</li><li>③[デフォルトゲートウェイ]と「DNS サーバ」の IP アドレスを確認します。</li></ul></li><li>●Windows XP/2000 の場合<ul style="list-style-type: none"><li>① [スタート] → [ (すべての) プログラム ] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。</li><li>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。</li><li>③[Defalt Gateway]と[DNS Servers]の IP アドレスを確認します。</li></ul></li><li>●Windows Me/98 の場合<ul style="list-style-type: none"><li>① [スタート] → [ファイル名を指定して実行] を開きます。</li><li>②[名前]欄に[WINIPCFG]と入力して Enter キーを押します。</li><li>③[DNS サーバ]と[デフォルトゲートウェイ]の IP アドレスを確認します。</li></ul></li><li>●Mac OS X の場合<ul style="list-style-type: none"><li>① [アップルメニュー] → [場所] (または [ネットワーク環境] ) → 「ネットワーク環境設定」を開きます。</li><li>② 「TCP/IP」画面で「ルータ」と「DNS サーバ (ドメインネームサーバ) 」の IP アドレスを確認します。</li></ul></li><li>●Mac OS 9 の場合<ul style="list-style-type: none"><li>① [アップルメニュー] → [コントロールパネル] → [TCP/IP] を開きます。</li><li>②表示されている「ルータアドレス」と「ネームサーバアドレス」の IP アドレスを確認します。</li></ul></li></ul>

# ◆NT ドメイン・Active Directory 使用時のトラブル

## NT ドメインへの参加ができない

対処	<p>以下の点をご確認いただき、ログオンできるかどうかお試しください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ドメイン名、ドメインコントローラー名がお間違えないかどうかご確認ください。</li><li>・一旦「ワークグループ」に設定を戻して、再度ドメインにログオンし直してください。</li><li>・ご利用のネットワークに BDC (バックアップドメインコントローラー) がある場合には、以下内容をご確認ください。<ol style="list-style-type: none"><li>①一旦ドメイン設定を解除します。 設定画面の[メニュー]で、<a href="#">[ネットワーク] - [MS ネットワーク設定] (215ページ)</a> を開き、「ワークグループ/ドメイン名の選択」で「ワークグループ」を選択して [OK] ボタンをクリックします。</li><li>②PDC (プライマリドメインコントローラー) を再起動させます。<ol style="list-style-type: none"><li>1) [スタート]→[設定] → [コントロールパネル] → [サービス] を開きます。</li><li>2) 「NetLogon」サービスを一旦停止して、[開始] にします。</li></ol></li><li>③本製品のドメイン設定を再度行います。 設定画面の[メニュー]で、<a href="#">[ネットワーク] - [MS ネットワーク設定]</a> にて、ドメインの設定を行ってください。</li></ol></li></ul>
----	---

## ドメインモードに切り替えると共有にアクセスできなくなった

対処	<p>ドメインモードでは、ユーザ認証をドメインコントローラーで行います。そのためこれまで 本製品に登録していたユーザやグループにアクセス権を設定したフォルダは、Windows ネットワークファイル共有サービスから利用できなくなります。ただしアクセス権が「全てのユーザに許可」に設定されているフォルダ (全てのユーザからアクセス可能な共有フォルダ) へのアクセスは可能です。</p> <p>逆に、ドメインモードでアクセス権をドメインユーザやドメイングループに設定した共有は、ワークグループモードへ切り替えると Windows から利用できなくなります。</p>
----	---

## ドメインモードにおいて共有作成・変更時に AppleShare ネットワークファイル共有サービスや FTP サービスを選択できない

対処	<p>アクセス権がドメインユーザやドメイングループに設定されている共有では AppleShare ネットワークファイル共有サービスや User FTP サービスを設定できません。これはこれらのサービスがドメインコントローラーを利用しないためです。AppleShare ネットワークファイル共有サービスや User FTP サービスをご利用になられる場合は、本製品でユーザ、グループを作成後、共有フォルダを作成・設定してください。</p>
----	--

## Active Directory への参加ができない

対処	<p>以下の点をご確認いただき、ログオンできるかどうかお試しください</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・TCP/IP 設定の DNS ドメイン名、DNS サーバアドレスがお間違えないかどうかご確認ください。</li><li>・ドメイン名 (NetBIOS 名)、ドメイン名 (フル DNS 名)、ドメインコントローラー名がお間違えないかどうかご確認ください。</li><li>・管理者ユーザ名、管理者パスワードがお間違えないかどうかご確認ください。</li><li>・ご指定された管理者ユーザ名がドメインコントローラー上で Administrator 権限を有しているかをご確認ください。分からない場合は Administrator をご指定ください。</li><li>・Active Directory の仕様により、ドメインコントローラーの Administrator パスワードが一度も変更されていない場合、ログオンは失敗します。その場合は Administrator パスワードを変更してから再度設定を行ってください。</li><li>・ドメインコントローラーの時刻設定と LANDISK の時刻設定が 5 分以上離れているとログオンは失敗します。その場合は両者の時刻設定を合わせてから再度設定を行ってください。</li><li>・一旦「ワークグループ」に設定を戻して、再度 Active Directory にログオンし直してください。</li><li>・ご利用のネットワークに BDC (バックアップドメインコントローラー) がある場合には、以下内容をご確認ください。<ol style="list-style-type: none"><li>①一旦ドメイン設定を解除します。 設定画面の[メニュー]で、<a href="#">[ネットワーク] - [MS ネットワーク設定] (215ページ)</a> を開き、「ワークグループ/ドメイン名の選択」で「ワークグループ」を選択して [OK] ボタンをクリックします。</li><li>②PDC (プライマリドメインコントローラー) を再起動させます。<ol style="list-style-type: none"><li>1) [スタート]→[設定] → [コントロールパネル] → [サービス] を開きます。</li><li>2) 「NetLogon」サービスを一旦停止して、[開始] にします。</li></ol></li><li>③本製品のドメイン設定を再度行います。 設定画面の[メニュー]で、<a href="#">[ネットワーク] - [MS ネットワーク設定]</a> にて、ドメインの設定を行ってください。</li></ol></li></ul>
----	---

## ◆FTP サーバ使用時のトラブル

### FTP サーバ機能を使用すると、フォルダやファイル名が文字化けしてしまう

対処	<p>本製品の仕様となります。</p> <p>FTP サービスをご利用いただいた場合、ファイルやフォルダ名に半角英数字以外の文字を使用した場合は、正しく表示されず、文字化けした状態で表示されます。</p> <p>ファイルやフォルダ名は半角英数字をお使いください。</p> <p>※FTP サービスをご利用いただく場合で、日本語のファイル名などを使用したい場合は、文字コード UTF-8 に対応した FTP クライアントソフトをご利用いただく必要があります。</p>
----	--

# ◆メール送信でのトラブル

## メール送信テストでエラーとなる

原因	[TCP/IP 設定] で正しく設定されていない。
対処	<p>[メニュー]→[ネットワーク設定] → [TCP/IP 設定] (217ページ) で、「デフォルトゲートウェイ」と「DNS サーバアドレス」を設定してください。</p> <p>入力するデフォルトゲートウェイと DNS サーバの IP アドレスは、パソコンで設定されているものと同じ値に設定してください。</p> <p>以下の手順で確認した IP アドレスを、本製品の「TCP/IP 設定」画面に入力してタイムサーバとの同期とログメールの送信ができるかどうかご確認ください。</p> <p>【デフォルトゲートウェイと DNS サーバの確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Windows Vista®の場合             <ol style="list-style-type: none"> <li>①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ] →[コマンドプロンプト]をクリックします。</li> <li>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。</li> <li>③[デフォルトゲートウェイ]と「DNS サーバ」の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> <li>●Windows XP/2000 の場合             <ol style="list-style-type: none"> <li>① [スタート] → [ (すべての) プログラム ] → [アクセサリ] → [コマンドプロンプト] を開きます。</li> <li>②IPCONFIG -ALL と入力して Enter キーを押します。</li> <li>③[Defalt Gateway]と[DNS Servers]の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> <li>●Windows Me/98 の場合             <ol style="list-style-type: none"> <li>① [スタート] → [ファイル名を指定して実行] を開きます。</li> <li>②[名前]欄に[WINIPCFG]と入力して Enter キーを押します。</li> <li>③[DNS サーバ]と[デフォルトゲートウェイ]の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> <li>●Mac OS X の場合             <ol style="list-style-type: none"> <li>① [アップルメニュー] → [場所] (または [ネットワーク環境] ) → [ネットワーク環境設定] を開きます。</li> <li>② [TCP/IP] 画面で「ルータ」と「DNS サーバ (ドメインネームサーバ)」の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> <li>●Mac OS 9 の場合             <ol style="list-style-type: none"> <li>① [アップルメニュー] → [コントロールパネル] → [TCP/IP] を開きます。</li> <li>②表示されている「ルータアドレス」と「ネームサーバアドレス」の IP アドレスを確認します。</li> </ol> </li> </ul>
原因	<p>メール送信先のサーバ (プロバイダ)が「POP Before SMTP」を使用している。</p> <p>※ 「POP Before SMTP」を使用しているかどうかはプロバイダやメール送信サーバの管理者にご確認ください。</p>
対処	[メニュー]→[メール通知] → [メール基本設定] (230ページ) で、「POP before SMTP 設定」を「有効」に設定し、使用するメールアドレスの POP サーバ等の設定を行ってください。
原因	メール通知の「メール基本設定」で、[メール通知機能]を「有効」にしていない。
対処	メール通知を「有効」に設定し、「SMTP サーバ」などを設定してください。
原因	ドメインコントローラの DNS サーバに転送設定がない
対処	Active Directory に参加している場合は、ドメインコントローラの DNS サーバに転送設定がないとメール送信先のサーバが外部の場合などに名前解決が行えずエラーとなります。Windows のヘルプをご覧ください。DNS サーバの転送設定を行ってください。



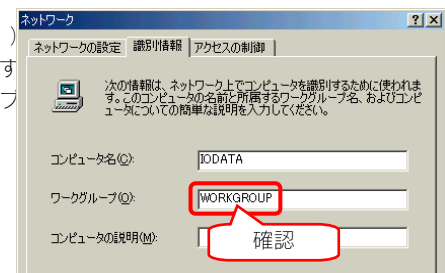
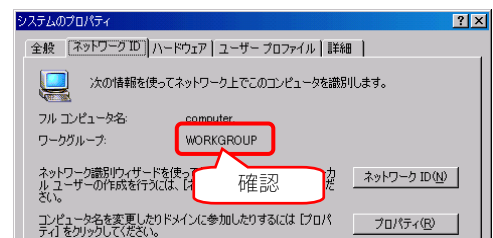
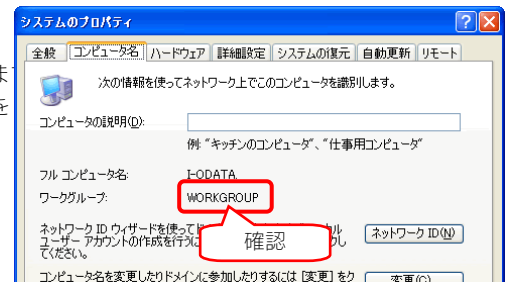
# ◆パソコンのネットワーク設定について

## パソコンの IP アドレスがわからない

対処	<p>パソコンの IP アドレスは以下の方法で確認することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Windows の場合 添付ユーティリティ「Magical Finder」で確認することができます。以下の個所を参照してください。 【Windows パソコンの IP アドレスの確認】(255ページ)参照</li> <li>・ Mac OS X の場合 OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。以下の個所を参照してください。 【Mac OS X パソコンの IP アドレスの確認】(256ページ)参照</li> <li>・ Mac OS 8.1~9.2.2 の場合 OS 標準の「ネットワーク」画面で確認することができます。以下の個所を参照してください。 【Mac OS 8.1~9.2.2 パソコンの IP アドレスの確認】(257ページ)参照</li> </ul>
----	--

## Windows パソコンの [ワークグループ名] がわからない

対処	<p>【Windows パソコンのワークグループ名の確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Windows Vista® の場合 <ol style="list-style-type: none"> <li>① [スタート] をクリック後、[コンピュータ] を右クリックメニュー内の [プロパティ] をクリックします。</li> <li>② コンピュータ名、ドメイン及びワークグループの設定のワークグループの欄で確認できます。</li> </ol> </li> <li>● Windows XP の場合 <ol style="list-style-type: none"> <li>① [スタート] をクリック後、[マイ コンピュータ] を右クリックし、メニュー内の [プロパティ] をクリックします。</li> <li>② [システムのプロパティ] 画面で [コンピュータ名] タブをクリックすれば確認できます。</li> </ol> </li> <li>● Windows 2000 の場合 <ol style="list-style-type: none"> <li>① [マイ コンピュータ] を右クリックし、メニュー内の [プロパティ] をクリックします。</li> <li>② [システムのプロパティ] 画面で [ネットワーク ID] タブをクリックすれば確認できます。</li> </ol> </li> <li>● Windows Me/98 の場合 <ol style="list-style-type: none"> <li>① [マイ ネットワーク] (または [ネットワークコンピュータ]) を右クリックし、メニュー内の [プロパティ] をクリックします。</li> <li>② [ネットワーク] 画面で、[識別情報] (または [識別]) タブをクリックすれば確認できます。</li> </ol> </li> </ul>
----	---



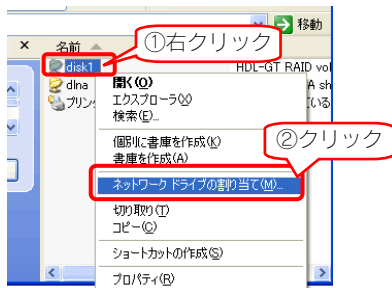
# (Windows) ネットワークドライブの割り当て方法がわからない

本製品（[disk1] 共有フォルダ）を、ネットワークドライブとして割り当てることができます。  
ネットワークドライブとして割り当てれば、[マイコンピュータ] 上から簡単にアクセスできるようになります。

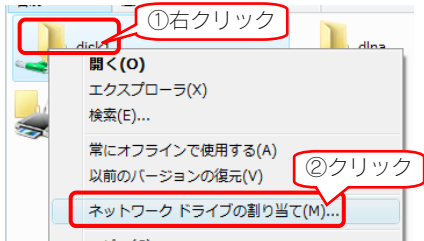
**1** ネットワーク上から、本製品の共有フォルダを表示させます。  
手順については、以下の個所を参照してください。  
・ Windows から本製品にアクセスする場合  
    【Windows から本製品にアクセスする】（22ページ）  
・ Mac OS から本製品にアクセスする場合  
    【Mac OS から本製品にアクセスする】（31ページ）

**2** [disk1]フォルダを右クリックして、[ネットワークドライブの割り当て]をクリックします。

▼Windows XP の場合

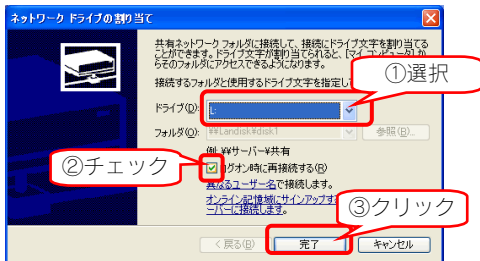


▼Windows Vista® の場合

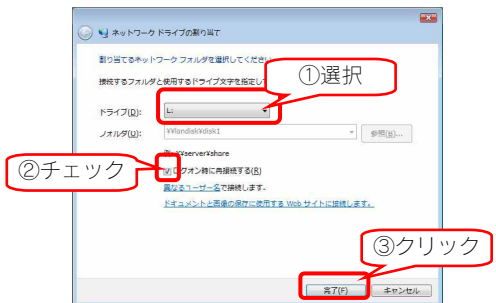


**3** ネットワークドライブの割り当てを行います。  
①[ドライブ]にて本製品に割り当てる文字を選びます。  
    (画面例では、L を選択しています。)  
②[ログオン時に再接続する]にチェックを付けます。  
③[完了]ボタンをクリックします。

▼Windows XP の場合

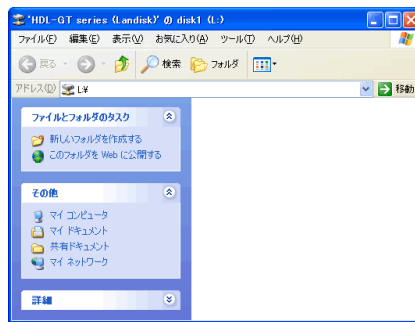


▼ Windows Vista® の場合



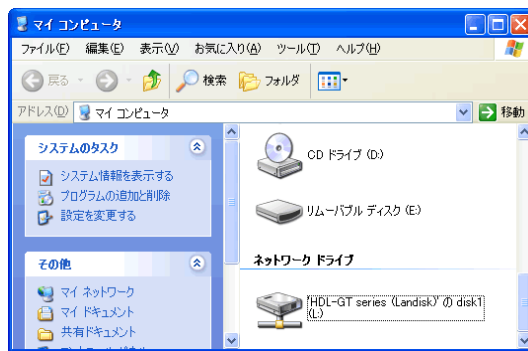
**4** ドライブの割り当てが完了すると、割り当てられたドライブのウィンドウが表示されます。

▼Windows XP の場合

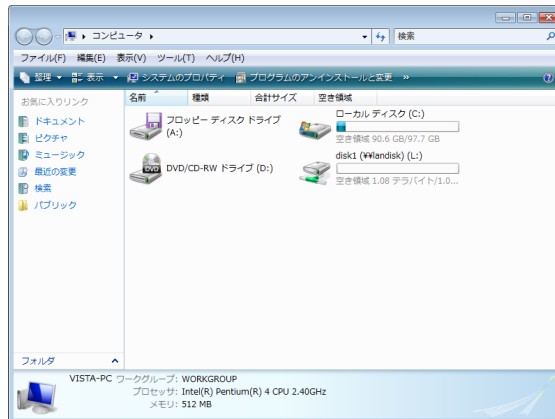


**5** [マイコンピュータ]を開いて、割り当てられたドライブが認識されていることをご確認ください。  
ネットワークドライブは、通常のディスクと同様にアクセスできます。

▼Windows XP の場合



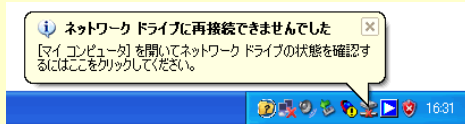
▼Windows Vista® の場合



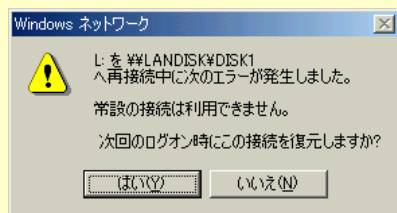


●手順3 で[ログオン時に再接続する]へチェックを入れることにより、次回パソコン起動時にも、本製品がドライブとして登録されます。ネットワークに接続していない場合は、パソコン起動時に以下のエラーメッセージが表示されます。

・ Windows XP でのエラー画面例



・ Windows Me でのエラー画面例



●多くのパソコンからネットワークドライブとして割り当てると、本製品のパフォーマンスが低下する場合があります。

以上で完了です。

## パソコンに固定の IP アドレスを設定するには

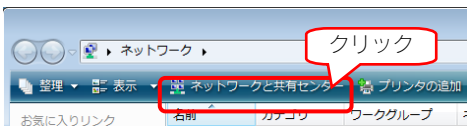
以下の手順は、パソコンに固定の IP アドレス（例は「192.168.0.3」）を設定する場合の例です。

一時的に変更する場合などは、必ず、以前の[IP アドレス] [サブネットマスク] [デフォルトゲートウェイ] などのアドレスはメモしてください。

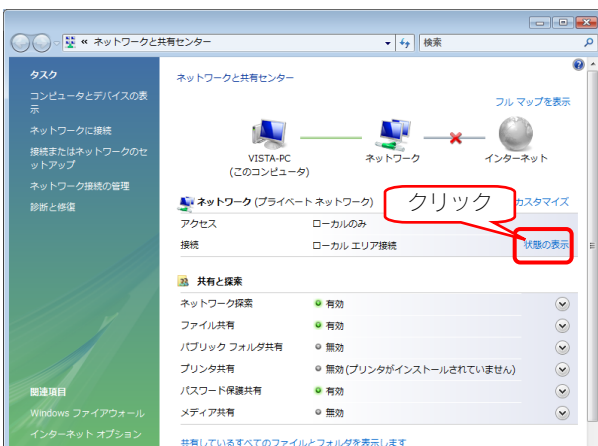
ネットワーク内に DHCP サーバが無い場合（本製品が「192.168.0.200」の IP アドレスで起動した場合）などに、パソコンから設定画面を開く際には、パソコン側は同じネットワークアドレスで別の IP アドレスを設定する必要があります。

### Windows Vista®の場合

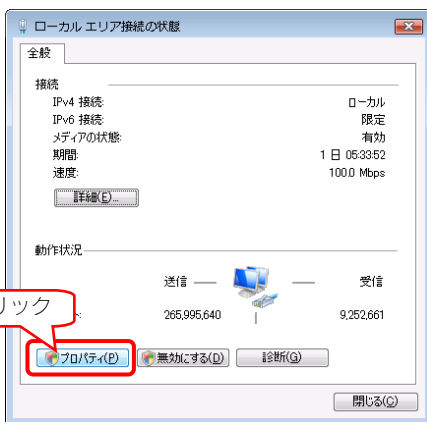
- 1** [スタート] → [ネットワーク] をクリックし、[ネットワークと共有センター] をクリックします。



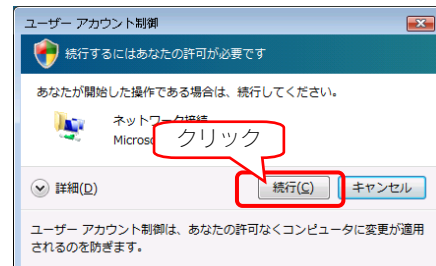
- 2** [状態の表示] をクリックします。



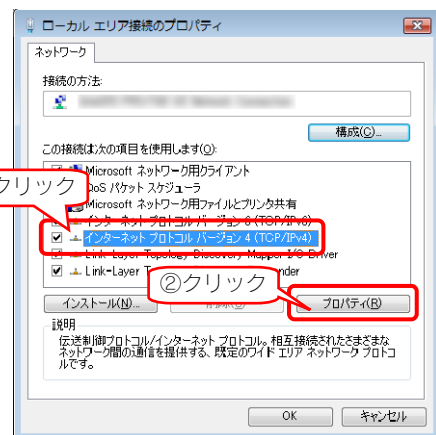
- 3** [プロパティ] をクリックします。



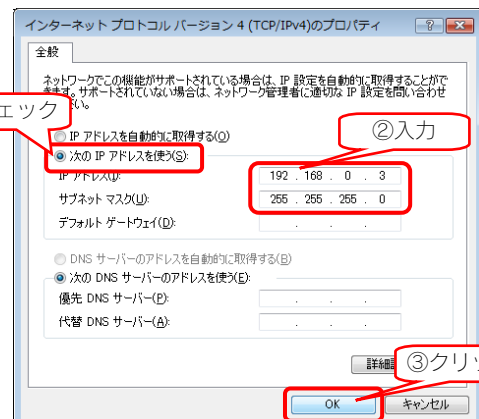
- 4** 以下の確認画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。



- 5** [インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)] をクリックし、[プロパティ] をクリックします。



- 6** [次の IP アドレスを使う] をチェック後、[IP アドレス] [サブネットマスク] を設定後、[OK] ボタンをクリックします。  
※画面は設定値は、設定例です。



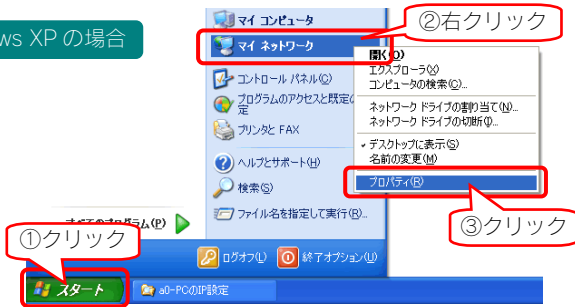
以上で設定終了です。  
開いた画面を閉じてください。

Windows XP/2000 の場合

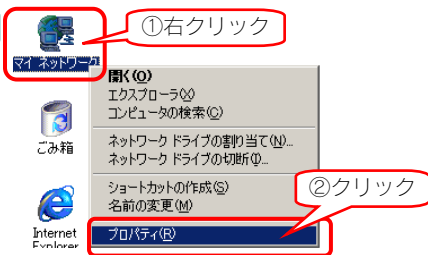
※画面は Windows XP での例です。

- 1 [スタート] → [マイネットワーク] を右クリック後、[プロパティ] をクリックします。  
(Windows 2000 の場合は、[マイネットワーク] アイコンを右クリック)

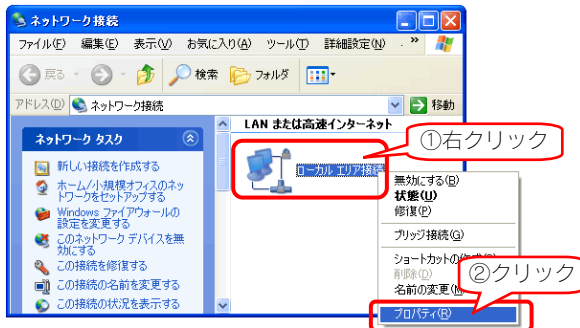
Windows XP の場合



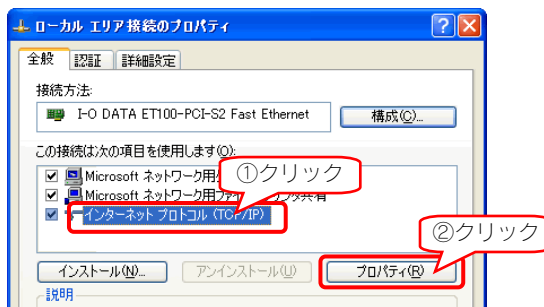
Windows 2000 の場合



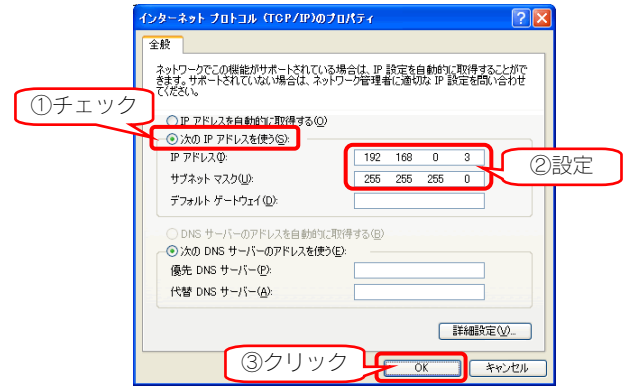
- 2 [ローカルエリア接続] アイコンを右クリック後、[プロパティ] をクリックします。



- 3 [インターネットプロトコル (TCP/IP)] をクリック後、[プロパティ] ボタンをクリックします。



- 4 [次の IP アドレスを使う] をチェック後、[IP アドレス] [サブネットマスク] を設定後、[OK] ボタンをクリックします。  
※画面は設定値は、設定例です。

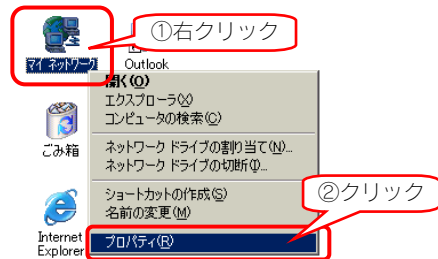


以上で設定終了です。  
開いた画面を閉じてください。

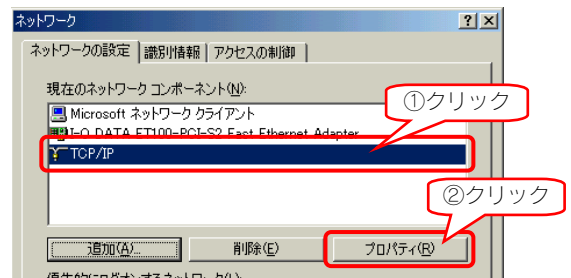
Windows Me/98 の場合

※画面は Windows Me での例です。

- 1 [マイネットワーク] アイコン (Windows 98 の場合は、[ネットワークコンピュータ]) を右クリック後、[プロパティ] を順にクリックします。



- 2 [TCP/IP] をクリック後、[プロパティ] ボタンをクリックします。



**注意**  
 複数の LAN アダプタをお使いの場合は、以下のような画面となります。  
 以下の場合、[TCP/IP -> お使いの LAN アダプタ] をクリック後、[プロパティ] ボタンをクリックしてください。

**3** [IP アドレスを設定] をチェック後、[IP アドレス] [サブネットマスク]を設定後、[OK] ボタンをクリックします。  
 ※画面は設定値は、設定例です。

以上で設定終了です。  
 開いた画面を閉じて、一度パソコンを再起動してください。

Mac OS X の場合

**1** [アップルメニュー]→[場所] (または [ネットワーク環境]) →[ネットワーク環境設定...]を選択します。

**2** 設定用パソコンの IP アドレスを一時的に変更します。  
 ①[表示:]から[内蔵 Ethernet]または[Ethernet]を選択します。  
 ②[TCP/IP]タブで [IPv4 を設定:] (または[設定:]) から[手入力]を選択します。  
 ③以下を設定します。  
 IP アドレス: 192.168.0.3  
 サブネットマスク: 255.255.255.0  
 ④[今すぐ適用]ボタンをクリックします。

**3** 画面を閉じて、パソコンを再起動します。

Mac OS 8.1~9.2.2 の場合

**1** [アップルメニュー]→[コントロールパネル]→[TCP/IP]を選択します。

**2** 設定用パソコンの IP アドレスを一時的に変更します。  
 ① [経路先:] から[Ethernet]または[内蔵 Ethernet]を選択します。  
 ②[設定方法:]から[手入力]を選択します。  
 ③以下を設定します。  
 IP アドレス: 192.168.0.3  
 サブネットマスク: 255.255.255.0

**3** 画面を閉じて、パソコンを再起動します。

(Windows Vista®/XP/2000)

[ローカルエリア接続]アイコンに×マークが付いている

原因	LAN ケーブルが正しく接続されていない。
対処	パソコンに LAN ケーブルが接続されているか、また、パソコン接続先のネットワーク機器（ルーターやハブなど）に LAN ケーブルが接続されているかご確認ください。

原因	LAN ケーブルに問題がある。
対処	別の LAN ケーブルをお持ちの場合は、LAN ケーブルを交換してみてください。

# オプション品について

本製品のオプション品です。（2007年6月時点での発売予定を含みます。）  
各製品の詳細な情報は弊社ホームページ <http://www.iodata.jp> をご確認ください。

## ▼カートリッジ

品名	容量
RHD-250	250GB
RHD-500	500GB
RHD-750	750GB
RHD-1.0T	1.0TB

以下の使用方法があります。

- ・RAID1+0（ミラーストライピング）時のディスクセット交換用  
本製品のRAIDモードをRAID1+0にした場合の、ディスクセット保管後の、交換用カートリッジとして使用できます。  
ディスクセット保管後の交換用カートリッジとしては、以下が必要です。
  - HDL-GTR1.0の場合・・・「RHD-250」が2台
  - HDL-GTR2.0の場合・・・「RHD-500」が2台
  - HDL-GTR3.0の場合・・・「RHD-750」が2台
  - HDL-GTR4.0の場合・・・「RHD-1.0T」が2台
- ・カートリッジ故障時の交換用  
カートリッジが1台あるいは複数台故障した場合の、交換用カートリッジとして使用できます。  
交換用カートリッジとしては、以下が必要です。
  - HDL-GTR1.0の場合・・・「RHD-250」
  - HDL-GTR2.0の場合・・・「RHD-500」
  - HDL-GTR3.0の場合・・・「RHD-750」
  - HDL-GTR4.0の場合・・・「RHD-1.0T」

**注意**

- 容量の大きいカートリッジをRAIDに組み込んだ場合、実際に使用できる容量は、ほかのカートリッジと同じ容量に調整されます。
- オプション品のカートリッジには、RAIDシステムは入っていません。
- HDL-GTR1.0において、500GBの交換用HDDを4つ使用してHDL-GTR2.0と同容量とする等、後から容量を増やすことはできません。



# 本製品のお問い合わせ

## ① 弊社ホームページをご覧ください

サポート Web ページには、最新の情報や過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらをご参考ください。

製品 Q&A、News など ⇒ <http://www.iodata.jp/support/>

ソフトウェアをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のソフトウェアをダウンロードしてお試しください。

最新サポートソフト ⇒ <http://www.iodata.jp/lib/>

## ② それでも解決できない場合は、下記にお問い合わせください

住所： 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地  
アイ・オー・データ第2ビル  
株式会社アイ・オー・データ機器 サポートセンター  
電話： 本社…**076-260-3644** 東京…**03-3254-1144**  
※受付時間 9:00~17:00 月~金曜日（祝祭日を除く）  
FAX： 本社…**076-260-3360** 東京…**03-3254-9055**  
インターネット： <http://www.iodata.jp/support/>

※お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

1. ご使用の弊社製品名
2. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番
3. ご使用のシステムバージョン
4. トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

※ご提供いただいた個人情報は、製品のお問合せなどアフターサービス及び顧客満足度向上のアンケート以外の目的には利用いたしません。また、これらの利用目的の達成に必要な範囲内で業務を委託する場合を除き、お客様の同意なく第三者へ提供、または第三者と共同して利用いたしません。

# 修理について

## 修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

### ●内部のデータについて

- ・検査の際には、内部のデータはすべて消去されてしまいます。

(厳密な検査を行うためです。どうぞご了承ください。)

※データに関しては、弊社はいつさいの責任を負いかねます。バックアップできる場合は、修理にお出しになる前にバックアップしてください。

弊社では、データの修復は行っておりません。

### ●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。

その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

### ●修理金額について

- ・保証期間中は、無料にて修理いたします。

ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」の「保証適応外」の内容に該当する場合は、有料となります。

※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

- ・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。

※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

- ・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。

修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。

(ご依頼時に FAX 番号をお知らせいただければ、修理金額を FAX にて連絡させていただきます。)

## 修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

### ①メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、シリアル番号(S/N)、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

### ②これらを用意してください

- ・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書 (コピー不可)

※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。

- ・下の内容を書いたもの

返送先 [住所/氏名/(あれば)FAX 番号]、日中にご連絡できるお電話番号、  
ご使用環境 (機器構成、OS など)、故障状況 (どうなったか)

### ③修理品を梱包してください

- ・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。

- ・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。

※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

### ④修理をご依頼ください

- ・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。

※原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

- ・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先 〒920-8513

石川県金沢市桜田町 2 丁目 84 番地 アイ・オー・データ第 2 ビル  
株式会社アイ・オー・データ機器 修理センター 宛

【ご注意】

- 1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。  
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
- 2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関する設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んだの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
- 3) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。  
また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
- 4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により輸出規制製品に該当する場合があります。  
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
- 5) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

- I-O DATA は、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft, Windows, Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
- Apple, Macintosh, Power Macintosh, PowerBook, iMac, iBook, FireWire, Power Mac, Mac, Mac OS, Mac OS ロゴおよびその標章は、米国 Apple, Inc. の登録商標です。
- DigiOn, DiXiM は、株式会社デジオンの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

HDL-GTR シリーズ取扱説明書 2009.2.2

発行 株式会社アイ・オー・データ機器  
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

© 2007-2009 I-O DATA DEVICE, INC. All rights reserved.

本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。